

第一章 総則（第一条—第九条）	第六章の二 講習（第一百八条の二—第一百八条の十二）
第二章 歩行者等の通行方法（第十条—第十五条の二）	第六章の三 交通事故調査分析センター（第一百八条の十三—第一百八条の二十五）
第二章の二 遠隔操作型小型車の使用者の義務（第十五条の三—第十五条の六）	第六章の四 交通の安全と円滑に資するための民間の組織活動等の促進（第一百八条の二十六—第一百八条の三十三—第一百二十四条の七）
第三章 車両及び路面電車の交通方法	第七章 雜則（第一百八条の三十二—第一百二十四条の四）
第一節 通則（第十六条—第二十一条）	第八章 罰則（第一百五条—第一百二十四条）
第二節 速度（第二十二条—第二十四条）	第九章 反則行為に関する処理手続の特例
第三節 横断等（第二十五条・第二十五条の二）	第一節 通則（第一百二十五条）
第七節 緊急自動車等（第三十九条—第四十一条の二）	第二節 告知及び通告（第一百二十六条・第一百二十七条）
第四節 追越し等（第二十六条—第三十二条）	第三節 反則金の納付及び仮納付（第一百二十八条—第一百二十九条の二）
第五節 踏切の通過（第三十三条）	第四節 反則者に係る刑事案件等（第一百三十条・第一百三十条の二）
第六節 交差点における通行方法等（第三十四条—第三十七条の二）	第五節 雜則（第一百三十二条・第一百三十二条）
第六節の二 横断歩行者等の保護のための通行方法（第三十八条・第三十八条の二）	
第七節 徐行及び一時停止（第四十二条・第四十三条）	
第八節 停車及び駐車（第四十四条—第五十条）	
第九節 の二 違法停車及び違法駐車に対する措置（第五十条の二—第五十一条の十五）	
第十節 灯火及び合図（第五十二条—第五十四条）	
第十一節 乗車、積載及び牽引（第五十五条—第六十一条）	
第十二節 整備不良車両の運転の禁止等（第六十二条—第六十三条の二の二）	
第十三節 自転車の交通方法の特例（第六十三条の三—第六十三条の十一）	
第四章 車両等の運転者及び使用者の義務	
第一節 運転者の義務（第六十四条—第七十一条の六）	
第二節 交通事故の場合の措置等（第七十二条—第七十三条）	
第三節 使用者の義務（第七十四条—第七十五条の二の二）	
第四章の二 高速自動車国道等における自動車の交通方法等の特例	
第一節 通則（第七十五条の二の三・第七十五条の三）	
第二節 自動車の交通方法（第七十五条の四—第七十五条の九）	
第三節 運転者の義務（第七十五条の十・第七十五条の十一）	
第四章の三 特定自動運行の許可等（第七十五条の十二—第七十五条の二十九）	
第五章 道路の使用等	
第一節 道路における禁止行為等（第七十六条—第八十条）	
第二節 危険防止等の措置（第八十一条—第八十三条）	
第六章 自動車及び一般原動機付自転車の運転免許	
第一節 通則（第八十四条—第八十七条）	
第二節 免許の申請等（第八十八条—第九十一条の二）	
第三節 免許証等（第九十二条—第九十五条）	
第四節 運転免許試験（第九十六条—第九十七条の三）	
第四節の二 自動車教習所（第九十八条—第一百条）	
第四節の三 再試験（第一百条の二・第一百条の三）	
第五節 免許証の更新等（第一百一条—第一百二条の三）	
第六節 免許の取消し、停止等（第一百三条—第一百七条）	
第七節 國際運転免許証及び外國運転免許証並びに国外運転免許証（第一百七条の二—第一百七条の十）	
第八節 免許関係事務の委託（第一百八条）	

第六章の二 講習（第一百八条の二—第一百八条の十二）	第六章の三 交通事故調査分析センター（第一百八条の十三—第一百八条の二十五）
第六章の四 交通の安全と円滑に資するための民間の組織活動等の促進（第一百八条の二十六—第一百八条の三十三—第一百二十四条の七）	第七章 雜則（第一百八条の三十二—第一百二十四条の四）
第七章 罰則（第一百五条—第一百二十四条）	第八章 反則行為に関する処理手続の特例
第一節 通則（第一百二十五条）	第一節 通則（第一百二十五条）
第二節 告知及び通告（第一百二十六条・第一百二十七条）	第二節 告知及び通告（第一百二十六条・第一百二十七条）
第三節 反則金の納付及び仮納付（第一百二十八条—第一百二十九条の二）	第三節 反則金の納付及び仮納付（第一百二十八条—第一百二十九条の二）
第四節 反則者に係る刑事案件等（第一百三十条・第一百三十条の二）	第四節 反則者に係る刑事案件等（第一百三十条・第一百三十条の二）
第五節 雜則（第一百三十二条・第一百三十二条）	第五節 雜則（第一百三十二条・第一百三十二条）

## 附則

## 第一章 総則

（目的）この法律は、道路における危険を防止し、その他交通の安全と円滑を図り、及び道路の交通に起因する障害の防止に資することを目的とする。

（定義）この法律において、次の各号に掲げる用語の意義は、それぞれ当該各号に定めるところによる。

一 道路 道路法（昭和二十七年法律第百八十号）第二条第一項に規定する道路、道路運送法（昭和二十六年法律第百八十三号）第二条第八項に規定する自動車道及び一般交通の用に供するその他の場所をいう。

二 歩道 歩行者の通行の用に供するため縁石線又は柵その他これに類する工作物によつて区画された道路の部分をいう。

三 車道 車両の通行の用に供するため縁石線若しくは柵その他これに類する工作物又は道路標示によつて区画された道路の部分をいう。

三の二 本線車道 高速自動車国道（高速自動車国道法（昭和三十二年法律第七十九号）第四条第一項に規定する道路をいう。以下同じ。）又は自動車専用道路（道路法第四十八条の四に規定する自動車専用道路をいう。以下同じ。）の本線車線により構成する車道をいう。

三の三 自転車道 自転車の通行の用に供するため縁石線又は柵その他これに類する工作物によつて区画された車道の部分をいう。

三の四 路側帯 歩行者の通行の用に供し、又は車道の効用を保つため、歩道の設けられていない道路は道路の歩道の設けられていない側の路端寄りに設けられた帶状の道路の部分で、道路標示によつて区画されたものをいう。

四 横断歩道 道路標識又は道路標示（以下「道路標識等」という。）により歩行者の横断の用に供するための場所であることが示されている道路の部分をいう。

四の二 自転車横断帯 道路標識等により自転車の横断の用に供するための場所であることが示されている道路の部分をいう。

五 交差点 十字路、丁字路その他の二以上の道路が交わる場合における当該二以上の道路（歩道と車道の区別のある道路においては、車道）の交わる部分をいう。

六 安全地帯 路面電車に乗降する者若しくは横断している歩行者の安全を図るために道路に設けられた島状の施設又は道路標識及び道路標示により安全地帯であることが示されている道路の部分をいう。

七 車両通行帯 車両が道路の定められた部分を通行すべきことが道路標示により示されている場合における当該道路標示により示されている道路の部分をいう。

八 車両 自動車、原動機付自転車、軽車両及びトロリーバスをいう。

- 九 自動車 原動機を用い、かつ、レール又は架線によらないで運転し、又は特定自動運行を行ふ車であつて、原動機付自転車、軽車両、移動用小型車、身体障害者用の車及び遠隔操作型小型車並びに歩行補助車、乳母車その他の歩きながら用いる小型の車で政令で定めるもの（以下「歩行補助車等」という。）以外のものをいう。
- 十 原動機付自転車 原動機を用い、かつ、レール又は架線によらないで運転する車であつて次に掲げるもののうち、軽車両、移動用小型車、身体障害者用の車、遠隔操作型小型車及び歩行補助車等以外のものをいう。
- イ 内閣府令で定める大きさ以下の総排気量又は定格出力を有する原動機を用いる車（口に該当するものを除く。）
- ロ 車体の大きさ及び構造が自転車道における他の車両の通行を妨げるおそれのないものであり、かつ、その運転に関し高い技能を要しないものである車として内閣府令で定める基準に該当するもの
- 十一 軽車両 次に掲げるものであつて、移動用小型車、身体障害者用の車及び歩行補助車等以外のもの（遠隔操作（車から離れた場所から当該車に電気通信技術を用いて指令を与えることにより当該車の操作をすること（当該操作をする車に備えられた衝突を防止するために自動的に当該車の通行を制御する装置を使用する場合を含む。））をいう。以下同じ。）により通行せざることができるものを除く。）をいう。
- イ 自転車、荷車その他人若しくは動物の力により、又は他の車両に牽引され、かつ、レールによらないで運転する車（そり及び牛馬を含み、小児用の車（小児が用いる小型の車であつて、歩きながら用いるもの以外のものをいう。次号及び第三項第一号において同じ。）を除く。）
- ロ 原動機を用い、かつ、レール又は架線によらないで運転する車であつて、車体の大きさ及び構造を勘案してイに準ずるものとして内閣府令で定めるもの
- 十一の二 自転車 ペダル又はハンド・クラシックを用い、かつ、人の力により運転する二輪以上の車（レールにより運転する車を除く。）であつて、身体障害者用の車、小児用の車及び歩行補助車等以外のもの（原動機を用いるものにあつては、人の力を補うため原動機を用いるものであつて内閣府令で定める基準に該当するものを含み、移動用小型車及び遠隔操作により通行させることができるものを除く。）をいう。
- 十一の三 移動用小型車 人の移動の用に供するための原動機を用いる小型の車（遠隔操作により通行させることができるものとあつては、内閣府令で定める基準に該当するものに限り、遠隔操作による原動機を用いるもの）をいう。
- 十一の四 身体障害者用の車 身体の障害により歩行が困難な者の移動の用に供するための車（原動機を用いるものにあつては、内閣府令で定める基準に該当するものに限り、遠隔操作により通行させることができるものを除く。）をいう。
- 十一の五 遠隔操作型小型車 人又は物の運送の用に供するための原動機を用いる小型の車であつて遠隔操作により通行させることができるものうち、車体の大きさ及び構造が歩行者の通行を妨げるおそれのないものとして内閣府令で定める基準に該当するものであり、かつ、内閣府令で定める基準に適合する非常停止装置を備えているものをいう。
- 十二 トロリーバス 架線から供給される電力により、かつ、レールによらないで運転する車をいう。
- 十三 路面電車 レールにより運転する車をいう。
- 十四 信号機 電気により操作され、かつ、道路の交通に關し、灯火により交通整理等のための信号を表示する装置をいう。
- 十五 道路標識 道路の交通に關し、規制又は指示を表示する標示板をいう。

九 自動車 原動機を用い、かつ、レール又は架線によらないで運転し、又は特定自動運行を行ふ車であつて、原動機付自転車、軽車両、移動用小型車、身体障害者用の車及び遠隔操作型小型車並びに歩行補助車、乳母車その他の歩きながら用いる小型の車で政令で定めるもの（以下「歩行補助車等」という。）以外のものをいう。

十 原動機付自転車 原動機を用い、かつ、レール又は架線によらないで運転する車であつて次に掲げるもののうち、軽車両、移動用小型車、身体障害者用の車、遠隔操作型小型車及び歩行補助車等以外のものをいう。

イ 内閣府令で定める大きさ以下の総排気量又は定格出力を有する原動機を用いる車（口に該当するものを除く。）

ロ 車体の大きさ及び構造が自転車道における他の車両の通行を妨げるおそれのないものであり、かつ、その運転に関し高い技能を要しないものである車として内閣府令で定める基準に該当するもの

十一 軽車両 次に掲げるものであつて、移動用小型車、身体障害者用の車及び歩行補助車等以外のもの（遠隔操作（車から離れた場所から当該車に電気通信技術を用いて指令を与えることにより当該車の操作をすること（当該操作をする車に備えられた衝突を防止するために自動的に当該車の通行を制御する装置を使用する場合を含む。））をいう。以下同じ。）により通行せざることができるものを除く。）をいう。

イ 自転車、荷車その他人若しくは動物の力により、又は他の車両に牽引され、かつ、レールによらないで運転する車（そり及び牛馬を含み、小児用の車（小児が用いる小型の車であつて、歩きながら用いるもの以外のものをいう。次号及び第三項第一号において同じ。）を除く。）

ロ 原動機を用い、かつ、レール又は架線によらないで運転する車であつて、車体の大きさ及び構造を勘案してイに準ずるものとして内閣府令で定めるもの

十一の二 自転車 ペダル又はハンド・クラシックを用い、かつ、人の力により運転する二輪以上の車（レールにより運転する車を除く。）であつて、身体障害者用の車、小児用の車及び歩行補助車等以外のもの（原動機を用いるものにあつては、人の力を補うため原動機を用いるものであつて内閣府令で定める基準に該当するものを含み、移動用小型車及び遠隔操作により通行させることができるものを除く。）をいう。

十一の三 移動用小型車 人の移動の用に供するための原動機を用いる小型の車（遠隔操作により通行させることができるものとあつては、内閣府令で定める基準に該当するものに限り、遠隔操作による原動機を用いるもの）をいう。

十一の四 身体障害者用の車 身体の障害により歩行が困難な者の移動の用に供するための車（原動機を用いるものにあつては、内閣府令で定める基準に該当するものに限り、遠隔操作により通行させることができるものを除く。）をいう。

十一の五 遠隔操作型小型車 人又は物の運送の用に供するための原動機を用いる小型の車であつて遠隔操作により通行させることができるものうち、車体の大きさ及び構造が歩行者の通行を妨げるおそれのないものとして内閣府令で定める基準に該当するところにより、信号機又は道路標識等を設置し、及び信号を表示する装置をいう。

十二 トロリーバス 架線から供給される電力により、かつ、レールによらないで運転する車をいう。

十三 路面電車 レールにより運転する車をいう。

十四 信号機 電気により操作され、かつ、道路の交通に關し、灯火により交通整理等のための信号を表示する装置をいう。

十五 道路標識 道路の交通に關し、規制又は指示を表示する標示板をいう。

十六 道路標示 道路の交通に關し、規制又は指示を表示する標示で、路面に描かれた道路鉄道

ペインント、石等による線、記号又は文字をいう。

十七 運転 道路において、車両又は路面電車（以下「車両等」という。）をその本来の用い方に従つて用いること（特定自動運行を行う場合を除く。）をいう。

十七の二 特定自動運行 道路において、自動運行装置（当該自動運行装置を備えている自動車が第六十二条に規定する整備不良車両に該当することとなつたとき又は当該自動運行装置の使用が当該自動運行装置に係る使用条件（道路運送車両法第四十一条第二項に規定する条件をいう。以下同じ。）を満たさないこととなつたときに、直ちに自動的に安全な方法で当該自動車を停止させることができるものに限る。）を当該自動運行装置に係る使用条件で使用して当該自動運行装置を備えている自動車を運行すること（当該自動車の運行中の道路、交通及び当該自動車の状況に応じて当該自動車の装置を操作する者がいる場合のものを除く。）をいう。

十八 駐車 車両等が客待ち、荷待ち、貨物の積卸し、故障その他の理由により継続的に停止すること（貨物の積卸しのための停止で五分を超えない時間内のもの及び人の乗降のための停止を除く。）又は車両等が停止（特定自動運行中の停止を除く。）をし、かつ、当該車両等の運転をする者（以下「運転者」という。）がその車両等を離れて直ちに運転することができない状態にあることをいう。

十九 停車 車両等が停止することで駐車以外のものをいう。

二十 徒行 車両等が直ちに停止することができるよう速度で進行することをいう。

二十一 追越し 車両が他の車両等に追い付いた場合において、その進路を変えてその追い付いた車両等の側方を通過し、かつ、当該車両等の前方に出ることをいう。

二十二 進行妨害 車両等が、進行を継続し、又は始めた場合においては危険を防止するため他の車両等がその速度又は方向を急に変更しなければならないこととなるおそれがあるとき、その進行を継続し、又は始めることをいう。

二十三 交通公害 道路の交通に起因して生ずる大気の汚染、騒音及び振動のうち内閣府令・環境省令で定めるものによつて、人の健康又は生活環境に係る被害が生ずることをいう。

二十四 道路法 第四十五条第一項の規定により設置された区画線は、この法律の規定の適用については、内閣府令・国土交通省令で定めるところにより、道路標示とみなす。

二 この法律の規定の適用については、次に掲げる者は、歩行者とする。

一 移動用小型車、身体障害者用の車、遠隔操作型小型車、小児用の車又は歩行補助車等を通行させている者（遠隔操作型小型車にあつては、遠隔操作により通行させている者を除く。）

二 次条の大型自動二輪車又は普通自動二輪車、二輪の原動機付自転車、二輪又は三輪の自転車その他の車体の大きさ及び構造が他の歩行者の通行を妨げるおそれのないものとして内閣府令で定める基準に該当する車両（これらの車両で側車付きのもの及び他の車両を牽引しているものを除く。）を押して歩いている者

（自動車の種類）

第三条 自動車は、内閣府令で定める車体の大きさ及び構造並びに原動機の大きさを基準として、その他交通の安全と円滑を図り、又は交通公害その他の道路の交通に起因する障害を防止するため必要があると認めるときは、政令で定めるところにより、信号機又は道路標識等を設置し、及び管理して、交通整理、歩行者若しくは遠隔操作型小型車（遠隔操作により道路を通行しているものに限る。）（次条から第十三条の二までにおいて「歩行者等」という。）又は車両等の通行の禁止その他の道路における交通の規制をすることができる。この場合において、緊急を要するため道路標識等を設置するいとまがないとき、その他道路標識等による交通の規制をすることが困難

（公安部委員会の交通規制）

第四条 都道府県公安委員会（以下「公安部委員会」という。）は、道路における危険を防止し、その他の交通の安全と円滑を図り、又は交通公害その他の道路の交通に起因する障害を防止するため必要があると認めるときは、政令で定めるところにより、信号機又は道路標識等を設置し、及び管理して、交通整理、歩行者若しくは遠隔操作型小型車（遠隔操作により道路を通行しているものに限る。）（次条から第十三条の二までにおいて「歩行者等」という。）又は車両等の通行の禁止その他の道路における交通の規制をすることができる。この場合において、緊急を要するため道路標識等を設置するいとまがないとき、その他道路標識等による交通の規制をすることが困難

であると認めるときは、公安委員会は、その管理に属する都道府県警察の警察官の現場における指示により、道路標識等の設置及び管理による交通の規制に相当する交通の規制をすることができる。

2 前項の規定による交通の規制は、区域、道路の区間又は場所を定めて行なう。この場合において、その規制は、対象を限定し、又は適用される日若しくは時間を限定して行なうことができ

る。

3 公安委員会は、環状交差点（車両の通行の用に供する部分が環状の交差点であつて、道路標識等により車両が当該部分を右回りに通行すべきことが指定されているものをいう。以下同じ。）以外の交通の頻繁な交差点その他交通の危険を防止するために必要と認められる場所には、信号機を設置するよう努めなければならない。

4 信号機の表示する信号の意味その他の信号機について必要な事項は、政令で定める。

5 道路標識等の種類、様式、設置場所その他道路標識等について必要な事項は、内閣府令・国土交通省令で定める。

（罰則）第一項後段については第百十九条第一項第一号、第一百二十二条第一項第一号及び第二号（警察署長等への委任）

第六条 警察官又は第百四十四条の四第一項に規定する交通巡視員（以下「警察官等」という。）は、手信号その他の信号（以下「手信号等」という。）により交通整理を行なうことができる。この場合において、警察官等は、道路における危険を防止し、その他交通の安全と円滑を図るため特に必要があると認めるときは、信号機の表示する信号にかわらず、これと異なる意味を表示する手信号等をすることができる。

2 公安委員会は、信号機の設置又は管理に係る事務を政令で定める者に委任することができる。

（警察官等の交通規制）

第五条 公安委員会は、政令で定めるところにより、前条第一項に規定する歩行者等又は車両等の通行の禁止その他の交通の規制のうち、適用期間の短いものを警察署長に行わせることができる。

2 警察官は、車両等の通行が著しく停滞したことにより道路（高速自動車国道及び自動車専用道路を除く。第四項において同じ。）における交通が著しく混雑するおそれがある場合において、当該道路における交通の円滑を図るために、その現場における混雑を緩和するため必要な限度において、その現場に進行てくる車両等の通行を禁止し、若しくは制限し、その現場にある車両等の運転者に対し、当該車両等を後退させることを命じ、又は第八条第一項、第三章第一節、第三節若しくは第六節に規定する通行方法と異なる通行方法によるべきことを命ずることができる。

3 警察官は、前項の規定による措置のみによつては、その現場における混雑を緩和することができないと認めるときは、その混雑を緩和するため必要な限度において、その現場にある関係者に對し必要な指示をすることができる。

4 警察官は、道路の損壊、火災の発生その他の事情により道路において交通の危険が生ずるおそれがある場合において、当該道路における危険を防止するため緊急の必要があると認めるときは、必要な限度において、当該道路につき、一時、歩行者等又は車両等の通行を禁止し、又は制限することができる。

5 第一項の手信号等の意味は、政令で定める。

（罰則）第二項については第百二十一条第一項第一号、第一百二十二条第一項第一号及び第二号（信号機の信号等に従う義務）

第七条 道路を通行する歩行者等又は車両等は、信号機の表示する信号又は警察官等の手信号等（前条第一項後段の場合においては、当該手信号等）に従わなければならない。

（罰則）第一百十九条第一項第一号、同条第三項、第一百二十二条第一項第一号及び第二号（通行の禁止等）

第八条 歩行者等又は車両等は、道路標識等によりその通行を禁止されている道路又はその部分を通行してはならない。

2 車両は、警察署長が政令で定めるやむを得ないと認めると認めたときは、前項の規定にかかわらず、道路標識等によりその通行を禁止されている道路又はその部分を通行することができる。

3 警察署長は、前項の許可をしたときは、許可証を交付しなければならない。

4 前項の規定により許可証の交付を受けた車両の運転者は、当該許可に係る通行中、当該許可証を携帯しないなければならない。

5 第二項の許可を与える場合において、必要があると認めるときは、警察署長は、当該許可に条件を付することができる。

6 第三項の許可証の様式その他第二項の許可について必要な事項は、内閣府令で定める。

（罰則）第一項については第百十九条第一項第二号、同条第三項、第一百二十二条第一項第一号及び第二号、第五項については第百二十二条第一項第三号）

（歩行者用道路を通行する車両の義務）

第九条 車両は、歩行者の通行の安全と円滑を図るため車両の通行が禁止されていることが道路標識等により表示されている道路（第十三条の二において「歩行者用道路」という。）を、前条第二項の許可を受け、又はその禁止の対象から除外されていることにより通行するときは、特に歩行者に注意して徐行しなければならない。

（罰則）第一百十九条第一項第二号、同条第三項）

## 第二章 歩行者等の通行方法

（通行区分）

第十条 歩行者等は、歩道又は歩行者等の通行に十分な幅員を有する路側帯（次項及び次条において「歩道等」という。）と車道の区別のない道路においては、道路の右側端に寄つて通行しなければならない。ただし、道路の右側端を通行することが危険であるときその他やむを得ないとときは、道路の左側端に寄つて通行することができる。

2 歩行者等は、歩道等と車道の区別のある道路においては、次の各号に掲げる場合を除き、歩道等を通行しなければならない。

一 車道を横断するとき。

二 道路工事等のため歩道等を通行することができないとき、その他やむを得ないとときは、前項の規定により歩道を通行する歩行者等は、普通自転車通行指定部分（第六十三条の四第二項に規定する普通自転車通行指定部分をいう。第十七条の二第二項において同じ。）があるときは、当該普通自転車通行指定部分をできるだけ避けて通行するよう努めなければならない。

（行列等の通行）

第十一条 学生生徒の隊列、葬列その他の行列（以下「行列」という。）及び歩行者の通行を妨げるとおそれのある者で、政令で定めるものは、前条第二項の規定にかかわらず、歩道等と車道の区別のある道路においては、車道をその右側端（自転車道が設けられている車道にあつては、自転車道以外の部分の右側端。次項において同じ。）に寄つて通行しなければならない。

2 前項の政令で定める行列以外の行列は、前条第二項の規定にかわらず、歩道等と車道の区別のある道路において、車道を通行することはできる。この場合においては、車道の右側端に寄つて通行しなければならない。

3 警察官は、道路における危険を防止し、その他交通の安全と円滑を図るため必要があると認めるとときは、第一項の行列の指揮者に対し、区間を定めて当該行列が道路又は車道の左側端（自転車道が設けられている車道にあつては、自転車道以外の部分の左側端）に寄つて通行すべきことを命ずることができる。

（罰則）第一項については第百二十二条第一項第四号、第二項及び第三項については第百二十二条第一項第五号）

第十二条 歩行者等は、道路を横断しようとするときは、横断歩道がある場所の付近においては、その横断歩道によつて道路を横断しなければならない。

- 2 歩行者等は、交差点において道路標識等により斜めに道路を横断することができる」とされ  
ている場合を除き、斜めに道路を横断してはならない。
- (横断の禁止の場所)
- 第十三条** 歩行者等は、車両等の直前又は直後で道路を横断してはならない。ただし、横断歩道によつて道路を横断するとき、又は信号機の表示する信号若しくは警察官等の手信号等に従つて道路を横断するときは、この限りでない。
- 2 歩行者等は、道路標識等によりその横断が禁止されている道路の部分においては、道路を横断してはならない。
- (歩行者用道路等の特例)
- 第十三条の二** 歩行者用道路又はその構造上車両等が入ることができないこととなつてゐる道路を通行する歩行者等については、第十条から前条までの規定は、適用しない。
- 第十四条** 目が見えない者、幼児、高齢者等の保護
- 1 目が見えない者（目が見えない者に準ずる者を含む。以下同じ。）は、道路を通行するときは、政令で定めるつえを携え、又は政令で定める盲導犬を連れていないなければならない。
- 2 目が見えない者以外の者（耳が聞こえない者及び政令で定める程度の身体の障害のある者を除く。）は、政令で定めるつえを携え、又は政令で定める用具を付けた犬を連れて道路を通行してはならない。
- 3 児童（六歳以上十三歳未満の者をいう。以下同じ。）若しくは幼児（六歳未満の者をいう。以下同じ。）を保護する責任のある者は、交通のひんぱんな道路又は踏切若しくはその附近の道路において、児童若しくは幼児に遊戯をさせ、又は自ら若しくはこれに代わる監護者が付き添わなければ幼児を歩行させてはならない。
- 4 児童又は幼児が小学校、幼稚園、幼保連携型認定こども園その他の教育又は保育のための施設に通つため道路を通行している場合において、誘導、合図その他の適当な措置をとることが必要と認められる場所については、警察官等その他その場所に居合わせた者は、これらの措置をとることにより、児童又は幼児が安全に道路を通行することができるように努めなければならない。
- 5 高齢の歩行者、身体の障害のある歩行者その他の歩行者での通行に支障のあるものが道路を横断し、又は横断しようとしている場合において、当該歩行者から申出があつたときその他必要があると認められるときは、警察官等その他その場所に居合わせた者は、誘導、合団その他の適当な措置をとることにより、当該歩行者が安全に道路を横断することができるように努めなければならない。
- (歩行者と遠隔操作型小型車との関係)
- 第十四条の二** 遠隔操作型小型車は、遠隔操作により道路を通行する場合において、歩行者の通行を妨げることとなるときは、当該歩行者に進路を譲らなければならない。
- (遠隔操作型小型車の遠隔操作を行う者の義務)
- 第十四条の三** 遠隔操作型小型車（道路を通行しているものに限る。）の遠隔操作を行つう者は、当該遠隔操作型小型車について遠隔操作のための装置を確実に操作し、かつ、道路、交通及び当該遠隔操作型小型車の状況に応じ、他人に危害を及ぼさないような速度と方法で通行させなければならぬ。
- (移動用小型車等を通行させる者の義務)
- 第十四条の四** 移動用小型車又は遠隔操作型小型車を道路において通行させる者は、当該移動用小型車又は遠隔操作型小型車の見やすい箇所に内閣府令で定める様式の標識を付けなければならぬ。
- (通行方法の指示)
- 第十五条** 警察官等は、第十条第一項若しくは第二項、第十二条若しくは第十三条の規定に違反して道路を通行している歩行者又はこれらの規定若しくは第十四条の二若しくは第十四条の三の規定に違反して道路を通行している遠隔操作型小型車の遠隔操作を行つう者に対し、当該各条に規定する通行方法によるべきことを指示することができる。

- (罰則 第百二十一一条第一項第七号)
- (遠隔操作型小型車に対する危険防止等の措置)

**第十五条の二** 警察官等は、遠隔操作により道路を通行している遠隔操作型小型車が著しく道路における交通の危険を生じさせ、又は交通の妨害となるおそれがあり、かつ、急を要すると認めるときは、道路における交通の危険を防止し、又は交通の妨害を排除するため必要な限度において、当該遠隔操作型小型車を停止させ、又は移動させることができる。

- 第二章の二** 遠隔操作型小型車の使用者の義務
- (遠隔操作による通行の届出)
- 第十五条の三** 遠隔操作型小型車（遠隔操作により道路において通行させるものに限る。以下この項及び次条において同じ。）の使用者は、内閣府令で定めるところにより、次に掲げる事項を当該遠隔操作型小型車を遠隔操作により通行させようとする場所を管轄する公安委員会に届け出なければならない。その届け出た事項を変更しようとするときは、同様とする。
- 一 遠隔操作型小型車の使用者の氏名又は名称及び住所並びに法人にあつては、その代表者の氏名
- 二 遠隔操作型小型車の遠隔操作を行う場所の所在地及び連絡先並びに遠隔操作のための装置、人員その他の体制
- 三 遠隔操作型小型車を遠隔操作により通行させようとする場所
- 四 運送される人又は物の別及び当該人又は物の運送の方法
- 五 非常停止装置の位置及び形状
- 六 遠隔操作型小型車の仕様に関する事項として内閣府令で定める事項

- 2 前項の規定による届出には、当該届出をする者に係る住民票の写し又は登記事項証明書、当該届出に係る遠隔操作型小型車の仕様を示す書面その他の内閣府令で定める書類を添付しなければならない。
- 3 公安委員会は、第一項前段の規定による届出があつたときは、当該届出をした者を識別するための番号、記号その他の符号（次条において「届出番号等」という。）をその者に通知しなければならない。
- (罰則 第一項については第百十九条の一の二第一号、第一百二十三条)
- 第十五条の四** 前条第一項前段の規定による届出をした遠隔操作型小型車の使用者は、内閣府令で定めるところにより、同条第三項の規定により通知された届出番号等を遠隔操作型小型車の見やすい箇所に表示しなければならない。
- (報告及び検査)
- 第十五条の五** 公安委員会は、この章の規定の施行に必要な限度において、遠隔操作型小型車の使用者に対し、遠隔操作型小型車の遠隔操作による道路における通行に關し報告若しくは資料の提出を求め、又は警察職員に、第十五条の三第一項第三号に規定する場所その他の遠隔操作型小型車の使用者の事務所に立ち入り、帳簿、書類その他の物件を検査させ、若しくは関係者に質問させることができる。
- 2 前項の規定により警察職員が立ち入るときは、その身分を示す証票を携帯し、関係者に提示しなければならない。
- 3 第一項の規定による立入検査の権限は、犯罪捜査のために認められたものと解してはならない。
- (罰則 第一項については第百十九条の二の三第一号、第一百二十三条)
- 第十五条の六** 公安委員会は、遠隔操作型小型車の使用者又はその使用する者が遠隔操作型小型車の遠隔操作による道路における通行に關しこの法律若しくはこの法律に基づく命令の規定又はこの法律の規定に基づく処分に違反した場合において、道路における危険を防止し、その他交通の安全と円滑を図るために必要があると認めるときは、当該遠隔操作型小型車の使用者に対し、遠隔

操作型小型車の遠隔操作による道路における通行に関し必要な措置をとるべきこと（措置をとるまでの間、遠隔操作型小型車の遠隔操作による道路の通行を停止させることを含む。）を指示することができる。

**(罰則)** 第百十九条の二の二(第二号、第一百二十三条规定)

### 第三章 車両及び路面電車の交通方法

#### 第一節 通則

##### (通則)

**第十六条** 道路における車両及び路面電車の交通方法については、この章の定めるところによる。

2 この章の規定の適用については、自動車又は原動機付自転車により他の車両を牽引する場合における当該牽引される車両は、その牽引する自動車又は原動機付自転車の一部とする。

3 この章の規定のうち交差点における交通に係る規定は、本線車道を通行している自動車については、適用しない。

4 この章の規定の適用については、自転車道が設けられている道路における自転車道と自転車道以外の車道の部分とは、それぞれ一の車道とする。

**第十七条** 車両は、歩道又は路側帯（以下この条及び次条第一項において「歩道等」という。）と

車道の区別のある道路においては、車道を通行しなければならない。ただし、道路外の施設又は場所に出入するためやむを得ない場合において歩道等を横断するとき、又は第四十七条第三項若しくは第四十八条の規定により歩道等で停車し、若しくは駐車するため必要な限度において歩道等を通行するときは、この限りでない。

2 前項ただし書の場合において、車両は、歩道等に入る直前で一時停止し、かつ、歩行者の通行を妨げないようしなければならない。

3 特定小型原動機付自転車（原動機付自転車のうち第二条第一項第十号ロに該当するものをいふ。以下同じ。）、二輪又は三輪の自転車その他車体の大きさ及び構造が自転車道における他の車両の通行を妨げるおそれのないものとして内閣府令で定める基準に該当する車両（これらの車両で側車付きのもの及び他の車両を牽引しているものを除く。）以外の車両は、自転車道を通行してはならない。ただし、道路外の施設又は場所に出入するためやむを得ないときは、自転車道を横断することができる。

4 車両は、道路（歩道等と車道の区別のある道路においては、車道。以下第九節の二までにおいて同じ。）の中央（軌道が道路の側端に寄つて設けられている場合においては当該道路の軌道敷を除いた部分の中央とし、道路標識等による中央線が設けられているときはその中央線の設けられた道路の部分を中央とする。以下同じ。）から左の部分（以下「左側部分」という。）を通行しなければならない。

5 車両は、次の各号に掲げる場合においては、前項の規定にかかるらず、道路の中央から右の部分（以下「右側部分」という。）にその全部又は一部をみ出して通行することができる。この場合において、車両は、第一号に掲げる場合を除き、そのみ出し方ができるだけ少なくなるようしなければならない。

一 当該道路が一方通行（道路における車両の通行につき一定の方向にする通行が禁止されていることをいう。以下同じ。）となつているとき。

二 当該道路の左側部分の幅員が当該車両の通行のため十分なものでないとき。

三 当該車両が道路の損壊、道路工事その他の障害のため当該道路の左側部分を通行することができないとき。

四 当該道路の左側部分の幅員が六メートルに満たない道路において、他の車両を追い越そうとするとき（当該道路の右側部分を見とおすことができ、かつ、反対の方向からの交通を妨げるおそれがない場合に限るものとし、道路標識等により追越しのため右側部分にはみ出して通行することができる）。

五 勾配の急な道路のまわりかど附近について、道路標識等により通行の方法が指定されている場合において、当該車両が当該指定に従い通行するとき。

6 車両は、安全地帯又は道路標識等により車両の通行の用に供しない部分であることが表示されているその他の道路の部分に入つてはならない。

**(罰則)** 第一項から第三項まで及び第六項については第百十九条第一項第六号、第四項については第百七十三条の二第一項第四号、第一百七十七条の二の二第一項第八号イ、第一百九条第一項第六号）

##### (特例 特定小型原動機付自転車の歩道通行)

**第十七条の二** 特定小型原動機付自転車のうち、次の各号のいずれにも該当するもので、他の車両を牽引していないもの（遠隔操作により通行させることができるものを除く。以下この条及び次条において「特例特定小型原動機付自転車」という。）は、前条第一項の規定にかかるらず、道路標識等により特例特定小型原動機付自転車が歩道を通行することができることとされていいるとときは、当該歩道を通行することができる。ただし、警察官等が歩行者の安全を確保するため必要があると認めて当該歩道を通行してはならない旨を指示したときは、この限りでない。

一 歩道等を通行する間、当該特定小型原動機付自転車が歩道等を通行することができるものであることを内閣府令で定める方法により表示していること。

二 前号の規定による表示をしている場合においては、車体の構造上、歩道等における歩行者の通行を妨げるおそれのない速度として内閣府令で定める速度を超える速度を出すことができるものである。

三 前二号に規定するもののほか、車体の構造が歩道等における歩行者の通行を妨げるおそれのないものとして内閣府令で定める基準に該当すること。

2 前項の場合において、特例特定小型原動機付自転車は、当該歩道の中央から車道寄りの部分（普通自転車通行指定部分があるときは、当該普通自転車通行指定部分）を徐行しなければならず、また、特例特定小型原動機付自転車の進行が歩行者の通行を妨げることとなるときは、一時停止しなければならない。ただし、普通自転車通行指定部分については、当該普通自転車通行指定部分を通行し、又は通行しようとする歩行者がないときは、歩道の状況に応じた安全な速度と方法で進行することができる。

（罰則） 第二項については第百二十二条第一項第八号）

##### (特例 特定小型原動機付自転車等の路側帯通行)

**第十七条の三** 特例特定小型原動機付自転車及び軽車両は、第十七条第一項の規定にかかるらず、著しく歩行者の通行を妨げることとなる場合を除き、道路の左側部分に設けられた路側帯（特例特定小型原動機付自転車及び軽車両の通行を禁止することを表示する道路標示によつて区画されたものを除く。）を通行することができる。

2 前項の場合において、特例特定小型原動機付自転車及び軽車両は、歩行者の通行を妨げないよう速度と方法で進行しなければならない。

**(罰則)** 第二項については第百二十二条第一項第八号）

##### (特例 特定小型原動機付自転車等の左側寄り通行等)

**第十八条** 車両（トロリーバスを除く。）は、車両通行帯の設けられた道路を通行する場合を除き、自動車及び一般原動機付自転車（原動機付自転車のうち第二条第一項第十号イに該当するものをいふ。以下同じ。）にあつては道路の左側に寄つて、特定小型原動機付自転車及び軽車両（以下「特定小型原動機付自転車等」という。）にあつては道路の左側端に寄つて、それぞれ当該道路を通行しなければならない。ただし、追越しをするとき、第二十五条第二項若しくは第三十四条第二項若しくは第四項の規定により道路の中央若しくは右側端に寄るとき、又は道路の状況その他の事情によりやむを得ないときは、この限りでない。

2 車両は、前項の規定により歩道と車道の区別のない道路を通行する場合その他の場合において、歩行者の側方を通過するときは、これとの間に安全な間隔を保持、又は徐行しなければならない。

**(罰則)** 第二項については第百十九条第一項第六号）

(軽車両の並進の禁止)  
**第十九条** 軽車両は、軽車両が並進することとなる場合においては、他の軽車両と並進してはならない。

(罰則) 第百二十二条第一項第八号

#### (車両通行帯)

**第二十条** 車両は、車両通行帯の設けられた道路においては、道路の左側端から数えて一番目の車両通行帯を通行しなければならない。ただし、自動車(小型特殊自動車及び道路標識等によって指定された自動車を除く。)は、当該道路の左側部分(当該道路が一方通行となつていてるときは、政令で定めるところにより、その速度に応じ、その最も右側の車両通行帯以外の車両通行帯を通行することができる。)車両は、車両通行帯の設けられた道路において、道路標識等により前項に規定する通行の区分と異なる通行の区分が指定されているときは、当該通行の区分に従い、当該車両通行帯を通行しなければならない。

車両は、追越しをするとき、第二十五条第一項若しくは第二項、第三十四条第一項から第五項まで若しくは第三十五条の二の規定により道路の左側端、中央若しくは右側端に寄るとき、第三十五条第一項の規定に従い通行するとき、第二十六条の二第三項の規定によりその通行している車両通行帯をそのまま通行するとき、第四十条第二項の規定により一時進路を譲るとき、又は道路の状況その他の事情によりやむを得ないときは、前二項の規定によらないことができる。この場合において、追越しをするときは、その通行している車両通行帯の直近の右側の車両通行帯を行通しなければならない。

(罰則) 第百二十二条第一項第三号、同条第三項  
**(路線バス等優先通行帯)**

**第二十一条** 道路運送法第九条第一項に規定する一般乗合旅客自動車運送事業者による同法第五条第一項第三号に規定する路線定期運行の用に供する自動車その他の政令で定める自動車(以下この条において「路線バス等」という。)の優先通行帯であることが道路標識等により表示されている車両通行帯が設けられている道路においては、自動車(路線バス等を除く。以下この条において同じ。)は、路線バス等が後方から接近してきた場合に当該道路における交通の混雑のため当該車両通行帯から出ることができないこととなるときは、当該車両通行帯を行通してはならず、また、当該車両通行帯を行通していく場合において、後方から路線バス等が接近してきたときは、その正常な運行に支障を及ぼさないように、すみやかに当該車両通行帯の外に出なければならぬ。ただし、この法律の他の規定により通行すべきこととされていてる道路の部分が当該車両通行帯であるとき、又は道路の状況その他の事情によりやむを得ないときは、この限りでない。

前条第一項本文の規定は、前項の車両通行帯の直近の右側の車両通行帯又は道路の部分を行通する自動車については、適用しない。  
**(罰則)** 第二十二条第一項第三号、同条第三項  
**(軌道敷内の通行)**

**第二十二条** 車両(トロリーバスを除く。以下この条及び次条第一項において同じ。)は、左折し、右折し、横断し、若しくは転回するため軌道敷を横切る場合又は危険防止のためやむを得ない場合を除き、軌道敷内を行通してはならない。

車両は、次の各号に掲げる場合においては、前項の規定にかかわらず、軌道敷内を行通することができる。この場合において、車両は、路面電車の通行を妨げてはならない。

当該道路の左側部分から軌道敷を除いた部分の幅員が当該車両の通行のため十分なものでないとき。

当該車両が、道路の損壊、道路工事その他の障害のため当該道路の左側部分から軌道敷を除いた部分を行通することができないとき。

道路標識等により軌道敷内を行通することができることとされている自動車が通行すると

運行に支障を及ぼさないように、すみやかに軌道敷外に出るか、又は当該路面電車から必要な距離を保つようにしなければならない。

(罰則) 第百二十二条第一項第八号

#### (第二節 速度)

**第二十三条** 車両は、道路標識等によりその最高速度が指定されている道路においてはその最高速度を、その他の道路においては政令で定める最高速度をこえる速度で進行してはならない。

路面電車又はトロリーバスは、軌道法(大正十年法律第七十六号)第十四条(同法第三十一条において準用する場合を含む。第六十二条において同じ。)の規定に基づく命令で定める最高速度をこえない範囲内で道路標識等によりその最高速度が指定されている道路においてはその最高速度を、その他の道路においては当該命令で定める最高速度をこえる速度で進行してはならない。

(罰則) 第百二十二条第一項第一号、同条第三項  
**(最高速度)**

**第二十四条** 車両の運転者が前条の規定に違反する行為(以下この条及び第七十五条の二第一項において「最高速度違反行為」という。)を当該車両の使用者(当該車両の運転者であるものを除く。以下この条において同じ。)の業務に関してした場合において、当該最高速度違反行為に係る車両の使用者が当該車両につき最高速度違反行為を防止するため必要な運行の管理を行つていると認められないときは、当該車両の使用の本拠の位置を管轄する公安委員会は、当該車両の使用者に対し、最高速度違反行為となる運転が行われることのないよう運転者に指導し又は助言することその他最高速度違反行為を防止するため必要な措置をとることを指示することができる。

前項の規定による指示に係る車両の使用者が道路運送法の規定による自動車運送事業者、貨物利用運送事業法(平成元年法律第八十二号)の規定による第二種貨物利用運送事業を経営する者又は軌道法の規定による軌道経営者(トロリーバスを運行するものに限る。)である場合における当該指示は、公安委員会が当該事業を監督する行政庁とあらかじめ協議して定めたところによつてしなければならない。

(最低速度)

**第二十五条** 自動車は、危険を防止するためやむを得ない場合を除き、その車両等を急に停止させ、又はその速度を急激に減ずることとなるような急ブレーキをかけてはならない。

(罰則) 第百二十二条第一項第四号、第百二十二条の二第一項第八号、第百二十二条の二第一項第三号  
**(第三節 横断等)**

**(道路外に出る場合の方法)**

**第二十六条** 車両は、道路外に出るため左折するときは、あらかじめその前からできる限り道路の左側端に寄り、かつ、徐行しなければならない。

車両(特定小型原動機付自転車等及びトロリーバスを除く。)は、道路外に出るため右折するときは、あらかじめその前からできる限り道路の中央(当該道路が一方通行となつていてるときは、当該道路の右側端)に寄り、かつ、徐行しなければならない。

当該車両が、道路の損壊、道路工事その他の障害のため当該道路の左側部分から軌道敷を除いた部分を行通することができないとき。

の後方にある車両は、その速度又は方向を急に変更しなければならないこととなる場合を除き、当該合図をした車両の進路の変更を妨げてはならない。

**(罰則)** 第一項及び第二項については第一百二十一一条第一項第八号 第三項については第一百二十条第一項第二号

(横断等の禁止)

**(第二十五条の二)** 車両は、歩行者又は他の車両等の正常な交通を妨害するおそれがあるときは、道外の施設若しくは場所に出入するための左折若しくは右折をし、横断し、転回し、又は後退してはならない。

**2** 車両は、道路標識等により横断、転回又は後退が禁止されている道路の部分においては、当該禁止された行為をしてはならない。

**(罰則)** 第一項については第一百十九条第一項第六号 第二項については第一百二十条第一項第四号、同条第三項

#### 第四節 追越し等

(車間距離の保持)

**(第二十六条)** 車両等は、同一の進路を進行している他の車両等の直後を進行するときは、その直前の車両等が急に停止したときにおいてもこれに追突するのを避けることができるため必要な距離を、これから保たなければならない。

**(罰則)** 第百十七条の二第一項第四号、第百十七条の二の二第一項第八号ハ、第百十九条第一項第四号、第百二十条第一項第二号

(進路の変更の禁止)

**(第二十六条の二)** 車両は、みだりにその進路を変更してはならない。

**2** 車両は、進路を変更した場合にその変更した後の進路と同一の進路を後方から進行してくる車両等の速度又は方向を急に変更させることとなるおそれがあるときは、進路を変更してはならない。

**3** 車両は、車両通行帯を通行している場合において、その車両通行帯が当該車両通行帯を通行している車両の進路の変更の禁止を表示する道路標示によつて区画されているときは、次に掲げる場合を除き、その道路標示をこえて進路を変更してはならない。

**一** 第四十条の規定により道路の左側若しくは右側に寄るとき、又は道路の損壊、道路工事その他他の障害のためその通行している車両通行帯を通行することができないとき。

**二** 第四十条の規定に従うため、又は道路の損壊、道路工事その他の障害のため、通行することができるなかつた車両通行帯を通行の区分に関する規定に従つて通行しようとするとき。

**(罰則)** 第二項については第一百十七条の二第一項第四号、第百十七条の二の二第一項第八号ニ、第一百二十条第一項第二号 第三項については第一百二十条第一項第三号、同条第三項

(他の車両に追いつかれた車両の義務)

**(第二十七条)** 車両(道路運送法第九条第一項に規定する一般乗合旅客自動車運送事業者による同法第五条第一項第三号に規定する路線定期運行又は同法第三条第二号に掲げる特定旅客自動車運送事業の用に供する自動車(以下「乗合自動車」という。)及びトロリーバスを除く。)は、第二十二条第一項の規定に基づく政令で定める最高速度(以下この条において「最高速度」という。)が高い車両に追いつかれたときは、その追いついた車両が当該車両の追越しを終わるまで速度を増してはならない。最高速度が同じであるか又は低い車両に追いつかれ、かつ、その追いついた車両の速度よりもおそい速度で引き続き進行しようとするとき

**2** 車両(乗合自動車及びトロリーバスを除く。)は、車両通行帯の設けられた道路を通行する場合を除き、最高速度が高い車両に追いつかれ、かつ、道路の中央(当該道路が一方通行となつているときは、当該道路の右側端。以下この項において同じ。)との間にその追いついた車両が通行するのに十分な余地がない場合においては、第十八条第一項の規定にかかわらず、できる限り道路の左側端に寄つてこれに進路を譲らなければならぬ。最高速度が同じであるか又は低い車両に追いつかれ、かつ、道路の中央との間にその追いついた車両が通行するのに十分な余地がな

い場合において、その追いついた車両の速度よりもおそい速度で引き続き進行しようとするときも、同様とする。

**(罰則)** 第百二十条第一項第二号

(追越しの方法)

**(第二十八条)** 車両は、他の車両を追い越そうとするときは、その追い越されようとする車両(以下この節において「前車」という。)の右側を通行しなければならない。

**2** 車両は、他の車両を追い越そうとする場合において、前車が第二十五条第二項又は第三十四条第二項若しくは第四項の規定により道路の中央又は右側端に寄つて通行しているときは、前項の規定にかかわらず、その左側を通行しなければならない。

**3** 車両は、路面電車を追い越そうとするときは、当該車両が追いついた路面電車の左側を通行しなければならない。ただし、軌道が道路の左側端に寄つて設けられているときは、この限りでない。

**4** 前三项の場合においては、追越しをしようとする車両(次条において「後車」という。)は、反対の方向又は後方からの交通及び前車又は路面電車の前方の交通にも十分に注意し、かつ、前車又は路面電車の速度及び進路並びに道路の状況に応じて、できる限り安全な速度と方法で進行しなければならない。

**(罰則)** 第一項及び第四項については第一百十七条の二第一項第四号、第百十七条の二の二第一項第八号ホ、第百十九条第一項第六号 第二項及び第三項については第一百十九条第一項第六号

(追越しを禁止する場合)

**(第二十九条)** 後車は、前車が他の自動車又はトロリーバスを追い越そうとしているときは、追越しを始めてはならない。

**(罰則)** 第百十九条第一項第六号

(追越しを禁止する場所)

**(第三十条)** 車両は、道路標識等により追越しが禁止されている道路の部分及び次に掲げるその他の道路の部分においては、他の車両(特定小型原動機付自転車等を除く。)を追い越すため、進路を変更し、又は前車の側方を通過してはならない。

**一** 道路の曲がり角付近、上り坂の頂上付近又は勾配の急な下り坂

**二** トンネル(車両通行帯の設けられた道路以外の道路の部分に限る。)

**三** 交差点(当該車両が第三十六条第二項に規定する優先道路を通行している場合における当該道路の部分においては、他の車両(特定小型原動機付自転車等を除く。)を追い越すため、進路を変更し、又は前車の側方を通過してはならない。

**一** 道路の曲がり角付近、上り坂の頂上付近又は勾配の急な下り坂

**二** トンネル(車両通行帯の設けられた道路以外の道路の部分に限る。)

**(罰則)** 第百十九条第一項第五号、同条第三項

(停車中の路面電車がある場合の停止又は徐行)

**(第三十一条)** 車両は、乗客の乗降のため停車中の路面電車に追いついたときは、当該路面電車の乗客が乗降を終わり、又は当該路面電車から降りた者で当該車両の前方において当該路面電車の左側を横断し、若しくは横断しようとしているものがいなくなるまで、当該路面電車の後方で停止しなければならない。ただし、路面電車に乗降する者の安全を図るために設けられた安全地帯があるとき、又は当該路面電車に乗降する者がいない場合において当該路面電車の左側に当該路面電車から一・五メートル以上の間隔を保つことができるときは、徐行して当該路面電車の左側を通過することができる。

**(罰則)** 第百十九条第一項第六号

(乗合自動車の発進の保護)

**(第三十二条)** 停留所において乗客の乗降のため停車していた乗合自動車が発進するため進路を変更しようとして手又は方向指示器により合図をした場合においては、その後方にある車両は、その速度又は方向を急に変更しなければならないこととなる場合を除き、当該合図をした乗合自動車の進路の変更を妨げてはならない。

**(罰則)** 第百二十条第一項第二号

(割込み等の禁止)

**第三十二条** 車両は、法令の規定若しくは警察官の命令により、又は危険を防止するため、停止し、若しくは停止しようとして徐行している車両等又はこれらに続いて停止し、若しくは徐行している車両等に追いついたときは、その前方にある車両等の側方を通過して当該車両等の前方に割り込み、又はその前方を横切ってはならない。

(罰則 第百二十条第一項第二号)

### 第五節 踏切の通過

(踏切の通過)

**第三十三条** 車両等は、踏切を通過しようとするときは、踏切の直前（道路標識等による停止線が設けられているときは、その停止線の直前。以下この項において同じ。）で停止し、かつ、安全であることを確認した後でなければ進行してはならない。ただし、信号機の表示する信号に従うときは、踏切の直前で停止しないで進行することができる。

2 車両等は、踏切を通過しようとする場合において、踏切の遮断機が閉じようと、若しくは閉じている間又は踏切の警報機が警報している間は、当該踏切に入つてはならない。  
3 車両等の運転者は、故障その他の理由により踏切において当該車両等を運転することができなくなつたときは、直ちに非常信号を行う等踏切に故障その他の理由により停止している車両等があることを鉄道若しくは軌道の係員又は警察官に知らせるための措置を講ずるとともに、当該車両等を踏切以外の場所に移動するため必要な措置を講じなければならない。

(罰則 第一項及び第二項については第百十九条第一項第五号、同条第三項)

### 第六節 交差点における通行方法等

(左折又は右折)

**第三十四条** 車両は、左折するときは、あらかじめその前からできる限り道路の左側端に寄り、かつ、できる限り道路の左側端に沿つて（道路標識等により通行すべき部分が指定されているときは、その指定された部分を通行して）徐行しなければならない。  
2 自動車、一般原動機付自転車又はトヨリーバスは、右折するときは、あらかじめその前からできる限り道路の中央に寄り、かつ、交差点の中心の直近の内側（道路標識等により通行すべき部分が指定されているときは、その指定された部分）を徐行しなければならない。  
3 特定小型原動機付自転車等は、右折するときは、あらかじめその前からできる限り道路の左側端に寄り、かつ、交差点の側端に沿つて徐行しなければならない。

4 自動車、一般原動機付自転車又はトヨリーバスは、一方通行となつている道路において右折するときは、第二項の規定にかかるわらず、あらかじめその前からできる限り道路の右側端に寄り、かつ、交差点の中心の内側（道路標識等により通行すべき部分が指定されているときは、その指定された部分）を徐行しなければならない。

5 一般原動機付自転車は、第二項及び前項の規定にかかるわらず、道路標識等により交通整理の行われている交差点における一般原動機付自転車の右折につき交差点の側端に沿つて通行すべきことが指定されている道路及び道路の左側部分（一方通行となつている道路にあつては、道路）に車両通行帯が三以上設けられているその他の道路（以下この項において「多通行帯道路」という。）において右折するとき（交通整理の行われている交差点において右折する場合に限る。）は、あらかじめその前からできる限り道路の左側端に寄り、かつ、交差点の側端に沿つて徐行しなければならない。ただし、多通行帯道路において、交通整理の行われている交差点における一般原動機付自転車の右折につきあらかじめ道路の中央又は右側端に寄るべきことが道路標識等により指定されているときは、この限りでない。

6 左折又は右折しようとする車両が、前各項の規定により、それぞれ道路の左側端、中央又は右側端に寄ろうとして手又は方向指示器による合図をした場合においては、その後方にある車両は、その速度又は方向を急に変更しなければならないこととなる場合を除き、当該合図をした車両の進路の変更を妨げてはならない。

(罰則 第一項から第五項までについては第百二十一一条第一項第八号 第六項については第百二十一条第二号)

(指定通行区分)

**第三十五条** 車両（特定小型原動機付自転車等及び右折につき一般原動機付自転車が前条第五項本文の規定によることとされる交差点において左折又は右折をする一般原動機付自転車を除く。）は、車両通行帯の設けられた道路において、道路標識等により交差点で進行する方向に関する通行の区分が指定されているときは、同条第一項、第二項及び第四項の規定にかかるわらず、当該通行の区分に従い当該車両通行帯を通行しなければならない。ただし、第四十条の規定に従うため、又は道路の損壊、道路工事その他の障害のためやむを得ないとときは、この限りでない。

(罰則 第一項については第百二十一条第一項第三号、同条第三項 第二項については第百二十一条第二号)

### （環状交差点における左折等）

**第三十五条の二** 車両は、環状交差点において左折し、又は右折するときは、第三十四条第一項から第五項までの規定にかかるわらず、あらかじめその前からできる限り道路の左側端に寄り、かつ、できる限り環状交差点の側端に沿つて（道路標識等により通行すべき部分が指定されているときは、その指定された部分を通行して）徐行しなければならない。  
2 車両は、環状交差点において直進し、又は転回するときは、あらかじめその前からできる限り道路の左側端に寄り、かつ、できる限り環状交差点の側端に沿つて（道路標識等により通行すべき部分が指定されているときは、その指定された部分を通行して）徐行しなければならない。

(罰則 第百二十二条第一項第八号)

### （交差点における他の車両等との関係等）

**第三十六条** 車両等は、交通整理の行なわれていない交差点においては、次項の規定が適用される場合を除き、次の各号に掲げる区分に従い、当該各号に掲げる車両等の進行妨害をしてはならない。

一 車両である場合 その通行している道路と交差する道路（以下「交差道路」という。）を左方から進行してくる車両及び交差道路を通行する路面電車

二 路面電車である場合 交差道路を左方から進行してくる路面電車

2 車両等は、交通整理の行なわれていない交差点においては、その通行している道路が優先道路（道路標識等により優先道路として指定されているもの及び当該交差点において当該道路における車両の通行を規制する道路標識等による中央線又は車両通行帯が設けられている道路をいう。以下同じ。）である場合を除き、交差道路が優先道路であるとき、又はその通行している道路の幅員よりも交差道路の幅員が明らかに広いものであるときは、当該交差道路を通行する車両等の進行妨害をしてはならない。

3 車両等（優先道路を通行している車両等を除く。）は、交通整理の行なわれていない交差点に入ろうとする場合において、交差道路が優先道路であるとき、又はその通行している道路の幅員よりも交差道路の幅員が明らかに広いものであるときは、徐行しなければならない。

4 車両等は、交差点に入ろうとし、及び交差点内を通行するときは、当該交差点の状況に応じ、交差道路を通行する車両等、反対方向から進行してきて右折する車両等及び当該交差点又はその直近で道路を横断する歩行者に特に注意し、かつ、できる限り安全な速度と方法で進行しなければならない。

(罰則 第一項については第百二十一条第一項第二号 第二項から第四項までについては第百十九条第一項第六号)

**第三十七条** 車両等は、交差点で右折する場合において、当該交差点において直進し、又は左折しようとする車両等があるときは、当該車両等の進行妨害をしてはならない。

(環状交差点における他の車両等との関係等)

**第三十七条の二** 車両等は、環状交差点においては、第三十六条第一項及び第二項並びに前条の規定にかかるわらず、当該環状交差点内を通行する車両等の進行妨害をしてはならない。

2 車両等は、環状交差点に入ろうとするときは、第三十六条第三項の規定にかかるわらず、徐行しなければならない。

3 車両等は、環状交差点に入ろうとし、及び環状交差点内を通行するときは、第三十六条第四項の規定にかかるわらず、当該環状交差点の状況に応じ、当該環状交差点に入ろうとする車両等、当該環状交差点内を通行する車両等及び当該環状交差点又はその直近で道路を横断する歩行者に特に注意し、かつ、できる限り安全な速度と方法で進行しなければならない。

(罰則 第百十九条第一項第六号)

**第六節の一 横断歩道等における歩行者等の優先**

(横断歩道等における歩行者等の優先)

**第六節の二 横断歩行者等の保護のための通行方法**

**第三十八条** 車両等は、横断歩道又は自転車横断帯(以下この条において「横断歩道等」という。)に接続する場合には、当該横断歩道等によりその進路の前方を横断しようとする歩行者又は自転車(以下この条において「歩行者等」という。)がないことが明らかな場合を除き、当該横断歩道等の直前(道路標識等による停止線が設けられているときは、その停止線の直前。以下この項において同じ。)で停止することができるよう速度で進行しなければならない。この場合において、横断歩道等によりその進路の前方を横断し、又は横断しようとする歩行者等があるときは、当該横断歩道等の直前で一時停止し、かつ、その通行を妨げないようしなければならない。

2 車両等は、横断歩道等(当該車両等が通過する際に当該横断歩道等によりその進路の前方を横断しようとする歩行者又は自転車(以下この条において「歩行者等」という。)がないことが明らかな場合を除き)の側方を通過してその前方に出でてはならない。

3 車両等は、横断歩道等及びその手前の側端から前に三十メートル以内の道路の部分においては、第三十条第三号の規定に該当する場合のほか、その前方を進行している他の車両等(特定小型原動機付自転車等を除く。)の側方を通過してその前方に出でてはならない。

(罰則 第百十九条第一項第五号、同条第三項)

(横断歩道のない交差点における歩行者の優先)

**第三十八条の二** 車両等は、交差点又はその直近で横断歩道の設けられていない場所において歩行者が道路を横断しているときは、その歩行者の通行を妨げてはならない。

(罰則 第百十九条第一項第六号)

**第七節 緊急自動車等**

(緊急自動車の通行区分等)

**第三十九条** 緊急自動車(消防用自動車、救急用自動車その他の政令で定める自動車で、当該緊急用務のため、政令で定めるところにより、運転中のものをいう。以下同じ。)は、第十七条第五項に規定する場合のほか、追越しをするためその他やむを得ない必要があるときは、同条第四項の規定にかかるわらず、道路の右側部分にその全部又は一部をはみ出して通行することができる。

2 緊急自動車は、法令の規定により停止しなければならない場合においても、停止することを要しない。この場合においては、他の交通に注意して徐行しなければならない。

(緊急自動車の優先)

第三十条 交差点又はその附近において、緊急自動車が接近してきたときは、路面電車は交差点を避けて、車両(緊急自動車を除く。以下この条において同じ。)は交差点を避け、かつ、道路の左側(一方通行となつている道路においてその左側に寄ることが緊急自動車の通行を妨げることとなる場合にあつては、道路の右側。次項において同じ。)に寄つて一時停止しなければならない。この場合においては、他の交通に注意して徐行しなければならない。

2 前項以外の場所において、緊急自動車が接近してきたときは、車両は、道路の左側に寄つて、これに進路を譲らなければならぬ。

(罰則 第百二十条第一項第二号)

**第四十一条** 緊急自動車については、第八条第一項、第十七条第六項、第十八条、第二十条第一項及び第二項、第二十条の二、第二十五条第一項及び第二項、第二十五条の二第二項、第二十六条の二第三項、第二十九条、第三十条、第三十四条第一項、第二項及び第四項、第三十五条第一項並びに第三十八条第一項前段及び第三項の規定は、適用しない。

2 前項に規定するものほか、第二十二条の規定に違反する車両等を取り締まる場合における緊急自動車については、同条の規定は、適用しない。

3 もっぱら交通の取締りに従事する自動車で内閣府令で定めるものについては、第十八条第一項、第二十条第一項及び第二項、第二十二条の二並びに第二十五条の二第二項の規定は、適用しない。

2 前項に規定するものほか、第二十二条の規定に違反する車両等を取り締まる場合における緊急自動車については、同条の規定は、適用しない。

3 前項に規定するものほか、第二十二条の規定に違反する車両等を取り締まる場合における緊急自動車については、同条の規定は、適用しない。

4 政令で定めるところにより道路の維持、修繕等のための作業に従事している場合における道路維持作業用自動車(専ら道路の維持、修繕等のために使用する自動車で政令で定めるものをいう。以下第七十五条の九において同じ。)については、第十七条第四項及び第六項、第十八条第一項、第二十条第一項及び第二項、第二十二条の二、第二十三条並びに第二十五条の二第二項の規定は、適用しない。

(消防用車両の優先等)

**第四十二条** 交差点又はその付近において、消防用車両(消防用自動車以外の消防の用に供する車両で、消防用務のため、政令で定めるところにより、運転中のものをいう。以下この条及び第七十五条の二十二第二項において同じ。)が接近してきたときは、車両等(車両にあつては、緊急自動車及び消防用車両を除く。)は、交差点を避け、一時停止しなければならない。

2 前項以外の場所において、消防用車両が接近してきたときは、車両(緊急自動車及び消防用車両を除く。)は、当該消防用車両の通行を妨げてはならない。

3 第三十九条の規定は、消防用車両について準用する。

4 消防用車両については、第八条第一項、第十七条第六項、第十八条、第二十条第一項及び第二項、第二十五条第一項及び第二項、第二十五条の二第二項、第二十六条の二第三項、第二十九条、第三十条、第三十四条第一項から第五項まで、第三十五条第一項、第三十八条第一項前段及び第三項、第四十条第一項、第六十三条の六並びに第六十三条の七の規定は、適用しない。

(罰則 第一項及び第二項については第百二十条第一項第二号)

**第八節 徐行及び一時停止**

(徐行すべき場所)

**第四十二条** 車両等は、道路標識等により徐行すべきことが指定されている道路の部分を通行する場合及び次に掲げるその他の場合においては、徐行しなければならない。

一 左右の見とおしがきかない交差点に入ろうとし、又は交差点内で左右の見とおしがきかない部分を通行しようとするとき(当該交差点において交通整理が行なわれている場合及び優先道路を通行している場合を除く。)

二 道路のまぎりかど附近、上り坂の頂上附近又は勾配の急な下り坂を通行するとき。

(罰則 第百十九条第一項第五号、同条第三項)

(指定場所における一時停止)

**第四十三条** 車両等は、交通整理が行なわれていない交差点又はその手前の直近において、道路標識等により一時停止すべきことが指定されているときは、道路標識等による停止線の直前(道路標識等による停止線が設けられない場合にあつては、交差点の直前)で一時停止しなければならない。この場合において、当該車両等は、第三十六条第二項の規定に該当する場合のほか、交差道路を通行する車両等の進行妨害をしてはならない。

(罰則 第百十九条第一項第五号、同条第三項)

## 第九節 停車及び駐車

(停車及び駐車を禁止する場所)

### 第四十四条

車両は、道路標識等により停車及び駐車が禁止されている道路の部分及び次に掲げる

その他の道路の部分においては、法令の規定若しくは警察官の命令により、又は危険を防止するため一時停止する場合のほか、停車し、又は駐車してはならない。

一 交差点、横断歩道、自転車横断帯、踏切、軌道敷内、坂の頂上付近、勾配の急な坂又はトンネル

二 交差点の側端又は道路の曲がり角から五メートル以内の部分

三 横断歩道又は自転車横断帯の前後の側端からそれぞれ前後に五メートル以内の部分

四 安全地帯が設けられている道路の当該安全地帯の左側の部分及び当該部分の前後の側端からそれぞれ前後に十メートル以内の部分

五 乗合自動車の停留所又はトロリーバス若しくは路面電車の停留場を表示する標示柱又は標示板が設けられている位置から十メートル以内の部分(当該停留所又は停留場に係る運行系統に属する乗合自動車、トロリーバス又は路面電車の運行時間中に限る。)

六 踏切の前後の側端からそれぞれ前後に十メートル以内の部分

前項の規定は、次に掲げる場合には、適用しない。

一 乗合自動車又はトロリーバスが、その属する運行系統に係る停留所又は停留場において、乗客の乗降のため停車するとき、又は運行時間を調整するため駐車するとき。

二 旅客の運送の用に供する自動車(乗合自動車を除く。第四十九条の三第一項において同じ。)が、乗合自動車の停留所又はトロリーバス若しくは路面電車の停留場において、乗客の乗降のため停車するとき、又は運行時間を調整するため駐車するとき(当該停留所又は停留場における停車又は駐車であつて、地域住民の生活に必要な旅客輸送を確保するために有用であり、かつ、道路又は交通の状況により支障がないことについて、内閣府令で定めるところにより、道路運送法第九条第一項に規定する一般乗合旅客自動車運送事業者、公安委員会その他の当該停車又は駐車に関する者として内閣府令で定める者が合意し、その旨を公安委員会が公示したものをする場合に限る。)。

(罰則 第一項については第百十九条の二の四第一項第一号、同条第三項、第百十九条の三第一項第一号、同条第三項)

(駐車を禁止する場所)

第四十五条 車両は、道路標識等により駐車が禁止されている道路の部分及び次に掲げるその他の

道路の部分においては、駐車してはならない。ただし、公安委員会の定めるところにより警察署長の許可を受けたときは、この限りでない。

一人の乗降、貨物の積卸し、駐車又は自動車の格納若しくは修理のため道路外に設けられた施設又は場所の道路に接する自動車用の出入口から三メートル以内の部分

二 道路工事が行なわれている場合における当該工事区域の側端から五メートル以内の部分

三 消防用機械器具の置場若しくは消防用防火水槽の側端又はこれらの道路に接する出入口から五メートル以内の部分

四 消火栓、指定消防水利の標識が設けられている位置又は消防用防火水槽の吸水口若しくは吸管投入孔から五メートル以内の部分

五 火災報知機から一メートル以内の部分

二 車両は、第四十七条第二項又は第三項の規定により駐車する場合に当該車両の右側の道路上に沿い、かつ、他の交通の妨害とならないようにしなければならない。

三・五メートル(道路標識等により距離が指定されているときは、その距離)以上の余地がないこととなる場所においては、駐車してはならない。ただし、貨物の積卸しを行なう場合で運転者がその車両を離れないとき、若しくは運転者がその車両を離れたが直ちに運転に従事することができる状態にあるとき、又は傷病者の救護のためやむを得ないときは、この限りでない。

3 公安委員会が交通がひんぱんでないと認めて指定した区域においては、前項本文の規定は、適用しない。

(罰則 第一項及び第二項については第百十九条の二の四第一項第一号、同条第三項、第百十九条の三第一項第一号、同条第三項)

(高齢運転者等標章自動車の停車又は駐車の特例)

### 第四十五条の二

次の各号のいずれかに該当する者(以下この項及び次項において「高齢運転者等」という。)が運転する普通自動車(当該高齢運転者等が内閣府令で定めるところによりその

者の住所地を管轄する公安委員会に届出をしたものに限る。)であつて、当該高齢運転者等が同項の規定により交付を受けた高齢運転者等標章をその停車又は駐車をしている間前面の見やすい箇所に掲示したもの(以下「高齢運転者等標章自動車」という。)は、第四十条第一項の規定による停車及び駐車を禁止する道路の部分又は前条第一項の規定による駐車を禁止する道路の部分の全部又は一部について、道路標識等により停車又は駐車をすることができる」ととされるときは、これらの規定にかかるらず、停車し、又は駐車することができる。

一 第七十二条の五第三項に規定する普通自動車対応免許(以下この条において単に「普通自動車対応免許」という。)を受けた者で七十歳以上のもの

二 第七十二条の六第二項又は第三項に規定する者

三 前二号に掲げるもののほか、普通自動車対応免許を受けた者で、妊娠その他の事由により身体の機能に制限があることからその者の運転する普通自動車が停車又は駐車をすることができる

2 公安委員会は、高齢運転者等に対し、その申請により、その者が前項の届出に係る普通自動車の運転をする高齢運転者等であることを示す高齢運転者等標章を交付するものとする。

3 高齢運転者等標章の交付を受けた者は、当該高齢運転者等標章を亡失し、滅失し、汚損し、又は破損したときは、その者の住所地を管轄する公安委員会に高齢運転者等標章の再交付を申請することができる。

4 高齢運転者等標章の交付を受けた者は、普通自動車対応免許が取り消され、又は失効したとき、第一項第三号に規定する事由がなくなつたときはその他内閣府令で定める事由が生じたときは、速やかに、当該高齢運転者等標章をその者の住所地を管轄する公安委員会に返納しなければならない。

5 前三项に定めるもののほか、高齢運転者等標章について必要な事項は、内閣府令で定める。

(罰則 第四項については第百二十二条第一項第十号)

(停車又は駐車を禁止する場所の特例)

第四十六条 前条第一項に規定するもののほか、車両は、第四十四条第一項又は第四十五条第一項

の規定による停車及び駐車を禁止する道路の部分又は駐車を禁止する道路の部分の一部について、道路標識等により停車又は駐車をすることができるとされているときは、これらの規定にかかるらず、停車し、又は駐車することができる。

(停車又は駐車の方法)

第四十七条 車両は、人の乗降又は貨物の積卸しのため停車するときは、できる限り道路の左側端に沿い、かつ、他の交通の妨害とならないようにならなければならない。

2 車両は、駐車するときは、道路の左側端に沿い、かつ、他の交通の妨害とならないようにならなければならない。

3 車両は、車道の左側端に接して路側帯(当該路側帯における停車及び駐車を禁止することを表す道路標示によつて区画されたもの及び政令で定めるものを除く。)が設けられている場所において、停車し、又は駐車するときは、前二項の規定にかかるらず、政令で定めるところにより、当該路側帯に入り、かつ、他の交通の妨害とならないようにならなければならない。

(罰則 第一項については第百十九条の三第一項第四号、第二項及び第三項については第百十九条の二の四第一項第一号、第百十九条の三第一項第四号)

(停車又は駐車の方法の特例)

第四十八条 車両は、道路標識等により停車又は駐車の方法が指定されているときは、前条の規定にかかるらず、当該方法によつて停車し、又は駐車しなければならない。

(罰則 第百十九条の二の四第一項第一号、同条第三項、第一百十九条の三第一項第一号、同条第三項)

(時間制限駐車区間)

**第四十九条** 公安委員会は、時間を限つて同一の車両が引き続き駐車することができる道路の区間

であることが道路標識等により指定されている道路の区間（以下「時間制限駐車区間」という。）

について、当該時間制限駐車区間ににおける駐車の適正を確保するため、パーキング・メーターライフ（内閣府令で定める機能を有するものに限る。以下同じ。）又はパーキング・チケット（内閣府令で定める様式の標章であつて、発給を受けた時刻その他の内閣府令で定める機能を有するものをいう。以下同じ。）を発給するための設備で内閣府令で定める機能を有するもの（以下「パーキング・チケット発給設備」という。）を設置し、及び管理するものとする。

前項に定めるものほか、公安委員会は、時間制限駐車区間ににおいて駐車しようとする車両の運転者に対する情報の提供、時間制限駐車区間ににおいて駐車する車両の整理その他時間制限駐車区間ににおける駐車の適正を確保するため必要な措置を講じなければならない。

公安委員会は、第一項のパーキング・メーターライフ及びパーキング・チケット発給設備の管理に関する事務並びに前項に規定する措置に関する事務の全部又は一部を内閣府令で定める者に委託することができる。

(高齢運転者等専用時間制限駐車区間)

**第四十九条の二** 公安委員会は、時間制限駐車区間に、時間を限つて同一の高齢運転者等標章自動車に限り引き続き駐車することができる道路の区間として指定することができる。この場合において、公安委員会は、前条第一項の道路標識等にその旨を表示するものとする。

(時間制限駐車区間ににおける駐車の方法等)

**第四十九条の三** 時間制限駐車区間ににおける車両の駐車（第四十四条第二項各号に掲げる場合における当該乗合自動車若しくはトロリーバス又は当該旅客の運送の用に供する自動車の駐車を除く。次条において同じ。）については、第四十四条から第四十八条までの規定にかかわらず、この条から第四十九条の五までに定めるところによる。

**第二 車両** (前条の規定により指定された道路の区間（次条において、「高齢運転者等専用時間制限駐車区間」という。）にあつては、高齢運転者等標章自動車に限り引き続き駐車することができる道路の区間として指定することができる。この場合において、公安委員会は、前条第一項の道路標識等にその旨を表示するものとする。

(時間制限駐車区間ににおける駐車の方法等)

**第四十九条の二** 時間制限駐車区間ににおける車両の駐車（第四十四条第二項各号に掲げる場合における当該乗合自動車若しくはトロリーバス又は当該旅客の運送の用に供する自動車の駐車を除く。次条において同じ。）については、第四十四条から第四十八条までの規定にかかわらず、この条から第四十九条の五までに定めるところによる。

**第二 車両** (前条の規定により指定された道路の区間（次条において、「高齢運転者等専用時間制限駐車区間」という。）にあつては、高齢運転者等標章自動車に限り引き続き駐車することができる道路の区間として指定することができる。この場合において、公安委員会は、前条第一項の道路標識等にその旨を表示するものとする。

(時間制限駐車区間ににおける駐車の方法等)

**第四十九条の三** 時間制限駐車区間ににおける車両の駐車（第四十四条第二項各号に掲げる場合における当該乗合自動車若しくはトロリーバス又は当該旅客の運送の用に供する自動車の駐車を除く。次条において同じ。）については、第四十四条から第四十八条までの規定にかかわらず、この条から第四十九条の五までに定めるところによる。

**第二 車両** (前条の規定により指定された道路の区間（次条において、「高齢運転者等専用時間制限駐車区間」という。）にあつては、高齢運転者等標章自動車に限り引き続き駐車することができる道路の区間として指定することができる。この場合において、公安委員会は、前条第一項の道路標識等にその旨を表示するものとする。

(時間制限駐車区間ににおける駐車の方法等)

**第四十九条の二** 時間制限駐車区間ににおける車両の駐車（第四十四条第二項各号に掲げる場合における当該乗合自動車若しくはトロリーバス又は当該旅客の運送の用に供する自動車の駐車を除く。次条において同じ。）については、第四十四条から第四十八条までの規定にかかわらず、この条から第四十九条の五までに定めるところによる。

**第二 車両** (前条の規定により指定された道路の区間（次条において、「高齢運転者等専用時間制限駐車区間」という。）にあつては、高齢運転者等標章自動車に限り引き続き駐車することができる道路の区間として指定することができる。この場合において、公安委員会は、前条第一項の道路標識等にその旨を表示するものとする。

(時間制限駐車区間ににおける駐車の方法等)

駐車を終了すべき時刻を指定して許可をした場合において、当該許可に係る車両が、指定された場所及び方法で、指定された駐車を開始することができる時刻から駐車を終了すべき時刻までの間ににおいて駐車を開始したときは、当該車両及びその運転者については、前二条（第四十九条の三第一項を除く。）の規定は、適用しない。この場合において、当該車両は、当該指定された駐車を終了すべき時刻を過ぎて引き続き駐車してはならない。

(罰則 後段については第一百十九条の三第一項第一号、同条第三項)

(時間制限駐車区間ににおける停車の特例)

**第四十九条の六** 車両は、第四十九条の三第二項の道路標識等により車両が駐車することができる道路の部分においては、同項の規定にかかわらず、停車することができる。

(時間制限駐車区間に路上駐車場に関する特例)

**第四十九条の七** 時間制限駐車区間に駐車場法（昭和三十二年法律第六号）第五条第一項の規定により同法第二条第一号に規定する路上駐車場（以下この条及び第一百十条の二において「路上駐車場」という。）が設置されている場合における当該路上駐車場に係る道路の部分については、第四十九条の規定は適用しない。

**第二 時間制限駐車区間に設置されている路上駐車場** (昭和三十二年法律第六号) 第五条第一項の規定による路上駐車場管理者によりパーキング・メーターライフ又はパーキング・チケット発給設備が設置されているものについては、当該パーキング・メーターライフ又はパーキング・チケット発給設備を第四十九条第一項のパーキング・メーターライフ又はパーキング・チケット発給設備とみなして、第四十九条の三の規定を適用する。

**第三 時間制限駐車区間に設置されている路上駐車場に係る道路の部分のうち、駐車場法第六条第一項に規定する路上駐車場管理によりパーキング・メーターライフ又はパーキング・チケット発給設備が設置されているものについては、当該パーキング・メーターライフ又はパーキング・チケット発給設備を第四十九条第一項のパーキング・メーターライフ又はパーキング・チケット発給設備とみなして、第四十九条の三までの規定は適用しない。**

(交差点等への進入禁止)

**第五十条** 交通整理の行なわれている交差点に入ろうとする車両等は、その進行しようとする進路の前方の車両等の状況により、交差点（交差点内に道路標識等による停止線が設けられているときは、その停止線をこえた部分。以下この項において同じ。）に入った場合においては当該交差点内で停止することとなり、よつて交差道路における車両等の通行の妨害となるおそれがあるときには、当該交差点に入つてはならない。

**第二 車両** (車両等は、その進行しようとする進路の前方の車両等の状況により、横断歩道、自転車横断帯、踏切又は道路標示によつて区画された部分に入つた場合においてはその部分で停止することとなるおそれがあるときは、これらの部分に入つてはならない。

(罰則 第百二十条第一項第五号、同条第三項)

**第九節の二** 違法停車及び違法駐車に対する措置

**第五十条の二** 車両（トロリーバスを除く。以下この条、次条及び第五十一条の四において同じ。）が第四十条第一項、第四十七条第一項若しくは第三項又は第四十八条の規定に違反して停車していると認められるときは、警察官等は、当該車両の運転者に対し、当該車両の停車の方法を変更し、又は当該車両を当該停車が禁止されている場所から移動すべきことを命ずることができる。

(罰則 第百十九条第一項第七号)

**第五十一条** 車両が第四十四条第一項、第四十五条第一項若しくは第二項、第四十七条第二項若しくは第三項、第四十八条、第四十九条の三第二項若しくは第三項、第四十九条の四若しくは第四十九条の五後段の規定に違反して駐車していると認められるとき、又は第四十九条第一項のパーキング・チケット発給設備を設置する時間制限駐車区間に駐車している場合において当該車両に当該パーキング・チケット発給設備により発給を受けたパーキング・チケットが掲示され

ておらず、かつ、第四十九条の三第四項の規定に違反していると認められるとき（第五十一条の二）  
 四第一項及び第七十五条の二十二第三項において「違法駐車と認められる場合」と総称する。」  
 は、警察官等は、当該車両の運転者その他当該車両の管理について責任がある者（以下この条において「運転者等」という。）に対し、当該車両の駐車の方法を変更し、若しくは当該車両を当該駐車が禁止されている場所から移動すべきこと又は当該車両を当該時間制限駐車区間の当該車両が駐車している場所から移動すべきことを命ずることができる。  
 2 車両の故障その他の理由により当該車両の運転者等が直ちに前項の規定による命令に従うこと  
 が困難であると認められるときは、警察官等は、道路における危険を防止し、その他交通の安全と円滑を図るために必要な限度において、当該車両の駐車の方法を変更し、又は当該車両を移動することができる。  
 3 第一項の場合において、現場に当該車両の運転者等がいないために、当該運転者等に対しても同項の規定による命令をすることができないときは、警察官等は、道路における交通の危険を防止し、又は交通の円滑を図るために必要な限度において、当該車両の駐車の方法の変更その他必要な措置をとり、又は当該車両が駐車している場所からの距離が五十メートルを超えない道路上の場所に当該車両を移動することができる。  
 4 前項の規定により車両の移動をしようとする場合において、当該車両が駐車している場所からの距離が五十メートルを超えない範囲の地域内の道路上に当該車両を移動する場所がないときは、警察官等は、当該車両が駐車している場所を管轄する警察署長にその旨を報告しなければならない。  
 5 前項の報告を受けた警察署長は、駐車場、空地、第三項に規定する場所以外の道路上の場所その他他の場所に当該車両を移動することができる。  
 6 警察署長は、前項の規定により車両を移動したときは、当該車両を保管しなければならない。  
 7 この場合において、警察署長は、車両の保管の場所の形状、管理の態様等に応じ、当該車両に係る盗難等の事故の発生を防止するため、警察署長が当該車両を保管している旨の表示、車輪止め装置の受けその他の必要な措置を講じなければならない。  
 8 警察署長は、前項の規定により車両を保管したときは、当該車両の使用者に対し、保管を始めた日時及び保管の場所並びに当該車両を速やかに引き取るべき旨を告知しなければならない。  
 9 警察署長は、前項の場合において、当該車両の使用者の氏名及び住所を知ることができないと、その他当該使用者に当該車両を返還することが困難であると認められるときは、当該車両の所有者に対し、同項に規定する旨を告知しなければならない。  
 10 警察署長は、前項の場合において、当該車両の所有者の氏名及び住所を知ることができないと、同項の規定による公示をしたときは、内閣府令で定めるところにより、当該公示の日付及び内容をインターネットの利用その他の方法により公表するものとする。  
 11 第七項から前項までに定めるもののはか、第六項の規定により保管した車両の返還に関し必要な事項は、政令で定める。  
 12 警察署長は、第六項の規定による公示をしたときは、当該車両を廃棄することができない場合において、政令で定めるところにより評価した当該車両の価額に比し、その保管に不相当な費用を要するときは、政令で定めるところにより、当該車両を売却し、その売却した代金を保管することができる。  
 13 警察署長は、前項の規定による公示の日から起算して一月を経過してもなお当該車両を返還することができない場合は、当該車両の運転者等又は使用者若しくは所有者（以下この条において「使用者等」という。）の負担とする。

16 警察署長は、前項の規定により運転者等又は使用者等の負担とされる負担金につき納付すべき金額、納付の期限及び場所を定め、これらの者に対し、文書でその納付を命じなければならない。この場合において、納付すべき金額は、同項に規定する費用につき実費を勘案して都道府県規則でその額を定めたときは、その定めた額とする。  
 17 警察署長は、前項の規定により納付を命ぜられた者が納付の期限を経過しても負担金を納付しないときは、督促状によつて納付すべき期限を指定して督促しなければならない。この場合において、警察署長は、負担金につき年十四・五ペーセントの割合により計算した額の範囲内の延滞金及び督促に要した手数料を徴収することができる。この場合における負担金等の先取特権の順位は、国税及び地方税に次ぐものとする。  
 18 前項の規定による督促を受けた者がその指定期限までに負担金並びに同項後段の延滞金及び滞納処分の例により、負担金等を徴収することができる。この場合における負担金等の先取特権納付され、又は徴収された負担金等は、当該警察署の属する都道府県の収入とする。  
 20 第八項の規定による告知の日又は第九項の規定による公示の日から起算して三月を経過してもなお第六項の規定により保管した車両（第十二項の規定により売却した代金を含む。以下この項において同じ。）を返還することができないときは、当該車両の所有権は、当該警察署の属する都道府県に帰属する。  
 21 警察署長は、第十二項の規定による車両（道路運送車両法による登録を受けた自動車に限る。以下この項において同じ。）の売却、第十三項の規定による車両の廃棄又は前項の規定による車両の所有権の都道府県への帰属があつたときは、政令で定めるところにより、当該車両について、これらの処分等に係る同法による登録を国土交通大臣又は同法第百五条第一項若しくは第二項の規定により委任を受けた者に嘱託しなければならない。  
 22 第六項、第七項及び第九項から第二十項までの規定は、第六項の規定により保管した車両に積載物があつた場合における当該積載物について準用する。この場合において、第七項中「使用者」とあるのは「所有者、占有者その他当該積載物について権原を有する者（以下この項において「所有者等」という。）と、第九項中「前項」とあるのは「第二十二項において読み替えて準用する第七項」と、「知ることができない」とあるのは「知ることができず、かつ、当該積載物の所有者以外の者に当該積載物を返還することが困難であると認められる」と、第十一項中「第七項から前項まで」とあるのは「第二十二項において読み替えて準用する第七項及び前二項」と、第十二項中「第八項の規定による告知の日又は」とあるのは「腐敗し、若しくは変質するおそれがあるとき、又は第二十二項において読み替えて準用する第七項の規定による当該積載物の所有者に対する告知の日若しくは」と、「費用」とあるのは「費用若しくは手数」と、第十五項中「第二項、第三項又は第五項から第十一項までの規定による車両の移動」とあるのは「第二十二項において準用する第六項、第七項又は第九項から第十一項までの規定による」と、「運転者等又は使用者若しくは所有者（以下この条及び次条において「使用者等」という。）とあるのは「所有者等」と、第十六項中「運転者等又は使用者等」とあるのは「所有者等」と、第二十項中「第八項の規定による」とあるのは「第二十二項において読み替えて準用する第七項の規定による当該積載物の所有者に対する」と読み替えるものとする。  
 2 (罰則) 第一項については第一百十九条第一項第七号)  
 2 (報告徴収等)  
 第五十二条の二 警察署長は、前条の規定の施行のため必要があると認めるときは、同条第六項の規定により保管した車両の使用者等その他の関係者又は同条第二十二項において準用する同条第六項の規定により保管した車両の使用者の所有者、占有者その他当該積載物について権原を有する者その他の関係者に対し、当該車両又は積載物に関し必要な報告又は資料の提出を求めることができる。  
 2 警察署長は、前条の規定の施行のため必要があると認めるときは、官庁、公共団体その他の者に照会し、又は協力を求めることができる。

(車両移動保管関係事務の委託)

**第五十一条の三** 警察署長は、第五十一条第五項及び第六項（同条第二十二項において準用する場合を含む。）の規定による車両（積載物を含む。以下この項において同じ。）の移動及び保管に関する事務（当該車両の移動、返還、売却及び廃棄の決定、同条第十六項の規定による命令、滞納処分その他の政令で定めるものを除く。）の全部又は一部を内閣府令で定める法人に委託することができる。

2 前項の規定により警察署長から事務の委託を受けた法人の役員若しくは職員又はこれらの職にあつた者は、当該事務に関して知り得た秘密を漏らしてはならない。

（罰則 第二項については第百十七条の四第一項第一号）

（放置違反金）

**第五十一条の四** 警察署長は、警察官等に、違法駐車と認められる場合における車両（軽車両については、牽引されるための構造及び装置を有し、かつ、車両総重量（道路運送車両法第四十条第三号の車両総重量をいう。）が七百五十キログラムを超えるもの（以下「重被牽引車」という。）に限る。以下この条において同じ。）であつて、その運転者がこれを離れて直ちに運転することができない状態にあるもの（以下「放置車両」という。）の確認をさせ、内閣府令で定めるところにより、当該確認をした旨及び当該車両に係る違法駐車行為（違法駐車と認められる場合に係る車両の運転者の行為をいう。第四項及び第十六条において同じ。）をした者について第四項ただし書に規定する場合に該当しないときは同項本文の規定により当該車両の使用者が放置違反金の納付を命ぜられることがある旨を告知する標章を当該車両の見やすい箇所に取り付けさせることができる。

2 何人も、前項の規定により車両に取り付けられた標章を破損し、若しくは汚損し、又はこれを取り除いてはならない。ただし、当該車両の使用者、運転者その他当該車両の管理について責任がある者が取り除く場合は、この限りでない。

3 警察署長は、第一項の規定により車両に標章を取り付けさせたときは、当該車両の駐車に関する状況を公安委員会に報告しなければならない。

4 前項の規定による報告を受けた公安委員会は、当該報告に係る車両を放置車両と認めるときは、当該車両の使用者に対し、放置違反金の納付を命ずることができる。ただし、第一項の規定により当該車両に標章が取り付けられた日の翌日から起算して三十日以内に、当該車両に係る違法駐車行為をした者が当該違法駐車行為について第百二十八条第一項の規定による反則金の納付をした場合又は当該違法駐車行為に係る事件について公訴を提起され、若しくは家庭裁判所の審判に付された場合は、この限りでない。

5 前項本文の規定による命令（以下「納付命令」という。）は、放置違反金の額並びに納付の期限及び場所を記載した文書により行うものとする。

6 公安委員会は、納付命令をしようとするときは、当該車両の使用者に対し、あらかじめ、次に掲げる事項を書面で通知し、相当の期間を指定して、当該事案について弁明を記載した書面（以下この項及び第九項において「弁明書」という。）及び有利な証拠を提出する機会を与えないければならない。

7 公安委員会は、納付命令を受けるべき者の所在が判明しないときは、前項の規定による通知を、その者の氏名及び同項第二号に掲げる事項並びに公安委員会が同項各号に掲げる事項を記載した書面をいつでもその者に交付する旨を当該公安委員会の掲示板に掲示することによつて行うことができる。この場合においては、掲示を始めた日から二週間を経過したときに、当該通知がその者に到達したものとみなす。

8 二弁明書の提出先及び提出期限  
一 当該納付命令の原因となる事実  
二 当該納付命令の原因となる事実  
三 放置違反金の額は、別表第一に定める金額の範囲内において、政令で定める。

9 第六項の規定による通知を受けた者は、弁明書の提出期限までに、政令で定めるところにより、放置違反金に相当する金額を仮に納付することができる。

10 納付命令は、前項の規定による仮納付をした者については、政令で定めるところにより、公示して行うことができる。

11 第九項の規定による仮納付をした者について同項の通知に係る納付命令があつたときは、当該放置違反金に相当する金額の仮納付は、当該納付命令による放置違反金の納付とみなす。

12 公安委員会は、第九項の規定による仮納付をした者について同項の通知に係る納付命令をしないこととしたときは、速やかに、その者に対し、理由を明示してその旨を書面で通知し、当該仮納付に係る金額を返還しなければならない。

13 公安委員会は、納付命令を受けた者が納付の期限を経過しても放置違反金を納付しないときは、督促状によつて納付すべき期限を指定して督促しなければならない。この場合において、公安委員会は、放置違反金につき年十四・五パーセントの割合により計算した額の範囲内の延滞金及び督促に要した手数料を徴収することができる。

14 前項の規定による督促を受けた者がその指定期限までに放置違反金並びに同項後段の延滞金及び手数料（以下この条及び第五十二条の七において「放置違反金等」という。）を納付しないときは、公安委員会は、地方税の滞納処分の例により、放置違反金等を徴収することができる。この場合における放置違反金等の先取特權の順位は、国税及び地方税に次ぐものとする。

15 納付され、又は徴収された放置違反金等は、当該公安委員会が置かれている都道府県の收入とする。

16 公安委員会は、納付命令をした場合において、当該納付命令の原因となつた車両に係る違法駐車行為をした者が当該違法駐車行為について第百二十八条第一項の規定による反則金の納付をしたとき、又は当該違法駐車行為に係る事件について公訴を提起され、若しくは家庭裁判所の審判に付されたときは、当該納付命令を取り消さなければならない。

17 公安委員会は、前項の規定により納付命令を取り消したときは、速やかに、理由を明示してその旨を当該納付命令を受けた者に通知しなければならない。この場合において、既に当該納付命令に係る放置違反金等が納付され、又は徴収されているときは、公安委員会は、当該放置違反金等に相当する金額を還付しなければならない。

18 放置違反金等の徴収又は還付に関する書類の送達及び公示送達については、地方税の例による。

（罰則 第二項については第百二十二条第一項第十号）

（報告徴収等）

**第五十一条の五** 公安委員会は、前条の規定の施行のため必要があると認めるときは、同条第一項の規定により標章を取り付けられた車両の使用者、所有者その他の関係者に対し、当該車両の使用に關し必要な報告又は資料の提出を求めることができる。

2 公安委員会は、前条の規定の施行のため必要があると認めるときは、官庁、公共団体その他の使用者に照会し、又は協力を求めることができる。

（罰則 第二項については第百二十二条第一項、第二項第一号、第二項第二号）

（国家公安委員会への報告等）

**第五十一条の六** 公安委員会は、納付命令をしたとき、第五十一条の四第十三項の規定による督促をしたとき、又は同条第十六項の規定により納付命令を取り消したときその他の当該納付命令の原因となつた車両の使用者について内閣府令で定める事由が生じたときは、その旨、当該使用者の氏名及び住所、当該車両の番号標の番号その他の内閣府令で定める事項を国家公安委員会に報告しなければならない。この場合において、国家公安委員会は、放置車両に関する措置の適正を図るため、当該報告に係る事項を各公安委員会に通報するものとする。

2 国家公安委員会は、前項前段の規定により、督促をした旨の報告を受けたときは、当該報告に係る事項（内閣府令で定めるものに限る。）を国土交通大臣等（国土交通大臣若しくはその権限の委任を受けた地方運輸局長、運輸監理部長若しくは運輸支局長又は軽自動車検査協会（道路運送車両法第五章の二の規定により設立された軽自動車検査協会をいう。）をいう。次条及び第七

十五条の十三第二項第一号において同じ。)に通知するものとする。当該督促に係る納付命令を取り消した旨の報告を受けたときも、同様とする。

(放置違反金等の納付等を証する書面の提示)

**第五十一条の七** 自動車検査証の返付 (道路運送車両法第六十二條第二項 (同法第六十七条第四項において準用する場合を含む。)又は総合特別区域法(平成二十三年法律第八十一号)第二十二条の二第三項の規定による自動車検査証の返付をいう。以下この条において同じ。)を受けようとする者は、その自動車(道路運送車両法第五十八条第一項に規定する自動車をいう。)が最後に同法第六十条第一項若しくは第七十一条第四項の規定による自動車検査証の交付又は自動車検査証の返付を受けた後に第五十二条の四第十三項の規定による督促(当該自動車が原因となつた納付命令(同法第十六条の規定により取り消されたものを除く。)に係るものに限る。)を受けたことがあるときは、国土交通大臣等に対して、当該督促に係る放置違反金等を納付したこと又はこれを徴収されたことを証する書面を提示しなければならない。

2 国土交通大臣等は、前項の規定により同項の書面を提示しなければならない者(前条第二項前段の通知に係る者に限る。)による当該書面の提示がないときは、自動車検査証の返付をしないものとする。

3 (確認事務の委託)  
第五十一条の八 警察署長は、第五十二条の四第一項に規定する放置車両の確認及び標章の取付け(以下「放置車両の確認等」という。)に関する事務(以下「確認事務」という。)の全部又は一部を、公安委員会の登録を受けた法人に委託することができる。

2 前項の登録(以下この条から第五十二条の十一までにおいて「登録」という。)は、委託を受けた確認事務を行おうとする法人の申請により行う。

3 次の各号のいずれかに該当する法人は、登録を受けることできない。  
一 第五十二条の十の規定により登録を取り消され、その取消しの日から起算して二年を経過しない法人  
二 役員(業務を執行する社員、取締役、執行役又はこれらに準ずる者をいい、相談役、顧問その他いかなる名称を有する者であるかを問わず、法人に対し業務を執行する社員、取締役、執行役又はこれらに準ずる者と同等以上の支配力を有するものと認められる者を含む。第七十五条の十四において同じ。)のうちに次のいずれかに該当する者のある法人  
イ 破産手続開始の決定を受けて復権を得ない者  
ロ 禁錮以上の刑に処せられ、又は第一百十九条の二の四第二項の罪を犯して刑に処せられ、その執行を終わり、又は執行を受けることがなくなつた日から起算して二年を経過しない者  
ハ 集団的に、又は常習的に暴力的不法行為その他の罪に当たる違法な行為で国家公安委員会規則で定めるものを行うおそれがあると認めるに足りる相当な理由がある者  
ニ 暴力団員による不当な行為の防止等に関する法律(平成三年法律第七十七号)第十二条若しくは第十二条の六の規定による命令又は同法第十二条の四第二項の規定による指示を受けた者であつて、当該命令又は指示を受けた日から起算して二年を経過しないもの  
ホ アルコール、麻薬、大麻、あへん又は覚醒剤の中毒者  
ヘ 心身の障害により確認事務を適正に行うことができない者として国家公安委員会規則で定めるもの

4 公安委員会は、第二項の規定により登録を申請した法人が次に掲げる要件のすべてに適合しているときは、その登録をしなければならない。  
一 車両、携帯電話用装置その他の携帯用の無線通話装置、地図、写真機及び電子計算機を用いて確認事務を行うものであること。  
二 第五十一条の十二第三項の駐車監視員が放置車両の確認等を行うものであること。  
三 当該公安委員会が置かれている都道府県の区域内に事務所を有するものであること。

5 登録は、登録簿に登録を受ける法人の名称、代表者の氏名、主たる事務所の所在地、登録の年月日及び登録番号を記載してするものとする。

6 登録は、三年を下らない政令で定める期間ごとにその更新を受けなければ、その期間の経過によつて、その効力を失う。

7 第二項から第五項までの規定は、前項の登録の更新について準用する。

**第五十二条の九** 公安委員会は、登録を受けた法人が前条第四項各号のいずれかに適合しなくなつたと認めるときは、その法人に対し、これらの規定に適合するため必要な措置をとるべきことを命ずることができる。

**第五十二条の十** 公安委員会は、登録を受けた法人が次の各号のいずれかに該当するときは、その登録を取り消すことができる。

一 第五十二条の八第三項第二号に該当するに至つたとき。

二 前項の規定による命令に違反したとき。

三 次条第一項の規定による報告をせず、若しくは虚偽の報告をし、又は同項の規定による検査を拒み、妨げ、若しくは忌避したとき。

四 第五十二条の十二第二項から第四項までの規定に違反したとき。

五 偽りその他不正の手段により登録を受けたとき。

(報告及び検査)  
**第五十二条の十一** 公安委員会は、第五十二条の八から前条までの規定の施行に必要な限度において、登録を受けた法人に対し、その業務又は經理の状況に關し報告をさせ、又は警察職員に、登録を受けた法人の事務所に立ち入り、業務の状況若しくは帳簿、書類その他の物件を検査させることができる。

2 前項の規定により立入検査をする警察職員は、その身分を示す証票を携帯し、関係者の請求があるときは、これを提示しなければならない。

3 第二項の規定による立入検査の権限は、犯罪捜査のために認められたものと解してはならない。

(放置車両確認機関)  
**第五十二条の十二** 警察署長は、第五十二条の八第一項の規定により確認事務を委託したときは、その受託者(以下「放置車両確認機関」という。)の名称及び主たる事務所の所在地その他政令で定める事項を公示しなければならない。

2 放置車両確認機関は、公正に、かつ、第五十二条の八第四項第一号及び第二号に掲げる要件に適合する方法により確認事務を行わなければならない。

3 放置車両確認機関は、次条第一項の駐車監視員資格者証の交付を受けている者のうちから選任した駐車監視員以外の者に放置車両の確認等を行わせてはならない。

4 放置車両確認機関は、駐車監視員に制服を着用させ、又はその他の方法によりその者が駐車監視員であることを表示させ、かつ、国家公安委員会規則でその制式を定める記章を着用させなければ、その者に放置車両の確認等を行わせてはならない。

5 駐車監視員は、放置車両の確認等を行うときは、次条第一項の駐車監視員資格者証を携帯し、警察官等から提示を求められたときは、これを提示しなければならない。

6 放置車両確認機関の役員若しくは職員(駐車監視員を含む。次項において同じ。)又はこれらの職にあつた者は、確認事務に關して知り得た秘密を漏らしてはならない。

7 確認事務に從事する放置車両確認機関の役員又は職員は、刑法(明治四十年法律第四十五号)その他の罰則の適用に関しては、法令により公務に從事する職員とみなす。

8 第五十二条の八第一項の規定により確認事務を委託した場合における第五十二条の四第一項の規定の適用については、同項中「警察官等」とあるのは、「警察官等又は第五十二条の十二第一項の放置車両確認機関」とする。

(罰則 第六項については第一百七十七条の四第一項第一号)

(駐車監視員資格者証)

**第五十一条の十三** 公安委員会は、次の各号のいずれにも該当する者に対し、駐車監視員資格者証を交付する。

一 次のいずれかに該当する者

イ 公安委員会が国家公安委員会規則で定めるところにより放置車両の確認等に関する技能及

び知識に関して行う講習を受け、その課程を修了した者

ロ 公安委員会が国家公安委員会規則で定めるところにより放置車両の確認等に関する者と同等以上の技能及び知識を有すると認められる者

二 次のいずれにも該当しない者

イ 十八歳未満の者

ロ 第五十二条の八第三項第二号イからハまでのいずれかに該当する者

ハ 次項第二号又は第三号に該当して同項の規定により駐車監視員資格者証の返納を命ぜられ、その返納の日から起算して二年を経過しない者

2 公安委員会は、駐車監視員資格者証の交付を受けた者が次の各号のいずれかに該当すると認めるとときは、その者に係る駐車監視員資格者証の返納を命ずることができる。

一 第五十二条の八第三項第二号イからハまでのいずれかに該当するに至ったとき。

二 偽りその他不正の手段により駐車監視員資格者証の交付を受けたとき。

三 前項第五項の規定に違反し、又は放置車両の確認等に関する不正な行為をし、その情状が駐車監視員として不適当であると認められるとき。

(国家公安委員会規則への委任)

**第五十二条の十四** 第五十二条の八から前条までに定めるもののほか、確認事務の委託の手続及び駐車監視員資格者証に関し必要な事項は、国家公安委員会規則で定める。

(放置違反金関係事務の委託)

**第五十三条の十五** 公安委員会は、第五十二条の四に規定する放置違反金に関する事務（確認事務、納付命令、督促及び滞納処分を除く。）の全部又は一部を会社その他の法人に委託することができる。

2 前項の規定により公安委員会から事務の委託を受けた法人の役員若しくは職員又はこれらの職にあつた者は、当該事務に関して知り得た秘密を漏らしてはならない。

(罰則) 第二項については第百二十七条の四第一項第一号)

#### 第十節 灯火及び合図

(車両等の灯火) 車両等は、夜間（日没時から日出時までの時間）をいう。以下この条及び第六十三条の第九項において同じ。道路にあるときは、政令で定めるところにより、前照灯、車幅灯、尾灯その他の灯火をつけなければならない。政令で定める場合においては、夜間以外の時間にあっても、同様とする。

2 車両等が、夜間（前項後段の場合を含む。）他の車両等と行き違う場合又は他の車両等の直後を行なう場合において、他の車両等の交通を妨げるおそれがあるときは、車両等の運転者は、政令で定めるところにより、灯火を消し、灯火の光度を減ずる等灯火を操作しなければならない。

(罰則) 第二項については第百二十七条第一項第五号、同条第三項第二項については第百二十七条の二第一項第四号、第百二十七条の二の二第一項第八号ヘ、第百二十二条第一項第六号、同条第三項（合図）

2 車両の運転者は、環状交差点においては、前項の規定にかかるらず、当該環状交差点を出ると折し、右折し、転回し、徐行し、停止し、後退し、又は同一方向に進行しながら進路を変えるときは、手、方向指示器又は灯火により合図をし、かつ、これらの行為が終わるまで当該合図を継続しなければならない。

2 車両の運転者は、環状交差点においては、前項及び第四項において同じ。の運転者は、左折し、右折し、転回し、徐行し、停止し、若しくは後退するときは、手、方向指示器又は灯火により合図をし、かつ、これらの行為が終わるまで当該合図を継続しなければならない。

4 車両の運転者は、第一項又は第二項に規定する行為を終わったときは、当該合図をやめなければならないものとし、また、これらの規定に規定する合図に係る行為をしないのにかかるらず、当該合図をしてはならない。

(罰則) 第一項、第二項及び第四項については第百二十七条第一項第六号、同条第三項（警音器の使用等）

**第五十四条** 車両等（自転車以外の軽車両を除く。以下この条において同じ。）の運転者は、次の各号に掲げる場合においては、警音器を鳴らさなければならぬ。

一 左右の見とおしのきかない交差点、見とおしのきかない道路のまがりなど又は見とおしのきかない上り坂の頂上で道路標識により指定された場所を通行しようとするとき。

二 山地部の道路その他曲折が多い道路について道路標識等により指定された区間における左右の見とおしのきかない交差点、見とおしのきかない道路のまがりなど又は見とおしのきかない上り坂の頂上を通行しようとするとき。

2 車両等の運転者は、法令の規定により警音器を鳴らさなければならないこととされている場合を除き、警音器を鳴らしてはならない。ただし、危険を防止するためやむを得ないときは、この限りでない。

(罰則) 第一項については第百二十七条第一項第六号、同条第三項第二項については第百二十七条の二第一項第四号、第百二十七条の二の二第一項第八号ト、第百二十二条第一項第九号（乗車、積載及び牽引）

#### 第十一節 乗車、積載及び牽引（乗車又は積載の方法）

**第五十五条** 車両の運転者は、当該車両の乗車のために設備された場所以外の場所に乗車させ、又は乗車若しくは積載のために設備された場所以外の場所に積載して車両を運転してはならない。

ただし、もっぱら貨物を運搬する構造の自動車（以下次条及び第五十七条において「貨物自動車」という。）で貨物を積載しているものにあつては、当該貨物を看守するため必要な最小限度の人員をその荷台に乗車させて運転することができる。

2 車両の運転者は、運転者の視野若しくはハンドルその他の装置の操作を妨げ、後写鏡の効用を失わせ、車両の安定を害し、又は外部から当該車両の方向指示器、車両の番号標、制動灯、尾灯若しくは後部反射器を確認することができないこととなるような乗車をさせ、又は積載をして車両を運転してはならない。

#### 第三節 車両又は積載の方法の特例

**第五十六条** 車両の運転者は、当該車両の出発地を管轄する警察署長（以下第五十八条までにおいて「出発地警察署長」という。）が当該車両の構造又は道路若しくは交通の状況により支障がないと認めて積載の場所を指定して許可をしたときは、前条第一項の規定にかかるらず、当該車両の乗車又は積載のために設備された場所以外の場所で指定された場所に積載して車両を運転することができる。

2 貨物自動車の運転者は、出発地警察署長が道路又は交通の状況により支障がないと認めて人員を限つて許可をしたときは、前条第一項の規定にかかるらず、当該許可に係る人員の範囲内で当該貨物自動車の荷台に乗車させて貨物自動車を運転することができる。

（乗車又は積載の制限等）

2 車両（軽車両を除く。以下この項及び第五十八条の二から第五十八条の五までにおいて同じ。）の運転者は、当該車両について政令で定める乗車人員又は積載物の重量、大きさ若しくは積載の方法（以下この条において「積載重量等」という。）の制限を超えて乗車をさせ、又は積載をして車両を運転してはならない。ただし、第五十五条第一項ただし書の規定により、又

は前条第一項の規定による許可を受けて貨物自動車の荷台に乗車させる場合にあつては、当該制限を超える乗車をさせて運転することができる。  
 2 公安委員会は、道路における危険を防止し、その他交通の安全を図るために必要なと認めるときは、軽車両の乗車人員又は積載重量等の制限について定めることができる。  
 3 貨物が分割できないものであるため第一項の政令で定める積載重量等の制限又は前項の規定に基づき公安委員会が定める積載重量等を超えることとなる場合において、出発地警察署長が当該車両の構造又は道路若しくは交通の状況により支障がないと認めて積載重量等を限つて許可をしたときは、車両の運転者は、前二項の規定にかかわらず、当該許可に係る積載重量等の範囲内で該制限を超える積載をして車両を運転することができる。

(罰則) 第一項については第百一十八条第二項第一号、第二百一十九条第二項第一号、第二百二十一条第二項(第二号)、第二百二十二条第二項については第百二十二条第二項第一号、第二百二十三条规定(制限外許可証の交付等)

**第五十八条** 出発地警察署長は、第五十六条又は前条第三項の規定による許可(以下この条において「制限外許可」という。)をしたときは、許可証を交付しなければならない。

2 前項の規定により許可証の交付を受けた車両の運転者は、当該許可に係る車両の運転中、当該許可証を携帯していなければならぬ。

(罰則) 第三項については第二百二十二条第二項第二号、第二百二十三条)

3 制限外許可を与える場合において、必要があると認めるときは、出発地警察署長は、政令で定めるところにより、当該許可に危険を防止するため必要な条件を付することができます。

4 第一項の許可証の様式その他の制限外許可の手続について必要な事項は、内閣府令で定める。

(罰則) 第三項については第二百二十二条第二項第二号、第二百二十三条)

(積載物の重量の測定等)

**第五十八条の二** 警察官は、第五十七条第一項の積載物の重量の制限を超える積載をしていると認められるところにより、当該車両を停止させ、並びに当該車両の運転者に対し、自動車検査証(道路運送車両法第六十条の自動車検査証をいう。第六十二条第一項において同じ。)その他政令で定める書類の提示を求め、及び当該車両の積載物の重量を測定することができる。

(罰則) 第百十九条第一項第八号)

(過積載車両に係る措置命令)

**第五十八条の三** 警察官は、過積載(車両に積載する積載物の重量が第五十七条第一項の制限に係る重量(同条第三項の規定による許可に係る積載物については、当該許可に係る重量)を超える場合における当該積載をいう。以下同じ。)をしている車両の運転者に対し、当該車両に係る積載が過積載とならないようにするため必要な応急の措置をとることを命ずることができる。

2 警察官は、前項の規定による命令によつては車両に係る積載が過積載とならないようにすることができないと認められる場合において、当該車両に係る過積載の程度及び道路又は交通の状況を勘査して当該車両を警察官が指示した事項を遵守して運転させることに支障がないと認めるときは、当該車両の運転者に対し、第五十七条第一項の規定にかかわらず、車両の通行の区間及び経路、道路における危険を防止するためによるべき必要な措置その他の事項であつて警察官が指示したものをして当該車両を運転し、及び当該車両に係る積載が過積載とならないようにするため必要な措置をとることを命ずることができる。この場合において、警察官は、当該車両の運転者に対し、通行指示書を交付しなければならない。

3 前項の規定により通行指示書の交付を受けた車両の運転者は、同項の規定による命令に係る運転に當たつては、当該通行指示書を携帯していなければならぬ。

4 第二項の通行指示書の様式その他同項の通行指示書に関する必要な事項は、内閣府令で定める。

(罰則) 第一項及び第二項については第二百一十九条第一項第九号)

(過積載車両に係る指示)

**第五十八条の四** 前条第一項又は第二項の規定による命令がされた場合において、当該命令に係る車両の使用者(当該車両の運転者であるものを除く。以下この条において同じ。)が当該車両に

係る過積載を防止するため必要な運行の管理を行つていると認められないときは、当該車両の使用者の本拠の位置を管轄する公安委員会は、当該車両の使用者に対し、車両を運転させる場合にあらかじめ車両の積載物の重量を確認することを運転者に指導し又は助言することその他車両に係る過積載を防止するため必要な措置をとることを指示することができる。

(過積載車両の運転の要求等の禁止)

**第五十八条の五** 第七十五条第一項に規定する使用者等以外の者は、次に掲げる行為をしてはならない。

1 車両の運転者に對し、過積載をして車両を運転することを要求すること。  
 2 車両の運転者に對し、当該車両への積載が過積載となるとの情を知りながら、第五十七条第一項の制限に係る重量を超える積載物を当該車両に積載をさせるため売り渡し、又は当該積載物を引き渡すこと。

2 警察署長は、前項の規定に違反する行為が行われた場合において、当該行為をした者が反復して同項の規定に違反する行為をするおそれがあると認めるときは、内閣府令で定めるところにより、当該行為をした者に對し、同項の規定に違反する行為をしてはならない旨を命ぜることができる。

(罰則) 第二項については第二百一十八条第二項第二号、第二百二十三条)

(自動車の牽引制限)

**第五十九条** 自動車の運転者は、牽引するための構造及び装置を有する自動車によつて牽引されるときは(牽引される車両を牽引する場合を除き、他の車両を牽引してはならない。ただし、故障その他の理由により自動車を牽引することがやむを得ない場合において、政令で定めるところにより当該自動車を牽引するときは、この限りでない。)

2 自動車の運転者は、他の車両を牽引する場合においては、大型自動二輪車、普通自動二輪車又は小型特殊自動車によつて牽引するときは一台を超える車両を、その他の自動車によつて牽引するときは二台を超える車両を牽引してはならず、また、牽引する自動車の前端から牽引される車両の後端(牽引される車両が二台のときは二台目の車両の後端)までの長さが二十五メートルを超えることとなるときは、牽引をしてはならない。ただし、公安委員会が当該自動車について、道路を指定し、又は時間を限つて牽引の許可をしたときは、この限りでない。

3 前項のただし書の規定による許可をしたときは、公安委員会は、許可証を交付しなければならない。

4 前項の規定により許可証を受けた自動車の運転者は、当該許可に係る牽引中、当該許可証を携帶していなければならない。

5 第三項の許可証の様式その他第二項ただし書の許可の手続について必要な事項は、内閣府令で定める。

(罰則) 第一項及び第二項については第二百二十一条第二項第一号、第二百二十三条规定(自動車以外の車両の牽引制限)

**第六十条** 公安委員会は、道路における危険を防止し、その他交通の安全を図るために必要なと認めるとときは、自動車以外の車両によつてする牽引の制限について定めることができる。

(罰則) 第百二十二条第二項第一号、第二百二十三条规定(危険防止の措置)

**第六十一条** 警察官は、第五十八条の三第一項及び第二項の規定による場合のほか、車両等の乗車、積載又は牽引について危険を防止するため特に必要があると認めるときは、当該車両等を停止させ、及び当該車両等の運転者に対し、危険を防止するため必要な応急の措置をとることを命ずることができる。

(罰則) 第百十九条第一項第十号)

**第六十二条** 車両等の使用者その他車両等の装置の整備について責任を有する者又は運転者は、その装置が道路運送車両法第三章若しくはこれに基づく命令の規定(同法の規定が適用されない自

衛隊の使用する自動車については、自衛隊法（昭和二十九年法律第百六十五号）第一百四十四条第二項の規定による防衛大臣の定め。以下同じ。）又は軌道法第十四条若しくはこれに基づく命令の規定に定めるところに適合しないため交通の危険を生じさせ、又は他人に迷惑を及ぼすおそれがある車両等（次条第一項及び第七十一条の四の二第二項第一号において「整備不良車両」といいう。）を運転させ、又は運転してはならない。

**(罰則 第百十九条第二項第二号、同条第三項、第一百二十条第一項第七号、同条第三項、第一百二十二条)**

**(車両の検査等)**

**第六十三条** 警察官は、整備不良車両に該当すると認められる車両（軽車両を除く。以下この条において同じ。）が運転されているときは、当該車両を停止させ、並びに当該車両の運転者に対し、自動車検査証その他の政令で定める書類及び作動状態記録装置（道路運送車両法第四十一条第二項に規定する作動状態の確認に必要な情報と記録するための装置をいう。第六十三条の二の二において同じ。）により記録された記録の提示を求め、並びに当該車両の装置について検査をすることができる。この場合において、警察官は、当該記録を人の視覚又は聴覚により認識することができる状態にするための措置が必要であると認めるときは、当該車両を製作し、又は輸入した者との他の関係者に対し、当該措置を求めることができる。

**2** 前項の場合において、警察官は、当該車両の運転者に対し、道路における危険を防止し、その他交通の安全を図り、又は他人に及ぼす迷惑を防止するため必要な応急の措置をとることを命じ、また、応急の措置によつては必要な整備をすることができないと認められる車両（以下この条において「故障車両」という。）については、当該故障車両の運転を継続してはならない旨を命ずることができる。

**3** 前項の場合において、当該故障車両の整備不良の程度及び道路又は交通の状況により支障がないと認めるときは、警察官は、前条の規定にかかわらず、当該故障車両を整備するため必要な限度において、区間及び通行の経路を指定し、その他道路における危険又は他人に及ぼす迷惑を防止するため必要な条件を付して当該故障車両を運転することができる。この場合において、警察官は、許可証を交付しなければならない。

**4** 警察官は、第一項の規定による措置をとつたときは、当該故障車両の運転者に対し、当該故障車両について整備を要する事項を記載した文書を交付し、かつ、当該故障車両の前面の見やすい箇所に標章を貼り付けなければならない。

**5** 警察官は、前項の措置をとつたときは、その旨を当該措置をとつた場所を管轄する警察署長に報告しなければならない。

**6** 警察署長は、前項の報告を受けたときは、当該故障車両の使用の本拠の位置を管轄する地方運輸局長に対し、内閣府令・国土交通省令で定める事項を通知しなければならない。

**7** 第四項の規定により貼り付けられた標章は、何人も、これを破損し、又は汚損してはならず、また、当該故障車両の必要な整備がされたことについて、内閣府令・国土交通省令で定める手続により、最寄りの警察署の警察署長又は車両の整備に係る事項について権限を有する行政庁の確認を受けた後でなければ、これを取り除いてはならない。

**8** 第三項の許可証の様式、第四項の規定により故障車両の運転者に対し交付する文書の様式及び同項の標章の様式は、内閣府令・国土交通省令で定める。

**(罰則 第一項前段については第百十九条第一項第十一号 第二項については第百十九条第一項第十二号 第七項については第百二十二条第一項第十号)**

**(運行記録計による記録等)**

**第六十三条の二** 自動車の使用者その他自動車の装置の整備について責任を有する者又は運転者は、道路運送車両法第三章又はこれに基づく命令の規定により運行記録計を備えなければならないことをされている自動車で、これらの規定により定められた運行記録計を備えていないか、又は当該運行記録計についての調整がされていないためこれらの規定により定められた事項を記録することができないものを運転させ、又は運転してはならない。

**(罰則 第一百十九条第二項第二号)**

**(運行記録計による記録等)**

2 前項の運行記録計を備えなければならないこととされている自動車の使用者は、運行記録計により記録された当該自動車に係る記録を、内閣府令で定めるところにより一年間保存しなければならない。

**(罰則 第百二十二条第二項第三号、第百二十二条)**

**(作動状態記録装置による記録等)**

**第六十三条の二の二** 自動車の使用者その他自動車の装置の整備について責任を有する者又は運転者は、自動運行装置を備えている自動車で、作動状態記録装置により道路運送車両法第四十一条第二項に規定する作動状態の確認に必要な情報を正確に記録することができないものを運転させ、又は運転してはならない。

**(罰則 第百十九条第二項第三号、第百二十二条)**

**(作動状態記録装置による記録等)**

**第六十三条の二の三** 車体の大きさ及び構造が内閣府令で定める基準に適合する自転車で、他の車両を牽引していないもの（以下この節において「普通自転車」という。）は、自転車道が設けられており道路においては、自転車道以外の車道を横断する場合及び道路の状況その他の事情によりやむを得ない場合を除き、自転車道を通行しなければならない。

**(罰則 第百二十二条第一項第八号)**

**(普通自転車の歩道通行)**

**第六十三条の四** 普通自転車は、次に掲げるときは、第十七条第一項の規定にかかわらず、歩道を通行することができる。ただし、警察官等が歩行者の安全を確保するため必要があると認めて当該歩道を通行してはならない旨を指示したときは、この限りでない。

一 道路標識等により普通自転車が当該歩道を通行することができるとき。  
二 当該普通自転車の運転者が、児童、幼児その他の普通自転車により車道を通行するが危険であると認められるものとして政令で定める者であるとき。

三 前二号に掲げるもののほか、車道又は交通の状況に照らして当該普通自転車の通行の安全を確保するため当該普通自転車が歩道を通行することができやむを得ないと認められるとき。

2 前項の場合において、普通自転車は、当該歩道の中央から車道寄りの部分（道路標識等により普通自転車が通行すべき部分として指定された部分）を徐行しなければならず、また、普通自転車の進行が歩行者の通行を妨げることとなるときは、一時停止しなければならない。ただし、普通自転車通行指定部分については、当該普通自転車通行指定部分を通行し、又は通行しようとする歩行者がないときは、歩道の状況に応じた安全な速度と方法で進行することができる。

**(罰則 第二項については第百二十二条第一項第八号)**

**(普通自転車の並進)**

**第六十三条の五** 普通自転車は、道路標識等により並進することができる」ととされている道路においては、第十九条の規定にかかわらず、他の普通自転車と並進することができる。ただし、普通自転車が三台以上並進することとなる場合においては、この限りでない。

**(自転車の横断の方法)**

**第六十三条の六** 自転車は、道路を横断しようとするときは、自転車横断帯がある場所の付近においては、その自転車横断帯によって道路を横断しなければならない。

**(交差点における自転車の通行方法)**

**第六十三条の七** 自転車は、前条に規定するもののほか、交差点を通行しようとする場合において、当該交差点又はその付近に自転車横断帯があるときは、第十七条第四項、第三十四条第一項

及び第三項並びに第三十五条の二の規定にかかるらず、当該自転車横断帯を進行しなければならない。

- 2 普通自転車は、交差点又はその手前の直近において、当該交差点への進入の禁止を表示する道路標示があるときは、当該道路標示を越えて当該交差点に入つてはならない。  
 (自転車の通行方法の指示)

- 第六十三条の八** 警察官等は、第六十三条の六若しくは前条第一項の規定に違反して通行している自転車の運転者に対し、これらの規定に定める通行方法により当該自転車を通行させ、又は同条第二項の規定に違反して通行している普通自転車の運転者に対し、当該普通自転車を歩道により通行させるべきことを指示することができる。

- (罰則 第百二十一一条第一項第七号)

(自転車の制動装置等)

- 第六十三条の九** 自転車の運転者は、内閣府令で定める基準に適合する制動装置を備えていないため交通の危険を生じさせるおそれがある自転車を運転してはならない。

- 2 自転車の運転者は、夜間(第五十二条第一項後段の場合を含む)、内閣府令で定める基準に適合する反射器材を備えていない自転車を運転してはならない。ただし、第五十二条第一項前段の規定により尾灯をつけている場合は、この限りでない。

- (罰則 第一項については第百二十条第一項第七号、同条第三項)

- 第六十三条の十** 警察官は、前条第一項の内閣府令で定める基準に適合する制動装置を備えていため交通の危険を生じさせるおそれがある自転車と認められる自転車が運転されているときは、当該自転車を停止させ、及び当該自転車の制動装置について検査をすることができる。

- 2 前項の場合において、警察官は、当該自転車の運転者に対し、道路における危険を防止し、その他交通の安全を図るために必要な応急の措置をとることを命じ、また、応急の措置によつては必要な整備をすることができないと認められる自転車については、当該自転車の運転を継続してはならない旨を命ずることができる。

- (罰則 第一項については第百二十条第一項第八号、第二項については第百二十条第一項第九号)
- (自転車の運転者等の遵守事項)

- 第六十三条の十一** 自転車の運転者は、乗車用ヘルメットをかぶるよう努めなければならない。

- 2 自転車の運転者は、他人を当該自転車に乗車させるときは、当該他人に乗車用ヘルメットをかぶらせるよう努めなければならない。

- 3 児童又は幼児を保護する責任のある者は、児童又は幼児が自転車を運転するときは、当該児童又は幼児に乗車用ヘルメットをかぶらせるよう努めなければならない。

**第四章 車両等の運転者及び使用者の義務**

**第一節 運転者の義務**

(無免許運転等の禁止)

- 第六十四条** 何人も、第八十四条第一項の規定による公安委員会の運転免許を受けないで(第九十条第五項、第三条第一項若しくは第四項、第三条の二第一項、第四条の二の三第一項若しくは第三項又は同条第五項において準用する第三条第四項の規定により運転免許の効力が停止されている場合を含む)、自動車又は一般原動機付自転車を運転してはならない。

- 2 何人も、前項の規定に違反して自動車又は一般原動機付自転車を運転することとなるおそれがある者に対し、自動車又は一般原動機付自転車を提供してはならない。

- 3 何人も、自動車(道路運送法第二条第三項において準用する第三条第四項の規定により運転免許の効力が停止される場合を除く。以下この項において同じ)又は一般原動機付自転車を運転することとなるおそれがある者に対する公安委員会の運転免許を受けていないこと(第九十条第五項、第三条第一項若しくは第四項、第三条の二第一項、第四条の二の三第一項若しくは第三項又は同条第五項において準用する第三条第四項の規定により運転免許の効力が停止される場合を含む)、又は一般原動機付自転車の運転者が第八十四条第一項

こととを要求し、又は依頼して、当該運転者が第一項の規定に違反して運転する自動車又は一般原動機付自転車に同乗してはならない。

- (罰則 第一項については第百十七条の二の二第一項第一号、第二項については第百十七条の二の二第一項第二号)  
 (十六歳未満の者による特定小型原動機付自転車の運転等の禁止)

- 第六十四条の二** 十六歳未満の者は、特定小型原動機付自転車を運転してはならない。

- 2 何人も、前項の規定に違反して特定小型原動機付自転車を運転することとなるおそれがある者に対し、特定小型原動機付自転車を提供してはならない。

- (罰則 第一項については第百十八条第一項第二号、第二項については第百十八条第一項第三号)

(酒気帶び運転等の禁止)

- 第六十五条** 何人も、酒気を帶びて車両等を運転してはならない。

- 2 何人も、酒気を帶びている者で、前項の規定に違反して車両等を運転することとなるおそれがあるものに対し、車両等を提供してはならない。

- 3 何人も、第一項の規定に違反して車両等を運転することとなるおそれがある者に対し、酒類を提供し、又は飲酒をすすめてはならない。

- 4 何人も、車両(トロリーバス及び旅客自動車運送事業の用に供する自動車で当該業務に従事中のものその他の政令で定める自動車を除く。以下この項、第百十七条の二の二第一項第六号及び第百十七条の三の二第三号において同じ)の運転者が酒気を帶びていることを知りながら、当該運転者に対し、当該車両を運転して自己を運送することを要求し、又は依頼して、当該運転者が第一項の規定に違反して運転する車両に同乗してはならない。

- (罰則 第一項については第百十七条の二第一項第一号、第百十七条の二の二第一項第三号、第二項については第百十七条の二第一項第二号、第百十七条の二の二第一項第四号、第三項については第百十七条の二の二第一項第五号、第百十七条の三の二第二号、第四項については第百十七条の二の二第一項第六号、第百十七条の三の二第三号)

(過労運転等の禁止)

- 第六十六条** 何人も、前条第一項に規定する場合のほか、過労、病気、薬物の影響その他の理由により、正常な運転ができないおそれがある状態で車両等を運転してはならない。

- (罰則 第百十七条の二第一項第三号、第百十七条の二の二第一項第七号)

(過労運転に係る車両の使用者に対する指示)

- 第六十六条の二** 車両の運転者が前条の規定に違反して過労により正常な運転ができないおそれがある状態で車両を運転する行為(以下この条及び第七十五条の二第一項において「過労運転」という)を当該車両の使用者(当該車両の運転者であるものを除く。以下この条において同じ)の業務に關してした場合において、当該過労運転に係る車両の使用者が当該車両につき過労運転を防止するため必要な運行の管理を行つていると認められないときは、当該車両の使用的本拠の位置を管轄する公安委員会は、当該車両の使用者に対し、過労運転が行われることのないよう運転者に指導し又は助言することその他過労運転を防止するため必要な措置をとることを指示することができる。

- 2 第二十二条の二第二項の規定は、前項の規定による指示について準用する。

(危険防止の措置)

- 第六十七条** 警察官は、車両等の運転者が第六十四条第一項、第六十五条第一項、第六十六条、第七十一条の四第四項から第七項まで又は第八十五条第五項から第七項(第二号を除く)までの規定に違反して車両等を運転していると認めるときは、当該車両等を停止させ、及び当該車両等の運転者に対し、第九十二条第一項の運転免許証又は第百七条の二の国際運転免許証若しくは外

- 2 前項に定めるもののほか、警察官は、車両等の運転者が車両等の運転に関しこの法律(第六十条第一項、第六十五条第一項、第六十六条、第七十一条の四第四項から第七項まで及び第八十

五条第五項から第七項（第二号を除く。）までを除く。）若しくはこの法律に基づく命令の規定若しくはこの法律の規定に基づく処分に違反し、又は車両等の交通による人の死傷若しくは物の損壊（以下「交通事故」という。）を起こした場合において、当該車両等の運転者に引き続き当該車両等を運転させることができるかどうかを確認するため必要があると認めるときは、当該車両等の運転者に対し、第九十二条第一項の運転免許証又は第七十七条の二の国際運転免許証若しくは外国運転免許証の提示を求めることができる。

3 車両等に乗車し、又は乗車しようとしている者が第六十五条第一項の規定に違反して車両等を運転するおそれがあると認められるときは、警察官は、次項の規定による措置に關し、その者が身体に保有しているアルコールの程度について調査するため、政令で定めるところにより、その者の呼気の検査をることができる。

4 前三項の場合において、当該車両等の運転者が第六十四条第一項、第六十四条の二第一項、第六十五条第一項、第六十六条、第七十一条の四第四項から第七項まで又は第八十五条第五項から第七項（第二号を除く。）までの規定に違反して車両等を運転するおそれがあるときは、警察官は、その者が正常な運転ができる状態になるまで車両等の運転をしてはならない旨を指示する等（共同危険行為等の禁止）

（罰則 第一百一十九条第一項第十三号 第三項については第百十八条の二）

第六十九条 削除  
(安全運転の義務)

第七十条 車両等の運転者は、当該車両等のハンドル、ブレーキその他の装置を確実に操作し、かつ、道路、交通及び当該車両等の状況に応じ、他人に危害を及ぼさないような速度と方法で運転しなければならない。

（罰則 第百一十七条の二第一項第四号、第一百一十七条の二の二第一項第八号チ、第一百一十九条第一項第十四号、同条第三項（運転者の遵守事項）

第七十一条 車両等の運転者は、次に掲げる事項を守らなければならない。

一 ぬかるみ又は水たまりを通行するときは、泥よけ器を付け、又は徐行する等して、泥土、汚水等を飛散させて他人に迷惑を及ぼすことがないようにすること。  
二 身体障害者用の車が通行しているとき、目が見えない者が第十四条第一項の規定に基づく政令で定めるつえを携え、若しくは同項の規定に基づく政令で定める盲導犬を連れて通行しているとき、耳が聞こえない者若しくは同条第二項の規定に基づく政令で定める程度の身体の障害のある者が同項の規定に基づく政令で定めるつえを携えて通行しているとき、又は監護者が付いているとき、歩行を妨げないようになります。

二の二 前号に掲げるもののほか、高齢の歩行者、身体の障害のある歩行者その他の歩行者でその通行に支障のあるものが通行しているときは、一時停止し、又は徐行して、その通行を妨げないようになります。  
二の三 児童、幼稚等の乗降のため、政令で定めるところにより停車している通学通園バス（専ら小学校、幼稚園等に通う児童、幼稚等を運送するために使用する自動車で政令で定めるもの）の側方を通過するときは、徐行して安全を確認すること。  
三 道路の左側部分に設けられた安全地帯の側方を通過する場合において、当該安全地帯に歩行者がいるときは、徐行すること。  
四 乗降口のドアを閉じ、貨物の積載を確実に行う等当該車両等に乗車している者の転落又は積載している物の転落若しくは飛散を防ぐため必要な措置を講ずること。

四の二 車両等に積載している物が道路に転落し、又は飛散したときは、速やかに転落し、又は飛散した物を除去する等道路における危険を防止するため必要な措置を講ずること。  
四の三 安全を確認しないで、ドアを開き、又は車両等から降りないようにして、及びその車両等に乗車している他の者がこれらの行為により交通の危険を生じさせないようにするため必要な措置を講ずること。

五 車両等を離れるときは、その原動機を止め、完全にブレーキをかける等当該車両等が停止の状態を保つため必要な措置を講ずること。

五の二 安全を確認するため、ドアを開き、又は車両等から降りないようにして、及びその車両等に乗車している他の者がこれらの行為により交通の危険を生じさせないようにするため必要な措置を講ずること。

五の三 正當な理由がないのに、著しく他人に迷惑を及ぼすこととなる騒音を生じさせるような方法で、自動車若しくは原動機付自転車を急に発進させ、若しくはその速度を急激に増加させ、又は自動車若しくは原動機付自転車の原動機の動力を車輪に伝達させないで原動機の回転数を増加させないこと。

五の四 自動車を運転する場合において、第七十一条の五第一項から第四項まで若しくは第七十一条の六第一項から第三項までに規定する者又は第八十四条第二項に規定する仮運転免許を受けた者が表示自動車（第七十一条の五第一項、第七十一条の六第一項若しくは第八十七条第三項に規定する標識を付けた準中型自動車又は第七十一条の五第二項から第四項まで、第七十一条の六第二項若しくは第三項若しくは第八十七条第三項に規定する標識を付けた普通自動車をいう。以下この号において同じ。）を運転しているときは、危険防止のためやむを得ない場合を除き、進行している当該表示自動車の側方に幅寄せをし、又は当該自動車が進路を変更した場合にその変更した後の進路と後方から進行していく表示自動車が当該自動車との間に第二十六条に規定する必要な距離を保つことができないこととなるときは進路を変更しないこと。

五の五 自動車又は原動機付自転車（以下この号において「自動車等」という。）を運転する場合においては、当該自動車等が停止しているときを除き、携帯電話用装置、自動車電話用装置その他の無線通話装置（その全部又は一部を手で保持しなければ送信及び受信のいずれをも行うことができないものに限る。第一百八十八条第一項第四号において「無線通話装置」という。）を通話（傷病者の救護又は公共の安全の維持のため当該自動車等の走行中に緊急やむを得ずに行うものを除く。同号において同じ。）のために使用し、又は当該自動車等に取り付けられ若しくは持ち込まれた画像表示用装置（道路運送車両法第四十一条第一項第十六号若しくは第七号又は第四十四条第十一号に規定する装置であるものを除く。第一百八十八条第一項第四号において同じ。）に表示された画像を注視しないこと。

六 前各号に掲げるもののほか、道路又は交通の状況により、公安委員会が道路における危険を防止し、その他交通の安全を図るために必要と認めて定めた事項（罰則 第一号、第四号から第五号まで、第五号の三、第五号の四及び第六号については第一百二十一条第一項第十号、第二号、第二号の三及び第三号については第一百十九条第一項第十五号、第五号については第一百一十七条の四第一項第二号、第一百十八条第一項第四号）

（自動車等の運転者の遵守事項）  
第七十一条の二 自動車又は原動機付自転車（これらのうち内閣府令で定めるものを除く。以下この条において同じ。）の運転者は、道路運送車両法第四十一条第一項第十一号又は第四十四条第八号に規定する消音器を備えていない自動車又は原動機付自転車（当該消音器を切断したものその他の消音器の機能に著しい障害を及ぼす改造等で内閣府令で定めるものを加えた当該消音器を備えている自動車又は原動機付自転車を含む。）を運転してはならない。

（普通自動車等の運転者の遵守事項）  
第七十一条の三 自動車（大型自動二輪車及び普通自動二輪車を除く。以下この条において同じ。）の運転者は、道路運送車両法第三章及びこれに基づく命令の規定により当該自動車に備えなければならぬ物の転落若しくは飛散を防ぐため必要な措置を講ずること。

ばならないこととされている座席ベルト（以下「座席ベルト」という。）を装着しないで自動車を運転してはならない。ただし、疾病のため座席ベルトを装着することが療養上適当でない者が自動車を運転するとき、緊急自動車の運転者が当該緊急自動車を運転するとき、その他政令で定めるやむを得ない理由があるときは、この限りでない。

2 自動車の運転者は、座席ベルトを装着しない者を運転者席以外の乗車装置（当該乗車装置につき座席ベルトを備えなければならないこととされているものに限る。以下この項において同じ。）に乗車させて自動車を運転してはならない。ただし、幼児（適切に座席ベルトを装着させるに足りる座高を有するものを除く。以下この条において同じ。）を当該乗車装置に乗車させるとき、足りる座高を有するものを除く。以下この条において同じ。）を当該乗車装置に乗車させるとき、その他の政令で定めるやむを得ない理由があるときは、この限りでない。

3 自動車の運転者は、幼児用補助装置（幼児を乗車させる際座席ベルトに代わる機能を果たさせるため座席に固定して用いる補助装置）（幼児を乗車させる際座席ベルトに代わる機能を果たさせるため座席に固定して用いる補助装置）及びこれに基づく命令の規定に適合し、かつ、幼児の発育の程度に応じた形状を有するものをいう。以下この項において同じ。）を使用しない幼児を乗車させて自動車を運転してはならない。ただし、疾病的ため幼児用補助装置を使用させることができない理由があるときは、この限りでない。

（大型自動二輪車等の運転者の遵守事項）

**第七十一条の四** 大型自動二輪車又は普通自動二輪車の運転者は、乗車用ヘルメットをかぶらないで大型自動二輪車若しくは普通自動二輪車を運転し、又は乗車用ヘルメットをかぶらない者を乗車させて大型自動二輪車若しくは普通自動二輪車を運転してはならない。

2 一般原動機付自転車の運転者は、乗車用ヘルメットをかぶらないで一般原動機付自転車を運転してはならない。

3 特定小型原動機付自転車の運転者は、乗車用ヘルメットをかぶるよう努めなければならない。

4 第八十四条第三項の大型自動二輪車免許を受けた者で、二十歳に満たないもの又は当該大型自動二輪車免許を受けている期間（当該免許の効力が停止されたいた期間を除く。）が通算して三年以上である者その他の者で政令で定めるものを除く。）は、高速自動車国道及び自動車専用道路においては、運転者以外の者を乗車させて大型自動二輪車（側車付きのものを除く。以下この条において同じ。）を運転してはならない。

5 第八十四条第三項の普通自動二輪車免許を受けた者（同項の大型自動二輪車免許を現に受けている者を除く。）で、二十歳に満たないもの又は当該普通自動二輪車免許を受けた者で、当該免許の効力が停止されたいた期間（当該免許を受けた者で、当該免許の効力が停止されたいた期間を除く。）が通算して三年に達しないもの又は当該免許を受けた者で政令で定めるものを除く。）は、運転者以外の者を乗車させて普通自動二輪車（側車付きのものを除く。以下この条において同じ。）を運転してはならない。

6 第八十四条第三項の大形自動二輪車免許を受けた者で、当該大型自動二輪車免許を受けている期間（当該免許の効力が停止されたいた期間を除く。）が通算して一年に達しないもの（同項の普通自動二輪車免許を現に受けたおり、かつ、当該普通自動二輪車免許を受けた日前六月以内に準中型自動車免許を受けた者で政令で定めるものを除く。）は、運転者以外の者を乗車させて大型自動二輪車（側車付きのものを除く。）は、運転者以外の者を乗車させて普通自動二輪車を運転してはならない。

7 第八十四条第三項の普通自動二輪車免許を受けた者（同項の大型自動二輪車免許を受けている者を除く。）で、当該普通自動二輪車免許を受けた者で、当該大型自動二輪車免許を受けた日前六月以内に普通自動二輪車免許を受けたことのある者その他の者で政令で定めるものを除く。）は、運転者以外の者を乗車させて普通自動二輪車を運転してはならない。

ばならないこととされている座席ベルト（以下「座席ベルト」という。）を装着しないで自動車を運転してはならない。ただし、疾病的ため座席ベルトを装着することが療養上適当でない者が自動車を運転するとき、緊急自動車の運転者が当該緊急自動車を運転するとき、その他政令で定めるやむを得ない理由があるときは、この限りでない。

2 自動車の運転者は、座席ベルトを装着しない者を運転者席以外の乗車装置（当該乗車装置につき座席ベルトを備えなければならないこととされているものに限る。以下この項において同じ。）に乗車させて自動車を運転してはならない。ただし、幼児（適切に座席ベルトを装着させるに足りる座高を有するものを除く。以下この条において同じ。）を当該乗車装置に乗車させるとき、足りる座高を有するものを除く。以下この条において同じ。）を当該乗車装置に乗車させるとき、その他の政令で定めるやむを得ない理由があるときは、この限りでない。

3 自動車の運転者は、幼児用補助装置（幼児を乗車させる際座席ベルトに代わる機能を果たさせるため座席に固定して用いる補助装置）（幼児を乗車させる際座席ベルトに代わる機能を果たさせるため座席に固定して用いる補助装置）及びこれに基づく命令の規定に適合し、かつ、幼児の発育の程度に応じた形状を有するものをいう。以下この項において同じ。）を使用しない幼児を乗車させて自動車を運転してはならない。ただし、疾病的ため幼児用補助装置を使用させることができない理由があるときは、この限りでない。

（大型自動二輪車等の運転者の遵守事項）

**第七十一条の四の二** 自動運行装置を備えている自動車の運転者は、当該自動運行装置を使用して当該自動車を運転してはならない。

2 自動運行装置を備えている自動車の運転者が当該自動運行装置を使用して当該自動車を運転する場合において、次の各号のいずれにも該当するときは、当該運転者については、第七十一条第五号の五の規定は、適用しない。

1 当該自動車が整備不良車両に該当しないこと。

2 当該自動運行装置に係る使用条件を満たしていること。

3 当該運転者が、前二号のいずれかに該当しなくなつた場合において、直ちに、そのことを認知するとともに、当該自動運行装置以外の当該自動車の装置を確実に操作することができる状態にあること。

（罰則） 第一項については第百十九条第一項第十六号、同条第三項）

（初心運転者標識等の表示義務）

**第七十二条の五** 第八十四条第三項の準中型自動車免許を受けた者で、当該準中型自動車免許を受けた日前六月以内に準中型自動車免許を受けたことを認めた者その他の者で政令で定めるもの及び同項の普通自動車免許を現に受けている準中型自動車免許を受けた日前に当該普通自動車免許を受けた期間（当該免許の効力が停止されたいた期間を除く。）が通算して一年以上である者を除く。）は、内閣府令で定めるところにより準中型自動車の前面及び後面に内閣府令で定める様式の標識を付けないで準中型自動車を運転してはならない。

2 第八十四条第三項の準中型自動車免許又は普通自動車免許を受けた者で、当該準中型自動車免許又は普通自動車免許を受けた日前に当該普通自動車免許を受けた（当該免許の効力が停止されたいた期間を除く。）が通算して一年に達しないもの（当該免許を受けた日前六月以内に準中型自動車免許又は普通自動車免許を受けた日前に当該普通自動車免許を受けた（当該免許の効力が停止されたいた期間を除く。）が通算して一年以上である者を除く。）は、内閣府令で定めるところにより準中型自動車の前面及び後面に内閣府令で定める様式の標識を付けないで準中型自動車を運転してはならない。

3 第八十五条第一項若しくは第二項又は第八十六条第一項若しくは第二項の規定により普通自動車を運転することができる他の種類の運転免許（第八十四条第二項の仮運転免許を除く。）を受けた者その他の者で政令で定めるものを除く。）は、内閣府令で定めるところにより普通自動車の前面及び後面に内閣府令で定める様式の標識を付けないで普通自動車を運転してはならない。

4 普通自動車対応免許を受けた者で七十歳以上七十五歳未満のものは、加齢に伴つて生ずる身体の機能の低下が自動車の運転に影響を及ぼすおそれがあるときは、内閣府令で定めるところにより普通自動車の前面及び後面に内閣府令で定める様式の標識を付けて普通自動車を運転するよう努めなければならない。

（罰則） 第一項から第三項までについては第百二十一條第一項第十一号、同条第三項）

**第七十二条の六** 第八十五条第一項若しくは第二項又は第八十六条第一項若しくは第二項の規定にいた期間を除く。）が通算して一年に達しないもの（当該免許を受けた日前六月以内に普通自動二輪車免許を受けたことのある者その他の者で政令で定めるものを除く。）は、運転者以外

（罰則） 第四項から第七項までについては第百十九条の三第一項第五号）

**（自動運行装置を備えている自動車の運転者の遵守事項等）**

**第七十二条の四の二** 自動運行装置を備えている自動車の運転者は、当該自動運行装置に係る使用条件を満たさない場合には、当該自動運行装置を使用して当該自動車を運転してはならない。

2 自動運行装置を備えている自動車の運転者が当該自動運行装置を使用して当該自動車を運転する場合において、次の各号のいずれにも該当するときは、当該運転者については、第七十二条第五号の五の規定は、適用しない。

1 当該自動車が整備不良車両に該当しないこと。

2 当該自動運行装置に係る使用条件を満たしていること。

3 当該運転者が、前二号のいずれかに該当しなくなつた場合において、直ちに、そのことを認知するとともに、当該自動運行装置以外の当該自動車の装置を確実に操作することができる状態にあること。

（罰則） 第一項については第百十九条第一項第十六号、同条第三項）

（初心運転者標識等の表示義務）

**第七十二条の五** 第八十四条第三項の準中型自動車免許を受けた者で、当該準中型自動車免許を受けた日前六月以内に準中型自動車免許を受けたことを認めた者その他の者で政令で定めるもの及び同項の普通自動車免許を現に受けている準中型自動車免許又は普通自動車免許を受けた日前に当該普通自動車免許を受けた（当該免許の効力が停止されたいた期間を除く。）が通算して一年以上である者を除く。）は、内閣府令で定めるところにより準中型自動車の前面及び後面に内閣府令で定める様式の標識を付けないで準中型自動車を運転してはならない。

2 第八十四条第三項の準中型自動車免許又は普通自動車免許を受けた者で、当該準中型自動車免許又は普通自動車免許を受けた日前に当該普通自動車免許を受けた（当該免許の効力が停止されたいた期間を除く。）が通算して一年に達しないもの（当該免許を受けた日前六月以内に準中型自動車免許又は普通自動車免許を受けた日前に当該普通自動車免許を受けた（当該免許の効力が停止されたいた期間を除く。）が通算して一年以上である者を除く。）は、内閣府令で定めるところにより準中型自動車の前面及び後面に内閣府令で定める様式の標識を付けないで準中型自動車を運転してはならない。

3 第八十五条第一項若しくは第二項又は第八十六条第一項若しくは第二項の仮運転免許を除く。）を受けた者その他の者で政令で定めるものを除く。）は、内閣府令で定めるところにより普通自動車の前面及び後面に内閣府令で定める様式の標識を付けないで普通自動車を運転してはならない。

4 普通自動車対応免許を受けた者で七十歳以上七十五歳未満のものは、加齢に伴つて生ずる身体の機能の低下が自動車の運転に影響を及ぼすおそれがあるときは、内閣府令で定めるところにより普通自動車の前面及び後面に内閣府令で定める様式の標識を付けて普通自動車を運転するよう努めなければならない。

車の前面及び後面に内閣府令で定める様式の標識を付けないで準中型自動車を運転してはならない。

- 2 普通自動車対応免許を受けた者で政令で定める程度の聴覚障害のあることを理由に当該普通自動車対応免許に条件を付されているものは、内閣府令で定めるところにより普通自動車の前面及び後面に内閣府令で定める様式の標識を付けないで普通自動車を運転してはならない。
- 3 普通自動車対応免許を受けた者で肢体不自由であることを理由に当該普通自動車対応免許に条件を付されているものは、当該肢体不自由が自動車の運転に影響を及ぼすおそれがあるときは、内閣府令で定めるところにより普通自動車の前面及び後面に内閣府令で定める様式の標識を付け普通自動車を運転するよう努めなければならない。

(罰則) 第一項及び第二項については第百二十一一条第一項第十一号、同条第三項)

## 第二節 交通事故の場合の措置等

### (交通事故の場合の措置)

- 第七十二条 交通事故があつたときは、当該交通事故に係る車両等の運転者その他の乗務員(以下この節において「運転者等」という。)は、直ちに車両等の運転を停止して、負傷者を救護し、

道路における危険を防止する等必要な措置を講じなければならない。この場合において、当該車両等の運転者(運転者が死亡し、又は負傷したためやむを得ないときは、その他の乗務員。次項において同じ。)は、警察官が現場にいるときは当該警察官に、警察官が現場にいないときは直ちに最寄りの警察署(派出所又は駐在所を含む。同項において同じ。)の警察官に当該交通事故が発生した日時及び場所、当該交通事故における死傷者の数及び負傷者の負傷の程度並びに損壊した物及びその損壊の程度、当該交通事故に係る車両等の積載物並びに当該交通事故について講じた措置(第七十五条の二十三第一項及び第三項において「交通事故発生日時等」という。)を報告しなければならない。

2 前項後段の規定により報告を受けた最寄りの警察署の警察官は、負傷者を救護し、又は道路における危険を防止するため必要があると認めるときは、当該報告をした運転者に対し、警察官が現場に到着するまで現場を去つてはならない旨を命ずることができる。

3 前二項の場合において、現場にある警察官は、当該車両等の運転者等に対し、負傷者を救護し、又は道路における危険を防止し、その他交通の安全と円滑を図るために必要な指示をすることができる。

- 4 緊急自動車若しくは傷病者を運搬中の車両又は乗合自動車、トロリーバス若しくは路面電車で当該業務に従事中のものの運転者は、当該業務のため引き続き当該車両等を運転する必要があるときは、第一項の規定にかかわらず、その他の乗務員に第一項前段に規定する措置を講じさせ、又は同項後段に規定する報告をさせて、当該車両等の運転を継続することができる。
- (罰則) 第一項前段については第一百七十七条第一項、同条第二項、第一百七十七条の五第一項第一号、第一項後段については第一百九十九条第一項第十七号、第二項については第一百二十一条第一項第十一号、第七十二条の二 前条第三項の場合において、当該車両等の運転者等が負傷その他の理由により直ちに同項の規定による指示に従うことが困難であると認められるときは、現場にある警察官は、道路における交通の危険を防止し、その他交通の安全と円滑を図るために必要な限度において、当該交通事故において損壊した物及び当該交通事故に係る車両等の積載物(以下この条において「損壊物等」という。)の移動その他の応急の措置をとることができる。

- 2 前項の規定による措置をとった場合において、当該損壊物等を移動したときは、警察官は、当該損壊物等を当該損壊物等の在った場所を管轄する警察署長に差し出さなければならない。この場合において、警察署長は、当該損壊物等を保管しなければならない。
- 3 第五十一条第七項及び第九項から第二十一項まで並びに第五十一条の二の規定は、前二項の規定による措置に係る損壊物等について準用する。この場合において、第五十一条第七項中「使用者」とあるのは、「所有者、占有者その他の当該損壊物等について権原を有する者(以下この条及び次条において「所有者等」という。)」と、同条第九項中「前項」とあるのは、「第七十二条の二第二項において読み替えて準用する第七項」と、「知ることができない」とあるのは、「知ることができない」とある。

できず、かつ、当該損壊物等の所有者以外の者に当該損壊物等を返還することが困難であると認められる」と、同条第十一項中「第七項から前項まで」とあるのは「第七十二条の二第三項において読み替えて準用する第七項及び前二項」と、同条第十二項中「第八項の規定による告知の日又は」とあるのは「腐敗し、若しくは変質するおそれがあるとき、又は第七十二条の二第三項において読み替えて準用する第七項の規定による当該損壊物等の所有者に対する告知の日若しくは」と、「費用」とあるのは「費用若しくは手数」と、同条第十五項中「運転者等又は使用者若しくは所有者(以下この条及び次条において「使用者等」という。)とあるのは「所有者等」と、同条第十六項中「運転者等又は使用者等」とあるのは「所有者等」と、同条第二十項中「第八項の規定による」とあるのは「第七十二条の二第三項において読み替えて準用する第七項の規定による当該損壊物等の所有者に対する」と、第五十二条の二第一項中「同条第六項の規定により保管した車両の使用者等その他の関係者又は同条第二十二項において準用する同条第六項の規定により保管した積載物の所有者、占有者その他当該積載物について権原を有する者」とあるのは「第七十二条の二第二項後段の規定により保管した損壊物等の所有者等」と読み替えるものとする。

## (妨害の禁止)

- 第七十三条 交通事故があつた場合において、当該交通事故に係る車両等の運転者等以外の者で当該車両等に乗車しているものがあるときは、その者は、当該車両等の運転者等が第七十二条第一項前段に規定する措置を講じ、又は同項後段に規定する報告をするのを妨げてはならない。

(罰則) 第百二十条第一項第十号

## 第三節 使用者の義務

### (車両等の使用者の義務)

- 第七十四条 車両等の使用者は、その者の業務に関し当該車両等を運転させる場合には、当該車両等の運転者及び安全運転管理者、副安全運転管理者その他当該車両等の運行を直接管理する地位にある者に、この法律又はこの法律に基づく命令に規定する車両等の安全な運転に関する事項を遵守させるよう努めなければならない。

- 2 車両の使用者は、当該車両の運転者に、当該車両を運転するに当たつて車両の速度、駐車及び積載並びに運転者の心身の状態に關しこの法律又はこの法律に基づく命令に規定する事項を遵守させるよう努めなければならない。

- 3 消防用自動車、救急用自動車その他の政令で定める自動車の使用者(第七十四条の三第一項の規定により安全運転管理者を選任したものと除く。)は、当該自動車の運転者に対し、当該自動車の安全な運転を確保するため必要な交通安全全教教育を行なうよう努めなければならない。
- 第七十四条の二 車両の使用者は、当該車両を適正に駐車する場所を確保することその他駐車に關しての車両の適正な使用のために必要な措置を講じなければならない。

(安全運転管理者等)

### (自動車の使用者)

- 第七十四条の三 自動車の使用者(道路運送法の規定による自動車運送事業者(貨物自動車運送事業法(平成元年法律第八十三号)の規定による貨物輸送事業を經營する者を除く。以下同じ。)、貨物利用運送事業法の規定による第二種貨物利用運送事業を經營する者及び道路運送法第七十九条の規定による登録を受けた者を除く。以下の条において同じ。)は、内閣府令で定める台数以上の自動車の使用的本拠ごとに、年齢、自動車の運転の管理の経験その他について内閣府令で定める要件を備える者のうちから、次項の業務を行う者として、安全運転管理者を選任しなければならない。
- 2 安全運転管理者は、自動車の安全な運転を確保するために必要な当該使用者の業務に従事する運転者に対して行う交通安全全教教育その他自動車の安全な運転に必要な業務(自動車の装置の整備に関する業務を除く。第七十五条の二の二第一項において同じ。)で内閣府令で定めるものを行なわなければならない。
- 3 前項の交通安全全教教育は、第一百八条の二十八第一項の交通安全教育指針に従つて行わなければならぬ。

4	自動車の使用者は、安全運転管理者の業務を補助させるため、内閣府令で定める台数以上の自動車を使用する本拠ごとに、年齢、自動車の運転の経験その他について内閣府令で定める要件を備える者のうちから、内閣府令で定めるところにより、副安全運転管理者を選任しなければならない。
5	自動車の使用者は、安全運転管理者又は副安全運転管理者（以下「安全運転管理者等」という。）を選任したときは、選任した日から十五日以内に、内閣府令で定める事項を当該自動車の使用の本拠の位置を管轄する公安委員会に届け出なければならない。これを解任したときも、同様とする。
6	公安委員会は、安全運転管理者等が第一項若しくは第四項の内閣府令で定める要件を備えないことをとなつたとき、又は安全運転管理者が第二項の規定を遵守していないため自動車の安全な運転が確保されないと認めるときは、自動車の使用者に対し、当該安全運転管理者等の解任を命ずることができる。
7	自動車の使用者は、安全運転管理者に対し、第二項の業務を行うため必要な権限を与えるとともに、同項の業務を行うため必要な機材を整備しなければならない。
8	公安委員会は、自動車の使用者が前項の規定を遵守していないため自動車の安全な運転が確保されていないと認めるときは、自動車の使用者に対し、その是正のために必要な措置をとるべきことを命ずることができる。
9	自動車の使用者は、公安委員会からその選任に係る安全運転管理者等について第百八条の二第一項第一号に掲げる講習を行ふ旨の通知を受けたときは、当該安全運転管理者等に当該講習を受けさせなければならない。
10	（罰則）第一項、第四項、第六項及び第八項については第百十九条の二、第一百二十三条 第五項については第百二十条第二項第三号、第一百二十三条规定（自動車の使用者の義務等）
11	自動車（重被牽引車を含む。以下この条、次条第一項及び第七十五条の二の二第二項において同じ。）の使用者（安全運転管理者等その他自動車の運行を直接管理する地位にある者を含む。次項において「使用者等」という。）は、その者の業務に関し、自動車の運転者に対し、次の各号のいずれかに掲げる行為をすることを命じ、又は自動車の運転者がこれらの行為をすることを容認してはならない。
12	第一項の規定による公安委員会の運転免許を受けている者（第百七条の二の二の規定により国際運転免許証又は外国運転免許証で自動車を運転することができることとされている者を含む。以下この項において同じ。）でなければ運転することができないこととされている自動車を当該運転免許を受けている者以外の者（第九十条第五項、第百三条第一項若しくは第四項、第百三十三条の二第一項、第一百四条の二第一項、第一百四条の二の三第一項若しくは第三項又は同条第五項において準用する第一百三条第四項の規定により当該運転免許の効力が停止されている者を含む。）が運転すること。
13	第二十二条第一項の規定に違反して自動車を運転すること。
14	第六十五条第一項の規定に違反して自動車を運転すること。
15	第八十五条第五項の規定に違反して大型自動車、中型自動車若しくは準中型自動車を運転し、同条第六項の規定に違反して中型自動車若しくは準中型自動車を運転すること。
16	第五十七条第一項の規定に違反して積載をして自動車を運転すること。
17	自動車を離れて直ちに運転することができない状態にする行為（当該行為により自動車が第二十四条第一項、第四十五条第一項若しくは第二項、第四十七条第二項若しくは第三項、第四十八条、第四十九条の三第三項、第四十九条の四若しくは第七十五条の八第一項の規定に違反
18	して駐車することとなる場合のもの又は自動車がこれらの規定に違反して駐車している場合におけるものに限る。）
2	自動車の使用者等が前項の規定に違反し、当該違反により自動車の運転者が同項各号のいずれかに掲げる行為をした場合において、自動車の使用者がその者の業務に関する自動車を使用するところが著しく道路における交通の危険を生じさせ、又は著しく交通の妨害となるおそれがあると認めるときは、当該違反に係る自動車の使用の本拠の位置を管轄する公安委員会は、政令で定める基準に従い、当該自動車の使用者に対し、六月を超えない範囲内で期間を定めて、当該違反に係る自動車を運転し、又は運転させてはならない旨を命ずることができる。
3	公安委員会は、前項の規定による命令をしようとする場合において、当該命令に係る自動車の使用者が道路運送法の規定による自動車運送事業者又は貨物利用運送事業法の規定による第二種貨物利用運送事業を経営する者であるときは、当該事業を監督する行政庁の意見を聴かなければならぬ。
4	公安委員会は、第二項の規定による命令をしようとするときは、行政手続法（平成五年法律第八十八号）第十三条第一項の規定による意見陳述のための手続の区分にかかわらず、聴聞を行わなければならない。
5	公安委員会は、前項の聴聞を行うに当たつては、その期日の一週間前までに、行政手続法第十五条第一項の規定による通知をし、かつ、聴聞の期日及び場所を公示しなければならない。
6	前項の通知を行行政手続法第十五条第三項に規定する方法によつて行う場合においては、同条第一項の規定により聴聞の期日までにおくべき相当な期間は、二週間を下回つてはならない。
7	第四項の聴聞の期日における審理は、公開により行わなければならない。
8	第四項の聴聞の主宰者は、必要があると認めるときは、道路交通に関する事項に関する専門的知識を有する参考人又は当該事案の関係人の出頭を求め、これらの者からその意見又は事情を聞くことができる。
9	公安委員会は、第二項の規定による命令をしたときは、当該命令を受けた自動車の使用者に対し、運転し、又は運転させてはならないこととなる自動車の番号標の番号その他の内閣府令で定める事項を記載した文書を交付し、かつ、当該自動車の前面の見やすい箇所に内閣府令で定める様式の標章をはり付けるものとする。
10	前項の規定により標章をはり付けられた自動車について、当該自動車の使用者から当該自動車を買い受けた者その他当該自動車の使用について権原を有する第三者は、内閣府令で定めるところにより、公安委員会に対し、当該標章を取り除くべきことを申請することができる。この場合において、公安委員会は、当該標章を取り除かなければならぬ。
11	（罰則）第一項第一号については第百十七条の二第二項第一号、第一百二十三条 第一項第二号及び第五号については第百十八条第二項第三号、第一百二十三条规定（自動車に係る運転の禁止の期間を経過した後でなければ、これを取り除いてはならない。）
12	第一項第三号については第百十九条第二項第五号、第一百二十二条第一号、第一百二十三条 第一項第四号については第百十九条の二の二第二項第二号、第一百二十三条规定（表の下欄に掲げる違反行為が行われ、かつ、当該使用者が当該自動車を使用することについて著しく交通の危険を生じさせるおそれがあると認めるときは、当該自動車の使用の本拠の位置を管轄する公安委員会は、政令で定める基準に従い、当該使用者に対し、三月を超えない範囲内で期間を定めて、当該自動車を運転し、又は運転させてはならない旨を命ずることができる。）

自動車の使用者に対する指示	
第二十二条の二第一項の規定による指示	違反行為
第五十八条の四の規定による指示	最高速度違反行為
第六十六条の二第一項の規定による指示	過積載をして自動車を運転する行為
2 公安委員会が第五十一条の四第一項の規定により標章が取り付けられた車両の使用者に対する申立て命令をした場合において、当該使用者が当該標章を取り付けられた日前六月以内に当該車両が原因となつた納付命令（同条第十六項の規定により取り消されたものを除く。）を受けたことがあり、かつ、当該使用者が当該車両を使用することについて著しく交通の危険を生じさせ又は著しく交通の妨害となるおそれがあると認めるときは、当該車両の使用の本拠の位置を管轄する公安委員会は、政令で定める基準に従い、当該使用者に対し、三月を超えない範囲内で期間を定めて、当該車両を運転し、又は運転させてはならない旨を命ずることができる。	
3 前条第三項から第十一項までの規定は、前二項の規定による命令について準用する。 (罰則 第一百二十一條第一項第十号)	

自動車の使用者に対する指示	(罰則 第百十九条第一項第六号) (本線車道に入る場合における他の自動車との関係)
第二十二条の二第一項の規定による指示	過積載をして自動車を運転する行為
第五十八条の四の規定による指示	過労運転
第六十六条の二第一項の規定による指示	
2 公安委員会が第五十一条の四第一項の規定により標章が取り付けられた車両の使用者に対する申立て命令をした場合において、当該使用者が当該標章を取り付けられた日前六月以内に当該車両が原因となつた納付命令（同条第十六項の規定により取り消されたものを除く。）を受けたことがあり、かつ、当該使用者が当該車両を使用することについて著しく交通の危険を生じさせ又は著しく交通の妨害となるおそれがあると認めるときは、当該車両の使用の本拠の位置を管轄する公安委員会は、政令で定める基準に従い、当該使用者に対し、三月を超えない範囲内で期間を定めて、当該車両を運転し、又は運転させてはならない旨を命ずることができる。	
3 前条第三項から第十一項までの規定は、前二項の規定による命令について準用する。 (罰則 第一百二十一條第一項第十号)	

るものが車両通行帯の設けられた自動車専用道路（次項に規定するものに限る。）又は高速自動車国道の本線車道を行通する場合における当該牽引自動車の通行の区分については、第二十条の規定は、適用しない。この場合においては、次項から第四項までの規定に定めるところによる。

2 前項の牽引自動車は、車両通行帯の設けられた自動車専用道路（道路標識等により指定された区間に限る。）の本線車道においては、当該本線車道の左側端から数えて一番目の車両通行帯を通行しなければならない。

3 第一項の牽引自動車は、車両通行帯の設けられた高速自動車国道の本線車道においては、当該本線車道の左側端から数えて一番目の車両通行帯（道路標識等により通行の区分が指定されているときは、当該通行の区分に係る車両通行帯）を通行しなければならない。

4 第一項の牽引自動車は、第二十三条若しくは第七十五条の四の規定による自動車の最低速度に達しない速度で進行している自動車を追い越すとき、第二十六条の二第三項の規定によりその通行している車両通行帯をそのまま通行するとき、第四十条第二項の規定により一時進路を譲ると行き、又は道路の状況その他の事情によりやむを得ないときは、前二項の規定によらないことができる。この場合において、追越しをするときは、その通行している車両通行帯の直近の右側の車両通行帯を通行しなければならない。

（罰則 第二項から第四項までについては第一百二十条第一項第三号、同条第三項）

#### （緊急自動車等の特例）

第三節 運転者の義務

（自動車の運転者の遵守事項）

第七十五条の九 緊急自動車又は第四十一条第三項の内閣府令で定める専ら交通の取締りに従事する自動車については、第七十五条の五、第七十五条の七及び前条の規定は、適用しない。

2 政令で定めるところにより道路の維持、修繕等のための作業に従事している場合における道路維持作業用自動車については、第七十五条の四、第七十五条の五及び前条の規定は、適用しない。

#### （自動車の運転者の遵守事項）

第七十五条の十 自動車の運転者は、高速自動車国道等において自動車を運転しようとするときは、あらかじめ、燃料、冷却水若しくは原動機のオイルの量又は貨物の積載の状態を点検し、必要がある場合には、高速自動車国道等において燃料、冷却水若しくは原動機のオイルの量の不足のため当該自動車を運転することができなくなることは積載している物を転落させ、若しくは飛散させることを防止するための措置を講じなければならない。

#### （罰則 第百十九条第一項第十九号、同条第三項）

#### （故障等の場合の措置）

第七十五条の十一 自動車の運転者は、故障その他の理由により本線車道若しくはこれに接する加速車線、減速車線若しくは登坂車線（以下「本線車道等」という。）又はこれらに接する路肩若しくは路側帯において当該自動車を運転することができなくなつたときは、政令で定めるところにより、当該自動車が故障その他の理由により停止しているものであることを表示しなければならない。

2 自動車の運転者は、故障その他の理由により本線車道等において運転することができなくなつたときは、速やかに当該自動車を本線車道等以外の場所に移動するため必要な措置を講じなければならない。

#### （罰則 第一項については第一百三十条第一項第十三号）

#### 第四章の三 特定自動運行の許可等

##### （特定自動運行の許可）

第七十五条の十二 特定自動運行を行おうとする者は、特定自動運行を行おうとする場所を管轄する公安委員会の許可を受けなければならない。

2 前項の許可を受けようとする者は、次に掲げる事項を記載した申請書を公安委員会に提出しなければならない。

1 特定自動運行を行おうとする者は、次に掲げる事項を記載した申請書を公安委員会に提出しなびにその役員の氏名及び住所

二 次に掲げる事項を記載した特定自動運行に関する計画（以下「特定自動運行計画」という。）

イ 特定自動運行に使用する自動車（以下「特定自動運行用自動車」という。）の型式、自動車登録番号又は車両番号及び車台番号、自動運行装置に係る使用条件その他の内閣府令で定める特定自動運行用自動車に関する事項

ロ 特定自動運行に関する次に掲げる事項

##### （特定自動運行の経路）

##### （特定自動運行を行う日及び時間帯）

##### （特定自動運行により運送される人又は物）

##### （1）から（3）までに掲げるもののほか、内閣府令で定める事項

##### ハ 特定自動運行を管理する場所の所在地及び連絡先

ニ この法律及びこの法律に基づく命令の規定並びにこの法律の規定に基づく処分により特定自動運行実施者（第七十五条の十六第一項に規定する特定自動運行実施者をいう。次条第一項第三号において同じ。）又は特定自動運行業務從事者（第七十五条の十九第一項に規定する特定自動運行業務從事者をいう。次条第一項第三号において同じ。）が実施しなければならない措置に関する次に掲げる事項

##### （1）第七十五条の十九第一項に規定する教育の具体的な内容及びその実施方法

##### （2）第七十五条の十九第二項の規定による特定自動運行主任者の指定及び同条第三項の規定による現場措置業務実施者の指定の方法

##### （3）第七十五条の二十第一項に規定する措置の実施方法及び当該措置を講ずるための装置、人員その他の体制

##### （4）第七十五条の二十第二項の規定による表示の具体的方法

##### （5）第七十五条の二十一、第七十五条の二十二及び第七十五条の二十三第一項から第三項までの規定による措置を講ずるための設備、人員その他の体制及び当該措置の手順

##### （6）（1）から（5）までに掲げるもののほか、内閣府令で定める事項

3 前項の申請書には、特定自動運行用自動車の自動車検査証記録事項（道路運送車両法第五十八条第二項に規定する自動車検査証記録事項をいう。）が記載された書面その他の内閣府令で定める書類を添付しなければならない。

##### （罰則 第一項については第一百十七条の二第二項第三号及び第四号、第二百二十二条）

##### （特定自動運行の許可基準等）

4 第一項に規定する自動車検査証記録事項（道路運送車両法第五十八条第二項に規定する自動車検査証記録事項をいう。）が記載された書面その他の内閣府令で定めた特定自動運行の許可基準等

##### （第七十五条の十三）

公安委員会は、前条第一項の許可をしようとするときは、同条第二項の規定により提出を受けた申請書に記載された特定自動運行計画が次に掲げる基準に適合するかどうかを審査して、これをしなければならない。

##### （罰則 第一項については第一百二十九条の二第二項第三号）

##### （特定自動運行計画に係る特定自動運行用自動車が特定自動運行を行ふことができるものであること）

##### （二 特定自動運行計画に従つて行われる特定自動運行が当該特定自動運行用自動車の自動運行装置に係る使用条件を満たすものであること。）

##### （三 第七十五条の十九から第七十五条の二十二まで及び第七十五条の二十三第一項から第三項までの規定による措置その他のこの法律に基づく命令の規定並びにこの法律の規定に基づく処分により特定自動運行計画が実施されるものであること。）

##### （四 特定自動運行計画に従つて行われる特定自動運行（道路において当該特定自動運行が終了した場合を含む。）が他の交通に著しく支障を及ぼすおそれがないと認められるものであること。）

五 特定自動運行計画に従つて行われる特定自動運行が人又は物の運送を目的とするものであつて、当該運送が地域住民の利便性又は福祉の向上に資すると認められるものであること。

二 公安委員会は、前条第一項の許可をしようとするときは、次の各号に掲げる事項の区分に応じ、当該事項について、当該各号に走める者の意見を聽かなければならない。

- 一 前項第一号及び第二号に掲げる事項（国土交通大臣等）
- 二 前項第五号に掲げる事項（前条第二項第二号ロ（1）に規定する経路をその区域に含む市町村（特別区を含む。）の長）

**第七十五条の十四** 公安委員会は、第七十五条の十二第一項の許可を受けようとする者が次の各号のいずれかに該当する場合には、その許可をしてはならない。

一 第七十五条の二十七第一項の規定により許可を取り消され、その取消しの日から五年を経過していらない者（当該許可を取り消された者が法人である場合には、当該取消しを受けた法人のその処分を受ける原因となつた事項が発生した当時現にその法人の役員として在任した者で当該取消しの日から五年を経過していないものを含む。）であるとき。

二 法人である場合において、その法人の役員が前号に該当する者であるとき。  
(許可の条件)

#### 第七十五条の十五

公安委員会は、第七十五条の十二第一項の許可をする場合において、必要があると認めるときは、当該許可に道路における危険を防止し、その他交通安全と円滑を図るために必要な条件を付すことができる。

2 公安委員会は、道路における危険を防止し、その他交通安全と円滑を図るため特別の必要が生じたときは、前項の規定により付した条件を変更し、又は新たに条件を付することができます。（許可事項の変更）

#### 第七十五条の十六

第七十五条の十二第一項の許可を受けた者（以下「特定自動運行実施者」という。）は、特定自動運行計画を変更しようとするときは、内閣府令で定めるところにより、公安委員会の許可を受けなければならない。ただし、内閣府令で定める軽微な変更については、この限りでない。

#### 第七十五条の十三及び前条の規定は、前項の許可について準用する。

3 特定自動運行実施者は、第一項ただし書に規定する内閣府令で定める軽微な変更をしようとするときは、内閣府令で定めるところにより、その旨を公安委員会に届け出なければならない。

4 特定自動運行実施者は、第七十五条の十二第一項第一号に掲げる事項を変更したときは、内閣府令で定めるところにより、変更の日から三十日以内に、公安委員会に届け出なければならない。

（罰則）第一項については第一百一十七条の二（第二項第四号及び第五号、第一百二十三条 第三項及び第四項については第一百十九条の二の三（第二号、第一百二十四条））

#### 第七十五条の十七

公安委員会は、第七十五条の十二第一項又は前条第一項の許可をしたときは、

内閣府令で定めるところにより、その旨を公示しなければならない。

（特定自動運行計画等の遵守）

第七十五条の十八 特定自動運行は、第七十五条の十二第一項の許可を受けた特定自動運行計画（第七十五条の十六第一項又は第三項の規定による変更の許可又は届出があつたときは、その変更後のもの。第七十五条の二十七第一項第二号において同じ。）及び第七十五条の十五第一項（第七十五条の十六第二項において準用する場合を含む。）の規定により付された条件（第七十五条の十五第二項（第七十五条の十六第二項において準用する場合を含む。）の規定により変更され、又は新たに付された条件を含む。）に従わなければならない。

（罰則）第一百十七条の四（第二項、第一百二十三条）

（特定自動運行を行う前の措置）

第七十五条の十九 特定自動運行実施者は、次項の規定により指定した特定自動運行主任者、第三項の規定により指定した現場措置業務実施者その他の特定自動運行のために使用する者（以下

「特定自動運行業務従事者」という。）に対し、第七十五条の二十一、第七十五条の二十二及び第七十五条の二十三第一項から第三項までの規定による措置その他のこの法律に基づく命令の規定並びにこの法律の規定に基づく処分により特定自動運行業務従事者が実施しなければならない措置を円滑かつ確実に実施させるため、内閣府令で定めるところにより教育を行わなければならない。

- 2 特定自動運行実施者は、特定自動運行を行うときは、第七十五条の二十一、第七十五条の二十二及び第七十五条の二十三第一項及び第二項の規定による措置その他のこの法律及びこの法律に基づく命令の規定並びにこの法律の規定に基づく処分により特定自動運行業務従事者が実施しなければならない措置を講じさせるため、当該措置を講ずるために必要な適性について内閣府令で定められたる条件を備える者のうちから、特定自動運行主任者を指定しなければならない。
- 3 特定自動運行実施者は、次条第一項第一号に規定する措置を講じて特定自動運行を行うときは、第七十五条の二十三第一項及び第二項の規定による措置を講じさせるため、現場措置業務実施者を指定しなければならない。

#### 第七十五条の二十 特定自動運行中の遵守事項

（特定自動運行中の遵守事項）

各号のいずれかの措置を講じなければならない。

- 1 当該特定自動運行用自動車の周囲の道路及び交通の状況並びに当該特定自動運行用自動車の状況を映像及び音声により確認することができる装置で内閣府令で定めるものを第七十五条の十二第二項第二号ハに規定する場所に備え付け、かつ、当該場所に特定自動運行主任者を配置する措置

二 第七十五条の二十三第三項の規定による措置その他の措置を講じさせるため、特定自動運行主任者を当該特定自動運行用自動車に乗車させる措置

2 特定自動運行実施者は、特定自動運行を行つているときは、内閣府令で定めるところにより、当該特定自動運行用自動車の見やすい箇所に特定自動運行中である旨を表示しなければならない。

#### （特定自動運行主任者の義務）

第七十五条の二十一 前条第一項第一号の規定により配置された特定自動運行主任者は、当該特定自動運行用自動車が特定自動運行を行つているときは、同号に規定する装置の作動状態を監視しないなければならない。この場合において、当該装置が正常に作動していないことを認めたときは、当該特定自動運行主任者は、直ちに、当該特定自動運行を終了させるための措置を講じなければならない。

2 特定自動運行主任者は、道路において特定自動運行が終了したときは、直ちに、次条又は第七十五条の二十三第一項若しくは第三項の規定による措置その他のこの法律及びこの法律に基づく命令の規定並びにこの法律の規定に基づく処分により特定自動運行主任者が実施しなければならない措置を講ずべき事由の有無を確認しなければならない。

（特定自動運行が終了した場合の措置）

第七十五条の二十二 特定自動運行主任者は、特定自動運行が終了した場合において、当該特定自動運行用自動車又は当該特定自動運行主任者に対し次の各号のいずれかの措置又は命令が行われているときは、直ちに、当該特定自動運行用自動車を当該措置又は命令に従つて通行させるため必要な措置を講じなければならない。

一 第四条第一項後段に規定する警察官の現場における指示

二 第六条第一項の規定による警察官等の交通整理

三 第七十五条の二十四の規定により読み替えて適用する第六条第二項の規定による警察官の禁止、制限又は命令

四 第七十五条の二十四の規定により読み替えて適用する第六条第三項の規定による警察官の禁

止、制限又は命令

六 第七十五条の二十四の規定により読み替えて適用する第七十五条の三の規定による警察官の禁止、制限又は命令

特定自動運行主任者は、特定自動運行が終了した場合において、当該特定自動運行用自動車に緊急自動車若しくは消防用車両が接近し、又は当該特定自動運行用自動車の付近に緊急自動車若しくは消防用車両があるときは、直ちに、当該特定自動運行用自動車が当該緊急自動車又は消防用車両の通行を妨げないようにするため必要な措置を講じなければならない。

特定自動運行主任者は、特定自動運行が終了した場合において、当該特定自動運行用自動車が違法駐車と認められる場合は、直ちに、当該特定自動運行用自動車の駐車の方法を変更し、又は当該特定自動運行用自動車を当該場所から移動するため必要な措置を講じなければならない。

(特定自動運行において交通事故があつた場合の措置)

第七十五条の二十三 特定自動運行(道路において当該特定自動運行が終了した場合を含む。第三項及び第六項並びに第一百七十三条第三項において同じ。)において特定自動運行用自動車(第七十五条の二十第一項第一号に規定する措置が講じられたものに限る。)に係る交通事故があつたときは、同号の規定により配置された特定自動運行主任者は、直ちに当該交通事故の現場の最寄りの消防機関に通報する措置及び現場措置業務実施者を当該交通事故の現場に向かわせる措置(当該交通事故による人の死傷がないことが明らかな場合には、現場措置業務実施者を当該交通事故の現場に向かわせる措置)を講じなければならない。この場合において、当該特定自動運行用自動車の特定自動運行主任者は、直ちに当該交通事故の現場の最寄りの警察署(派出所又は駐在所を含む。第三項及び第四項において同じ。)の警察官に交通事故発生日時等を報告しなければならない。

前項に規定する交通事故の現場に到着した現場措置業務実施者は、当該交通事故の現場において、道路における危険を防止するため必要な措置を講じなければならない。

特定自動運行において特定自動運行用自動車(第七十五条の二十第一項第二号に規定する措置が講じられたものに限る。)に係る交通事故があつたときは、当該交通事故に係る特定自動運行用自動車に同号の規定により乗車させられた特定自動運行主任者その他の乗務員(第五項において「特定自動運行主任者等」という。)は、直ちに、負傷者を救護し、道路における危険を防止する等必要な措置を講じなければならない。この場合において、当該特定自動運行用自動車の特定自動運行主任者(特定自動運行主任者が死亡し、又は負傷したためやむを得ないときは、その他の乗務員。次項において同じ。)は、警察官が現場にいるときは当該警察官に、警察官が現場にいないときは直ちに最寄りの警察署の警察官に交通事故発生日時等を報告しなければならない。

前項後段の規定により報告を受けた最寄りの警察署の警察官は、負傷者を救護し、又は道路における危険を防止するため必要があると認めるときは、当該報告をした特定自動運行主任者に対し、警察官が現場に到着するまで現場を去つてはならない旨を命ぜることができる。

前三項の場合において、当該交通事故の現場にある警察官は、当該交通事故の現場における現場措置業務実施者又は特定自動運行主任者等に對し、負傷者を救護し、又は道路における危険を防止し、その他交通安全と円滑を図るために必要な指示をすることができる。

第七十二条の二及び第七十三条の規定は、特定自動運行において交通事故があつた場合について準用する。この場合において、第七十二条の二第一項中「前条第三項」とあるのは「第七十五条の二十三第五項」と、「運転者等」とあるのは「に係る現場措置業務実施者(第七十五条の十九第三項に規定する現場措置業務実施者をいう。以下同じ。)又は特定自動運行主任者等(第七十五条の二十三第三項に規定する特定自動運行主任者等をいう。以下同じ。)と、「同項」とあるのは「同条第五項」と、「現場」とあるのは「当該交通事故の現場」と、第七十三条中「運転者等以外」とあるのは「特定自動運行主任者等以外」と、「運転者等」とあるのは「若しくは」と読み替えるものとする。

3 第一項の規定による立入検査の権限は、犯罪捜査のために認められたものと解してはならない。

4 公安委員会は、この章の規定の施行のため必要があると認めるときは、官庁、公共団体その他

の者に照会し、又は協力を求めることができる。

(罰則) 第一項については第百十九条の二の三第三号、第一百二十三条(特定自動運行実施者に対する指示)

第七十五条の二十六 公安委員会は、特定自動運行実施者又はその特定自動運行業務従事者が、特定自動運行に関する法律若しくはこの法律に基づく命令の規定若しくはこの法律の規定に基づく処分又は他の法令の規定に違反した場合において、道路における危険を防止し、その他交通の安全と円滑を図るため必要があると認めるとときは、特定自動運行実施者に対し、特定自動運行に関する必要な措置をとるべきこと（措置をとるまでの間、特定自動運行を行わないことを含む。）を指示することができる。

2 公安委員会は、前項の規定による指示をしようとする場合において、当該指示に係る特定自動運行実施者による特定自動運行が道路運送法第二条第二項に規定する自動車運送事業（貨物自動車運送事業法第一条第四項に規定する貨物輸送事業を除く。）又は貨物利用運送事業法第二条第八項に規定する第二種貨物利用運送事業として行われるものであるときは、当該事業を監督する行政庁の意見を聴かなければならぬ。

(罰則) 第一項については第一百七十七条の二第二項第六号、第一百二十三条(許可の取消し等)

第七十五条の二十七 公安委員会は、次の各号のいずれかに該当するときは、当該特定自動運行実施者に対し、特定自動運行の許可を取り消し、又は六月を超えない範囲内で期間を定めてその効力を停止することができる。

一 特定自動運行実施者又はその特定自動運行業務従事者が、特定自動運行に関し、この法律若しくはこの法律に基づく命令の規定又はこの法律の規定に基づく処分に違反したとき。

二 特定自動運行計画が第七十五条の十三第一項各号に掲げる基準に適合しなくなつたとき。

三 特定自動運行実施者が第七十五条の十四各号のいずれかに該当することとなつたとき。

四 前条第二項の規定は、前項の規定による許可の取消し又はその効力の停止について準用する。

五 公安委員会は、第一項の規定により特定自動運行の許可を取り消したときは、内閣府令で定めることにより、その旨を公示しなければならない。

(許可の効力の仮停止)

第七十五条の二十八 次の各号のいずれかに該当する場合において、道路における危険を防止するため緊急の必要があるときは、その事実があつた場所を管轄する警察署長は、当該特定自動運行実施者に対し、その事実があつた日から起算して三十日を経過する日を終期とする特定自動運行の許可の効力の停止（以下この条において「仮停止」という。）をすることができる。

一 特定自動運行中の特定自動運行用自動車に係る交通事故があつたとき。

二 特定自動運行実施者又はその特定自動運行業務従事者が、特定自動運行に関しこの法律若しくはこの法律に基づく命令の規定若しくはこの法律の規定に基づく処分又は他の法令の規定に違反したとき。

三 警察署長は、仮停止をしたときは、当該処分をした日から起算して五日以内に、当該処分を受

けた特定自動運行実施者に対し弁明の機会を与えるなければならない。

4 仮停止を受けた者が当該事案について前条第一項の規定による許可の効力の停止を受けたときは、仮停止をされたいた期間は、当該許可の効力の停止の期間に通算する。

(特定自動運行の許可の取消し等の報告)

第七十五条の二十九 公安委員会は、第七十五条の二十六第一項若しくは第七十五条の二十七第一項の規定による処分をしたとき、又は前条第三項の規定による報告を受けたときは、内閣府令で定め

定める事項を国家公安委員会に報告しなければならない。この場合において、国家公安委員会は、当該報告に係る事項を各公安委員会に通報するものとする。

## 第五章 道路の使用等

### 第一節 道路における禁止行為等

#### (禁止行為)

第七十六条 何人も、信号機若しくは道路標識等又はこれらに類似する工作物若しくは物件をみだりに設置してはならない。

二 何人も、信号機又は道路標識等の効用を妨げるような工作物又は物件を設置してはならない。

三 何人も、交通の妨害となるような方法で物件をみだりに道路に置いてはならない。

四 何人も、次の各号に掲げる行為は、してはならない。

一 道路上において、酒に酔つて交通の妨害となるような程度にふらつくこと。

二 道路上において、交通の妨害となるような方法で寝そべり、すわり、しゃがみ、又は立ちどまつていること。

三 交通のひんぱんな道路において、球戯をし、ローラー・スケートをし、又はこれらに類する行為をすること。

四 石、ガラスびん、金属片その他道路上の人若しくは車両等を損傷するおそれのある物件を投げ、又は発射すること。

五 前号に掲げるもののほか、道路において進行中の車両等から物件を投げること。

六 道路において進行中の自動車、トロリー・バス又は路面電車に飛び乗り、若しくはこれらから飛び降り、又はこれらに外からつかまること。

七 前号に掲げるもののほか、道路又は交通の状況により、公安委員会が、道路における交通の危険を生じさせ、又は著しく交通の妨害となるおそれがあると認めて定めた行為

(罰則) 第一項及び第二項については第一百八十八条第二項第五号、第一百二十三条第三項については第一百九条第二項第七号、第一百二十三条第四項については第一百二十条第一項第十号(道路の使用の許可)

第七十七条 次の各号のいずれかに該当する者は、それぞれ当該各号に掲げる行為について当該行為に係る場所を管轄する警察署長（以下この節において「所轄警察署長」という。）の許可（当該行為に係る場所が同一の公安委員会の管理に属する二以上の警察署の管轄にわたるときは、そのいずれかの所轄警察署長の許可。以下この節において同じ。）を受けなければならぬ。

一 道路において工事若しくは作業をしようとする者は当該工事若しくは作業の請負人

二 道路に石碑、銅像、廣告板、アーチその他これらに類する工作物を設けようとする者

三 場所を移動しないで、道路に露店、屋台店その他これらに類する店を出そうとする者

四 前各号に掲げるもののほか、道路において祭礼行事をし、又はロケーションをする等一般交

通に著しい影響を及ぼすような通行の形態若しくは方法により道路を使用する行為又は道路に

人が集まり一般交通に著しい影響を及ぼすような行為で、公安委員会が、その土地の道路又は

交通の状況により、道路における危険を防止し、その他交通の安全と円滑を図るために必要と認めて定めたものをしようとする者

前項の許可の申請があつた場合において、当該申請に係る行為が次の各号のいずれかに該当するときは、所轄警察署長は、許可をしなければならない。

一 当該申請に係る行為が現に交通の妨害となるおそれがないと認められるとき。

二 当該申請に係る行為が許可に付された条件に従つて行なわれることにより交通の妨害となるおそれがないと認められるとき。

三 当該申請に係る行為が現に交通の妨害となるおそれはあるが公益上又は社会の慣習上やむを得ないものであると認められるとき。

第項の規定による許可をする場合において、必要があると認めるときは、所轄警察署長は、

当該許可に係る行為が前項第一号に該当する場合を除き、当該許可に道路における危険を防止し、その他の交通の安全と円滑を図るため必要な条件を付することができます。

4 所轄警察署長は、道路における危険を防止し、その他交通の安全と円滑を図るため特別の必要が生じたときは、前項の規定により付した条件を変更し、又は新たに条件を付することができる。

5 所轄警察署長は、第一項の規定による許可を受けた者が前二項の規定による条件に違反したときは、又は道路における危険を防止し、その他の安全と円滑を図るために特別の必要が生じたときは、その許可を取り消し、又はその許可の効力を停止することができる。

6 所轄警察署長は、第三項又は第四項の規定による条件に違反した者について前項の規定による処分をしようとするときは、当該処分に係る者に対し、あらかじめ、弁明をなすべき日時、場所及び当該処分をしようとする理由を通知して、当該事案について弁明及び有利な証拠の提出の機会を与えるなければならない。ただし、交通の危険を防止するため緊急やむを得ないときは、この限りでない。

7 第一項の規定による許可を受けた者は、当該許可の期間が満了したとき、又は第五項の規定により当該許可が取り消されたときは、すみやかに当該工作物の除去その他道路を原状に回復する措置を講じなければならない。

(罰則) 第一項については第百十九条第二項第七号、第百二十三条规定第三項及び第四項については第一百九条第二項第八号、第百二十三条规定第七項については第一百二十条第二項第五号、第百二十三条规定(許可の手続)

第七十八条 前条第一項の規定による許可を受けようとする者は、内閣府令で定める事項を記載した申請書を所轄警察署長に提出しなければならない。

2 前条第一項の規定による許可に係る行為が道路法第三十二条第一項又は第三項の規定の適用を受けるものであるときは、前項の規定による申請書の提出は、当該道路の管理者を経由して行なうことができる。この場合において、道路の管理者は、すみやかに当該申請書を所轄警察署長に送付しなければならない。

3 所轄警察署長は、前条第一項の規定による許可をしたときは、許可証を交付しなければならない。

(罰則) 第四項については第二百二十一條第一項第十号

4 前項の規定による許可証の交付を受けた者は、当該許可証の記載事項に変更を生じたときは、所轄警察署長に届け出て、許可証に変更に係る事項の記載を受けなければならない。

5 第三項の規定による許可証の交付を受けた者は、当該許可証を失し、滅失し、汚損し、又は破損したときは、所轄警察署長に許可証の再交付を申請することができる。

6 第一項の申請書の様式、第三項の許可証の様式その他前条第一項の許可の手続について必要な事項は、内閣府令で定める。

(罰則) 第四項については第二百二十一條第一項第十号

(道路の管理者との協議)

第七十九条 所轄警察署長は、第七十七条第一項の規定による許可をしようとする場合において、当該許可に係る行為が道路法第三十二条第一項又は第三項の規定の適用を受けるものであるときは、あらかじめ、当該道路の管理者に協議しなければならない。

(道路の管理者の特例)

第八十条 道路法による道路の管理者が道路の維持、修繕その他の管理のため工事又は作業を行おうとするときは、当該道路の管理者は、第七十七条第一項の規定にかかるらず、所轄警察署長に協議すれば足りる。

2 前項の協議について必要な事項は、内閣府令・国土交通省令で定める。

第二節 危険防止等の措置

(違法工作物等に対する措置)

第八十一条 警察署長は、次の各号のいずれかに該当する者に対し、当該違反行為に係る工作物又は物件(以下この節において「工作物等」という。)の除去、移転又は改修、当該違反行為に係る工事又は作業(以下この節において「工事等」という。)の中止その他当該違反行為に係る工

作物等又は工事等について、道路における危険を防止し、又は交通の妨害を排除するため必要な措置をとることを命ずることができる。

1 第七十六条第一項又は第二項の規定に違反して工作物等を設置した者

2 第七十六条第三項の規定に違反して工作物等を設置し、又は工事等を行なつた者

3 第七十七条第一項の規定に違反して工作物等を設置することを命ずることができないときは、自ら当該措置をとることができる。この場合において、工作物等を除去したときは、警察署長は、じなかつた者

4 警察署長は、前項第一号、第二号又は第二号に掲げる者の氏名及び住所を知ることができないため、これらの者に對し、前項の規定による措置をとることを命ずることができないときは、自ら当該措置をとることができる。この場合において、工作物等を除去したときは、警察署長は、

5 第七十七条第七項の規定に違反して当該工作物の除去その他道路を原状に回復する措置を講じなかつた者

6 警察署長は、前項第一号、第二号又は第二号に掲げる者の氏名及び住所を知ることができないため、これらの者に對し、前項の規定による措置をとることを命ずることができないときは、自ら当該措置をとることができる。この場合において、工作物等を除去したときは、警察署長は、

7 警察署長は、前項第一号、第二号又は第二号に掲げる者の氏名及び住所を知ることができないため、これらの者に對し、前項の規定による措置をとることを命ずることができないときは、自ら当該措置をとることができる。この場合において、工作物等を除去したときは、警察署長は、

8 警察署長は、前項後段の規定により工作物等を保管したときは、当該工作物等の占有者、所有者その他当該工作物等について権原を有する者(以下この条及び第八十二条において「占有者等」という。)に対し、当該工作物等を返還するため、政令で定めるところにより政令で定める事項を公示し、その他政令で定める必要な措置を講じなければならない。

9 警察署長は、前項後段の規定により工作物等を保管したときは、当該工作物等の占有者等の保管に不相当な費用若しくは手数を要するときは、政令で定めるところにより、当該工作物等を売却し、その売却した代金を保管することができる。

10 警察署長は、前項の規定による公示の日から起算して三月を経過してもなお当該工作物等を返還することができない場合において、政令で定めるところにより評価した当該工作物等の価額に比し、その保管に不相当な費用若しくは手数を要するときは、政令で定めるところにより、当該工作物等を売却し、その売却した代金を保管することができる。

11 警察署長は、前項の規定により占有者等の負担とされる負担金につき納付すべき金額、納付の期限及び場所を定め、これらの人に対し、文書でその納付を命じなければならぬ。

12 警察署長は、前項の規定により納付を命ぜられた者が納付の期限を経過しても負担金を納付しないときは、督促によって納付すべき期限を指定して督促しなければならない。この場合において、警察署長は、負担金につき年十四・五パーセントの割合により計算した額の範囲内の延滞金及び督促に要した手数料を徴収することができる。

13 前項の規定による督促を受けた者がその指定期限までに負担金並びに同項後段の延滞金及び手数料(以下この条において「負担金等」という。)を納付しないときは、警察署長は、地方税の滞納处分の例により、負担金等を徴収することができる。この場合における負担金等の先取特權の順位は、国税及び地方税に次ぐものとする。

14 警察署長は、前項に規定する公示の日から起算して六月を経過してもなお第二項の規定により保管した工作物等(第四項の規定により売却した代金を含む。以下この項において同じ。)を返還することができないときは、当該工作物等の所有権は、当該警察署の属する都道府県に帰属する。

(罰則) 第一項については第一百九条第二項第九号、第百二十三条规定(転落積載物等に対する措置)

15 警察署長は、道路に転落し、又は飛散した車両等の積載物(以下この条及び第八十三条において「転落積載物等」という。)が道路における交通の危険を生じさせ、又は著しく交通の妨害となるおそれがあるときは、当該転落積載物等の占有者、所有者その他当該転落積載物等について権原を有する者(以下この条において「転落積載物等の占有者等」という。)に対し、當

該転落積載物等の除去その他当該転落積載物等について道路における危険を防止し、又は交通の円滑を図るために必要な措置を探るべきことを命ずることができる。

2 前項の場合において、当該転落積載物等の占有者等の氏名及び住所を知ることができないため、これらの者に対し、同項の規定による措置を探ることを命ずることができないときは、警察署長は、自ら当該措置を探ることができる。(この場合において、転落積載物等を除去したときは、警察署長は、警察署長は、当該転落積載物等を保管しなければならない。)

3 前条第三項から第十二項までの規定は、前項の規定による措置に係る転落積載物等について準用する。

(罰則) 第一項については第一百十九条第二項第九号、第一百二十三条(沿道の工作物等の危険防止措置)

**第八十二条** 警察署長は、沿道の土地に設置されている工作物等が道路における交通の危険を生じさせ、又は著しく交通の妨害となるおそれがあるときは、当該工作物等の占有者等に対し、当該工作物等の除去その他当該工作物等について道路における交通の危険を防止し、又は交通の円滑を図るために必要な措置を探ることを命ずることができる。

2 前項の場合において、当該工作物等の占有者等の氏名及び住所を知ることができないため、これらの人に対し、前項の規定による措置を探ることを命ずることができないときは、警察署長は、自ら当該措置を探ることができる。(この場合において、工作物等を除去したときは、警察署長は、当該工作物等を保管しなければならない。)

3 第八十二条第三項から第十二項までの規定は、前項後段の規定による保管について準用する。

(罰則) 第一項については第一百十九条第二項第九号、第一百二十三条(工作物等に対する応急措置)

**第八十三条** 警察官は、道路又は沿道の土地に設置されている工作物等又は転落積載物等が著しく道路における交通の危険を生じさせ、又は交通の妨害となるおそれがあり、かつ、急を要すると認めるときは、道路における交通の危険を防止し、又は交通の妨害を排除するため必要な限度において、当該工作物等又は転落積載物等の除去、移転その他の応急の措置を探ることができる。

2 前項に規定する措置を探つた場合において、工作物等又は転落積載物等を除去したときは、警察官は、当該工作物等又は転落積載物等を、当該工作物等が設置されていた場所又は当該転落積載物等が在つた場所を管轄する警察署長に差し出さなければならない。この場合において、警察署長は、当該工作物等又は転落積載物等を保管しなければならない。

3 第八十二条第三項から第十二項までの規定は、前項の規定による保管について準用する。

## 第六章 自動車及び一般原動機付自転車の運転免許

### 第一節 通則

(運転免許)

**第八十四条** 自動車及び一般原動機付自転車(以下「自動車等」という。)を運転しようとする者は、公安委員会の運転免許(以下「免許」という。)を受けなければならぬ。

2 免許は、第一種運転免許(以下「第一種免許」という。)、第二種運転免許(以下「第二種免許」という。)及び仮運転免許(以下「仮免許」という。)を受けなければならない。

3 第一種免許を分けて、大型自動車免許(以下「大型免許」という。)、中型自動車免許(以下「中型免許」という。)、準中型自動車免許(以下「準中型免許」という。)、普通自動車免許(以下「普通免許」という。)及び牽引免許(以下「大型特殊免許」という。)、大型自動二輪車免許(以下「大型特殊自動車免許」という。)、中型特殊自動車免許(以下「中型特殊自動車免許」という。)、小型特殊自動車免許(以下「小型特殊自動車免許」という。)、原動機付自転車免許(以下「原付免許」という。)及び牽引免許の十種類とする。

4 第二種免許を分けて、大型自動車第二種免許(以下「大型第二種免許」という。)、中型自動車第二種免許(以下「中型第二種免許」という。)、普通自動車第二種免許(以下「普通第二種免許」という。)、大型特殊自動車第二種免許(以下「大型特殊第二種免許」という。)及び牽引免許の五種類とする。

5 仮免許を分けて、大型自動車仮免許(以下「大型仮免許」という。)、中型自動車仮免許(以下「中型仮免許」という。)、準中型自動車仮免許(以下「準中型仮免許」という。)及び普通自動車仮免許(以下「普通仮免許」という。)の四種類とする。

(第一種免許)

第八十五条 次の表の上欄に掲げる自動車等を運転しようとするとする者は、当該自動車等の種類に応じ、それぞれ同表の下欄に掲げる第一種免許を受けなければならぬ。

自動車等の種類	第一種免許の種類
大型自動車	大型免許
中型自動車	中型免許
準中型自動車	準中型免許
普通自動車	普通免許
大型特殊自動車	大型特殊免許
大型自動二輪車	大型二輪免許
普通自動二輪車	普通二輪免許
小型特殊自動車	小型特殊免許
一般原動機付自転車	原付免許

2 前項の表の下欄に掲げる第一種免許を受けた者は、同表の区分に従い当該自動車等を運転することができるほか、次の表の上欄に掲げる免許の種類に応じ、それぞれ同表の下欄に掲げる種類の自動車等を運転することができる。

第一種免許の種類	運転することができる自動車等の種類
大型免許	中型自動車、準中型自動車、普通自動車、小型特殊自動車及び一般原動機付自転車
中型免許	準中型自動車、普通自動車、小型特殊自動車及び一般原動機付自転車
準中型免許	普通自動車、小型特殊自動車及び一般原動機付自転車
普通免許	普通自動車、小型特殊自動車及び一般原動機付自転車
大型特殊免許	小型特殊自動車及び一般原動機付自転車
大型二輪免許	普通自動二輪車、小型特殊自動車及び一般原動機付自転車
普通二輪免許	小型特殊自動車及び一般原動機付自転車
牽引免許	自動車によつて重被牽引車を牽引して当該牽引自動車を運転しようとする者は、当該牽引自動車に係る免許(仮免許を除く。)のほか、牽引免許を受けなければならない。
牽引免許	牽引免許を受けた者で、大型免許、中型免許、準中型免許、普通免許、大型特殊免許、大型特殊免許を受けた者で、二十一年に満たないもの又は大型免許、中型免許、準中型免許、普通免許若しくは大型特殊免許のいずれかを受けていた期間(当該免許の効力が停止されていた期間を除く。)が通算して三年に達しないものは、第二項の規定に従つて運転することができる。
牽引免許	大型免許を受けた者(大型免許を現に受けている者を除く。)で、二十一年に満たないもの又は大型免許、中型免許、準中型免許、普通免許若しくは大型特殊免許のいずれかを受けていた期間(当該免許の効力が停止されていた期間を除く。)が通算して三年に達しないものは、第二項の規定に従つて運転することができる。
牽引免許	中型免許を受けた者(大型免許を現に受けている者を除く。)で、二十一年に満たないもの又は大型免許、中型免許、準中型免許、普通免許若しくは大型特殊免許のいずれかを受けていた期間(当該免許の効力が停止されていた期間を除く。)が通算して三年に達しないものは、第二項の規定に従つて運転することができる。
牽引免許	準中型免許を受けた者(大型免許又は中型免許を現に受けている者を除く。)で、次の各号に定める自動車を運転することはできない。



一 大型免許にあつては二十一歳（政令で定める者にあつては、十九歳）に、中型免許にあつては二十歳（政令で定める者にあつては、十九歳）に、準中型免許、普通免許、大型特殊免許、大型二輪免許及び牽引免許にあつては十八歳に、普通二輪免許、小型特殊免許及び原付免許にあつては十六歳に、それぞれ満たない者

二 第九十条第一項ただし書の規定による免許の拒否（同項第三号又は第七号に該当することを理由とするものを除く。）をされた日から起算して同条第九項の規定により指定された期間を経過していない者若しくは免許を保留されている者若しくは同条第二項の規定による免許の拒否をされた日から起算して同条第十項の規定により指定された期間を経過していない者又は同条第五項の規定により免許を取り消された日から起算して同条第九項の規定により指定された期間を経過していない者若しくは免許の効力を停止されている者若しくは同条第六項の規定により免許を取り消された日から起算して同条第十項の規定により指定された期間を経過していない者

三 第百三十三条第一項若しくは第四項の規定による免許の取消し（同条第一項（第四号を除く。）に係るものに限る。）をされた日から起算して同条第七項の規定により指定された期間（第百三条の二第一項の規定により免許の効力を停止された者が当該事案について免許を取り消された場合には、当該指定された期間から当該免許の効力が停止された期間を除いた期間。以下この号において同じ。）を経過していない者若しくは第百三十三条第二項若しくは第四項の規定による免許の取消し（同条第四項の規定による免許の取消しにあつては、同条第二項に係るものに限る。）をされた日から起算して同条第八項の規定により指定された期間を経過していない者又は同条第一項若しくは第四項、第百三十三条の二第一項、第百四十四条の二の三第一項若しくは第三項若しくは同条第五項において準用する第百三十三条第四項の規定により免許の効力が停止されている者

四 第百七十三条の五第一項若しくは第二項、同条第九項において準用する第百三十三条第四項又は第七条の五第十項において準用する第百三十三条の二第一項の規定により自動車等の運転を禁止されている者

五 大型仮免許にあつては二十一歳（政令で定める者にあつては、十九歳）に、中型仮免許にあつては二十歳（政令で定める者にあつては、十九歳）に、準中型仮免許及び普通仮免許にあつては十八歳に、それぞれ満たない者に対しては、仮免許を与えない。

六 免許を現に受けている者は、当該免許と同一の種類の免許を重ねて受けることができない。（免許の申請等）

第七条 第八十九条 免許を受けようとする者は、その者の住所地（仮免許を受けようとする者で現に第十八条第二項の規定による届出をした自動車教習所において自動車の運転に関する教習を受けているものにあっては、その者の住所地又は当該自動車教習所の所在地）を管轄する公安委員会に、内閣府令で定める様式の免許申請書（次項の規定による質問票の交付を受けた者にあつては、当該免許申請書及び必要な事項を記載した当該質問票）を提出し、かつ、当該公安委員会の第一項の規定により自動車教習所の所在地を管轄する公安委員会（その者の住所地を管轄する公安委員会を除く。）に仮免許に係る免許申請書を提出しようとする者に対し、その者が次条第一項第一号から第二号までのいずれかに該当するかどうかの判断に必要な質問をするため、内閣府令で定める様式の質問票を交付することができる。

八 第一条 第二項ただし書の規定により免許申請書を提出しようとする者に対し、そ

九 第二項ただし書の規定は、同項第四号に該当する者が第百二条の二（第百七十三条の二第一項のいづれかに該当する者を除く。）

十 自動車等の運転に関し第百七十三条の二第一項第一号、第三号又は第四号の違反行為をした者は、自動車等の運転により人を死傷させ、又は建物を損壊させる行為で故意によるものを受けた者

十一 自動車等の運転により人を死傷させ、又は建物を損壊させる行為で故意によるものを受けた者

十二 自動車等の運転に関し自動車の運転により人を死傷させる行為等の处罚に関する法律（平成二十五年法律第八十六号）第二条から第四条までの罪に当たる行為をした者

十三 自動車等の運転に関し第百七十三条の二第一項第一号、第三号又は第四号の違反行為をした者は、自動車等の運転に関し第百七十三条の二第一項又は第二項の違反行為をした者

十四 自動車等の運転により人を死傷させ、又は建物を損壊させる行為で故意によるものを受けた者

十五 道路外致死傷で故意によるもの又は自動車の運転により人を死傷させる行為等の处罚に関する法律第二条から第四条までの罪に当たるものをした者

十六 第一条第一項ただし書の規定により免許を拒否しようとするときは、当該運転免許試験に合格した者が第百二条の二（第百七十三条の二第一項のいづれかに該当する者を除く。）

十七 第二項ただし書の規定は、同項第四号に該当する者が第百二条の二（第百七十三条の二第一項のいづれかに該当する者を除く。）

十八 第二項ただし書の規定により免許を拒否しようとするときは、当該運転免許試験に合格した者に対し、当該事案について必要な技能を有するかどうかについて当該公安委員会が内閣府令で定めるところにより行う検査を受けることができる。この場合において、当該公安委員会は、その者が自動車の運転について必要な技能を有すると認めるときは、内閣府令で定めるところにより、その者に対する旨を証する書面を交付するものとする。

十九 第二項については第百七十三条の四第一項第三号）

二十 第二項については第百七十三条の四第一項第三号）

#### （免許の拒否等）

二〇 第九十条 公安委員会は、前条第一項の運転免許試験に合格した者（当該運転免許試験に係る適性試験を受けた日から起算して、第一種免許又は第二種免許にあつては一年を、仮免許にあつては三月を経過していない者に限る。）に対し、免許を与えなければならない。ただし、次の各号のいずれかに該当する者については、政令で定める基準に従い、免許（仮免許を除く。以下この項から第十二条までにおいて同じ。）を与えず、又は六月を超えない範囲内において免許を保留することができる。

二一 一次に掲げる病気につかっている者

イ 幻覚の症状を伴う精神病であつて政令で定めるもの

ロ 発作により意識障害又は運動障害をもたらす病気であつて政令で定めるもの

ハ イ又はロに掲げるもののほか、自動車等の安全な運転に支障を及ぼすおそれがある病気として政令で定めるもの

二二 アルコール、麻薬、大麻、あへん又は覚醒剤の中毒者

二三 第八項の規定による命令に違反した者

二四 自動車等の運転に関するこの法律若しくはこの法律に基づく命令の規定又はこの法律の規定に基づく处分に違反する行為（次項第一号から第四号までに規定する行為を除く。）をした者

二五 自動車等の運転者を唆してこの法律の規定に違反する行為で重大なものとして政令で定めるもの（以下この号において「重大違反」という。）をさせ、又は自動車等の運転者が重大違反をした場合において当該重大違反を助ける行為（以下「重大違反唆し等」という。）をした者

二六 道路以外の場所において自動車等をその本来の用い方に従つて用いることにより人を死傷させる行為（以下「道路外致死傷」という。）で次項第五号に規定する行為以外のものとした者

二七 第百二条第一項から第四項までの規定による命令を受け、又は同条第六項の規定による通知を受けた者

二八 前条本項の規定にかかるわらず、公安委員会は、次の各号のいづれかに該当する者については、政令で定める基準に従い、免許を与えないことができる。

二九 一 自動車等の運転により人を死傷させ、又は建物を損壊させる行為で故意によるものを受けた者

三十 二 自動車等の運転に関し自動車の運転により人を死傷させる行為等の处罚に関する法律（平成二十五年法律第八十六号）第二条から第四条までの罪に当たる行為をした者

三一 三 自動車等の運転に関し第百七十三条の二第一項第一号、第三号又は第四号の違反行為をした者は、自動車等の運転により人を死傷させ、又は建物を損壊させる行為で故意によるものを受けた者

三二 四 自動車等の運転に関し第百七十三条の二第一項又は第二項の違反行為をした者

三三 五 道路外致死傷で故意によるもの又は自動車の運転により人を死傷させる行為等の处罚に関する法律第二条から第四条までの罪に当たるものをした者

三四 六 第一条第一項ただし書の規定により免許を拒否しようとするときは、当該運転免許試験に合格した者が第百二条の二（第百七十三条の二第一項のいづれかに該当する者を除く。）

三五 七 第二項ただし書の規定は、同項第四号に該当する者が第百二条の二（第百七十三条の二第一項のいづれかに該当する者を除く。）

三六 八 第二項ただし書の規定により免許を拒否しようとするときは、当該運転免許試験に合格した者に対し、当該事案について必要な技能を有するかどうかについて当該公安委員会が内閣府令で定めるところにより行う検査を受けることができる。この場合において、当該公安委員会は、その者が自動車の運転について必要な技能を有すると認めるときは、内閣府令で定めるところにより、その者に対する旨を証する書面を交付するものとする。

三七 九 第二項については第百七十三条の四第一項第三号）

三八 十 第二項については第百七十三条の四第一項第三号）



2	該次の免許を受けた者に限り、同日前の直近においては、その者のうるう六 年以外の年における誕生日は二月二十八日であるものとみなす。
3	3 第百七条第二項の規定により交付された免許証（前項に規定するものを除く。）の有効期間は、同条第二項の規定により取り消される免許に係る免許証の有効期間が満了したこととされて当該免許証に係る同条第一項の規定により返納された免許証の有効期間が満了することとされ いた日が経過するまでの期間とする。
4	4 前三项に規定する期間の末日が日曜日その他政令で定める日に当たるときは、これらの日の翌日を当該期間の末日とみなす。
	（免許証の記載事項）
1	第一項については第百二十二条第一項第十号
2	第二項の規定による記録
3	第三項の規定による記録
4	第四項の規定による記録
5	第五項の規定による記録
6	第六項の規定による記録
7	第七項の規定による記録
8	第八項の規定による記録
9	第九項の規定による記録
10	第十項の規定による記録
11	第十一項の規定による記録
12	第十二項の規定による記録
13	第十三項の規定による記録
14	第十四項の規定による記録
15	第十五項の規定による記録
16	第十六項の規定による記録
17	第十七項の規定による記録
18	第十八項の規定による記録
19	第十九項の規定による記録
20	第二十項の規定による記録
21	第二十一項の規定による記録
22	第二十二項の規定による記録
23	第二十三項の規定による記録
24	第二十四項の規定による記録
25	第二十五項の規定による記録
26	第二十六項の規定による記録
27	第二十七項の規定による記録
28	第二十八項の規定による記録
29	第二十九項の規定による記録
30	第三十項の規定による記録
31	第三十一項の規定による記録
32	第三十二項の規定による記録
33	第三十三項の規定による記録
34	第三十四項の規定による記録
35	第三十五項の規定による記録
36	第三十六項の規定による記録
37	第三十七項の規定による記録
38	第三十八項の規定による記録
39	第三十九項の規定による記録
40	第四十項の規定による記録
41	第四十一項の規定による記録
42	第四十二項の規定による記録
43	第四十三項の規定による記録
44	第四十四項の規定による記録
45	第四十五項の規定による記録
46	第四十六項の規定による記録
47	第四十七項の規定による記録
48	第四十八項の規定による記録
49	第四十九項の規定による記録
50	第五十項の規定による記録
51	第五十一項の規定による記録
52	第五十二項の規定による記録
53	第五十三項の規定による記録
54	第五十四項の規定による記録
55	第五十五項の規定による記録
56	第五十六項の規定による記録
57	第五十七項の規定による記録
58	第五十八項の規定による記録
59	第五十九項の規定による記録
60	第六十項の規定による記録
61	第六十一項の規定による記録
62	第六十二項の規定による記録
63	第六十三項の規定による記録
64	第六十四項の規定による記録
65	第六十五項の規定による記録
66	第六十六項の規定による記録
67	第六十七項の規定による記録
68	第六十八項の規定による記録
69	第六十九項の規定による記録
70	第七十項の規定による記録
71	第七十一項の規定による記録
72	第七十二項の規定による記録
73	第七十三項の規定による記録
74	第七十四項の規定による記録
75	第七十五項の規定による記録
76	第七十六項の規定による記録
77	第七十七項の規定による記録
78	第七十八項の規定による記録
79	第七十九項の規定による記録
80	第八十項の規定による記録
81	第八十一項の規定による記録
82	第八十二項の規定による記録
83	第八十三項の規定による記録
84	第八十四項の規定による記録
85	第八十五項の規定による記録
86	第八十六項の規定による記録
87	第八十七項の規定による記録
88	第八十八項の規定による記録
89	第八十九項の規定による記録
90	第九十項の規定による記録
91	第九十一項の規定による記録
92	第九十二項の規定による記録
93	第九十三項の規定による記録
94	第九十四項の規定による記録
95	第九十五項の規定による記録
96	第九十六項の規定による記録
97	第九十七項の規定による記録
98	第九十八項の規定による記録
99	第九十九項の規定による記録
100	第一百項の規定による記録
101	第一百一項の規定による記録
102	第一百二項の規定による記録
103	第一百三項の規定による記録
104	第一百四項の規定による記録
105	第一百五項の規定による記録
106	第一百六項の規定による記録
107	第一百七項の規定による記録
108	第一百八項の規定による記録
109	第一百九項の規定による記録
110	第一百十項の規定による記録
111	第一百十一項の規定による記録
112	第一百十二項の規定による記録
113	第一百十三項の規定による記録
114	第一百十四項の規定による記録
115	第一百十五項の規定による記録
116	第一百十六項の規定による記録
117	第一百十七項の規定による記録
118	第一百十八項の規定による記録
119	第一百十九項の規定による記録
120	第一百二十項の規定による記録
121	第一百二十一項の規定による記録
122	第一百二十二項の規定による記録
123	第一百二十三項の規定による記録
124	第一百二十四項の規定による記録
125	第一百二十五項の規定による記録
126	第一百二十六項の規定による記録
127	第一百二十七項の規定による記録
128	第一百二十八項の規定による記録
129	第一百二十九項の規定による記録
130	第一百三十項の規定による記録
131	第一百三十一項の規定による記録
132	第一百三十二項の規定による記録
133	第一百三十三項の規定による記録
134	第一百三十四項の規定による記録
135	第一百三十五項の規定による記録
136	第一百三十六項の規定による記録
137	第一百三十七項の規定による記録
138	第一百三十八項の規定による記録
139	第一百三十九項の規定による記録
140	第一百四十項の規定による記録
141	第一百四十一項の規定による記録
142	第一百四十二項の規定による記録
143	第一百四十三項の規定による記録
144	第一百四十四項の規定による記録
145	第一百四十五項の規定による記録
146	第一百四十六項の規定による記録
147	第一百四十七項の規定による記録
148	第一百四十八項の規定による記録
149	第一百四十九項の規定による記録
150	第一百五十項の規定による記録
151	第一百五十一項の規定による記録
152	第一百五十二項の規定による記録
153	第一百五十三項の規定による記録
154	第一百五十四項の規定による記録
155	第一百五十五項の規定による記録
156	第一百五十六項の規定による記録
157	第一百五十七項の規定による記録
158	第一百五十八項の規定による記録
159	第一百五十九項の規定による記録
160	第一百六十項の規定による記録
161	第一百六十一項の規定による記録
162	第一百六十二項の規定による記録
163	第一百六十三項の規定による記録
164	第一百六十四項の規定による記録
165	第一百六十五項の規定による記録
166	第一百六十六項の規定による記録
167	第一百六十七項の規定による記録
168	第一百六十八項の規定による記録
169	第一百六十九項の規定による記録
170	第一百七十項の規定による記録
171	第一百七十一項の規定による記録
172	第一百七十二項の規定による記録
173	第一百七十三項の規定による記録
174	第一百七十四項の規定による記録
175	第一百七十五項の規定による記録
176	第一百七十六項の規定による記録
177	第一百七十七項の規定による記録
178	第一百七十八項の規定による記録
179	第一百七十九項の規定による記録
180	第一百八十項の規定による記録
181	第一百八十一項の規定による記録
182	第一百八十二項の規定による記録
183	第一百八十三項の規定による記録
184	第一百八十四項の規定による記録
185	第一百八十五項の規定による記録
186	第一百八十六項の規定による記録
187	第一百八十七項の規定による記録
188	第一百八十八項の規定による記録
189	第一百八十九項の規定による記録
190	第一百九十項の規定による記録
191	第一百九十一項の規定による記録
192	第一百九十二項の規定による記録
193	第一百九十三項の規定による記録
194	第一百九十四項の規定による記録
195	第一百九十五項の規定による記録
196	第一百九十六項の規定による記録
197	第一百九十七項の規定による記録
198	第一百九十八項の規定による記録
199	第一百九十九項の規定による記録
200	第二百項の規定による記録

(免許証の携帯及び提示義務)

第九十五条 免許を受けた者は、自動車等を運転するときは、当該自動車等に係る免許証を携帯しないなければならない。

第二項の規定による免許証の提示を求められたときは、これを提示しなければならない。  
(罰則 第二項については第百二十一条第一項第十二号、同条第三項 第二項については第百二十一条第一項第十号)

#### 第四節 運転免許試験

(受験資格)

第九十六条 第八十八条第一項各号のいずれかに該当する者は第一種免許の運転免許試験を、同条第二項に規定する者は仮免許の運転免許試験を受けることができない。

2 大型免許の運転免許試験を受けようとする者(政令で定める者を除く。)は、中型免許、準中型免許、普通免許又は大型特殊免許を現に受けている者に該当し、かつ、これらの免許のいずれかを受けていた期間(当該免許の効力が停止されていた期間を除く。)が通算して三年(政令で定める教習を修了した者にあつては、一年)以上の者でなければならぬ。

3 中型免許の運転免許試験を受けようとする者(政令で定める者を除く。)は、準中型免許、普通免許又は大型特殊免許を現に受けている者に該当し、かつ、これららの免許のいずれかを受けていた期間(当該免許の効力が停止されていた期間を除く。)が通算して二年(政令で定める教習を修了した者にあつては、一年)以上の者でなければならぬ。

4 大型免許、中型免許、準中型免許、普通免許、大型特殊免許、大型第二種免許、中型第二種免

許、普通第二種免許又は大型特殊第二種免許を現に受けている者でなければ、牽引免許の運転免

許試験を受けることができない。

5 第二種免許の運転免許試験は、次の各号のいずれかに該当する者でなければ、受けることがで

きない。

一 牽引第二種免許以外の第二種免許の運転免許試験については、二十一歳(政令で定める教習を修了した者(第一百四条の二の四第一項又は第二項の規定により特別取得免許の取消しを受けた者その他の政令で定める者を除く。)にあつては、十九歳)以上の者で、大型免許、中型免

許、準中型免許、普通免許又は大型特殊免許を現に受けている者に該当し、かつ、これらの免

許のいずれかを受けていた期間(当該免許の効力が停止されていた期間を除く。)が通算して三年(政令で定める教習を修了したものにあつては二年、政令で定める教習を修了したものにあつては一年)以上のもの

二 牽引第二種免許の運転免許試験については、二十一歳(政令で定める教習を修了した者(第一百四条の二の四第一項又は第二項の規定により特別取得免許の取消しを受けた者その他の政令で定める者を除く。)にあつては、十九歳)以上の者で、大型免許、中型免許、準中型免許、普通免許又は大型特殊免許及び牽引免許を現に受けている者に該当し、かつ、これらの免許のいずれかを受けていた期間(当該免許の効力が停止されていた期間を除く。)が通算して三年(政令で定める教習を修了したものにあつては二年、政令で定める教習を修了したものにあつては一年)以上のもの

三 その者が受けようとする第二種免許の種類と異なる種類の第二種免許を現に受けている者

6 第二項から第四項まで及び前項各号に規定する免許を現に受けている者には、第九十条第五

項、第一百三十三条第一項若しくは第四項、第一百三十三条の二第一項、第一百四条の二の三第一項若しくは第三項又は同条第五項において準用する第一百三十三条第四項の規定により該免許の効力が停止され

いる者及びこれに準ずるものとして政令で定める者を含まないものとする。

三 その者が受けようとする第二種免許の種類と異なる種類の第二種免許を現に受けている者

又は普通第二種免許の運転免許試験を受けようとする者(政令で定める者を除く。)は、仮免許

又は大型免許又は大型第二種免許の運転免許試験を受けようとする者にあつては大型仮免許、中型

免許又は中型第二種免許の運転免許試験を受けようとする者にあつては大型仮免許又は中型仮免

許、準中型免許の運転免許試験を受けようとする者にあつては大型仮免許、中型仮免許又は準中型仮免許)を現に受けている者に該当し、かつ、過去三月以内に五日以上、内閣府令で定めるところにより道路において自動車の運転の練習をした者でなければならない。

第九十六条の三 第九十条第一項ただし書若しくは第二項の規定による免許の拒否、同条第五項若しくは第六項若しくは第一百三十三条第一項、第二項若しくは第四項の規定による免許の取消し又は第二項の規定による免許証若しくは同条第九項において準用する第一百三十三条第四項の規定による六月を超える期間の自動車等の運転の禁止を受けた者(第九十条第一項第一号から第三号まで若しくは第七号、第一百三十三条第一項第一号から第四号まで又は第一百七条の五第一項第一号に該当することを理由としてこれらの処分を受けた者を除く。第一百八条の二第一項第二号において「取消処分者等」という。)で、運転免許試験(仮免許の運転免許試験を除く。次項において同じ。)を受けようとするものは、過去一年以内に第一百八条の二第一項第二号に掲げる講習(当該処分前に行われた講習を除く。)を終了した者でなければならぬ。ただし、当該処分を受けた後免許(仮免許を除く。)を受けたことがある者は、この限りでない。

2 前項の規定は、免許が失効したため又は第一百七条の二の国際運転免許証若しくは外国運転免許証を所持する者でなくなつたため、第九十条第五項若しくは第一百三十三条第一項、第二項若しくは第四項の規定による免許の取消し又は第一百七条の五第一項若しくは第二項の規定若しくは同条第九項において準用する第一百三十三条第四項の規定による六月を超える期間の自動車等の運転の禁止(第一百三条第一項第一号から第四号まで又は第一百七条の五第一項第一号に該当することを理由とするものを除く。)を受けなかつた者(第一百八条の二第一項第二号において「準取消処分者等」という。)で、運転免許を受けようとするものについて準用する。この場合において、前項中「当該処分前に行われた講習」とあるのは、「当該免許が失効する前又は当該国際運転免許証若しくは外国運転免許証を所持する者でなくなる前に行われた講習」と、「当該処分を受けた後」とあるのは、「当該免許が失効した後又は当該国際運転免許証若しくは外国運転免許証を所持する者でなくなった後」と読み替えるものとする。

(運転免許試験の方法)

第九十七条 運転免許試験は、免許の種類ごとに次の各号(小型特殊免許及び原付免許の運転免許試験にあつては第一号及び第三号、牽引免許の運転免許試験にあつては第一号及び第二号)に掲げる事項について行う。

#### 一 自動車等の運転について必要な適性

#### 二 自動車等の運転について必要な知識

#### 三 自動車等の運転について必要な技能

2 前項第二号に掲げる事項について行う大型免許、中型免許、準中型免許、普通免許、大型第二種免許、中型第二種免許及び普通第二種免許の運転免許試験は、道路において行うものとする。ただし、道路において行うことが交通の妨害となるおそれがあるものとして内閣府令で定める運転免許試験の項目については、この限りでない。

#### 一 国家公安委員会が作成する教則の内容の範囲内で行う。

#### 二 前三项に規定するもののほか、運転免許試験の実施の手続、方法その他運転免許試験について必要な事項は、内閣府令で定める。

#### (運転免許試験の免除)

第九十七条の二 次の各号のいずれかに該当する者に対しては、それぞれ当該各号に定める運転免許試験を免除する。

1 第八十九条第三項後段に規定する書面を有する者で同項に規定する検査を受けた日から起算して一年を経過しないものその者が当該検査の時に受けっていた仮免許の区分に応じ大型免

許、中型免許、準中型免許又は普通免許のいずれかに係る前条第一項第二号に掲げる事項についての運転免許試験

2 第九十九条の五第五項に規定する卒業証明書(同項後段に規定する技能検定員の書面による証明が付されているものに限る。)を有する者で当該卒業証明書に係る技能検定を受けた日か

ら起算して一年を経過しないもの又は同項に規定する修了証明書（同項後段に規定する技能検定員の書面による証明が付されているものに限るものとし、政令で定めるものを除く。）を有する者で当該修了証明書に係る技能検定を受けた日から起算して二月を経過しないもの卒業証明書又は修了証明書に係る免許に係る前条第一項第二号に掲げる事項についての運転免許試験

三 第一百一一条第一項の免許証の有効期間の更新を受けなかつた者（政令で定める者を除く。）で、その者の免許が第一百五条第一項の規定により効力を失つた日から起算して六月（海外旅行、災害その他政令で定めるやむを得ない理由のため、その期間内に運転免許試験を受けることができなかつた者にあつては、当該効力を失つた日から起算して三年を経過しない場合に限り、当該事情がやんだ日から起算して一月）を経過しないもの（以下「特定失効者」という。）のうち、次に掲げる区分に応じそれ次に定める検査及び講習又は教育を内閣府令で定めるところにより受けたもの、その者が受けたいた免許に係る運転免許試験（前条第一項第一号に掲げる事項についてのものを除く。）

イ 第八十九条第一項の規定により免許申請書を提出した日における年齢が七十五歳以上の者

二 第八十九条第一項の規定により免許申請書を提出した日における年齢が七十歳以上の者（イからハまでに掲げる者を除く。）第八十八条の二第一項第十二号に掲げる講習、同条第二項の規定による講習又は第八十八条の三十二の二第一項の認定を受けた同項の運転免許取得者等教育の課程

ホ イからニまでに掲げる者以外の者 第八十八条の二第一項第十一号に掲げる講習、同条第二項の規定による講習（同号に掲げる講習と同等の効果がある講習の基準として国家公安委員会規則で定める基準に適合するものに限る。）又は第八十八条の三十二の二第一項の認定を受けた同項の運転免許取得者等教育の課程（同項第三号イに掲げる基準に適合するものに限りる。）

四 大型自動車、中型自動車、準中型自動車又は普通自動車を運転することができる免許について第一百一条第一項の免許証の有効期間の更新を受けなかつた者（前号の政令で定める者を除く。）で、その者の免許が第一百五条第一項の規定により効力を失つた日から起算して六月を超えて一年を経過しないもの、その者が受けていた免許の区分に応じ大型仮免許、中型仮免許、準中型仮免許又は普通仮免許のいずれかに係る前条第一項第二号及び第三号に掲げる事項につい

---

Digitized by srujanika@gmail.com

ての運転免許試験  
五百 第百三条第一項又は第四項の規定による免許の取消し（同条第一項第一号から第二号までのいずれかに係るものに限る。）を受けた者（当該取消しを受けた日前の直近においてした第八十九条第一項、第一百一条第一項若しくは第一百二条の二第一項の規定による質問票の提出又は第

百一条の五の規定による報告について第一百十七条の四第一項第三号の違反行為をした者その他政令で定める者を除く。)で、その者の免許が取り消された日から起算して三年を経過しないもの(以下「特定取消処分者」という。)のうち、第三号イからホまでに掲げる区分に応じそれぞれ同号イからホまでに定める検査及び講習又は教育を内閣府令で定めるところにより受けたもの、その者が受けている免許に係る運転免許試験(前条第一項第一号に掲げる事項についてのものを除く。)

3 公安委員会は、前項第三号又は第五号の規定により運転技能検査等を受けた者で当該運転技能検査等の結果が普通自動車等を運転することが支障があることを示すものとして内閣府令で定める基準に該当するものに対し、同項の規定にかかわらず、同項第三号又は第五号に定める運転免許試験を免除しないことができる。

第一項に定めるもののほか、免許を受けようとする者が自動車等の運転に関する本邦の域外に

ある国又は地域の行政官又は権限のある機関の免許を有する者であるときは、公安委員会は、政令で定めるところにより、その者が受けようとする免許に係る自動車等を運転することに支障がないことを確認した上で、運転免許試験の一部を免除することができる。

第一項及び前項に定めるもののほか、公安委員会は、政令で定める基準に従い、免許を受けようとする者が当該免許に係る自動車等を運転することが支障がないと認めたときは、運転免許試験の一部を免除することができる。

通志卷之二十一

**(運転免許試験の停止等)**  
**第九十七条の三** 公安委員会は、不正の手段によつて運転免許試験を受け、又は受けようとした者に対しでは、その運転免許試験を停止し、又は合格の決定を取り消すことができる。  
前項の規定により合格の決定を取り消したときは、公安委員会は、その旨を直ちにその者に通知しなければならない。この場合において、当該運転免許試験に係る免許は、その通知を受けた日に効力を失うものとする。  
公安委員会は、第一項の規定による処分を受けた者に対する請求により、一年以内の期間を定

3 公安委員会は第一項の規定による処分を受けた者は如し 情状に  
て、運転免許試験を受け能くないものとする二ことができる

通鑑卷一百一十一

第八十九条第一項の規定により免許申請書を提出した日における年齢が七十五歳以上の者（普通自動車対応免許を受けようとする者であつてイの政令で定める基準に該当するもの及び同日前一年以内に第百二条第一項から第四項までの規定により診断書を提出した者その他認知機能検査等を受ける必要がないものとして内閣府令で定める者を除く）。認知機能検査等及び第百八条の二第一項第十二号に掲げる講習、同条第二項の規定による講習又は第百八条の三十二条の二第一項の認定を受けた同項の運転免許取得者等教育の課程

第八十九条第一項の規定により免許申請書を提出した日における年齢が七十五歳以上の者（普通自動車対応免許を受けようとする者であつてイの政令で定める基準に該当し、かつ、同日前一年以内に第百二条第一項から第四項までの規定により診断書を提出した者その他認知機能検査等を受ける必要がないものとして内閣府令で定める者であるものに限る。）運転技能検査等及び第百八条の二第一項第十二号に掲げる講習、同条第二項の規定による講習又は第百八条の三十二条の二第一項の認定を受けた同項の運転免許取得者等教育の課程

## 第四節の二 自動車教習所

(自動車教習所)  
**第九十八条** 自動車教習所(免許を受けようとする者に対し、自動車の運転に関する技能及び知識について教習を行う施設をいう。以下同じ。)を設置し、又は管理する者は、当該自動車教習所において行う自動車の運転に関する教習の水準の維持向上に努めなければならない。

所の所在地を管轄する公安委員会に、次に掲げる事項を届け出ることができる。

2 自動車教習所を設置し、又は管理する者は、内閣府令で定めるところにより、当該自動車教習

一 氏名又は名称及び住所並びに法人にあつては、その代表者の氏名

2 自動車教習所の名称及び所在地

3 前二号に掲げるもののほか、内閣府令で定める事項

3 公安委員会は、前項の規定による届出をした自動車教習所を設置し、又は管理する者に対し、自動車の運転に関する教習の適正な水準を確保するため、当該自動車教習所における教習の態様に応じて、必要な指導又は助言をするものとする。

4 公安委員会は、前項の指導又は助言をした場合において、必要があると認めるときは、自動車安全運転センターに対し、当該指導又は助言に係る自動車教習所における自動車の運転に関する技能又は知識の教習を行う職員に対する研修その他当該職員の資質の向上を図るために必要な措置について、必要な配慮を加えるよう求めることができる。

5 公安委員会は、内閣府令で定めるところにより、第三項の指導又は助言をするため必要な限度において、第二項の規定による届出をした自動車教習所を設置し、又は管理する者に対し、必要な報告又は資料の提出を求めることができる。

(指定自動車教習所の指定)  
**第九十九条** 公安委員会は、前条第二項の規定による届出をした自動車教習所のうち、一定の種類の免許(政令で定めるものに限る。)を受けようとする者に対し自動車の運転に関する技能及び知識について教習を行うものであつて当該免許に係る教習について職員、設備等に関する次に掲げる基準に適合するものを、当該自動車教習所を設置し、又は管理する者の申請に基づき、指定自動車教習所として指定することができる。

一 政令で定める要件を備えた当該自動車教習所を管理する者が置かれていること。  
二 次条第四項の技能検定員資格者証の交付を受けており、同条第一項の規定により技能検定員として選任されることとなる職員が置かれていること。  
三 第九十九条の三第四項の教習指導員資格者証の交付を受けしており、同条第一項の規定により教習指導員として選任されることとなる職員が置かれていること。  
四 自動車の運転に関する技能及び知識の教習並びに技能検定(自動車の運転に関する技能についての検定で、内閣府令で定めるところにより行われるもの)をう。以下同じ。)のための設備が政令で定める基準に適合していること。

五 当該自動車教習所の運営が政令で定める基準に適合していること。  
六 前項第二号ロからニまでに掲げる者のいずれかに該当するに至つたとき。

(教習指導員)

**第九十九条の三** 指定自動車教習所を管理する者は、自動車の運転に関する技能及び知識の教習を行わせるため、教習指導員を選任しなければならない。

4 第四項の教習指導員資格者証の交付を受けていない者は、教習指導員となることができない。

3 指定自動車教習所を管理する者は、自動車の運転に関する技能又は知識の教習を、教習指導員以外の者に行わせてはならない。

4 公安委員会は、次の各号のいずれにも該当する者に対し、教習指導員資格者証を交付する。

イ 公安委員会が国家公安委員会規則で定めるところにより自動車の運転に関する技能及び知識の教習に関する技能及び知識の教習について行う審査に合格した者

ロ 自動車安全運転センターが行う自動車の運転に関する研修の課程であつて国家公安委員会が指定するものを修了した者

ハ 公安委員会が国家公安委員会規則で定めるところにより自動車の運転に関する技能及び知識の教習について行う研修の課程であつて国家公安委員会が指定するものを修了した者

3 次項において準用する前条第五項第一号又は第三号に該当して次項において準用する同条第五項の規定により教習指導員資格者証の返納を命ぜられ、その返納の日から起算して三年を経過していない者

4 前条第四項第二号ロからニまでのいずれかに該当する者

イ 二十一歳未満の者

2 第四項の技能検定員資格者証の交付を受けていない者は、技能検定員となることができない。

3 技能検定員は、刑法その他の罰則の適用について、法令により公務に従事する職員とみなす。

4 公安委員会は、次の各号のいずれにも該当する者に対し、技能検定員資格者証を交付する。  
一 次のいずれかに該当する者  
イ 公安委員会が国家公安委員会規則で定めるところにより技能検定に係る技能及び知識に關して行う審査に合格した者

ロ 自動車安全運転センターが行う自動車の運転に関する研修の課程であつて国家公安委員会が指定するものを修了した者  
ハ 公安委員会が国家公安委員会規則で定めるところにより技能検定に係り又はロに掲げる者と同等以上の技能及び知識を有すると認める者

2 次のいずれにも該当しない者  
イ 二十五歳未満の者

2 不正な行為をした者  
イ 過去三年以内に第九十九条の五第五項に規定する卒業証明書又は修了証明書の発行に関し不正な行為をした者

2 ロ 過去三年以内に第一百七条の二の二第一項第九号の罪を犯し罰金以上の刑に処せられ、その執行を終わり、又は執行を受けることがなくなつた日から起算して三年を経過していない者

2 ハ 第百七条の二の二第一項第九号の罪を犯し禁錮以上の刑に処せられ、その執行を終わった日から起算して三年を経過していない者

(職員に対する講習)

**第九十九条の四** 指定自動車教習所を管理する者は、公安委員会から当該指定自動車教習所の職員について第一百八条の二第一項第九号に掲げる講習を行う旨の通知を受けたときは、当該職員に当該講習を受けさせなければならない。

(技能検定)

**第九十九条の五** 指定自動車教習所を管理する者は、第九十九条第一項に規定する免許の種類ごとに、技能検定員に、内閣府令で定めるところにより自動車の運転に関する技能及び知識の教習を終了した者に対し技能検定を行わせなければならない。

2 指定自動車教習所を管理する者は、技能検定員に、前項に規定する教習を終了した者以外の者に対し技能検定を行わせてはならない。

3 指定自動車教習所を管理する者は、技能検定員以外の者に技能検定を行わせてはならない。

4 技能検定員は、技能検定に合格した者について、その者が技能検定に合格した旨の証明をしなければならない。

5 指定自動車教習所は、技能検定員が前項の証明をしたときは、当該証明に係る者に対し、内閣府令で定めるところにより、内閣府令で定める様式の卒業証明書(指定自動車教習所において教習を終了した旨を証明する証明書をいう。以下同じ。)又は修了証明書(指定自動車教習所において教習を受け、仮免許を受けて運転することができる程度の技能及び知識の水準に達した旨を証明する証明書をいう。以下同じ。)を発行することができる。この場合において、当該卒業証明書又は修了証明書には、内閣府令で定めるところにより、当該卒業証明書又は修了証明書に係る者が技能検定に合格した旨の技能検定員の書面による証明を附さなければならない。

(報告及び検査)

**第九十九条の六** 公安委員会は、この節の規定を施行するため必要な限度において、指定自動車教習所を設置し、若しくは管理する者に対し、当該指定自動車教習所の業務に関し報告若しくは資料の提出を求め、又は警察職員に当該指定自動車教習所に立ち入り、書類その他の物件を検査させ、若しくは関係者に質問させることができる。

2 前項の規定により立入検査をする警察職員は、その身分を示す証票を携帯し、関係者の請求があるときは、これを提示しなければならない。

3 第一項の規定による立入検査の権限は、犯罪捜査のために認められたものと解してはならない。

(適合命令等)

**第九十九条の七** 公安委員会は、指定自動車教習所が第九十九条第一項各号に掲げる基準に適合しなくなつたと認めるときは、当該指定自動車教習所を設置し、又は管理する者に対し、当該指定自動車教習所を同項各号に掲げる基準に適合させるため必要な措置をとることを命ずることができる。

2 前項に定めるもののほか、公安委員会は、この節の規定を施行するため必要な限度において、指定自動車教習所を設置し、又は管理する者に対し、当該指定自動車教習所の業務に關し監督上必要な命令をすることができる。

(指定自動車教習所の指定の取消し等)

**第一百条** 公安委員会は、指定自動車教習所を管理する者が第九十九条の三第三項、第九十九条の四第二項若しくは第三項の規定に違反したとき、指定自動車教習所が同条第五項の規定に違反して卒業証明書若しくは修了証明書を発行したとき、又は指定自動車教習所を設置し、若しくは管理する者が前条の規定による命令に違反したときは、当該指定自動車教習所に対し、その指定を取り消し、又は六月を超えない範囲内で期間を定めて当該指定自動車教習所が当該期間内における教習に基づき卒業証明書若しくは修了証明書を発行することを禁止することができる。

2 公安委員会は、前項の規定による卒業証明書又は修了証明書の発行の禁止の処分を受けた指定自動車教習所が当該処分に違反して卒業証明書又は修了証明書を発行したときは、その指定を取

り消し、又は六月を超えない範囲内で卒業証明書若しくは修了証明書を発行することを禁止する期間を延長することができる。

#### 第四節の三 再試験

(再試験)

**第一百条の二** 公安委員会は、準中型免許、普通免許、大型二輪免許、普通二輪免許又は原付免許を受けた者で、当該免許を受けた日から当該免許を受けていた期間(当該免許の効力が停止された期間を除く。)が通算して一年に達することとなる日までの間(以下「初心運転者期間」という。)に当該免許に係る免許自動車等の運転に関する法律若しくはこの法律に基づく命令の規定又はこの法律の規定に基づく处分に違反する行為をし、当該行為が当該免許について政令で定める基準に該当することとなるもの(以下「基準該初心運転者」という。)に対し、その者が当該免許に係る免許自動車等を安全に運転するために必要な能力を現に有するかどうかを確認するための試験(以下「再試験」という。)を行うものとする。ただし、次に掲げる者については、この限りでない。

1 当該免許を受けた日前六月以内に当該免許に係る上位免許を受けていたことがある者

2 当該免許を受けた日前六月以内に当該免許と同一の種類の免許(当該免許と同等の免許として政令で定めるものを含み、第四百四条の二の二第一項、第二項又は第四項の規定により取り消された免許及びこれに準ずるものとして政令で定める免許を除く。)を受けたことがあることがあり、かつ、その免許を受けていた期間(その免許の効力が停止されていた期間を除く。)が通算して一年以上である者

3 当該免許を受けた日以後に当該免許に係る上位免許を受けた者

4 当該免許が準中型免許である場合において、普通免許を現に受けており、かつ、当該準中型免許を受けた日前に当該普通免許を受けていた期間(当該免許の効力が停止されていた期間を除く。)が通算して二年以上である者

5 当該免許を受けた日以後に当該免許に係る初心運転者の当該免許に係る初心運転者期間が経過した時におけるその者の住所地を管轄する公安委員会が、当該期間が経過した後初心運転者期間が経過することとなるまでの間に当該免許に係る免許自動車等の運転に関する法律若しくはこの法律に基づく命令の規定又はこの法律の規定に基づく处分に違反する行為をし、当該行為が当該講習に係る免許について政令で定める基準に該当することとなる者を除く。)

6 当該免許が準中型免許である場合において、普通免許を現に受けており、かつ、当該準中型免許を受けた日前に当該普通免許を受けていた期間(当該免許の効力が停止されていた期間を除く。)が通算して二年以上である者

7 再試験は、基準該初心運転者の当該免許に係る初心運転者期間が経過した時におけるその者の住所地を管轄する公安委員会が、当該期間が経過した後初心運転者期間が経過することとなるまでの間に当該免許に係る免許自動車等の運転に関する法律若しくはこの法律に基づく命令の規定又はこの法律の規定に基づく处分に違反する行為をし、当該行為が当該講習に係る免許について政令で定める基準に該当することとなる者を除く。)

8 公安委員会は、第一項の規定に基づき再試験を行おうとする場合には、内閣府令で定めるところにより、基準該初心運転者の当該免許に係る初心運転者期間が経過した後速やかに、再試験を行う旨及びその理由その他必要な事項を基準該初心運転者に書面で通知しなければならない。

9 基準該初心運転者は、公安委員会から再試験の通知(前項の規定による通知をいう。以下同じ。)を受けたときは、当該通知を受けた日の翌日から起算した期間(再試験を受けないことにについて政令で定めるやむを得ない理由のある者にあつては、当該期間から当該事情の存する期間を除いた期間)が通算して一月を超えることとなるまでに、当該公安委員会に内閣府令で定める再試験受験申込書を提出して、再試験を受けなければならない。第九十二条の二第四項の規定

10 第百条の三 公安委員会は、再試験を行おうとする場合において、基準該初心運転者がその住所を他の公安委員会の管轄区域内外に変更していたときは、速やかに現にその者の住所地を管轄する公安委員会に内閣府令で定める試験移送通知書を送付しなければならない。

11 前項の試験移送通知書が当該公安委員会に送付されたときは、当該公安委員会は、当該試験移送通知書に係る基準該初心運転者に対し、再試験を行うものとする。この場合において、前項

の試験移送通知書を送付した公安委員会は、当該基準該当初心運転者に対し、再試験を行うことができない。

3 前条第四項及び第一項の規定は、公安委員会が前項の規定により再試験を行おうとする場合について準用する。

4 公安委員会が第二項の規定により再試験を行おうとする場合において、第一項の試験移送通知書を送付した公安委員会が当該試験移送通知書に係る基準該当初心運転者に再試験の通知をしていいるときは、当該通知は、第二項の規定により再試験を行おうとする公安委員会がした再試験の通知とみなす。

## 第五節 免許証の更新等

### (免許証の更新及び定期検査)

**第一百一十条** 免許証の有効期間の更新（以下「免許証の更新」という。）を受けようとする者は、当

該免許証の有効期間が満了する日の直前のその者の誕生日の一月前から当該免許証の有効期間が満了する日までの間（以下「更新期間」という。）に、その者の住所地を管轄する公安委員会に内閣府令で定める様式の更新申請書（第四項の規定による質問票の交付を受けた者にあつては、当該更新申請書及び必要な事項を記載した当該質問票。第五項及び第六条の二の二第一項から第三項までにおいて同じ。）を提出しなければならない。

2 前項の規定により免許証の更新を受けようとする者の誕生日が二月二十九日である場合における同項の規定の適用については、その者のうるう年以外の年ににおける誕生日は二月二十八日であるものとみなす。

3 公安委員会は、免許を現に受けている者に対し、更新期間その他免許証の更新の申請に係る事務の円滑な実施を図るために必要な事項（その者が更新を受ける日において優良運転者（第九十一条の規定により免許に条件を付されている者のうち内閣府令で定めるもの及び第九十二条の二第二項に規定する経由地公安委員会を経由して行われる場合にあつては、当該経由地公安委員会）は、その者について、速やかに自動車等の運転について必要な適性検査（以下「適性検査」という。）を行わなければならぬ。）を記載した書面を送付するものとする。

4 第一項に規定する公安委員会（同項の規定による更新申請書の提出が第六百一条の二の二第一項第一号の二又は第三号のいずれかに該当するかどうかの判断に必要な質問をするため、内閣府令に規定する経由地公安委員会は、その旨を含む。）を記載した書面を提出しようとする者に対する第一項の規定により更新申請書を提出しようとする者に対する第一号の二又は第三号のいずれかに該当するかどうかの判断に必要な質問をするため、内閣府令で定める様式の質問票を交付することができる。

5 第一項の規定による更新申請書の提出があつたときは、当該公安委員会は、その者について、速やかに自動車等の運転について必要な適性検査（以下「適性検査」という。）を行わなければならぬ。

6 前項の規定による適性検査の結果又は第六百一条の二の二第三項に規定する書面の内容（同条第五項の規定による適性検査を行つた場合には、当該書面の内容及び当該適性検査の結果）から判断して、当該免許証の更新を受けようとする者が自動車等を運転することが支障がないと認めたときは、当該公安委員会は、当該免許証の更新を受けなければならない。

7 前各項に定めるものほか、免許証の更新の申請及び適性検査について必要な事項は、内閣府令で定める。

（罰則 第一項については第六百一十七条の四第一項第三号）

（免許証の更新の特例）

**第一百一十一条** 海外旅行その他政令で定めるやむを得ない理由のため更新期間内に適性検査を受けることが困難であると予想される者は、その者の住所地を管轄する公安委員会に当該更新期間前ににおける免許証の更新を申請することができる。この場合においては、当該公安委員会に内閣府令で定める様式の特例更新申請書（次項の規定による質問票の交付を受けた者にあつては、当該特例更新申請書及び必要な事項を記載した当該質問票）を提出しなければならない。

2 前項に規定する公安委員会は、同項後段の規定により特例更新申請書を提出しようとする者に對し、その者が第百三十三条第一項第一号、第一号の二又は第三号のいずれかに該当するかどうかの判断に必要な質問をするため、内閣府令で定める様式の質問票を交付することができる。

3 第一項の規定による申請があつたときは、当該公安委員会は、その者について、速やかに適性検査を行わなければならない。

4 前項の規定による適性検査の結果から判断して、当該免許証の更新を受けようとする者が自動車等を運転することが支障がないと認めたときは、当該公安委員会は、速やかに当該免許証の更新を行わなければならない。

5 前各項に定めるもののほか、更新期間前における免許証の更新の申請及び適性検査について必要な事項は、内閣府令で定める。

### (更新の申請の特例)

### (罰則 第一項については第六百一十七条の四第一項第三号)

**第一百一十二条** 免許証の更新を受けようとする者のうち当該更新を受ける日において優良運転者に該当するもの（第一項第三項の規定により当該更新を受ける日において優良運転者に該当することとなる旨を記載した書面の送付を受けた者に限る。）は、当該免許証の有効期間が満了する日の直前のその者の誕生日までに免許証の更新の申請をする場合には、同条第一項の規定による更新申請書の提出を、その者の住所地を管轄する公安委員会以外の公安委員会（以下この条及び次条において「経由地公安委員会」という。）を経由して行うことができる。

2 前項の規定により更新申請書を受理した経由地公安委員会は、その者について、速やかに適性検査を行わなければならない。

3 経由地公安委員会は、前項の規定による適性検査の結果を記載した書面を、第一項の規定により受理した更新申請書とともに、その者の住所地を管轄する公安委員会に送付しなければならない。この場合において、その者の住所地を管轄する公安委員会は、第一百一条第五項の規定による適性検査を行わないものとする。

4 経由地公安委員会は、当該免許証の更新を受けようとする者が次条第一項の規定により経由地公安委員会が行う第六百八条の二第一項第一号に掲げる講習を受けたときは、その旨をその者の住所地を管轄する公安委員会に通知するものとする。

5 第三項の規定による書面の送付を受けた公安委員会は、当該書面の内容のみによつては当該免許証の更新を受けようとする者が自動車等を運転することが支障がないかどうかを判断できないときは、その者について適性検査を行うものとする。この場合において、当該公安委員会は、その者に適性検査を受けるべき旨を通知しなければならない。

（更新を受けようとする者の義務）

**第一百一十三条** 免許証の更新を受けようとする者は、その者の住所地を管轄する公安委員会（前条第一項の場合にあつては、その者の住所地を管轄する公安委員会又は経由地公安委員会。次条第一項から第三項までにおいて同じ。）が行う第六百八条の二第一項第一号に掲げる講習を受けなければならない。ただし、更新期間が満了する日（第六百一条の二第一項の規定による免許証の更新の申請をしようとする者にあつては、当該申請をする日。次条第一項から第三項まで及び第八条の二第一項第一号において同じ。）前六月以内に同項第十二号に掲げる講習を受けた者その他の同項第一号に掲げる講習を受ける必要がないものとして政令で定める者は、この限りでない。

2 公安委員会は、第六百一条第五項若しくは第六百一条の二第三項の規定による適性検査の結果又は前条第三項に規定する書面の内容（同条第五項の規定による適性検査を行つた場合には、当該書面の内容及び当該適性検査の結果）から判断して自動車等を運転することが支障がないと認めた者（前項ただし書の政令で定める者を除く。）が第六百八条の二第一項第一号に掲げる講習を受けないときは、第六百一条第六項又は第六百一条の二第四項の規定にかかわらず、その者に対し、免許証の更新をしないことができる。

(七十歳以上の者の特例)

**第一百一条の四**

免許証の更新を受けようとする者で更新期間が満了する日における年齢が七十歳以上とのものは、更新期間が満了する日前六月以内にその者の住所地を管轄する公安委員会が行つた

第百八条の二第一項第十二号に掲げる講習を受けいなければならない。ただし、当該講習を受ける必要がないものとして政令で定める者は、この限りでない。

- 2 前項に定めるもののほか、免許証の更新を受けようとする者で更新期間が満了する日前六月以内にその者の住所地を管轄する公安委員会が行つた
- 年の規定により診断書を提出した場合その他認知機能検査等を受ける必要がないものとして内閣府令で定める場合を除き、当該期間内にその者の住所地を管轄する公安委員会又は第百八条の三十二の三第一項の認定を受け同項の運転免許取得者等検査を行う者が行つた認知機能検査等を受けていなければならない。

- 3 前二項に定めるもののほか、免許証の更新を受けようとする者で更新期間が満了する日における年齢が七十五歳以下のもの（普通自動車対応免許を現に受けている者であつて、普通自動車等の運転に関するこの法律及びこの法律に基づく命令の規定並びにこの法律の規定に基づく処分並びに重大違反等及び道路外致死傷に係る法律の規定の遵守の状況を勘査して普通自動車等を運転することが道路における交通の危険を生じさせるおそれがある者として政令で定める基準に該当するものに限る。）は、更新期間が満了する日前六月以内にその者の住所地を管轄する公安委員会又は第百八条の三十二の三第一項の認定を受けて同項の運転免許取得者等検査を行つた認知機能検査等を受けていなければならない。

- 4 公安委員会は、前項の規定により運転技能検査等を受けた者（普通自動車等を運転することが支障があることを示すものとして内閣府令で定める基準に該当するものに対し、第百一条第六項又は第一百一条の二第四項の規定にかかるわらず、免許証の更新をしないことができる。）は、更新期間が満了する日前六月以内に第一項の規定により講習を受けた者で当該運転技能検査等の結果が普通自動車等を運転することが支障があることを示すものとして内閣府令で定める基準に該当するものとする。

- 5 公安委員会は、次の各号に掲げる者に対し、当該各号に定める事項を記載した書面を送付する
- 一 免許を現に受けている者で更新期間が満了する日における年齢が七十五歳以上七十五歳未満のもの免許の更新を受けようとするときは更新期間が満了する日前六月以内に第一項の規定により講習を受けなければならない旨、当該講習を受けることができる日時及び場所その他当該講習に係る事務の円滑な実施を図るために必要な事項
- 二 免許を現に受けている者で更新期間が満了する日における年齢が七十五歳以上のもの（普通自動車対応免許を現に受けている者であつて第三項の政令で定める基準に該当するものを除く。）前号に定める事項並びに免許証の更新を受けようとするときは更新期間が満了する日前六月以内に第二項の規定により認知機能検査等を受けていなければならない旨、当該認知機能検査等を受けることができる日時及び場所その他当該認知機能検査等に係る事務の円滑な実施を図るために必要な事項
- 三 免許を現に受けている者で更新期間が満了する日における年齢が七十五歳以上のもの（普通自動車対応免許を現に受けている者であつて第三項の政令で定める基準に該当するものに限る。）前号に定める事項並びに免許証の更新を受けようとするときは更新期間が満了する日前六月以内に同項の規定により運転技能検査等を受けていなければならない旨、当該運転技能検査等を受けることができる日時及び場所その他当該運転技能検査等に係る事務の円滑な実施を図るために必要な事項

（免許を受けた者に対する報告徴収）

- 第一百一条の五** 公安委員会は、免許を受けた者が第百三条第一項第一号、第一号の二又は第三号のいずれかに該当するかどうかを調査するため必要があると認めるときは、内閣府令で定めるところにより、その者に対し、必要な報告を求めることができる。

- （罰則 第百十七条の四第一項第三号）
- （医師の届出）
- 第一百一条の六 医師は、その診察を受けた者が第百三条第一項第一号、第一号の二又は第三号のいずれかに該当すると認めた場合において、その者が免許を受けた者又は第百七条の二の国際運転

免許証若しくは外国運転免許証を所持する者（本邦に上陸（同条に規定する上陸をいう。）をした日から起算して滞在期間が一年を超えている者を除く。）であることを知つたときは、当該診察の結果を公安委員会に届け出ることができる。

2 前項に規定する場合において、公安委員会は、医師からその診察を受けた者が免許を受けた者であるかどうかについての確認を求められたときは、これに回答するものとする。

3 刑法の秘密漏洩罪の規定その他の守秘義務に関する法律の規定は、第一項の規定による届出をすることを妨げるものと解釈してはならない。

- 4 公安委員会は、その管轄する都道府県の区域外に居住する者について第一項の規定による届出を受けたときは、当該届出の内容を、その者の居住地を管轄する公安委員会に通知しなければならない。

（臨時認知機能検査等）

- 第一百一条の七** 公安委員会は、七十五歳以上の者（免許を現に受けている者に限る。）が、自動車等の運転に関するこの法律若しくはこの法律の規定に基づく命令の規定又はこの法律の規定に基づく処分に違反する行為のうち認知機能が低下した場合に行われやすいものとして政令で定める行為をしたときは、その者が当該行為をした日の三月前の日以後に第九十七条の二第一項第三号若しくは第五号、第一百一条の四第二項又はこの条第三項の規定により認知機能検査等を受けた場合その他臨時に認知機能検査を受ける必要がないものとして内閣府令で定める場合を除き、その者に対し、臨時に認知機能検査を行うものとする。

- 2 公安委員会は、前項の規定により認知機能検査を行おうとするときは、内閣府令で定めるところにより、認知機能検査を行う旨を当該認知機能検査に係る者に書面で通知しなければならない。

- 3 前項の規定による通知を受けた者は、当該通知を受けた日の翌日から起算した期間（認知機能検査等を受けないことについて政令で定めるやむを得ない理由のある者にあつては、当該期間から当該事情の存する期間を除いた期間）が通算して一月を超えることとなるまでに、認知機能検査等を受けなければならない。

- 4 公安委員会は、前項の規定により認知機能検査等を受けた者が、当該認知機能検査等の結果、その者が当該認知機能検査等を受けた日前の直近において受けた認知機能検査等の結果その他の事情を勘査して、認知機能の低下が自動車等の運転に影響を及ぼす可能性があるものとして内閣府令で定める基準に該当するときは、その者に対し、第一百八条の二第一項第十二号に掲げる講習を行うものとする。

- 5 公安委員会は、前項の規定により第一百八条の二第一項第十二号に掲げる講習を行おうとするときは、内閣府令で定めるところにより、同号に掲げる講習を行ふ旨を当該講習に係る者に書面で通知しなければならない。

- 6 前項の規定による通知を受けた者は、当該通知を受けた日の翌日から起算した期間（講習を受けないことについて政令で定めるやむを得ない理由のある者にあつては、当該期間から当該事情の存する期間を除いた期間）が通算して一月を超えることとなるまでに、第一百八条の二第一項第十二号に掲げる講習を受けなければならない。

（臨時適性検査等）

- 第一百二条** 公安委員会は、第九十七条の二第一項第三号又は第五号の規定により認知機能検査等を受けた者で当該認知機能検査等の結果が認知症のおそれがあることを示すものとして内閣府令で定める基準に該当するもの（以下この条において「基準該当者」という。）が第八十九条第一項の免許申請書を提出したときは、その者が当該認知機能検査等を受けた日以後に次の各号のいずれかに該当することとなつたときを除き、その者が第九十条第一項第一号の二に該当する者であるかどうかにつき、臨時に適性検査を行い、又はその者に対し公安委員会が指定する期限までに内閣府令で定める要件を満たす医師の診断書を提出すべき旨を命ずるものとする。

- 1 この条（第五項を除く。）の規定による適性検査（第四項の規定によるものにあつては、その者が第百三条第一項第一号の二に該当することとなつた疑いがあることを理由としたものに

- 限る。)を受け、又はこの項から第四項までの規定により診断書(同項に規定する診断書にあつては、その者が同号に該当するかどうかを診断したものに限る。)を提出したとき。
- 二 認知機能検査等を受け、基準該当者に該当しないこととなつたとき。
- 2 公安委員会は、第一百一条の四第二項の規定により認知機能検査等を受けた者が基準該当者に該当ときは、その者が次の各号のいずれかに該当するときを除き、その者が第三百三十三条第一項第一号の二に該当することとなつたかどうかに、臨時に適性検査を行い、又はその者に対し公安委員会が指定する期限までに内閣府令で定める要件を満たす医師の診断書を提出すべき旨を命ずるものとする。
- 一 当該認知機能検査等を受けた日以後に前項各号のいずれかに該当することとなつたとき。
- 二 次項の規定による適性検査を受け、又は同項の規定により診断書を提出することとされるとき。
- 3 公安委員会は、前条第三項の規定により認知機能検査等を受けた者が基準該当者に該当したこととは、その者が当該認知機能検査等を受けた日以後に第一項各号のいずれかに該当することとなつたかどうかにつき、臨時に適性検査を行い、又はその者に対し公安委員会が指定する期限までに内閣府令で定める要件を満たす医師の診断書を提出すべき旨を命ずるものとする。
- 4 前項に定めるもののほか、公安委員会は、運転免許試験に合格した者が第九十条第一項第一号から第二号までのいずれかに該当する者であり、又は免許を受けた者が第三百三十三条第一項第一号から第三号までのいずれかに該当することとなつたと疑う理由があるときは、当該運転免許試験に合格した者又は免許を受けた者につき、臨時に適性検査を行い、又はその者に対し公安委員会が指定する期限までに内閣府令で定める要件を満たす医師の診断書を提出すべき旨を命ずることができる。この場合において、公安委員会は、第八十九条第一項、第一百一条第一項又は第一百一条の二第一項の規定により提出された質問票の記載内容、第一百一条の五の規定による報告の内容その他事情を考慮するものとする。
- 5 第一項から前項までに定めるもののほか、公安委員会は、道路における危険を防止し、その他の安全と円滑を図るために必要な事項を当該適性検査に係る者に通知しなければならない。
- 6 公安委員会は、第一項から前項までの規定により適性検査を行おうとするときは、あらかじめ、適性検査を行う期日、場所その他必要な事項を当該適性検査に係る者に通知しなければならない。
- 7 前項の規定により通知を受けた者は、通知された期日に通知された場所に出頭して適性検査を受けなければならない。
- 8 前各項に定めるもののほか、第一項から第五項までの規定による適性検査について必要な事項は、内閣府令で定める。
- (軽微違反行為をした者の受講義務)
- 第一百二条の二 免許を受けた者は、自動車等の運転に関するこの法律若しくはこの法律に基づく命令の規定又はこの法律の規定に基づく处分に違反する行為(政令で定める軽微なものに限る。以下「軽微違反行為」という。)をし、当該行為が政令で定める基準に該当することとなつた場合において、第一百八条の三の二の規定による通知を受けたときは、当該通知を受けた日の翌日から起算した期間(講習を受けないことが政令で定めるやむを得ない理由がある者については、当該期間から当該事情の存する期間を除いた期間)が通算して一月を超えることとなるまでの間に同号に掲げる講習を受けなければならない。
- (基準該当若年運転者の受講義務)
- 第一百二条の三 特例取得免許(第八十八条第一項第一号の規定により十九歳から大型免許を受けることができる者に該当して受けた大型免許若しくは十九歳から中型免許を受けることができる者に該当して受けた中型免許又は第九十六条第五項第一号若しくは第二号の規定により十九歳から第二種免許の運転免許試験を受けることができる者に該当して受けた第二種免許をいい、政令で

- 定めるものを除く。以下同じ。)を現に受けている者であつて、特例取得免許を最初に受けた日から二十一歳に達するまでの間(特例取得免許を受けていない期間及び二十歳に達した日以後例取得免許のうち中型免許のみを受けている期間を除く。以下「若年運転者期間」という。)に自動車等の運転に関するこの法律若しくはこの法律に基づく命令の規定又はこの法律の規定に基づく处分に違反する行為をし、当該行為が政令で定める基準に該当することとなつたもの(第一百八条の二第一項第十四号に掲げる講習を終了した後若年運転者期間が経過することとなるまでの間に自動車等の運転に関するこの法律若しくはこの法律に基づく命令の規定又はこの法律の規定に基づく处分に違反する行為をし、当該行為が第一百四条の二の四第二項の政令で定める基準に該当することとなつた者を除く。以下「基準該当若年運転者」という。)が、第三百八十三条の三の規定による通知を受けたときは、当該通知を受けた日の翌日から起算した期間(講習を受けないことについて政令で定めるやむを得ない理由がある者については、当該期間から当該事情の存する期間を除いた期間)が通算して一月を超えることとなるまでの間に同号に掲げる講習を受けなければならない。
- ## 第六節 免許の取消し、停止等
- (免許の取消し、停止等)
- 第一百三条 免許(仮免許を除く。以下第百六条までにおいて同じ。)を受けた者が次の各号のいずれかに該当することとなつたときは、その者が当該各号のいずれかに該当することとなつた時ににおけるその者の住所地を管轄する公安委員会は、政令で定める基準に従い、その者の免許を取り消し、又は六月を超えない範囲内で期間を定めて免許の効力を停止することができる。ただし、第五号に該当する者が第三百二条の二の規定の適用を受ける者であるときは、当該処分は、その者が同条に規定する講習を受けないで同条の期間を経過した後でなければ、することができない。
- 一 次に掲げる病気(以下「口」)にかかる者であることが判明したとき。
- イ 幻覚の症状を伴う精神病であつて政令で定めるもの
- ロ 発作により意識障害又は運動障害をもたらす病気であつて政令で定めるもの
- ハ イ及びロに掲げるもののほか、自動車等の安全な運転に支障を及ぼすおそれがある病気として政令で定めるもの
- 一の二 認知症であることが判明したとき。
- 二 目が見えないとその他自動車等の安全な運転に支障を及ぼすおそれがある身体の障害として政令で定めるものが生じている者であることが判明したとき。
- 三 アルコール、麻薬、大麻、あへん又は覚醒剤の中毒者であることが判明したとき。
- 四 第六項の規定による命令に違反したとき。
- 五 自動車等の運転に関するこの法律若しくはこの法律に基づく命令の規定又はこの法律の規定に基づく处分に違反したとき(次項第五号に該当する場合を除く。)。
- 六 重大違反唆し等をしたとき。
- 七 道路外致死傷をしたとき(次項第五号に該当する場合を除く。)。
- 八 前各号に掲げるもののほか、免許を受けた者が自動車等を運転することが著しく道路における交通の危険を生じさせるおそれがあるとき。
- 九 免許を受けた者が次の各号のいずれかに該当することとなつたときは、その者が当該各号のいずれかに該当することとなつた時におけるその者の住所地を管轄する公安委員会は、その者の免許を取り消すことができる。
- 一 自動車等の運転により人を死傷させ、又は建造物を損壊させる行為で故意によるものをしたとき。
- 二 自動車等の運転に関する行為をしたとき。
- 三 自動車等の運転に関する第百七十七条の二第一項第一号、第三号又は第四号の違反行為をしたとき(前二号のいずれかに該当する場合を除く。)。
- 四 自動車等の運転に関する第百七十七条第一項又は第二項の違反行為をしたとき。

五	道路外致死傷で故意によるもの又は自動車の運転により人を死傷させる行為等の处罚に関する法律第二条から第四条までの罪に当たるものをしてたときは、当該公安委員会は、第一項の規定により免許を取り消し、若しくは免許の効力を九十年（公安委員会が九十日を超えない範囲内で期間を定めたときは、その期間）以上停止しようとする場合又は前項の規定により免許を取り消そうとする場合において、当該处分に係る者がその住所を他の公安委員会の管轄区域内に変更していたときは、当該处分に係る事案に関する第百四条第一項の意見の聴取又は聴聞を終了している場合を除き、速やかに現にその者の住所地を管轄する公安委員会に内閣府令で定める处分移送通知書を送付しなければならない。
4	前項の处分移送通知書が当該公安委員会に送付されたときは、当該公安委員会は、その者が第一項各号のいずれかに該当する場合（同項第五号に該当する者が第百二条の二の規定の適用を受ける者であるときは、その者が同条に規定する講習を受けないで同条の期間を経過した後に限る。）には、同項の政令で定める基準に従い、その者の免許を取り消し、又は六月を超えない範囲内において期間を定めて免許の効力を停止することができるものとし、その者が第二項各号のいずれかに該当する場合には、その者の免許を取り消すことができるものとし、处分移送通知書を送付した公安委員会は、第一項又は第二項の規定にかかるわらず、当該事案について、その者の免許を取り消し、又は免許の効力を停止することができないものとする。
5	第三項の規定は、公安委員会が前項の規定により免許を取り消し、又は免許の効力を停止しようとする場合について準用する。
6	公安委員会は、第一項第一号から第四号までのいずれかに該当することを理由として同項又は第四項の規定により免許の効力を停止する場合において、必要があると認めるときは、当該处分の際に、その者に対し、公安委員会が指定する期日及び場所において適性検査を受け、又は公安委員会が指定する期限までに内閣府令で定める要件を満たす医師の診断書を提出すべき旨を命ずることができる。
7	公安委員会は、第一項各号（第四号を除く。）のいずれかに該当することを理由として同項又は第四項の規定により免許を取り消したときは、政令で定める基準に従い、一年以上五年を超えない範囲内で当該处分を受けた者が免許を受けることができない期間を指定するものとする。
8	公安委員会は、第二項各号のいずれかに該当することを理由として同項又は第四項の規定により免許を取り消したときは、政令で定める基準に従い、三年以上十年を超えない範囲内で当該处分を受けた者が免許を受けることができない期間を指定するものとする。
9	第一項、第二項又は第四項の規定により免許を取り消され又は免許の効力の停止を受けた時におけるその者の住所が当該处分をした公安委員会以外の公安委員会の管轄区域内にあるときは、当該处分をした公安委員会は、速やかに当該处分をした旨をその者の住所地を管轄する公安委員会に通知しなければならない。
10	公安委員会は、第一項又は第四項の規定による免許の効力の停止（第一項第一号から第四号までのいずれかに該当することを理由とするものを除く。）を受けた者が第一百八条の二第一項第三号に掲げる講習を終了したときは、政令で定める範囲内で、その者の免許の効力の停止の期間を短縮することができる。
	（免許の効力の仮停止）
第一百三条の一	免許を受けた者が自動車等の運転に関し次の各号のいずれかに該当することとなつたときは、その者が当該交通事故を起こした場所を管轄する警察署長は、その者に対し、当該交通事故を起こした日から起算して三十日を経過する日を終期とする免許の効力の停止（以下この条において「仮停止」という。）をすることができる。
一	交通事故を起こして人を死亡させ、又は傷つけた場合において、第一百七条第一項又は第二項の違反行為をしたとき。
二	第一百七条の二第一項第一号、第三号若しくは第四号、第一百七条の二第一項第一号、第三号若しくは第七号、第一百七条の四第一項第二号又は第一百十八条第一項第五号の違反行為をし、よつて交通事故を起こして人を死亡させ、又は傷つけたとき。
二	第一百七条の二第一項第一号、第三号若しくは第四号、第一百七条の二第一項第一号、第三号若しくは第七号若しくは第七号、第一百七条の四第一項第二号又は第一百十八条第一項第五号の違反行為をし、よつて交通事故を起こして人を死亡させ、又は傷つけたとき。
三	第一百八条第一項第一号若しくは第二項第一号又は第一百十九条第一項第一号から第六号まで、第十五号若しくは第二十号若しくは第二項第一号若しくは第二号の違反行為をし、よつて交通事故を起こして人を死亡させたとき。
2	警察署長は、仮停止をしたときは、当該处分をした日から起算して五日以内に、当該处分を受けた者に對し弁明の機会を与えるなければならない。
3	仮停止を受けた者は、免許証を当該处分をした警察署長に提出しなければならない。
4	假停止を受けた者は、免許証を当該处分を受けた者が第一項各号のいずれかに該当することとなつた時ににおけるその者の住所地を管轄する公安委員会に對し、内閣府令で定める仮停止通知書及び前項の規定により提出を受けた免許証を送付しなければならない。
5	前項の仮停止通知書及び免許証の送付を受けた公安委員会は、当該事案について前条第三項（同条第五項において準用する場合を含む。）の規定により免許証を送付するときは、併せて当該送付を受けた仮停止通知書及び免許証を送付しなければならない。
6	仮停止は、前二項の規定により仮停止通知書及び免許証の送付を受けた公安委員会が当該仮停止の期間内に当該事案について前条第一項、第二項又は第四項の規定による处分をしたときは、その効力を失う。
7	仮停止を受けた者が当該事案について前条第一項又は第四項の規定により免許の効力の停止を受けたときは、仮停止をされた期間は、当該免許の効力の停止の期間に通算する。
（罰則）	第二項については第一百二十二条第一項第十号
第一百四条	公安委員会は、第一百三条第一項第五号の規定により免許を取り消し、若しくは免許の効力を九十年（公安委員会が九十日を超えない範囲内においてこれと異なる期間を定めたときは、その期間。次条第一項において同じ。）以上停止しようとするとき、第一百三条第二項第一号から第四号までのいずれかの規定により免許を取り消そうとするとき、又は同条第三項（同条第五項において準用する場合を含む。）の处分移送通知書（同条第一項第五号又は第二項第一号から第四号までのいずれかに係るものに限る。）の送付を受けたときは、公開による意見の聴取を行わなければならぬ。この場合において、公安委員会は、意見の聴取の期日の一週間前までに、当該处分に係る者に対し、処分をしようとする理由並びに意見の聴取の期日及び場所を通知し、かつ、意見の聴取の期日及び場所を公示しなければならない。
2	意見の聴取に際しては、当該处分に係る者又はその代理人は、当該事案について意見を述べ、かつ、有利な証拠を提出することができる。
3	意見の聴取を行う場合において、必要があると認めるときは、公安委員会は、道路交通に関する事項に關し専門的知識を有する参考人又は当該事案の関係人の出頭を求め、これらの者からその意見又は事情を聞くことができる。
4	公安委員会は、当該处分に係る者又はその代理人が正当な理由がなくて出頭しないとき、又は当該处分に係る者の所在が不明であるため第一項の通知をしきず、かつ、同項後段の規定による公示をした日から三十日を経過してもその者の所在が判明しないときは、同項の規定にかかるわらず、意見の聴取を行わないで第一百三条第一項若しくは第四項の規定による免許の取消し若しくは効力の停止（同条第一項第五号に係るものに限る。）又は同条第二項若しくは第四項の規定による免許の取消し（同条第二項第一号から第四号までのいずれかに係るものに限る。）をすることができる。
5	前各項に定めるもののほか、意見の聴取の実施について必要な事項は、政令で定める。（聴聞の特例）
第一百四条の二	公安委員会は、第一百三条第一項又は第四項の規定により免許の効力を九十日以上停止しようとするとき（同条第一項第五号に係る場合を除く。）は、行政手続法第十三条第一項の規定による意見陳述のための手続の区分にかかるわらず、聴聞を行わなければならない。
2	公安委員会は、前項の聴聞又は第一百三条第一項若しくは第四項の規定による免許の取消し（同条第一項各号（第五号を除く。）に係るものに限る。）若しくは同条第二項若しくは第四項の規定

による免許の取消し（同条第二項第五号に係るものに限る。）に係る聴聞を行うに当たつては、その期日の週間前までに、行政手続法第十五条第一項の規定による通知をし、かつ、聴聞の期日及び場所を公示しなければならない。

前項の通知を行政手続法第十五条第三項に規定する方法によつて行う場合においては、同条第一項の規定により聴聞の期日までにおくべき相当な期間は、二週間下回つてはならない。

第二項の聴聞の期日における審理は、公開により行わなければならぬ。

第二項の聴聞の主宰者は、聴聞の期日において必要があると認めるときは、道路交通に関する事項に關し専門的知識を有する参考人又は当該事案の関係人の出頭を求め、これらの者からその意見又は事情を聴くことができる。

（再試験に係る取消し）

**第一百四条の二の二** 再試験を行つた公安委員会は、再試験の結果、再試験を受けた者が当該免許に係る免許自動車等を安全に運転するために必要な能力を現に有しないと認めるときは、その者の当該免許を取り消さなければならない。

再試験の通知を受けた者が第百条の二第五項の規定に違反して再試験を受けないと認めるときは、その者の住所地を管轄する公安委員会は、その者の当該免許を取り消さなければならない。

公安委員会は、前項の規定により当該免許を取り消そうとする場合において、当該处分に係る者がその住所を他の公安委員会の管轄区域内に変更していたときは、当該処分に関する第六項において準用する第百四条の意見の聴取を終了している場合を除き、速やかに現にその者の住所地を管轄する公安委員会に内閣府令で定める处分移送通知書を送付しなければならない。

前項の处分移送通知書の送付を受けた公安委員会は、その者が第百条の二第五項の規定に違反して当該再試験を受けないと認めるときは、その者の当該免許を取り消さなければならない。この場合において、处分移送通知書を送付した公安委員会は、第二項の規定にかかわらず、その者の当該免許を取り消すことができない。

第三項の規定は、公安委員会が前項の規定により免許を取り消そうとする場合について準用する。

第百四条（第三項を除く。）の規定は、第二項又は第四項の規定により免許を取り消す場合について準用する。

第一項、第二項又は第四項の規定により当該免許を取り消された時におけるその者の住所地を管轄する公安委員会は、速やかに当該処分をした旨をその者の住所地を管轄する公安委員会に通知しなければならない。（臨時適性検査に係る取消し等）

**第一百四条の二の三** 公安委員会は、第百二条第一項から第四項までの規定により適性検査を行い、又はこれらの規定による命令をする場合において、当該適性検査を受けるべき者（免許を受けた者に限る。）又は当該命令を受け診断書を提出することとされている者（免許を受けた者に限る。）が、自動車等の運転により交通事故を起こし、かつ、当該交通事故の状況から判断して、第一百三条第一項第一号、第一号の二又は第三号のいずれかに該当する疑いがあると認められるときその他これに準ずるものとして政令で定めるときは、三月を超えない範囲内で該当する者に該当しないことが明らかとなつたときは、速やかに当該処分を解除しなければならない。

公安委員会は、前項前段の規定により免許の効力を停止してその他の免許の効力を停止する五日以内に、当該処分を受けた者に対し弁明の機会を与えるべき期間を定め、該算して五日以内に、当該処分を受けた者に該当しないことが明らかとなつたときは、速やかに当該処分を解除しなければならない。

第百一条の七第二項の規定による通知を受けた者（免許を受けた者に限る。）が同条第三項の規定に違反して当該通知に係る認知機能検査等を受けないと認めるとき、同条第五項の規定により免許の効力を停止した者（免許を受けた者に限る。）が同条第六項の規定に違反して当該通知に係る講習を受けないと認めるとき、同条第七項の規定により免許の効力を停止した者（免許を受けた者に限る。）が同条第八項の規定により免許の効力を停止しようとする場合について準用する。

の停止を受けた者にあつては、当該停止の期間が満了するまでの間に命令に応じないと認めるとき）又は同条第六項の規定による通知を受けた者（免許を受けた者に限る。）が同条第七項の規定に違反して当該通知に係る適性検査を受けないと認めるとき（第一項前段の規定による免許の効力の停止を受けた者にあつては、当該停止の期間が満了するまでの間に適性検査を受けないと認めるとき）は、第一百一条の七第三項若しくは第六項に規定する期間が通算して一月となる日、第一百一条の七第三項若しくは第六項に規定する期間が満了する日の日又は同条第七項の通知された期日におけるその者の住所地を管轄する公安委員会は、政令で定める基準に従い、その者の免許を取り消し、又は六月を超えない範囲内で期間を定めて免許の効力を停止することができる。ただし、当該認知機能検査等を受けないこと、当該講習を受けないこと、当該命令に応じないこと又は当該適性検査を受けないことについてやむを得ない理由がある場合は、この限りでない。

前項の規定による免許の効力の停止は、その者が当該認知機能検査等を受けたときは、その効力を失う。を受けたとき、当該命令に応じたとき又は当該適性検査を受けたときは、その効力を失う。

第一百三条第三項、第四項及び第九項の規定は、第三項の規定により免許を取り消し、又は免許の効力を九十九日（公安委員会が九十九日を超えない範囲内においてこれと異なる期間を定めたときは、その期間。第七項において同じ。）以上停止しようとする場合について準用する。この場合において、同条第三項中「第一百四条第一項の意見の聴取又は聴聞」と、同条第四項中「第一項各号のいずれかに該当する場合（同項第五号に該当する者が第百二条の二の規定の適用を受ける者であるときは、その者が同条に規定する講習を受けないで同条の期間を経過した後に限る。）には、「同項」とあるのは、「第一百一条の七第三項の規定に違反して当該通知に係る認知機能検査等を受けないと認めるとき、同条第六項の規定に違反して当該通知に係る講習を受けないと認めるとき、第百二条第一項から第四項までの規定による命令に違反したと認めるとき又は同条第七項の規定に違反して当該通知に係る適性検査を受けないと認めるときは、第一百四条の二の三第三項」と、「停止することができるものとし、その者が第二項各号のいずれかに該当する場合には、その者の免許を取り消すことができるものとし」とあるのは、「停止することができるものとし」と、「第一項又は第二項」とあるのは、「同項」と、同条第九項中「第一項、第二項又は第四項」とあるのは、「第一百四条の二の三第三項又は同条第五項において準用する第四項」と読み替えるものとする。

第四項の規定は、前項において準用する第一百三条第四項の規定により免許の効力を停止した場合について準用する。

第一百四条（第五項を除く。）の規定は、公安委員会が第三項の規定又は第五項において準用する第一百三条第四項の規定により免許を取り消し、又は免許の効力を九十九日以上停止しようとする場合について準用する。

第一百三条第三項の規定は、第五項において準用する同条第四項の規定により免許を取り消し、又は免許の効力を停止しようとする場合について準用する。この場合において、同条第三項中「第一百四条第一項の意見の聴取又は聴聞」とあるのは、「聴聞」と読み替えるものとする。（若干運転者期間に係る取消し）

第一百八条の三の規定による通知を受けた者が第百二条の三の規定に違反して講習を受けないと認めるときは、その者の住所地を管轄する公安委員会は、その者が受けている特例取得免許（自動車等の運転に関する法律若しくはこの法律に基づく命令の規定又はこの法律の規定に基づく处分に違反する行為をし、当該行為が同条の政令で定める基準に該当することとなつた時点において二十歳に達している者にあつては、中型免許を除く。）を取り消さなければならない。

第一百八条の二第一項第十四号に掲げる講習を終了した者が当該講習を終了した後若干運転者期間が経過することとなるまでの間に自動車等の運転に関する法律若しくはこの法律に基づく命令の規定又はこの法律の規定に基づく处分に違反する行為をし、当該行為が政令で定める基準に該当することとなつたときは、その者の住所地を管轄する公安委員会は、その者が受けている特

例取得免許（当該行為が当該基準に該当することとなつた時点において二十歳に達している者にあつては、中型免許を除く。）を取り消さなければならない。

3 公安委員会は、前二項の規定により特例取得免許を取り消そうとする場合において、当該処分に係る者がその住所地を他の公安委員会の管轄区域内に変更していたときは、当該処分に関する第六項本文において準用する第一百四条の意見の聴取を終了している場合を除き、速やかに現にその者の住所地を管轄する公安委員会内閣府令で定める処分移送通知書を送付しなければならない。

4 前項の処分移送通知書の送付を受けた公安委員会は、第百八条の三の規定による通知を受けた者が第一百二条の三の規定に違反して講習を受けないと認めるとき又は第百八条の二第一項第十四号に掲げる講習を終了した後若年運転者期間が経過することとなるまでの間に自動車等の運転に関しこの法律若しくはこの法律に基づく命令の規定若しくはこの法律の規定に基づく処分に違反する行為をし、当該行為が第二項の政令で定める基準に該当するこ

ととなつたときは、その者が受けている特例取得免許（第一項又は第二項に規定する時点において二十歳に達している者にあつては、中型免許を除く。）を取り消さなければならない。この場合において、処分移送通知書を送付した公安委員会は、第一項又は第二項の規定にかかるはず、その者の特例取得免許を取り消すことができない。

5 第三項の規定は、公安委員会が前項の規定により特例取得免許を取り消そうとする場合について準用する。

6 第百四条の規定は、第一項、第二項又は第四項の規定により特例取得免許を取り消す場合について準用する。ただし、第一項又は第四項（第一百八条の三の三の規定による通知を受けた者が第一百二条の三の規定に違反して講習を受けないと認めるときに係る部分に限る。）の規定により特例取得免許を取り消す場合においては、第一百四条第三項の規定は、準用しない。

7 第一項、第二項又は第四項の規定により特例取得免許を取り消された時におけるその者の住所が当該処分をした公安委員会以外の公安委員会の管轄区域内にあるときは、当該処分をした公安委員会は、速やかに当該処分をした旨をその者の住所地を管轄する公安委員会に通知しなければならない。

（免許の取消し又は効力の停止に係る書面の交付等）

**第一百四条の三** 第百三条第一項、第二項若しくは第四項、第一百四条の二の二第一項、第二項若しくは第四項、第一百四条の二の三第一項、同条第五項において準用する第一百三条第四項又は前条第一項、第二項若しくは第四項の規定による免許の取消し又は効力の停止は、内閣府令で定めるところにより、当該取消し又は効力の停止に係る者に対し当該取消し又は効力の停止の内容及び理由を記載した書面を交付して行うものとする。

2 公安委員会がその者の所在が不明であることその他の理由により前項の規定による書面の交付をすることができなかつた場合において、警察官が当該書面の交付を受けない者の所在を知つたときは、警察官は、内閣府令で定めるところにより、その者に対し、日時及び場所を指定して当該書面の交付を受けるために出頭すべき旨を命ずることができる。

3 警察官は、前項の規定による命令を受けるときは、内閣府令で定めるところにより、当該命令に係る者に対し、当該命令に係る取消し又は効力の停止に係る免許証の提出を求め、これを保管することができる。この場合において、警察官は、当該命令に係る者に対し、保管証を交付しなければならない。

4 警察官は、第二項の規定による命令をしたときは、内閣府令で定めるところにより、速やかに、当該命令に係る者の氏名及び住所、当該命令に係る出頭すべき日時及び場所その他必要な事項を当該命令に係る者の住所地を管轄する公安委員会（その者に対し第一項に規定する免許を取消し又は効力の停止をした公安委員会とその者の住所地を管轄する公安委員会が異なる場合にあつては、それぞれの公安委員会）に通知しなければならない。この場合において、警察官は、前項の規定により免許証を保管したときは、当該保管した免許証をその者の住所地を管轄する公安委員会に送付しなければならない。

5 前項の規定による免許証の送付を受けた公安委員会は、当該免許証に係る免許の効力の停止の期間が満了した場合において、第三項の規定により当該免許証を提出した者から返還の請求があつたときは、直ちに当該免許証を返還しなければならない。

6 第三項の保管証は、第九十五条の規定の適用については、免許証とみなす。

7 第三項の保管証の有効期間は、当該保管証を交付した時から、当該保管証の交付を受けた者が第三項の規定により指定された日時（その日時までにその者が同項の規定により指定された場所に出頭したときは、その出頭した時）までの間とする。

8 第三項の規定により保管証の交付を受けた者は、当該保管証の有効期間が満了したときは、直ちに当該保管証を警察官に返納しなければならない。

9 第三項の保管証の記載事項その他同項の保管証に関し必要な事項は、内閣府令で定める（申請による取消し）。

**第一百四条の四** 免許を受けた者は、その者の住所地を管轄する公安委員会に免許の取消しを申請することができる。この場合において、その者は、第八十九条第一項及び第九十条の二第一項の規定にかかるはず、併せて、当該免許が取り消された場合には他の種類の免許（取消しに係る免許の種類ごとに政令で定める種類のものに限る。）を受けたい旨の申出をすることができる。

2 前項の規定による申請を受けた公安委員会は、政令で定めるところにより、当該申請に係る免許を取り消すものとする。

3 前項の規定により免許を取り消した公安委員会は、第一項の申出をした者から第一百七条第一項第一号の規定による当該免許に係る免許証の返納を受けたときは、その者に対し、当該申出に係る免許を与えることができる。

4 前項の規定により与えられる免許は、第二項の規定により取り消された免許を受けた日に受けたものとみなす。

5 第二項の規定により免許を取り消された者（第三項の規定により免許を受けた者を除く。）は、その者の住所地を管轄する公安委員会に対し、当該取消しを受けた日前五年間の自動車等の運転に関する経歴について、第九十二条の二第一項の表の上欄に規定する優良運転者、一般運転者又は違反運転者等の区分に準じた区分により表示する書面（次項及び第一百六条において「運転経歴証明書」という。）の交付を申請することができる。

6 前項の規定による申請を受けた公安委員会は、政令で定めるところにより、運転経歴証明書を交付するものとする。この場合において、運転経歴証明書は、免許証と紛らわしい外観を有するものであつてはならない。

7 前各項に定めるもののほか、第二項の規定による免許の取消しについて必要な事項は、内閣府令で定める。

（免許の失効）

**第一百五条** 免許は、免許を受けた者が免許証の更新を受けなかつたときは、その効力を失う。

2 前条第五項から第七項までの規定は、免許証の更新を受けなかつた者について準用する。この場合において、同条第五項中「第三項の規定により免許を受けた者」とあるのは、「当該免許証の有効期間が満了する日において第九十条第五項の規定による免許の取消しの基準に該当する者その他の政令で定める者」と、「当該取消しを受けた日」とあるのは、「当該免許証に係る免許が失效した日」と、「次項」とあるのは、「以下この条」と、同条第七項中「前各項」とあるのは、「前二項」と、「第二項の規定による免許の取消し」とあるのは、「運転経歴証明書」と読み替えるものとする。

（国家公安委員会への報告）

**第一百六条** 公安委員会は、第九十条第一項本文若しくは第一百四条の四第三項の規定により免許を与え、第九十一条若しくは第九十二条の二第二項の規定により条件を付し、若しくはこれを変更し、第九十四条第一項の規定による届出を受け、同条第二項の規定による免許証の再交付をし、第一百一条第六項若しくは第一百三条の二第四項の規定により免許証の更新をし、第一百一条第六項の規定による通知をし、第一百四条の四第六項（前条第二項において準用する場合を含む。）の規定

により運転経歴証明書を交付し、第九十条第一項ただし書、第二項、第五項、第六項、第九項、第十項若しくは第十二項、第九十七条の三第三項、第一百三条第一項、第二項、第四項、第七項、第八項若しくは第十項、第一百四条の二の二第一項、第二項若しくは第四項、第一百四条の二の三第三項若しくは第三項、同条第五項において準用する第一百三条第四項、第一百四条の二の四第一項、第二項若しくは第四項若しくは第一百四条の四第二項の規定による処分をし、若しくは第九十条第八項、第一百二条第一項から第四項まで若しくは第一百三条第六項の規定による命令をしたとき、警察署長が第一百三条の二第一項の規定による処分をしたとき、又は自動車等の運転者が自動車等の運転に関する法律若しくはこの法律に基づく命令の規定若しくはこの法律の規定に基づく処分に違反したとき（内閣府令で定める場合に限る）、重大違反及び等若しくは道路外致死傷（内閣府令で定めるものに限る）をしたとき、認知機能検査を受けたとき、第一百条の二第一項の規定による再試験を受けたとき、若しくは第一百八条の二第一項第二号、第十号、第十三号若しくは第十四号に掲げる講習を受けたとき、その他自動車等の運転者について自動車等の運転に関する内閣府令で定める事由が生じたときは、内閣府令で定める事項を国家公安委員会に報告しなければならない。この場合において、国家公安委員会は、免許に関する事務の適正を図るために係る事項を各公安委員会に通報するものとする。

（仮免許の取消し）

**第一百六条の二** 仮免許を受けた者が第一百三条第一項各号（第四号及び第八号を除く。）又は第二項各号のいずれかに該当することとなつたときは、その者が当該各号のいずれかに該当することとなつた時におけるその者の住所地を管轄する公安委員会は、政令で定める基準に従い、その者の仮免許を取り消すことができる。

2 第百一条の七第二項の規定による通知を受けた者（仮免許を受けた者に限る。）が同条第三項の規定に違反して当該通知に係る認知機能検査等を受けないと認めるとき、同条第五項の規定による通知を受けた者（仮免許を受けた者に限る。）が同条第六項の規定に違反して当該通知に係る講習を受けないと認めるとき、第一百一条第一項から第四項までの規定による命令を受けた者（仮免許を受けた者に限る。）が当該命令に違反したと認めるとき又は同条第六項の規定による通知を受けた者（仮免許を受けた者に限る。）が同条第七項の規定に違反して当該通知に係る適性検査を受けないと認めるときは、第一百一条の七第三項若しくは第六項に規定する期間が通算して一月となる日、第一百一条第一項から第四項までの規定による期限の満了の日又は同条第七項の通知された期日におけるその者の住所地を管轄する公安委員会は、政令で定める基準に従い、その者の仮免許を取り消すことができる。ただし、当該認知機能検査等を受けないこと、当該講習を受けないこと、当該命令に応じないこと又は当該適性検査を受けないことについてやむを得ない理由がある場合は、この限りでない。

（免許証の返納等）

**第一百七条** 免許を受けた者は、次の各号のいずれかに該当することとなつたときは、すみやかに、公安委員会に返納しなければならない。

- 1 免許が取り消されたとき。
- 2 免許が失効したとき。
- 3 免許を受けた者は、第九十条第五項、第一百三条第一項若しくは第四項、第一百四条の二の三第一項若しくは第三項又は同条第五項において準用する第一百三条第四項の規定により免許の効力が停止されたときは、速やかに、免許証をその者の住所地を管轄する公安委員会に提出しなければならない。

4 前項の規定により免許証の提出を受けた公安委員会又は第一百三条の二第四項若しくは第五項の規定により免許証の送付を受けた公安委員会は、当該免許証に係る免許の効力の停止の期間が満了した場合又は当該免許証に係る免許の効力の停止が解除された場合においてその提出者から返還の請求があつたときは、直ちに当該免許証を返還しなければならない。

（罰則 第一項及び第三項については第一百二十二条第一項第十号）

#### 第七節 國際運転免許証及び國外運転免許証並びに國外運転免許証

（國際運転免許証又は國外運転免許証を所持する者の自動車等の運転）

**第一百七条の二** 道路交通に関する条約（以下「条約」という。）第二十四条第一項の運転免許証（第一百七条の七第一項の国外運転免許証を除く。）で条約附属書九若しくは条約附属書十に定める様式に合致したもの（以下この条において「國際運転免許証」という。）又は自動車等の運転に関する本邦の域外にある国若しくは地域（國際運転免許証を発給していない国又は地域であつて、道路における危険を防止し、その他交通の安全と円滑を図る上で我が国と同等の水準にあると認められる運転免許の制度を有している国又は地域として政令で定めるものに限る。）の行政庁若しくは権限のある機関の免許に係る運転免許証（日本語による翻訳文で政令で定める者が作成したもののが添付されているものに限る。以下この条において「國外運転免許証」という。）を所持する者（第八十八条第一項第二号から第四号までのいずれかに該当する者を除く。）は、第六十四条第一項の規定にかかわらず、本邦に上陸（住民基本台帳法（昭和四十二年法律第八十一号）に基づき住民基本台帳に記録されている者が出入国管理及び難民認定法（昭和二十六年政令第三百十九号）第六十条第一項の規定による出国の確認、同法第二十六条第一項の規定による再入国の許可（同法第二十六条の二第二項（日本国との平和条約に基づき日本の国籍を離脱した者等の出入国管理に関する特例法（平成三年法律第七十一号）第二十三条第二項において準用する場合を含む。）の規定により出入国管理及び難民認定法第二十六条第一項の規定による再入国の許可を受けたものとみなされる場合を含む。）又は出入国管理及び難民認定法第六十一条の二の十二第一項の規定による難民旅行証明書の交付を受けて出国し、当該出国の日から三月に満たない期間内に再び本邦に上陸した場合における当該上陸を除く。第一百七条の二の二第一項第一号において同じ。）をした日から起算して一年間、当該國際運転免許証又は國外運転免許証（以下「國際運転免許証等」という。）で運転することができることとされている自動車等を運転することができる。ただし、旅客自動車運送事業に係る旅客を運送する目的で、旅客自動車を運転し若しくは牽引自動車によつて旅客用車両を牽引して当該牽引自動車を運転する場合、又は代行運輸普通自動車を運転する場合は、この限りでない。

（國際運転免許証等の携帯及び提示義務）

**第一百七条の三** 國際運転免許証等を所持する者は、自動車等を運転するときは、当該自動車等に係る國際運転免許証等を携帶していなければならない。第九十五条第二項の規定は、この場合について準用する。

（罰則 前段については第一百二十二条第一項第十二号、同条第三項 後段については第一百二十条第一項第十号）

（臨時適性検査）

**第一百七条の三の二** 公安委員会は、國際運転免許証等を所持する者が当該國際運転免許証等に係る發給の条件を満たしているかどうかを調査するため必要があると認めるとき（その者が第一百三条第一項第一号、第一号の二又は第三号のいずれかに該当するかどうかを調査するため必要があると認めるときと限る。）は、内閣府令で定めるところにより、その者に対し、必要な報告を求めることができる。

（罰則 第一百七条の四第一項第二号）

3 免許を受けた者は、第九十条第五項、第一百三条第一項若しくは第四項、第一百四条の二の三第一項若しくは第三項又は同条第五項において準用する第一百三条第四項の規定により免許の効力が停止されたときは、速やかに、免許証をその者の住所地を管轄する公安委員会に提出しなければならない。

（罰則 第一百七条の四第一項第二号）

（當該國際運転免許証等に対する報告徵収）

性検査を行うことができる。この場合において、公安委員会は、前条の規定による報告の内容その他の事情を考慮するとともに、あらかじめ、適性検査を行う期日、場所その他必要な事項をその者に通知しなければならない。

2 前項後段の規定による通知を受けた者は、通知された期日に通知された場所に出頭して適性検査を受けなければならない。公安委員会は、道路における危険を防止し、その他交通の安全を図るために必要な措置をとることを命ぜることができる。

3 前項に定めるものほか、第一項の規定による適性検査について必要な事項は、内閣府令で定める。

(罰則) 第三項については第一百十九条第一項第二十号

(軽微違反行為をした者の受講義務)

第一百七条の四の二 第百二条の二の規定は、国際運転免許証等を所持する者が軽微違反行為をし、当該行為が同条の政令で定める基準に該当することとなつた場合について準用する。

(自動車等の運転禁止等)

第一百七条の五 国際運転免許証等を所持する者が次の各号のいずれかに該当することとなつたときは、その者が当該各号のいずれかに該当することとなつた時におけるその者の住所地を管轄する公安委員会は、政令で定める基準に従い、五年を超えない範囲内で期間を定めてその者に対し、当該国際運転免許証等に係る自動車等の運転を禁止することができる。

第一百二条の二の規定の適用を受ける者であるときは、当該処分は、その者が前条において準用する第一百二条の二に規定する講習を受けないで同条の期間を経過した後でなければ、することができない。

2 第百三条第一項第一号から第三号までのいずれかに該当することとなつたとき（その者が当該各号のいずれかに該当することとなつたとき（その者が当該各号において準用する第一百二条の二に規定する講習を受けないで同条の期間を経過した後でなければ、することができない）。

3 第百二条の二の規定により、若しくは第九項において準用する第一百三条第四項の規定により、又は第十項において準用する第一百二条の二第一項の規定により自動車等の運転を禁止された者は、当該処分の期間中に本邦から出国した後に再び本邦に上陸したときは、速やかに、国際運転免許証等をその者の住所地を管轄する公安委員会に提出しなければならない。

4 第百二条の二の規定により、若しくは第九項において準用する第一百三条第四項の規定により、又は第十項において準用する第一百二条の二第一項の規定により自動車等の運転を禁止された者は、当該処分の期間中に本邦から出国した後に再び本邦に上陸したときは、速やかに、国際運転免許証等をその者の住所地を管轄する公安委員会に提出しなければならない。

5 第百二条の二の規定により、若しくは第九項において準用する第一百三条第四項の規定により、又は第十項において準用する第一百二条の二第一項の規定により自動車等の運転を禁止された者は、当該処分の期間が満了する時又は当該処分に係る者が本邦から出国する時のいずれか早い時においてその提出者から返還の請求があつたときは、直ちに当該国際運転免許証等を返還しなければならない。

6 第百二条の二の規定により、若しくは第九項において準用する第一百三条第四項の規定により、又は第十項において準用する第一百二条の二第一項の規定により自動車等の運転を禁止された者は、当該処分の期間中に本邦から出国した後に再び本邦に上陸したときは、速やかに、国際運転免許証等をその者の住所地を管轄する公安委員会に提出しなければならない。

7 第百二条の二の規定により、若しくは第九項において準用する第一百三条第四項の規定により、又は第十項において準用する第一百二条の二第一項の規定により自動車等の運転を禁止された者は、当該処分の期間中に本邦から出国した後に再び本邦に上陸したときは、速やかに、国際運転免許証等をその者の住所地を管轄する公安委員会に提出しなければならない。

8 第百二条の二の規定により、若しくは第九項において準用する第一百三条第四項の規定により、又は第十項において準用する第一百二条の二第一項の規定により自動車等の運転を禁止された者は、当該処分の期間中に本邦から出国した後に再び本邦に上陸したときは、速やかに、国際運転免許証等をその者の住所地を管轄する公安委員会に提出しなければならない。

9 第百二条の二の規定により、若しくは第九項において準用する第一百三条第四項の規定により、又は第十項において準用する第一百二条の二第一項の規定により自動車等の運転を禁止する場合について準用する。この場合において、同条第四項中「第一項各号のいずれかに該当する場合（同項第五号に該当する者が第百二条の二の規定の適用を受ける者であるときは、その者が同条に規定する講習を受けないで同条の期間を経過した後に限る。）には、同項の政令で定める基準に従い、その者の免許を取り消し、又は六月を超えない範囲内において期間を定めて免許の効力を停止することができるものとし、その者が第二項各号のいずれかに該当する場合には、その者の免許を取り消すことができる」とあるのは、「第百七条の五第一項各号のいずれかに該当するものであるとき（同項第二号に該当する者が第百二条の二に規定する第百二条の二の規定の適用を受ける者であるときは、その者が第百七条の四の二において準用する第一百二条の二に規定する講習を受けないで同条の期間を経過した後に限る。）は、同項の政令で定める基準に従い、五年を超えない範囲内で期間を定めて、その者が第百七条の五第二項各号のいずれかに該当するものであるときは、同項の政令で定める基準に従い、三年以上十年を超えない範囲内で期間を定めて、その者に対し、当該国際運転免許証等に係る自動車等の運転を禁止することができる」と読み替えるものとする。

10 第百二条の二の規定は、国際運転免許証等を所持する者が自動車等の運転に關し同条第一項各号のいずれかに該当することとなつた場合について準用する。この場合において、同条中「免許の効力の停止」とあるのは「自動車等の運転の禁止」と、「仮停止」とあるのは「仮禁止」と、「免許証」とあるのは「国際運転免許証等」と、「仮停止通知書」とあるのは「仮禁止通知書」と、同条第五項中「前条第三項」とあるのは「第百七条の五第九項において準用する前条第三

等の運転を九十日以上禁止しようとする場合及び第九項において準用する第一百三条第三項の処分移送通知書（第一項第一号に係るものに限る。）の送付を受けた場合について準用する。この場合において、第一百四条第四項中「第百三条第一項若しくは第四項の規定による免許の取消し（同条第二項第一号から第四号までのいずれかに係るものに限る。）をする」とあるのは「第百七条の五第一項若しくは第二項又は同条第九項において準用する第一百三条第四項の規定による自動車等の運転の禁止（第百七条の五第一項第二号及び第二項各号に係るものに限る。）をする」と、第一百四条の二第二項中「前項の聽聞又は第百三条第一項若しくは第四項の規定による免許の取消し（同条第一項各号（第五号を除く。）に係るものに限る。）若しくは同条第二項若しくは第四項の規定による免許の取消し（同条第二項第五号に係るものに限る。）に係る聽聞」とあるのは「前項の聽聞」と読み替えるものとする。

10

11

12

13

14

15

16

17

18

19

20

21

22

23

24

25

26

27

28

29

30

31

32

33

34

35

36

37

38

39

40

41

42

43

44

45

46

47

48

49

50

51

52

53

54

55

56

57

58

59

60

61

62

63

64

65

66

67

68

69

70

71

72

73

74

75

76

77

78

79

80

81

82

83

84

85

86

87

88

89

90

91

92

93

94

95

96

97

98

99

100

101

102

103

104

105

106

107

108

109

110

111

112

113

114

115

116

117

118

119

120

121

122

123

124

125

126

127

128

129

130

131

132

133

134

135

136

137

138

139

140

141

142

143

144

145

146

147

148

149

150

151

152

153

154

155

156

157

158

159

160

161

162

163

164

165

166

167

168

169

170

171

172

173

174

175

176

177

178

179

180

181

182

183

184

185

186

187

188

189

190

191

192

193

194

195

196

197

198

199

200

201

202

203

204

205

206

207

208

209

210

211

212

213

214

215

216

217

218

219

220

221

222

223

224

225

226

227

228

項」と、同条第六項中「前条第一項、第二項又は第四項の規定」とあるのは、「第一百七条の五第一項若しくは第二項の規定又は同条第九項において準用する前条第四項の規定」とあるのは、「第一百七条の五第一項第一項又は第四項の規定」とあるのは、「第一百七条の五第一項若しくは第二項の規定又は同条第九項において準用する前条第四項の規定」と読み替えるものとする。

2  
3 国外運転免許証の交付を受けた者は、当該国外運転免許証の効力が停止されたとき（当該国外運転免許証の効力が停止された時に本邦外の地域にあり、かつ、当該国外運転免許証の効力の停止の期間中に本邦に帰国した者については、帰国したとき。）は、すみやかに、当該国外運転免許証をその者の住所地を管轄する公安委員会に提出しなければならない。  
前項の規定により国外運転免許証の提出を受けた公安委員会は、当該国外運転免許証の効力の停止の期間が満了した場合においてその提出者から返還の請求があつたときは、直ちに当該国外運転免許証を返還しなければならない。

## 第八節 免許関係事務の委託

第八節 免許関係事務の委託

免許関係事務の委託

（罰則）第五項、第七項及び第十項については第一百二十二条第一項第十号  
段の規定及び同条後段において準用する第九十五条第二項」と読み替えるものとする。

(自動車等の運転禁止等の報告)  
五百二十九  
公文書委員会は、第一百二条の四第一項後段の規定による通知を(ここを、前条第一項

若しくは第一項若しくは同条第九項において準用する百三十三条第四項の規定により自動車等の運

転を禁止し、若しくは前条第三項において準用する第二百三十三条第十項の規定により期間を短縮したとき、又は警察署長が前条第十項において準用する第二百三十三条第一項の規定により自動車等の

運転を禁止したときは、内閣府令で定める事項を国家公安委員会に報告しなければならない。この場合において、国家公安委員会は、元件ごとに報告する事務の箇目を定め、当該報告に係る事項

の場合はおいて、國家公安委員会は、免許に關する事務の適正を圖るため、各公安委員会に通報するものとする。

（国外運転免許証の交付）  
第一百七条の七 免許（小型特殊免許、原付免許及び仮免許を除く。）を現に受けている者（第九十

条第五項、第一百三条第一項若しくは第四項、第一百三条の二第一項、第一百四条の二の三第一項若しくは第三項又は第五項によつて進月十九日百三十日第四項の規定により起訴の効力を失つたもの

くは第三項又は同条第五項において準用する第二百三十四条の規定により免許の交付が停止されている者を除く。)は、内閣府令で定める区分に従い、当該免許で運転することができることと

されている自動車等に対応する条約附属書十に規定する自動車等に係る条約第二十四条第一項の運転免許証で公安委員会が発給するもの（以下「国外運転免許証」という。）の交付を受けること

とがである。

2 国外通航免許証の交付を受けるとする者は、その者の住所地を管轄する公安委員会は、その者が外国に渡航するものであることを証する書面を添えて、内閣府令で定める様式の交付申請書

3 を提出しなければならない。  
公安委員会は、前項の申請があつたときは、運転することができる自動車等の種類を指定し、

かつ、その旨を記載して当該国外運輸免許証を交付するものとする。

4 前二項に規定するもののほか、重要な事項は、内閣府令で定める。

(国外運転免許証の有効期間)  
国外運転免許証の有効期間は、当該国外運転免許証の発給の日から起算して一年とし

する。

**第一百七条の九** 国外運転免許証は、当該国外運転免許証に係る免許が失効し、又は取り消されたとし  
**(国外運転免許証の失效)**

きは、その効力を失う。

間、その効力が停止されるものとする。

**（国外運転免許証の返納等）**  
**第一百七条の十 国外運転免許証の交付を受けた者は、当該国外運転免許証の有効期間が満了し、又**

は當該國外運転免許証が失効したとき（當該國外運転免許証の有効期間が満了した時又は當該國外運転免許証が失効した時に本邦外の地域にある者については、本邦に帰国したとき。）は、すみやかに、當該國外運転免許証をその住所地を管轄する公安委員会に返納しなければならない。

第一百八条の二  
公安部員会は、内閣府令で定めるところにより、次に掲げる講習を行うものとす

- 百一条の七第五項の規定による通知を受けた者に、加齢に伴つて生ずるその者の身体の機能の低下が自動車等の運転に影響を及ぼす可能性があることを理解させるための講習
- 十三 免許を受けた者又は国際運転免許証等を所持する者で軽微違反行為をし、当該行為が第百二条の二の政令で定める基準に該当することとなつたものに対する講習
- 十四 基準該当若年運転者（免許の効力が停止されている者を除く。）に対する特例取得免許に係る自動車の運転に関する講習
- 十五 特定小型原動機付自転車の運転による交通の危険を防止するための講習
- 十六 自転車の運転による交通の危険を防止するための講習
- 2 公安委員会は、前項各号に掲げるもののほか、車両の運転に関する技能及び知識の向上を図るために車両の運転者に対する講習を行うように努めなければならない。
- 3 公安委員会は、内閣府令で定める者に第一項第一号、第三号から第九号まで、第十一号から第十三号まで、第十五号若しくは第十六号に掲げる講習又は前項に規定する講習の実施を委託することができる。
- （初心運転者講習の手続）
- 第一百八条の三** 公安委員会は、内閣府令で定めるところにより、基準該当初心運転者に対し、その者が第百条の二第一項に規定する行為をし、当該行為が同項本文の政令で定める基準に該当することとなつた後速やかに、前条第一項第十号に掲げる講習（以下「初心運転者講習」という。）を受けることができる旨を書面で通知するものとする。
- 2 前項の通知を受けた者は、当該通知を受けた日の翌日から起算した期間（講習を受けないことについて政令で定めるやむを得ない理由がある者にあつては、当該期間から当該事情の存する期間を除いた期間）が通算して一月を超えることとなるまでの間に限り、初心運転者講習を受けることができる。
- （軽微違反行為をした者に対する講習の手続）
- 第一百八条の三の一** 公安委員会は、免許を受けた者又は国際運転免許証等を所持する者が軽微違反行為をし、当該行為が第百二条の二の政令で定める基準に該当することとなつたときは、内閣府令で定めるところにより、速やかに、その者に対し、第一百八条の二第一項第十三号に掲げる講習を行う旨を書面で通知しなければならない。
- （若年運転者講習の手続）
- 第一百八条の三の三** 公安委員会は、内閣府令で定めるところにより、基準該当若年運転者に対し、その者が自動車等の運転に関しこの法律に基づく命令の規定又はこの法律の規定に基づく処分に違反する行為をし、当該行為が第百二条の三の政令で定める基準に該当することとなつた後速やかに、第一百八条の二第一項第十四号に掲げる講習（以下「若年運転者講習」という。）を行なう旨を書面で通知しなければならない。
- （講習通知事務の委託）
- 第一百八条の三の四** 公安委員会は、第一百八条の三第一項又は前二条の規定による通知の実施に係る事務（次項において「講習通知事務」という。）の全部又は一部を内閣府令で定める法人に委託することができる。
- 2 前項の規定により講習通知事務の委託を受けた法人の役員若しくは職員又はこれらの職にあつた者は、当該委託に係る講習通知事務に関して知り得た秘密を漏らしてはならない。
- （罰則） 第二項については第百十七条の五第一項第二号
- （特定小型原動機付自転車運転者講習等の受講命令）
- 第一百八条の三の五** 公安委員会は、特定小型原動機付自転車の運転に関しこの法律若しくはこの法律に基づく命令の規定又はこの法律の規定に基づく処分に違反する行為であつて道路における交通事故を生じさせるおそれのあるものとして政令で定めるもの（次条において「特定小型原動機付自転車危険行為」という。）を反復してした者が、更に特定小型原動機付自転車を運転するおそれがあると認めるときは、内閣府令で定めることにより、その者に対し、三月を超えない範囲内で期間を定めて、当該期間に行われる第百

八条の二第一項第十五号に掲げる講習（次条において「特定小型原動機付自転車運転者講習」という。）を受けるべき旨を命ずることができる。

- 2 公安委員会は、自転車の運転に関する法律若しくはこの法律に基づく命令の規定又はこの法律の規定に基づく処分に違反する行為であつて道路における交通の危険を生じさせるおそれのあるものとして政令で定めるもの（次条において「自転車危険行為」という。）を反復してした者が、更に自転車を運転することが道路における交通の危険を生じさせるおそれがあると認めるときは、内閣府令で定めるところにより、その者に対し、三月を超えない範囲内で期間を定めて、当該期間に行われる第百八条の二第一項第十六号に掲げる講習（次条において「自転車運転者講習」という。）を受けるべき旨を命ずることができる。

#### （罰則） 第百二十条第一項第十七号

#### （特定小型原動機付自転車運転者講習等の受講命令等の報告）

- 第一百八条の三の六** 公安委員会は、前条の規定による命令をしたとき、特定小型原動機付自転車の運転者が特定小型原動機付自転車危険行為をしたとき若しくは特定小型原動機付自転車運転者講習を受けたとき又は自転車の運転者が自転車危険行為をしたとき若しくは自転車運転者講習を受けたときは、内閣府令で定める事項を国家公安委員会に報告しなければならない。この場合において、国家公安委員会は、特定小型原動機付自転車運転者講習及び自転車運転者講習に関する事務の適正を図るために、当該報告に係る事項を各公安委員会に通報するものとする。

#### （指定講習機関）

- 第一百八条の四** 公安委員会は、次の各号に掲げる講習を、それぞれ当該各号に定める要件に該当すると認められるものとして指定する者（以下「指定講習機関」という。）に行わせることができるものとする。

- 一 第百八条の二第一項第二号に掲げる講習（以下この条及び次条第一項において「取消処分の講習」という。）自動車等の運転に必要な適性に関する調査及びこれに基づく指導（以下「運転適性指導」という。）について専門的知識を有する者として国家公安委員会規則で定める者（第三号及び次条において「運転適性指導員」という。）が置かれていることその他取消処分者講習を適正かつ確実に行なうために必要なものとして国家公安委員会規則で定める基準に適合すること。

- 二 初心運転者講習 自動車等の運転に必要な技能及び知識に関する指導（次条において「運転習熟指導」という。）について高度の能力を有する者として国家公安委員会規則で定める者（同条において「運転習熟指導員」という。）が置かれていることその他初心運転者講習を適正かつ確実に行なうために必要なものとして国家公安委員会規則で定める基準に適合すること。

- 三 若年運転者講習 運転適性指導員が置かれていることその他若年運転者講習を適正かつ確実に行なうために必要なものとして国家公安委員会規則で定める基準に適合すること。
- 前項の規定による指定は、取消処分者講習、初心運転者講習又は若年運転者講習（以下「特定講習」という。）を行おうとする者の申請により行う。

- 2 次の各号のいずれかに該当する者は、第一項の規定による指定を受けることができない。
- 3 前項の規定による指定は、取消処分者講習、初心運転者講習又は若年運転者講習（以下「特定講習」という。）を行おうとする者の申請により行う。

- 一 一般社団法人若しくは一般財團法人又は指定自動車教習所として指定された者以外の者
- 二 第百八条の十一第一項又は第二項の規定により指定を取り消され、その取消しの日から起算して二年を経過しない者
- 三 自動車等の運転に関する法律若しくはこの法律第六条までの罪又はこの法律に規定する罪を犯し禁錮以上の刑に処せられ、その執行を終り、又はその執行を受けることがなくなつた日から起算して二年を経過しない者
- 4 公安委員会は、第一項の規定による指定をしたときは、当該指定に係る特定講習を行わないことができる。

## (運転適性指導員等)

**第一百八条の五** 取消処分者講習又は若年運転者講習を行う指定講習機関は、運転適性指導には、運転適性指導員以外の者を従事させてはならない。

**2** 初心運転者講習を行う指定講習機関は、運転習熟指導には、運転習熟指導員以外の者を従事させてはならない。

**3** 公安委員会は、運転適性指導員又は運転習熟指導員が運転適性指導又は運転習熟指導について不正な行為をしたときは、当該指定講習機関に対し、その選任に係る当該運転適性指導員又は運転習熟指導員の解任を命ずることができる。

## (講習業務規程)

**第一百八条の六** 指定講習機関は、特定講習の開始前に、特定講習の業務に関する規程（次項において「講習業務規程」という。）を定め、公安委員会の認可を受けなければならない。これを変更しようとするときも、同様とする。

**2** 講習業務規程で定めるべき事項は、国家公安委員会規則で定める。

## (秘密保持義務等)

**第一百八条の七** 指定講習機関の役員（法人でない指定自動車教習所にあつては当該施設を設置する者。次項において同じ。）若しくは職員又はこれらの職にあつた者は、特定講習の業務に関して知り得た秘密を漏らしてはならない。

**2** 特定講習の業務に従事する指定講習機関の役員又は職員は、刑法その他の罰則の適用について（罰則 第一項については第百十七条の五第一項第二号）（適合命令等）（検査等）

**第一百八条の八** 公安委員会は、指定講習機関が第百八条の四第一項各号に規定する基準に適合しなくなつたと認めるときは、当該指定講習機関に対し、同項各号に規定する基準に適合するため必要な措置を採るべきことを命ずることができる。

**2** 公安委員会は、前項に定めるものほか、特定講習を適正かつ確実に行うことを確保するため必要があると認めるときは、指定講習機関に対し、特定講習の業務に關し監督上必要な命令をす（講習の休廃止）（検査等）

**第一百八条の九** 公安委員会は、指定講習機関について、第百八条の四第一項各号に規定する基準に適合しているかどうか、又は第百八条の五第一項若しくは第二項の規定に従い運営されているかどうかを検査し、及び指定講習機関に対し、必要な報告又は資料の提出を求めることができる。

**（講習の休廃止）**

**第一百八条の十** 指定講習機関は、公安委員会の許可を受けなければ、特定講習の全部又は一部を休止し、又は廃止してはならない。

## (指定の取消し)

**第一百八条の十一** 公安委員会は、指定講習機関が第百八条の四第三項第一号、第三号又は第四号のいずれかに該当する者になつたときは、その指定を取り消さなければならない。

**2** 公安委員会は、指定講習機関が次の各号のいずれかに該当することとなつたときは、その指定を取り消すことができる。

**1** 第百八条の五第一項若しくは第二項、第百八条の六第一項又は前条の規定に違反したとき。

**2** 第百八条の五第三項又は第百八条の八第一項若しくは第二項の規定による命令に違反したとき。

**（国家公安委員会規則への委任）**

**第一百八条の十二** 第百八条の四から前条までに規定するもののほか、指定講習機関に關し必要な事項は、国家公安委員会規則で定める。

**第六章の三** 交通事故調査分析センター

社団法人又は一般財團法人であつて、次条に規定する事業を適正かつ確實に行うことができると認められるものを、その申出により、全国に一を限つて、交通事故調査分析センター（以下この章において「分析センター」という。）として指定することができる。  
2 国家公安委員会は、前項の規定による指定をしたときは、分析センターの名称、住所及び事務所の所在地を公示しなければならない。  
3 分析センターは、その名称、住所又は事務所の所在地を変更しようとするときは、あらかじめ、その旨を国家公安委員会に届け出なければならない。

## (事業)

**第一百八条の十四** 分析センターは、次に掲げる事業を行ふものとする。

一 交通事故の実例に即して、道路交通の状況、運転者の状況その他の交通事故に關係する事項について、その原因等に関する科学的な研究に資するための調査を行うこと。

二 交通事故の原因等に関する科学的な研究を目的として、前号に規定する調査（以下この章において「事故例調査」という。）に係る情報又は資料その他の個別の交通事故に係る情報又は資料を分析すること。

三 交通事故一般に關する情報又は資料を収集し、及び分析し、その他交通事故に關係する科学的な調査研究を行うこと。

四 公安委員会が第百八条の二十六の規定により講ずる措置に對して協力するため、第二号の規定による分析の結果若しくは調査研究の成果を提供すること。

五 前号に掲げるもののほか、交通事故に關係する知識の普及及び交通事故防止に関する意識の啓発を図るため、第二号の規定による分析の結果又は第三号の規定による分析の結果若しくは調査研究の成果を、定期的に又は時宜に応じて提供すること。

六 外国における交通事故に關係する調査研究機関との間において情報交換を行うこと。

七 前各号に掲げる事業に附帶する事業を行ふこと。

**（事故例調査に從事する者の遵守事項）**

**第一百八条の十五** 事故例調査に從事する分析センターの職員は、事故例調査を行うために關係者に協力を求めるに當たつては、その生活又は業務の平穩に支障を及ぼさないように配慮しなければならない。

**2** 事故例調査に從事する分析センターの職員は、その身分を示す証票を携帯し、關係者の請求があつたときは、これを提示しなければならない。

**（分析センターへの協力）**

**第一百八条の十六** 警察署長は、分析センターの求めに応じ、分析センターが事故例調査を行うために必要な限度において、分析センターに対し、交通事故の発生に關係する情報その他の必要な情報又は資料で国家公安委員会規則で定めるものを提供することができる。

**2** 警察庁及び都道府県警察は、分析センターの求めに応じ、分析センターが第百八条の十四第三号に掲げる事業を行うために必要な情報又は資料で国家公安委員会規則で定めるものを分析センターに対し提供することができる。

**（特定情報管理規程）**

**第一百八条の十七** 分析センターは、交通事故に關係するデータベース（事故例調査に係る情報及び前条第二項の規定による提供に係る情報（以下この条及び第百八条の十九において「特定情報」という。）の集合物であつて、特定情報用いて検索することができるよう體系的に構成したものをいう。）の構成及び運用その他の特定情報の管理及び使用に關する事項についての規程（以下この条及び第百八条の十九において「特定情報管理規程」という。）を作成し、国家公安委員会の認可を受けなければならない。これを変更しようとするときも、同様とする。

- 2 国家公安委員会は、前項の認可をした特定情報管理規程が特定情報の適正な管理又は使用を図る上で不適当となつたと認めるときは、分析センターに対し、当該特定情報管理規程を変更すべきことを命ずることができる。
- 3 特定情報管理規程に記載すべき事項は、国家公安委員会規則で定める。
- 第一百八条の十八** 分析センターの役員若しくは職員又はこれらの職にあつた者は、第百八条の十四（秘密保持義務）
- （罰則 第百十七条の五第一項第二号）
- 第一百八条の十九** 国家公安委員会は、分析センターの役員又は職員が特定情報管理規程によらないで特定情報の管理若しくは使用を行つたとき、又は前条の規定に違反したときは、分析センターに対し、当該役員又は職員を解任すべきことを命ずることができる。
- （事業計画等の提出）
- 第一百八条の二十** 分析センターは、毎事業年度の事業計画及び収支予算を作成し、当該事業年度の開始前に国家公安委員会に提出しなければならない。これを変更しようとするときも、同様とする。
- 2 分析センターは、毎事業年度の事業報告書、収支決算書、貸借対照表及び財産目録を作成し、当該事業年度経過後三月以内に国家公安委員会に提出しなければならない。
- （報告及び検査）
- 第一百八条の二十一** 国家公安委員会は、分析センターの事業の運営に關し必要があると認めるときは、分析センターに対し、その事業に關し必要な報告をさせ、又は警察庁の職員に分析センターの事務所に立ち入り、事業の状況若しくは帳簿、書類その他の物件を検査させることができる。
- 2 前項の規定により立入検査をする職員は、その身分を示す証票を携帯し、関係者の請求があるときは、これを提示しなければならない。
- 3 第一項の規定による立入検査の権限は、犯罪捜査のために認められたものと解してはならない。
- （監督命令）
- 第一百八条の二十二** 国家公安委員会は、この章の規定を施行するため必要な限度において、分析センターに対し、その事業に關し監督上必要な命令をることができる。
- （指定の取消し等）
- 第一百八条の二十三** 国家公安委員会は、分析センターがこの章の規定に違反したとき、又は第百八条の十七第二項、第百八条の十九若しくは前条の規定による命令に違反したときは、その指定を取り消すことができる。
- 2 国家公安委員会は、前項の規定により指定を取り消したときは、その旨を公示しなければならない。（分析センターの運営に対する配慮）
- 第一百八条の二十四** 警察庁及び都道府県警察は、分析センターに対し、国家公安委員会規則で定めるところにより、その事業の円滑な運営が図られるように必要な配慮を加えるものとする。
- （国家公安委員会規則への委任）
- 第一百八条の二十五** 第百八条の十三から前条までに規定するもののほか、分析センターに關し必要な事項は、国家公安委員会規則で定める。
- 第六章の四 交通の安全と円滑に資するための民間の組織活動等の促進**
- （民間の組織活動等の促進を図るための措置）
- 第一百八条の二十六** 公安委員会は、道路における交通の安全と円滑に資するための次に掲げる活動で民間の自主的な組織活動として行われるものの中の促進を図るために、関係する機関及び団体の活動との調和及び連携を図りつつ、情報の提供、助言、指導その他必要な措置を講ずるものとする。
- 一 道路を通行する者に対する交通安全教育

- 二 歩行者の誘導その他の道路を通行する者の通行の安全を確保するための活動
- 三 適正な交通の方法又は交通事故防止についての広報活動その他の道路における交通の安全と円滑に資するための啓発活動
- 四 道路における適正な車両の駐車又は道路の使用についての啓発活動、特定小型原動機付自転車又は自転車の適正な通行についての啓発活動その他の道路における交通の安全と円滑に資するための啓発活動
- 五 前各号に掲げるもののほか、道路における交通の安全と円滑に資するための活動
- 2 公安委員会は、地方公共団体が行う交通安全対策（公安委員会が行うものを除く。）の的確かつ円滑な実施が図られるよう、関係地方公共団体の長に対し、当該関係地方公共団体の区域における交通事故の発生の状況に関する情報の提供、職員の研修に係る協力その他必要な措置を講ずるものとする。
- （公安委員会による交通安全教育）
- 第一百八条の二十七** 公安委員会は、適正な交通の方法及び交通事故防止について住民の理解を深めるため、住民に対する交通安全教育を行うように努めなければならない。
- （交通安全教育指針及び交通の方法に関する教則の作成）
- 第一百八条の二十八** 国家公安委員会は、道路を通行する者に対する交通安全教育を行う者（公安委員会を除く。）が効果的かつ適切な交通安全教育を行うようにして、及び公安委員会が行う前条の交通安全教育の基準とするため、次に掲げる事項を内容とする交通安全教育に関する指針（以下「交通安全教育指針」という。）を作成し、これを公表するものとする。
- 一 自動車及び原動機付自転車の安全な運転に必要な技能及び知識その他の適正な交通の方法に関する技能及び知識を習得する機会を提供するための交通安全教育の内容及び方法
- 二 交通事故防止に関する知識を習得する機会を提供するための交通安全教育の内容及び方法
- 三 前二号に掲げるもののほか、道路を通行する者に対する交通安全教育を効果的かつ適切に行うために必要な事項
- 2 交通安全教育指針は、道路を通行する者が、交通安全教育に係る學習の機会を通じて、適正な交通の方法及び交通事故防止に関する技能及び知識を自主的に習得する意欲を高めるとともに、その年齢若しくは通行の態様又は業務に關し通行する場合にあつてはその業務の態様に応じたこれららの技能及び知識を段階的かつ体系的に習得することができるよう配慮して作成されなければならない。
- 3 国家公安委員会は、第一項の規定により交通安全教育指針を作成しようとする場合には、関係行政機関の長と緊密な協力を図るよう努めなければならない。
- 4 国家公安委員会は、道路を通行する者が適正な交通の方法を容易に理解することができるようにするため、次に掲げる事項を内容とする教則を作成し、これを公表するものとする。
- 一 法令で定める道路の交通の方法
- 二 道路における危険を防止し、その他交通の安全と円滑を図り、又は道路の交通に起因する障害を防止するため、道路を通行する者が励行することが望ましい事項
- 三 前二号に掲げるもののほか、自動車の構造その他自動車及び原動機付自転車の運転に必要な知識
- （地域交通安全活動推進委員）
- 第一百八条の二十九** 公安委員会は、地域における交通の状況について知識を有する者であつて次に掲げる要件を満たしているもののうちから、地域交通安全活動推進委員を委嘱することができ
- 2 地域交通安全活動推進委員は、次に掲げる活動を行う。
- 一 人格及び行動について、社会的信望を有すること。
- 二 職務の遂行に必要な熱意及び時間的余裕を有すること。
- 三 生活が安定していること。
- 四 健康で活動力を有すること。

七 警察署長の委託を受けて第五十六条、第五十七条第三項及び第七十七条第一項の規定による許可に関する、道路又は交通の状況について調査すること。

- (前号の許可に係るもの)を除く。)。

九 運転適性指導（道路運送法第二条第一項に規定する自動車運送事業（貨物利用運送事業法第二条第八項に規定する第二種貨物利用運送事業を含む。）の用に供する自動車の運転者に対するものを除く。)を行うこと。

十 道路における交通の安全と円滑に資するための民間の自主的な組織活動を助けること。

十一 地域交通安全活動推進委員に対する研修を行うこと。

十二 地域交通安全活動推進委員協議会の事務について連絡調整を行う等その任務の遂行を助けること。

十三 前各号の事業に附帯する事業

三 公安委員会は、都道府県センターが前項の規定による命令に違反したときは、第一項の指定を取り消すことができる。

四 都道府県センターの役員若しくは職員又はこれらの職にあつた者は、第二項第三号又は第七号から第九号までに掲げる業務に関して知り得た秘密を漏らしてはならない。

五 第二項第七号又は第八号に掲げる業務に従事する都道府県センターの役員又は職員は、刑法その他の罰則の適用に関しては、法令により公務に従事する職員とみなす。

六 都道府県センターは、第二項各号に掲げる事業の遂行に当たつては、関係する機関及び団体の活動の円滑な遂行に配慮して、これらの活動との調和及び連携を図らなければならない。

七 第一項の指定の手続その他都道府県センターに関し必要な事項は、国家公安委員会規則で定めること。

八 第一項の指定の手続その他都道府県センターに関し必要な事項は、国家公安委員会規則で定めること。

九 道路における交通事故に関する相談に応ずる業務を担当する者、道路における車両の駐車及び交通の規制並びに道路の使用に関する事項について照会及び相談に応ずる業務を担当する者、運転適性指導の業務を担当する者その他の都道府県センターの業務を行う者に対する研修を行うこと。

一 適正な交通の方法、交通事故防止その他の道路における交通の安全に関する事項について二以上上の都道府県の区域における広報活動を行うこと。

二 適正な交通の方法、交通事故防止その他の道路における交通の安全に関する事項について二以上の都道府県の区域における広報活動を行うこと。

三 適正な交通の方法、交通事故防止その他道路における交通の安全についての二以上の都道府県の区域における啓発活動を行うこと。

四 道路における適正な車両の駐車及び道路の使用についての二以上の都道府県の区域における啓発活動を行うこと（前号に該当するものを除く。）を行うこと。

五 道路における車両の駐車及び交通の規制並びに道路の使用並びに運転適性指導に関する調査研究を行うこと。

六 道路を通行する者に対する交通安全教育を行う者の資質の向上に必要とされる技能及び知識に関する研修（道路運送法及び貨物自動車運送事業法に規定する運行管理者に対するものその他國家公安委員会規則で定めるものを除く。）を行うこと。

七 都道府県センターの事業について、連絡調整を行うこと。

八 前各号の事業に附帯する事業

3 前条第三項、第四項、第七項及び第八項の規定は、全国センターについて準用する。この場合において、同条第三項中「公安委員会」とあるのは「国家公安委員会」と、同条第四項中「公安委員会」とあるのは「国家公安委員会」と、「第一項」とあるのは「次条第一項」と、同条第七項中「第二項各号」とあるのは「次条第二項各号」と、同条第八項中「第一項」とあるのは「次条第一項」と読み替えるものとする。

#### (運転免許取得者等教育の認定)

**第一百八条の三十二の二** 免許（仮免許を除く。）を現に受けている者又は特定失効者若しくは特定取消処分者に対しその運転技能を向上させるとともに道路交通に関する知識を深めさせるための教育（以下「運転免許取得者等教育」という。）を、自動車教習所である施設その他の施設を行つて行う者は、國家公安委員会規則で定めるその課程の区分ごとに、当該施設の所在地を管轄する公安委員会に申請して、当該施設において当該課程により行う運転免許取得者等教育が次の各号のいずれにも適合している旨の認定を受けることができる。

一 教習指導員資格者証の交付を受けた者その他の運転免許取得者等教育を効果的かつ適切に行なうことができる者として国家公安委員会規則で定める者により行われるものであること。

二 第九十九条第一項第四号の政令で定める基準に適合した設備その他その他の施設を用いて行う者は、國家公安委員会規則で定めるその課程の区分ごとに、当該施設の所在地を管轄する公安委員会に申請して、当該施設において当該課程により行う運転免許取得者等教育が次の各号のいずれにも適合している旨の認定を受けることができる。

三 当該課程が、交通安全教育指針に従つて行われるものであり、かつ、次に掲げる基準のいずれかに適合すること。

イ 第百八条の二第一項第十一号に掲げる講習と同等の効果がある課程の基準として国家公安委員会規則で定める基準

ロ 第百八条の二第一項第十二号に掲げる講習と同等の効果がある課程の基準として国家公安委員会規則で定める基準

ハ 第百八条の二第一項第十三号に掲げるもののほか、運転技能を向上させるとともに道路交通に関する知識を深めさせる効果がある課程の基準として国家公安委員会規則で定める基準

2 公安委員会は、前項の認定をしたときは、国家公安委員会規則で定めるところにより、その旨を公示しなければならない。

3 運転免許取得者等教育を行う者は、当該運転免許取得者等教育の課程について、第一項の認定を受けないで、公安委員会認定という文字を冠した名称を用いてはならない。

4 第九十八条第三項から第五項までの規定は、第一項の認定を受けて運転免許取得者等教育を行なう者について準用する。この場合において、同条第三項中「自動車の運転に関する教習」とあるのは、「第一項の認定を受けた同項の運転免許取得者等教育」と、「自動車教習所における教習」とあるのは、「運転免許取得者等教育」と、同条第四項中「自動車教習所における自動車の運転に関する技能又は知識の教習」とあるのは、「第一項の認定を受けた同項の運転免許取得者等教育」と読み替えるものとする。

5 公安委員会は、第一項の認定を受けた運転免許取得者等教育が同項各号のいずれかに適合しなくなつたと認めるときは、その認定を取り消すことができる。

6 前各項に定めるもののほか、第一項の認定の申請その他同項の認定に関し必要な事項は、国家公安委員会規則で定める。  
(罰則) 第三項については第百二十三条の二)  
(運転免許取得者等検査の認定)

**第一百八条の三十二の三** 免許を現に受けている者又は特定失効者若しくは特定取消処分者に対し加齢に伴つて生ずるその者の身体の機能又は運転の技能の低下が自動車等の運転に及ぼす影響を確認するための検査（以下「運転免許取得者等検査」という。）を、自動車教習所である施設を行つて行う者は、國家公安委員会規則で定めるその方法の区分ごとに、当該施設の所在地を管轄する公安委員会に申請して、当該施設により行う運転免許取得者等検査が次の各号のいずれにも適合している旨の認定を受けることができる。

一 公安委員会が運転免許取得者等検査に関する技能及び知識に関して行う審査に合格した者その他の運転免許取得者等検査を効果的かつ適切に行なうことができる者として国家公安委員会規則で定める者により行われるものであること。

二 第九十九条第一項第四号の政令で定める基準に適合した設備その他の運転免許取得者等検査を効果的かつ適切に行なうための設備として国家公安委員会規則で定める設備を用いて行われるものであること。

三 当該方法が次に掲げる基準のいずれかに適合するものであること。

イ 認知機能検査と同等の効果がある方法の基準として国家公安委員会規則で定める基準

ロ 運転技能検査と同等の効果がある方法の基準として国家公安委員会規則で定める基準

ハ イ及びロに掲げるもののほか、加齢に伴つて生ずる身体の機能又は運転の技能の低下が自動車等の運転に及ぼす影響を確認する効果がある方法の基準として国家公安委員会規則で定める基準

2 前条第二項から第六項までの規定は、運転免許取得者等検査について準用する。この場合において、同条第二項中「前項」とあるのは「次条第一項」と、同条第三項中「課程」とあるのは「方法」と、「第一項」とあるのは「次条第一項」と、同条第四項中「第一項」とあるのは「次条第一項」と、「第一百八条の三十二の二第一項」とあるのは「第一百八条の三十二の三第一項」と、同条第五項中「第一項」とあるのは「次条第一項」と、同条第六項中「前各項」とあるのは「第二項から前項まで及び次条第一項」と、「第一項」とあるのは「同項」と読み替えるものとする。

3 (罰則) 第二項については第百二十三条の二)

**第一百八条の三十三** 道路運送車両法第十九条、第五十八条第一項若しくは第七十三条第一項（同法第九十七条の三第二項において準用する場合を含む。）、自動車損害賠償保障法（昭和三十年法律第九十七号）第五条又は自動車の保管場所の確保等に関する法律（昭和三十七年法律第百四十五号）第十一条第一項若しくは第二項の規定は、第六十七条第二項、第九十条第一項第四号若しくは第五号、第九十二条の二第二項、第九十七条の二第一項第三号イ、第一百条の二第一項本文若しくは同項第四号、第一百一条の四第三項、第一百二条の二、第一百二条の三、第一百三条第一項第五号、第一百四条の二の四第一項、第二項若しくは第四項、第一百六条、第一百七条の五第一項第二号、第一百八条の三又は次条の規定の適用については、この法律の規定とみなす。

(使用者に対する通知)

**第一百八条の三十四** 車両等の運転者がこの法律若しくはこの法律に基づく命令の規定又はこの法律の規定に基づく処分に違反した場合において、当該違反が当該違反に係る車両等の使用者の業務に関する事業者及び当該事業を監督する行政庁に対し、当該車両等の使用者がこれらの事業者以外の者であるときは当該車両等の使用者に対し、当該違反の内容を通知するものとする。

当該車両等の使用者が道路運送法の規定による自動車運送事業者、貨物利用運送事業法の規定による第二種貨物利用運送事業を経営する者又は軌道法の規定による軌道の事業者であるときは当該事業者及び当該事業を監督する行政庁に対し、当該車両等の使用者がこれらの事業者以外の者であるときは当該車両等の使用者に対し、当該違反の内容を通知するものとする。

**第一百九条** 警察官は、自動車又是一般原動機付自転車の運転者が自動車又是一般原動機付自転車の運転に関しこの法律の罰則に触れる行為をしたと認めるときは、その現場において、免許証又は

国際運転免許証等の提出を求めこれを保管することができる。この場合において、警察官は、保管証を交付しなければならない。

2 前項の保管証は、第九十五条（第七百七条の三後段において準用する場合を含む。）及び第七百七条の三前段の規定の適用については、免許証又は国際運転免許証等とみなす。

3 当該警察官は、第一項の規定により保管した免許証又は国際運転免許証等の提出者が当該警察官の指定した日時及び場所に出頭したとき、又は当該日時が経過した後ににおいてその提出者から

返還の請求があつたときは、当該免許証又は国際運転免許証等を返還しなければならない。

4 前項の規定により免許証又は国際運転免許証等の返還を受ける者は、当該免許証又は国際運転免許証等と引き換えに保管証を返納しなければならない。

5 警察官は、第一項の規定により免許証又は国際運転免許証等の提出を求めるときは、出頭の日時及び場所を告げ、かつ、前三項の規定の趣旨を説明しなければならない。

6 第一項の保管証の有効期間、記載事項その他保管証について必要な事項は、政令で定める。

#### （交通情報の提供）

**第一百九条の二** 公安委員会は、内閣府令で定めるところにより、車両の運転者に対し、車両の通行に必要な情報（以下この条及び次条において「交通情報」という。）を提供するよう努めなければならない。

2 公安委員会は、内閣府令で定める者に交通情報の提供に係る事務を委託することができる。

3 国家公安委員会は、交通情報を提供する事業を行う者が正確かつ適切に交通情報を提供することができるようにするため、交通情報の提供に関する指針を作成し、これを公表するものとする。

4 交通情報を提供する事業（公安委員会及び第二項の規定による委託を受けた者が行うもの並びに道路法による道路の管理者が道路の維持、修繕その他の管理のため行うものを除く。次条第一項において同じ。）を行う者は、前項の交通情報の提供に関する指針に従い正確かつ適切に交通情報を提供することにより、道路における危険の防止その他交通安全と円滑に資するように配慮しなければならない。

**第一百九条の三** 交通情報を提供する事業であつて次の各号のいずれかに該当するもの（以下この条において「特定交通情報提供事業」という。）を行おうとする者は、内閣府令で定めるところにより、氏名及び住所（法人にあつては、その名称、代表者の氏名及び主たる事務所の所在地）、交通情報の収集及び提供の方法その他内閣府令で定める事項を国家公安委員会に届け出なければならない。その者が届出をした事項を変更するときは、同様とする。

一 道路における交通の混雑の状態を予測する事業

二 目的的に到達するまでに要する時間を予測する事業

2 国家公安委員会は、特定交通情報提供事業を行う者が正確かつ適切でない交通情報を提供することにより道路における交通の危険又は混雑を生じさせたと認めるときは、その者に對し、前項各号に掲げる事業に係る技術水準その他の事情を勘案して、相当な期間を定めて、正確かつ適切な交通情報の提供の実施のために必要な措置をとるべきことを勧告することができる。

3 国家公安委員会は、前項の規定による勧告をした場合において、当該勧告を受けた特定交通情報提供事業を行う者が当該勧告に従わないときは、その旨及び当該勧告の内容を公表することができる。

4 国家公安委員会は、前二項の規定を施行するため必要な限度において、特定交通情報提供事業を行う者に対し、必要な事項を報告させることができる。

（罰則 第一項については第百十九条の三第二項第二号、第一百二十三条 第四項については第百十

九条の三第二項第三号、第一百二十三条）

#### （國家公安委員会の指示権）

第一百十条 国家公安委員会は、全国的な幹線道路（高速自動車国道及び政令で定める基準に従い国家公安委員会が指定する自動車専用道路を除く。）における交通の規制の齊を図るために必要があると認めるときは、政令で定めるところにより、公安委員会に対し、この法律の規定により公

安委員会の権限に属する事務のうち、車両等の最高速度その他政令で定める事項に係るもの処理について指示することができる。

2 国家公安委員会は、高速自動車国道及び前項の規定により国家公安委員会が指定する自動車専用道路における危険を防止し、その他交通の安全と円滑を図るため特に必要があると認めるときは、公安委員会に対し、当該道路におけるこの法律の実施に関する事項について指示することができる。

#### （特定の交通の規制等の手続）

**第一百十条の二** 公安委員会は、大気汚染防止法（昭和四十三年法律第九十七号）第二十一条第一項若しくは第二十三条第二項、騒音規制法（昭和四十三年法律第九十八号）第十七条第一項又は振動規制法（昭和五十一年法律第六十四号）第十六条第一項の要請があつた場合その他交通事故が発生したことを知った場合において、必要があると認めるとときは、当該交通事故の防止に關し第四条第一項の規定によりその権限に属する事務を行なうものとする。この場合において、必要があると認めるときは、都道府県知事その他関係地方公共団体の長に対し、当該交通事故に関する資料の提供を求めることができる。

2 公安委員会は、第四条第一項の規定に基づき第八条第一項の道路標識等により自動車の通行を禁止しようとする場合において、その禁止を行なうことにより、広域にわたり道路における交通に著しい影響が及ぶおそれがあるときは、都道府県知事及び関係地方行政機関の長その他政令で定める者の意見をきかなければならない。

3 公安委員会（第五条第一項の規定により権限を委任された警察署長を含む。以下この条において同じ。）は、第四条第一項の規定に基づき、第二条第一項第三号、第三号の四、第四号、第四号の二若しくは第七号、第四条第三項、第八条第一項、第十三条第二項、第十七条第四項、第五項第五号若しくは第六項、第十七条の二第一項、第二十二条第一項、第二十三条、第三十四条第五項、第四十九条第一項、第六十三条の四第一項第一号又は第六十三条の七第二項の道路標識等（第十七条第六項の道路標識等にあつては内閣府令・国土交通省令で定めるものに限り、第二十二条第一項の道路標識等にあつては同項の政令で定める最高速度を超える最高速度に係るものに限り。以下この条において同じ。）により交通の規制を行おうとするときは、当該規制の適用される道路（第二十二条第一項及び第六十三条の四第一項第一号の道路標識等以外の道路標識等に係る場合にあつては、道路法による道路に限る。）の管理者の意見を聽かなければならぬ。ただし、第八条第一項の道路標識等による交通の規制を行う場合において、緊急を要するためやむを得ないと認められるときは、この限りでないものとし、この場合には、事後において当該交通の規制に係る事項を通知しなければならない。

4 公安委員会は、高速自動車国道等について、第四条第一項の規定に基づき、前項本文に規定する道路標識等又は第十七条第五項第四号、第三十条、第四十二条若しくは第七十五条の四の道路標識等により交通の規制を行おうとするときは、前項本文の規定にかかわらず、当該道路の管理者に協議しなければならない。同項ただし書の規定は、当該協議について準用する。

5 公安委員会は、第四条第一項の規定に基づき、第四十四条第一項又は第四十五条第一項の道路標識等により路上駐車場が設けられている道路の部分における停車及び駐車又は駐車を禁止しようとするとときは、その禁止しようとする旨及び禁止の期間について当該路上駐車場を設置した地方公共団体の意見を聴いた上で、期間を定めて行わなければならぬ。この場合において、緊急を要するためやむを得ないと認められるときは、当該地方公共団体の意見を聽かないで当該禁止をすることができるものとし、当該禁止をしたときは、速やかに当該禁止をした旨及び禁止の期間を通知しなければならない。

6 公安委員会は、路上駐車場が設けられている道路の部分について、第四条第一項の規定に基づき第四十九条第一項の道路標識等により時間制限駐車区間として指定しようとするときは、当該路上駐車場を設置した地方公共団体の意見を聽かなければならぬ。

7 公安委員会は、駐車場法第三条第一項に規定する駐車場整備地区内において、第四条第一項の規定に基づき第四十九条第一項の道路標識等により時間制限駐車区間を指定しようとする場合に

おいて、同法第四条第一項の規定により駐車場整備計画（同条第二項第四号に掲げる事項が定められているものに限る。）が定められているときは、当該計画を定めた市町村の意見を聽かなければならない。

#### （道路の交通に関する調査）

**第一百十一条** 公安委員会は、この法律の規定により行なう道路における交通の規制の適正を図るために、道路における交通量、車両等の通行の経路その他道路の交通に関し必要な事項の調査をその管理に属する都道府県警察の警察官に行なわせることができる。

2 前項の規定による道路の交通に関する調査をするため特に必要があると認めるときは、当該警察官は、道路を通行する車両等の運転者に対し、当該調査をするため必要な限度において、一時当該車両等を停止することを求め、及び当該車両等の通行の経路について質問することができる。

3 公安委員会は、第一項の規定による調査を行なつた場合において、必要があると認めるときは、その道路の管理者又は関係行政庁に対し、意見を付してその調査の結果を通知するものとする。  
(免許等に関する手数料)

**第一百十二条** 都道府県は、第六章（第一百四十四条の四第六項（第一百五条第二項において準用する場合を含む。）を除く。）及び第六章の二の規定により公安委員会が行うものとされている事務に係る手数料の徴収については、次の各号に掲げる者から、それぞれ当該各号に定める手数料の種別ごとに政令で定める区分に応じて、物件費及び施設費に応する部分として政令で定める額に人件費に対応する部分として政令で定める額を標準とする額を加えた額を徴収することを標準として条例を定めなければならない。

一 第八十九条第一項の規定による運転免許試験を受けようとする者 運転免許試験手数料  
二 第八十九条第三項の規定による検査を受けようとする者 検査手数料  
三 第一百条の二第一項の規定による再試験を受けようとする者 再試験手数料  
四 第九十二条第一項の規定による免許証の交付を受けようとする者 免許証交付手数料  
五 第一百一条第一項又は第一百条の二第一項の規定による免許証の更新を受けようとする者 免許証再交付手数料  
六 第一百一条の二の二第一項の規定により免許証の更新の申請をしようとする者 経由手数料  
七 第一百条第一項又は第一百条の二第一項の規定による免許証の更新を受けようとする者 認知機能検査手数料  
八 第一百条第一項又は第一百条の二第一項の規定による免許証の更新を受けようとする者 運転技能検査手数料  
九 第一百条第一項又は第一百条の二第一項の規定による教習指導員資格者証の交付を受けようとする者 技能検定手数料  
十 第一百条第一項又は第一百条の二第一項の規定による教習指導員資格者証の交付を受けようとする者 教習指導員資格者証交付手数料  
十一 第一百条第一項又は第一百条の二第一項の規定による国外運転免許証の交付を受けようとする者 国外運転免許証交付手数料  
十二 第一百八条の二第一項各号に掲げる講習を受けようとする者 講習手数料  
十三 初心運転者講習、第百八条の二第一項第十三号に掲げる講習又は若年運転者講習を受けようとする者 通知手数料

2 前項の場合においては、都道府県は、条例で定めるところにより、指定講習機関が行う特定講習に係る同項第十二号の講習手数料を当該指定講習機関へ納めさせ、その収入とすることができる。

#### （行政手続法の適用除外）

**第一百十三条の二** 第七十五条の十五第二項（第七十五条の十六第二項において準用する場合を含む。）の規定による条件の変更及び新たな条件の付加、第七十七条第四項の規定による条件の変更及び新たな条件の付加並びに同条第五項の規定による許可の取消し及び効力の停止、第九十条第五項の規定による免許の取消し及び効力の停止、同条第六項の規定による免許の取消し並びに同条第九項又は第十項の規定による免許を受けることができない期間の指定、第九十七条の第三項の規定による運転免許試験を受けることができないものとする措置（同条第一項の合格の決定の取消しに係るものに限る。）、第百三条第一項又は第四項の規定による免許の取消し及び効力の停止（同条第二項第五号に係るものに限る。）、同条第二項又は第四項の規定による免許の取消し（同条第二項第一号から第四号までのいずれかに係るものに限る。）並びに同条第七項又は第八項の規定による免許を受けることができない期間の指定、第百四条の二の二第二項若しくは第四項の規定による免許の取消し、第百六条の二の規定による仮免許の取消し並びに第百七条の五第一項又は同条第九項において準用する第百三十三条第四項の規定による自動車等の運転の禁止（第百七条の五第一項第二号に係るものに限る。）及び第百七条の五第二項又は同条第九項において準用する第百三十三条第四項の規定による自動車等の運転の禁止（第百七条の五第九項において準用する第百三十三条第四項の規定による自動車等の運転の禁止にあつては、第百七条の五第二項に係るものに限る。）については、行政手続法第三章（第十二条及び第十四条を除く。）の規定は、適用しない。  
(審査請求の制限)

**第一百十三条の三** この法律の規定に基づき警察官等が現場においてした処分について、審査請求をすることができない。

**（警察庁長官への権限の委任）**  
**第一百十三条の四** この法律又はこの法律に基づく命令の規定により国家公安委員会の権限に属する事務（第一百十条第一項の規定による指定に係るものを除く。）は、政令で定めるところにより、警察庁長官に委任することができる。

**（方面公安委員会への権限の委任）**  
**第一百十四条** この法律の規定により道公安委員会の権限に属する事務は、政令で定めるところにより、方面公安委員会に行なわせることができる。

**（公安部安委員会の事務の委任）**  
**第一百十四条の二** 公安委員会は、免許の保留及び免許の効力の停止に関する事務（これらの处分の際の弁明の機会の付与、聴聞及び意見の聴取に関する事務を含む。）並びに仮免許を与えること及び免許の取消しに関する事務を警視総監又は道府県警察本部長（以下「警察本部長」といふ。）に行わせることができる。

2 方面公安委員会は、前条の規定により道公安委員会から委任された事務のうち、前項の事務を方面本部長に行なわせることができる。  
(高速自動車国道等における権限)

**第一百十四条の三** この法律の規定により警察署長の権限に属する事務のうち、高速自動車国道等に係るものは、公安委員会の定めるところにより、当該高速自動車国道等における交通警察に関する事務を処理する警視以上の警察官に行わせることができる。

**（交通巡視員）**  
**第一百十四条の四** 都道府県警察に、歩行者又は自転車の通行の安全の確保、停車又は駐車の規制の勧励及び道路における交通の安全と円滑に係るその他の指導に関する事務を行わせるため、交通巡視員を置く。

2 交通巡視員は、前項に規定する事務のほか、自動車の保管場所の確保等に関する法律の規定による自動車の保管場所の確保の励行に関する事務を行うものとする。

3 交通巡視員は、警察法（昭和二十九年法律第百六十二号）第五十五条第一項に規定する職員（警察官を除く。）で政令で定める要件を備えるもののうちから、警察本部長が命ずる。

4 都道府県は、政令で定める基準に従い条例で定めるところにより、交通巡視員に対し、その職務遂行上必要な被服を支給し、及び装備品を貸与するものとする。

**第四百四十四条の五** 公安委員会は、自衛隊法第七十六条第一項の規定による防衛出動命令が発せられた場合において、自衛隊又は武力攻撃事態等及び存立危機事態におけるアメリカ合衆国等の軍隊の行動に伴い我が国が実施する措置に関する法律（平成十六年法律第百十三号）第二条第六号に規定する特定合衆国軍隊（以下「自衛隊等」という。）による我が国に対する外部からの武力攻撃を排除するための行動が的確かつ円滑に実施されるようにするたため緊急の必要があると認めるときは、武力攻撃事態等における国民の保護のための措置に関する法律（平成十六年法律第百十ニ号）第五十五条第一項の規定の例により、自衛隊等の使用する車両以外の車両の道路における通行を禁止し、又は制限することができる。

2 災害対策基本法（昭和三十六年法律第二百二十三号）第七十六条第二項、第七十六条の二、第七十六条の三（第四項を除く。）、第七十六条の五及び第八十二条第一項の規定は、前項の規定による通行の禁止又は制限について準用する。この場合において、同法第七十六条の二第一項及び第二項並びに第七十六条の三第一項中「緊急通行車両」とあるのは「自衛隊等の使用する車両」と、同法第七十六条の二第五項中「前条第一項」とあり、及び同法第七十六条の三第五項中「第七十六条第一項」とあるのは「道路交通法第二百二十四条の五第一項」と、同条第一項及び同法第七十六条の三第三項前段及び第六項中「災害派遣を命ぜられた部隊等」とあるのは「自衛隊法第七十六条第一項の規定により防衛出動を命ぜられた自衛隊」と、同条第三項後段中「第一項」とあるのは「道路交通法第二百二十四条の五第二項において読み替えて準用する第一項」と、「緊急通行車両」とあるのは「自衛隊等の使用する車両」と、「自衛隊用緊急通行車両（自衛隊の使用する緊急通行車両で災害応急対策の実施のため運転中のものをいう。以下この項目において同じ。）」とのとおり、及び「自衛隊用緊急通行車両」とあるのは「自衛隊の使用する車両」と、同条第六項中「直ちに」とあるのは「遅滞なく」と読み替えるものとする。

**（罰則）** 第一項については第一百八条の三（経過措置）

**第四百四十五条の六** この法律の規定に基づき政令、内閣府令、国家公安委員会規則又は都道府県公安委員会規則を制定し、又は改廃する場合には、それぞれ政令、内閣府令、国家公安委員会規則又は都道府県公安委員会規則で、その制定又は改廃に伴い合理的に必要と判断される範囲内において、所要の経過措置（罰則に関する経過措置を含む。）を定めることができる。（内閣府令への委任）

**第八章 罰則**

**第四百四十六条** この法律に定めるもののほか、この法律の実施のための手続その他この法律の施行に關し必要な事項は、内閣府令で定める。

**第四百四十七条** この法律に定めるもののほか、この法律の実施のための手続その他この法律の施行に關し必要な事項は、内閣府令で定める。

**第四百四十八条** 罰則

**第四百四十九条** みだりに信号機を操作し、若しくは公安委員会が設置した道路標識若しくは道路標示を移転し、又は信号機若しくは公安委員会が設置した道路標識若しくは道路標示を損壊して道路における交通の危険を生じさせた者は、五年以下の懲役又は二十万円以下の罰金に処する。

**第四百五十条** 車両等の運転者が業務上必要な注意を怠り、又は重大な過失により他人の建造物を損壊したときは、六月以下の禁錮又は十万円以下の罰金に処する。

**第四百五十二条** 特定自動運行を行ふ者又は特定自動運行のための使用される者が業務上必要な注意を怠り、又は重大な過失により、特定自動運行によつて他人の建造物を損壊したときは、六月以下の禁錮又は十万円以下の罰金に処する。

**第四百七十七条の二** 車両等（軽車両を除く。以下この項において同じ。）の運転者が、当該車両等の交通による人の死傷があつた場合において、第七十二条（交通事故の場合は措置）第一項前段の規定に違反したときは、五年以下の懲役又は五十万円以下の罰金に処する。

**第四百七十七条の二** 前項の場合において、同項の人の死傷が当該運転者の運転に起因するものであるときは、十年以下の懲役又は百万円以下の罰金に処する。

**第四百七十七条の二** 次の各号のいずれかに該当する者は、五年以下の懲役又は百万円以下の罰金に処する。

**（一）** 第六十五条（酒気帯び運転等の禁止）第一項の規定に違反して車両等を運転した者で、その運転をした場合において酒に酔つた状態（アルコールの影響により正常な運転ができないおそれがある状態をいう。以下同じ。）にあつたもの

**（二）** 第六十五条（酒気帯び運転等の禁止）第二項の規定に違反した者（当該違反により当該車両等の提供を受けた者が酒に酔つた状態で当該車両等を運転した場合に限る。）

**（三）** 第六十六条（過労運転等の禁止）の規定に違反した者（麻薬、大麻、あへん、覚醒剤又は毒物及び劇物取締法（昭和二十五年法律第三百三号）第三条の三の規定に基づく政令で定める物の影響により正常な運転ができないおそれがある状態で車両等を運転した者に限る。）

**（四）** 第六十五条（酒気帯び運転等の禁止）第二項の規定に違反した者（当該違反により当該車両等の提供を受けた者が酒に酔つた状態で当該車両等を運転した場合に限る。）

**（一）** 第七十五条（自動車の使用者の義務等）第一項第三号の規定に違反して、酒に酔つた状態で自動車を運転することを命じ、又は容認したとき。

**（二）** 第七十五条（自動車の使用者の義務等）第一項第四号の規定に違反して、前項第三号に規定する状態で自動車を運転することを命じ、又は容認したとき。

**（三）** 第七十五条の十二（特定自動運行の許可）第一項の許可を受けないで（第七十五条の二十七（許可の取消し等）第一項又は第七十五条の二十八（許可の効力の仮停止）第一項の規定により当該許可の効力が停止されている場合を含む。）特定自動運行を行つたとき。

**（四）** 偽りその他不正の手段により第七十五条の十二（特定自動運行の許可）第一項又は第七十五条の十六（許可事項の変更）第一項の許可を受けたとき。

**（五）** 第七十五条の十六（許可事項の変更）第一項の規定に違反して特定自動運行計画を変更したとき。

**（六）** 第七十五条の二十六（特定自動運行実施者に対する指示）第一項の規定による公安委員会の指示に従わなかつたとき。

**（一）** 法令の規定による運転の免許を受けている者（第一百七条の二の規定により国際運転免許証等で自動車等を運転することができることとされている者を含む。）でなければ運転し、又は操縦することができないこととされている車両等を当該免許を受けないで（法令の規定により当該免許の効力が停止されている場合を含む。）又は国際運転免許証等を持しないで（第八十一条第二項第二号から第四号までのいずれかに該当している場合又は本邦に上陸をした日から起算して滞在期間が一年を超えている場合を含む。）運転した者

**（二）** 第六十四条（無免許運転等の禁止）第一項の規定に違反した者（当該違反により当該自動車又は一般原動機付自転車の提供を受けた者が同条第一項の規定に違反して当該自動車又は一般原動機付自転車を運転した場合に限る。）

三 第六十五条（酒気帯び運転等の禁止）第一項の規定に違反して車両等（軽車両を除く。次号において同じ。）を運転した者で、その運転をした場合において身体に政令で定める程度以上にアルコールを保有する状態にあつたもの

四 第六十五条（酒気帯び運転等の禁止）第二項の規定に違反した者（当該違反により当該車両等の提供を受けた者が身体に前号の政令で定める程度以上にアルコールを保有する状態で当該車両等を運転した場合に限るものとし、前条第一項第二号に該当する場合を除く。）

五 第六十五条（酒気帯び運転等の禁止）第三項の規定に違反して酒類を提供した者（当該違反により当該酒類の提供を受けた者が酒に酔つた状態で車両等を運転した場合に限る。）

六 第六十五条（酒気帯び運転等の禁止）第四項の規定に違反した者（その者が当該同乗した車両の運転者が酒に酔つた状態にあることを知りながら同項の規定に違反した場合であつて、当該運転者が酒に酔つた状態で当該車両を運転したときによる。）

七 第六十六条（過労運転等の禁止）の規定に違反した者（前条第一項第三号の規定に該当する者を除く。）

八 他の車両等の通行を妨害する目的で、次のいずれかに掲げる行為であつて、当該他の車両等に道路における交通の危険を生じさせるおそれのある方法によるものを作った者

九 第十七条（通行区分）第四項の規定の違反となるような行為

一〇 第二十四条（急ブレーキの禁止）の規定に違反する行為

一一 第二十六条（車間距離の保持）の規定の違反となるような行為

一二 第二十六条（進路の変更の禁止）第二項の規定の違反となるような行為

一三 第二十八条（追越しの方法）第一項又は第四項の規定の違反となるような行為

一四 第五十二条（車両等の灯火）第二項の規定に違反する行為

一五 第五十四条（警音器の使用等）第二項の規定に違反する行為

一六 第七十条（安全運転の義務）の規定に違反する行為

一七 第七十五条（最低速度）の規定の違反となるような行為

一八 第七十五条（停車及び駐車の禁止）第一項の規定の違反となるような行為

一九 偽りその他不正の手段により免許証又は国外運転免許証の交付を受けた者

二〇 次の各号のいずれかに該当する場合には、当該違反行為をした者は、三年以下の懲役又は五十万円以下の罰金に処する。

二一 第七十五条（自動車の使用者の義務等）第一項第一号の規定に違反したとき。

二二 第七十五条（自動車の使用者の義務等）第一項第三号の規定に違反したとき（当該違反により運転者が酒に酔つた状態で自動車を運転し、又は身体に前項第三号の政令で定める程度以上にアルコールを保有する状態で自動車を運転した場合に限るものとし、前条第二項第一号に該当する場合を除く。）

二三 第七十五条（自動車の使用者の義務等）第一項第四号の規定に違反したとき（前条第一項第二号に該当する場合を除く。）

二四 第百七十五条（共同危険行為等の禁止）の規定に違反した者は、二年以下の懲役又は五十万円以下の罰金に処する。

二五 第百七十五条（無免許運転等の禁止）第三項の規定に違反した者

二六 第六十五条（酒気帯び運転等の禁止）第三項の規定に違反して酒類を提供した者（当該違反により当該酒類の提供を受けた者が身体に第百七十五条の二の二第一項第三号の政令で定める程度以上にアルコールを保有する状態で車両等（軽車両を除く。）を運転した場合に限るものとし、同項第五号に該当する場合を除く。）

二七 第六十五条（酒気帯び運転等の禁止）第四項の規定に違反した者（当該同乗した車両（軽車両を除く。以下この号において同じ。）の運転者が酒に酔つた状態で当該車両を運転し、又は身体に第百七十五条の二の二第一項第三号の政令で定める程度以上にアルコールを保有する状態で当該車両を運転した場合に限るものとし、同項第六号に該当する場合を除く。）

三 第六十五条（酒気帯び運転等の禁止）第一項の規定に違反して車両等（軽車両を除く。次号において同じ。）を運転した場合において身体に政令で定める程度以上にアルコールを保有する状態にあつたもの

四 第五十五条（運転者の遵守事項）第五号の五の規定に違反し、よつて道路における交通の危険を生じさせた者

五 第八十九条（免許の申請等）第一項、第一百一条（免許証の更新及び定期検査）第一項若しくは第一百一条の二（免許証の更新の特例）第一項の質問票に虚偽の記載をして提出し、又は第百一条の五（免許を受けた者に対する報告徴収）若しくは第百七条の三の二（国際運転免許証等を所持する者に対する報告徴収）の規定による公安委員会の求めがあつた場合において虚偽の報告をした者

六 第七十二条（交通事故の場合の措置）第一項前段の規定に違反したときは、当該違反行為をした者は、一年以下の懲役又は三十万円以下の罰金に処する。

七 第百七十五条（五）次の各号のいずれかに該当する者は、一年以下の懲役又は十万円以下の罰金に処する。

一 第七十二条（交通事故の場合の措置）第一項前段の規定に違反した者（第百十七条第一項又は第二項に該当する者を除く。）

二 第百八条の三の四（講習通知事務の委託）第二項、第一百八条の七（秘密保持義務等）第一項、第一百八条の十八（秘密保持義務）又は第一百八条の三十一（都道府県交通安全活動推進センター）第五項の規定に違反した者

三 第七十五条（二十三（特定自動運行において交通事故があつた場合の措置）第一項前段、第二項又は第三項前段の規定に違反したとき（第百七条第三項の違反行為に該当する場合を除く。）は、当該違反行為をした者は、一年以下の懲役又は十万円以下の罰金に処する。

四 第百八条（五）次の各号のいずれかに該当する者は、六月以下の懲役又は十万円以下の罰金に処する。

一 第二十二条（最高速度）の規定の違反となるような行為をした者

二 第六十四条の二（十六歳未満の者による特定小型原動機付自転車の運転等の禁止）第一項の規定に違反した者

三 第六十四条の二（十六歳未満の者による特定小型原動機付自転車の運転等の禁止）第二項の規定に違反した者（当該違反により当該特定小型原動機付自転車の提供を受けた者が同条第一項の規定に違反して当該特定小型原動機付自転車を運転した場合に限る。）

四 第七十二条（運転者の遵守事項）第五号の五の規定に違反して無線通話装置を通話のために使用し、又は自動車若しくは原動機付自転車に持ち込まれた画像表示用装置を手で保持してこれに表示された画像を注視した者（第百七条の四第一項第二号に該当する者を除く。）

五 第八十五条（第一種免許）第五項から第十項までの規定に違反した者

六 第八十七条（仮免許）第二項後段の規定に違反して自動車を運転した者

七 第五十七条（乗車又は積載の制限等）第一項の規定に違反して積載物の重量の制限を超える積載をして車両を運転したとき。

八 第五十八条の五（過積載車両の運転の要求等の禁止）第二項の規定による警察署長の命令に従わなかつたとき。

九 第七十五条（自動車の使用者の義務等）第一項第二号又は第五号の規定に違反したとき。

一〇 第七十五条（自動車の使用者の義務等）第一項第六号の規定に違反して、第一号に規定する積載をして自動車を運転することを命じ、又は容認したとき。

一一 第七十六条（禁止行為）第一項又は第二項の規定に違反したとき。



二 第七十五条の十六（許可事項の変更）第三項の規定による届出をしないで、若しくは虚偽の届出をして、同条第一項ただし書に規定する変更をし、又は同条第四項の規定による届出をせず、若しくは虚偽の届出をしたとき。

三 第七十五条の二十五（報告及び検査等）第一項の規定による報告若しくは資料の提出をせざるときは虚偽の報告若しくは資料の提出をし、又は同項の規定による検査を拒み、妨げ、若しくは虚偽の陳述をしたとき。

三 第百十九条の二の四 次の各号のいずれかに該当する行為（その行為が車両を離れて直ちに運転することができない状態にする行為に該当するとき又はその行為をした場合において車両を離れて直ちに運転することができる状態にする行為をしたときに限る。）をした者は、十五万円以下の罰金に処する。

一 第四十四条（停車及び駐車を禁止する場所）第一項、第四十五条（駐車を禁止する場所）第一項若しくは第二項、第四十八条（停車又は駐車の方法の特例）、第四十九条の三（時間制限駐車区間における駐車の方法等）第三項又は第四十九条の四（高齢運転者等専用時間制限駐車区間における駐車の禁止）の規定の違反となるような行為をした者は、十五万円以下の罰金に処する。

二 第四十七条（停車又は駐車の方法）第二項若しくは第三項又は第七十五条の八（停車及び駐車の禁止）第一項の規定の違反となるような行為をした者は、十万円以下の罰金に処する。

三 第七十五条（自動車の使用者の義務等）第一項第七号の規定に違反したときは、当該違反行為をした者は、十五万円以下の罰金に処する。

三 過失により第一項第一号の罪を犯した者は、十五万円以下の罰金に処する。

三 百十九条の三 次の各号のいずれかに該当する者（第一号から第四号までに掲げる者にあつては、前条第一項の規定に該当する者を除く。）は、十万円以下の罰金に処する。

一 第四十四条（停車及び駐車を禁止する場所）第一項、第四十五条（駐車を禁止する場所）第一項若しくは第二項、第四十八条（停車又は駐車の方法の特例）、第四十九条の三（時間制限駐車区間における駐車の方法等）第二項若しくは第三項、第四十九条の四（高齢運転者等専用時間制限駐車区間における駐車の禁止）又は第四十九条の五（時間制限駐車区間ににおける駐車の特例）後段の規定の違反となるような行為をした者（第四十九条の三第二項の規定の違反となるような行為をした者にあつては、次号に該当する者を除く。）

二 第四十九条第一項のペーリング・チケット発給設備を設置する時間制限駐車区間ににおいて、車両を駐車した時から第四十九条の三第二項の道路標識等により表示されている時間をを超えて引き続き駐車した者（車両を駐車した時から当該表示されている時間を経過する時までの間に当該ペーリング・チケット発給設備によりペーリング・チケットの発給を受けた者を除く。）

三 第四十九条の三（時間制限駐車区間ににおける駐車の方法等）第四項の規定に違反した者

四 第四十七条（停車又は駐車の方法）又は第七十五条の八（停車及び駐車の禁止）第一項の規定の違反となるような行為をした者（大型自動二輪車等の運転者の遵守事項）第四項から第七項までの規定に違反した者

五 第七十五条の四（大型自動二輪車等の運転者の遵守事項）第四項から第七項までの規定に違反した者

六 第七十五条の三（交通情報の提供）第一項の規定による報告をせず、若しくは資料の提出をせざる。第一第五十一条の五（報告徵収等）第一項の規定による報告をせず、若しくは虚偽の報告をしたとき。

七 第七十五条の三（交通情報の提供）第一項の規定による報告をせず、若しくは虚偽の資料を提出したとき。

三 第百二十二条（交通事故の場合は措置）第一項の規定による警察官の命令に従わなかつた者

三 第七十五条の四（最低速度）の規定の違反となるような行為をした者

三 第七十五条の十一（故障等の場合は措置）第一項（第七十五条の二十四（特定自動運行の特則）の規定により読み替えて適用する場合を含む。）の規定に違反した者

三 第七十五条の十二（事故の場合は措置）第一項（第七十五条の二十四（特定自動運行の特則）の規定により読み替えて適用する場合を含む。）の規定に違反した者

三 第七十五条の十三（乗車又は積載の方法）第一項若しくは第五十九条（自動車の牽引制限）第一項若しくは第二項の規定に違反したとき。

三 第七十五条の十四（乗車又は積載の方法）第一項（第八十七条（仮免許）第三項の規定に違反した者）の規定に違反した者

三 第七十五条の十五（乗車又は積載の方法）第一項（免許証、国外運転免許証又は国際運転免許証等を他人に譲り渡し、又は貸与した者）の規定に違反した者

三 第七十五条の十六（乗車又は積載の方法）第一項（高齢運転者等標章を他人に譲り渡し、又は貸与した者）の規定に違反した者

三 第七十五条の十七（乗車又は積載の方法）第一項（五百九十五条（乗車又は積載の方法）第一項若しくは第五十九条（自動車の牽引制限）第一項若しくは第二項の規定に違反したとき）の規定に違反した者

三 第七十五条の十八（乗車又は積載の方法）第一項（五百九十六条（警察官等の交通規制）第二項（第七十五条の二十四（特定自動運行の特則）の規定により読み替えて適用する場合を含む。）の規定による警察官の禁止、制限又は命令に従わなかつた者）の規定に違反した者

二 第二十五条（道路上に出る場合の方法）第三項、第二十六条（車間距離の保持）、第二十六条の二（進路の変更の禁止）第二項、第二十七条（他の車両に追いつかれた車両の義務）、第三十一条の二（乗合自動車の発進の保護）、第三十二条（割込み等の禁止）、第三十四条（左折又は右折）第六項（第三十五条（指定通行区分）第二項において準用する場合を含む。）、第三十六条（交差点における他の車両等との関係等）第一項、第三十七条（交差点における他の車両等との関係等、第四十条（緊急自動車の優先）、第四十一条の二（消防用車両の優先等）第一項若しくは第二項又は第七十五条の六（本線車道に入る場合等における他の自動車との関係）の規定の違反となるような行為をした者（第二十六条の規定の違反となるよう行為をした者にあつては、第一百九条第一項第四号に該当する者を除く。）

三 第二十六条（車両通行帯）、第二十条の二（路線バス等優先通行帯）第一項、第二十六条の二（進路の変更の禁止）第三項、第三十五条（指定通行区分）第一項又は第七十五条の八の二（重被牽引車を牽引する牽引自動車の通行区分）第二項から第四項までの規定の違反となるような行為をした者

三 第二十五条（横断等の禁止）第二項の規定の違反となるような行為をした者

三 第五十五条（横断等の禁止）第二項の規定による警察官の停止に従わず、又は検査を拒み、若しくは妨げた者

三 第六十三条（整備不良車両の運転の禁止）の規定に違反して軽車両を運転させ、若しくは運転した者又は第六十三条の九（自転車の検査等）第一項の規定による警察官の命令に従わなかつた者

三 第六十三条の十（自転車の検査等）第二項の規定による警察官の命令に従わなかつた者

三 第六十三条（自転車の検査等）第一号、第四号から第五号まで、第五号の三、第五号の四若しくは第六号、第七十二条（自動車等の運転者の遵守事項）、第七十三条（妨害の禁止）（第七十五条の二十三（特定自動運行において交通事故があつた場合の措置）第六項において読み替えて準用する場合を含む。）、第七十六条（禁止行為）第四項又は第九十五条（免許証の携帯及び提示義務）第二項（第七十七条の三（国際運転免許証等の携帯及び提示義務）後段において準用する場合を含む。）の規定に違反した者

三 第七十二条（交通事故の場合は措置）第二項の規定による警察官の命令に従わなかつた者

三 第七十五条の四（最低速度）の規定の違反となるような行為をした者

三 第七十五条の十一（故障等の場合は措置）第一項（第七十五条の二十四（特定自動運行の特則）の規定により読み替えて適用する場合を含む。）の規定に違反した者

三 第八十七条（仮免許）第三項の規定に違反した者

三 第八十七条（免許証、国外運転免許証又は国際運転免許証等を他人に譲り渡し、又は貸与した者）の規定に違反した者

三 第五十五条（乗車又は積載の方法）第一項若しくは第五十九条（自動車の牽引制限）第一項若しくは第二項の規定に違反したとき。

三 第七十五条の三（安全運転管理等）第一項（五百九十六条（警察官等の交通規制）第二項（第七十五条の二十四（特定自動運行の特則）の規定により読み替えて適用する場合を含む。）の規定による警察官の命令に従わなかつたとき）の規定に違反した者



3 警察官は、第一項の規定による告知をしたときは、当該告知に係る反則行為が行われた地を管轄する都道府県警察の警察本部長に速やかにその旨を報告しなければならない。ただし、警察法第六十条の二又は第六十六条第二項の規定に基づいて、当該警察官の所属する都道府県警察の管轄区域以外の区域において反則行為をしたと認めた者に対し告知をしたときは、当該警察官の所属する都道府県警察の警察本部長に報告しなければならない。

4 第百四十四条の四第一項に規定する交通巡視員は、第一百九十九条の二の四第一項若しくは第三項又は第一百九十九条の三第一項第一号から第四号まで若しくは第三項の罪に当たる行為をした反則者があると認めるときは、第一項の例により告知するものとし、当該告知をしたときは、前項の例により報告しなければならない。

#### (通告)

**第一百二十七条** 警察本部長は、前条第三項又は第四項の報告を受けた場合において、当該報告に係る告知を受けた者が当該告知に係る種別に属する反則行為をした反則者であると認めるときは、その者に対する理由を明示して当該反則行為が属する種別に係る反則金の納付を書面で通告するものとする。この場合においては、その者が当該告知に係る出頭の期日及び場所に出頭した場合並びにその者が第一百二十九条第一項の規定による仮納付をしている場合を除き、当該通告書の送付に要する費用の納付をあわせて通告するものとする。

2 警察本部長は、前条第三項又は第四項の報告を受けた場合において、当該報告に係る告知を受けた者が当該告知に係る種別に属する反則行為をした反則者でないと認めるときは、その者に対する理由を明示して当該反則行為が属する種別に係る反則金の納付を書面で通告するものとする。この場合において、その者が当該告知に係る出頭の期日及び場所に出頭した場合並びにその者が第一百二十九条第一項の規定による仮納付をしている場合を除き、当該通告書の送付に要する費用の納付をあわせて通告するものとする。

3 第一項の規定による通告は、第一百二十九条第一項に規定する期間を経過した日以後において、すみやかに行なうものとする。

#### (第三節 反則金の納付及び仮納付)

**第一百二十八条** 前条第一項又は第二項後段の規定による通告を受けた者にあつては、反則金及び通告書の送付に要する費用。以下この条において同じ。の納付は、当該通告を受けた日の翌日から起算して十日以内（政令で定めるやむを得ない理由のため当該期間内に反則金を納付することができなかつた者にあつては、当該事情がやんただ日の翌日から起算して十日以内）に、政令で定めるところにより、國に對してしなければならない。前項の規定により反則金を納付した者は、当該通告の理由となつた行為に係る事件について、公訴を提起されず、又は家庭裁判所の審判に付されない。

#### (仮納付)

**第一百二十九条** 第百二十六条第一項又は第四項の規定による告知を受けた者は、当該告知を受けた日の翌日から起算して七日以内に、政令で定めるところにより、当該告知された反則行為の種別に係る反則金に相当する金額を仮に納付することができる。ただし、第一百二十七条第二項前段の規定による通知を受けた後は、この限りでない。

2 第百二十七条第一項前段の規定による仮納付をした者は、前項の規定による仮納付をした者については、政令で定めるところにより、公示して行なうことができる。

3 第一項の規定による仮納付をした者について当該告知に係る第一百二十七条第一項前段の規定による通知があつたときは、当該仮納付をした者は、前条第一項の規定により当該通告に係る反則金を納付した者とみなし、当該反則金に相当する金額の仮納付は、同項の規定による反則金の納付とみなす。

4 警察本部長は、第一項の規定による仮納付をした者に対し、第一百二十七条第二項前段の規定による通知をしたときは、当該仮納付に係る金額を速やかにその者に返還しなければならない。

(期間の特例)

**第一百二十九条の二** 第百二十八条第一項及び前条第一項に規定する期間の末日が日曜日その他政令で定める日に当たるときは、これらの日の翌日を当該期間の末日とみなす。

#### (第四節 反則者に係る刑事事件等)

##### (反則者に係る刑事事件)

第一 第百二十六条第一項各号のいずれかに掲げる場合に該当するため、同項又は同条第四項の規定による告知をしなかつたとき。

二 その者が書面の受領を拒んだため、又はその者の居所が明らかでないため、第百二十六条第一項若しくは第四項の規定による告知又は第百二十七条第一項若しくは第二項後段の規定による通告をすることができないなかつたとき。

##### (反則者に係る保護事件)

**第一百三十条の二** 家庭裁判所は、前条本文に規定する通告があつた事件について審判を開始した場合において、相当と認めるときは、期限を定めて反則金の納付を指示することができる。この場合において、その反則金の額は、第百二十五条第三項の規定にかかわらず、別表第二に定める金額の範囲内において家庭裁判所が定める額とする。

2 前項の規定による指示の告知は、書面で行うものとし、この書面には、同項の規定によつて定めた期限及び反則金の額を記載するものとする。

3 第百二十八条の規定は、第一項の規定による指示に係る反則金の納付について準用する。この場合において、同条第一項中「当該通告を受けた日の翌日から起算して十日以内」とあるのは、「第百三十条の二第一項の規定により定められた期限まで」と読み替えるものとする。

#### (第五節 雜則)

##### (方面本部長への権限の委任)

**第一百三十二条** この章の規定により道警察本部長の権限に属する事務は、政令で定めるところにより、方面本部長に行なわせることができる。

##### (政令への委任)

**第一百三十三条** この章に定めるもののほか、第一百二十六条第一項又は第百二十七条第一項若しくは第二項に規定する書面の記載事項その他この章の規定の実施に関し必要な事項は、政令で定める。

##### (施行期日)

**第一条** この法律（以下「新法」という。）は、公布の日から起算して六月をこえない範囲内において政令で定める日から施行する。

##### (道路交通締法等の廃止)

**第二条** 道路交通取締法（昭和二十二年法律第百三十号。以下「旧法」という。）及び道路交通取締法施行令（昭和二十八年政令第二百六十一号。以下「旧令」という。）は、廃止する。

##### (経過規定)

**第四条** 前条第一項又は第二項の場合において、旧令の規定により公安委員会が運転免許についてした自動車の種類その他の限定又は運転免許若しくは運転許可について付した条件で現にその効力を有するものは、それぞれ新法の相当規定により公安委員会が当該免許について付した条件とみなす。

**第六条** 新法の施行の際、現に旧令第五十三条第一項第一号に掲げる公安委員会の指定した自動車練習所その他これに類する施設の発行する卒業証明書を有する者で卒業後一年を経過しないもののみ。

は、新法第九十九条第一項の適用については、当該施設を卒業して一年を経過しない間は、同項第一号に掲げる指定自動車教習所の発行する卒業証明書を有する者で当該指定自動車教習所を卒業した日から起算して一年を経過しないものとみなす。

**第七条** 附則第三条に規定するもののほか、新法の施行の際、旧法の規定により公安委員会がした道路の通行の禁止若しくは制限又は旧法若しくは旧令の規定により公安委員会がした運転免許若しくは運転許可の取消し若しくは停止その他の处分で現にその効力を有するものは、それぞれ新法の相当規定により公安委員会がした処分とみなす。この場合において、当該処分に期間が定められているときは、その期間は、旧法又は旧令の規定により当該処分がされた日から起算するものとする。

**第八条** 新法の施行の際、現に旧法又は旧令の規定により公安委員会に対してされている運転免許の申請（十八歳未満の者がした小型自動四輪車免許に係る申請を除く。以下この条において同じ。）、届出その他の手続は、それぞれ新法の相当規定により公安委員会に對してされた手続とみなす。この場合において、運転免許の申請、運転免許若しくは運転許可証の再交付の申請又は運転免許若しくは運転許可証の記載事項の変更に係る届出を受理した公安委員会が当該手続を了した者の住所地を管轄するものでないときは、当該公安委員会は、新法の施行後すみやかに当該手続に係る書類をその者の住所地を管轄する公安委員会に引き継がなければならない。

**第九条** 新法の施行の際、旧法第九条第六項（第九条の二第四項において準用する場合を含む。）の規定により公安委員会がした聴聞又は聴聞の手続については、これを新法第百四条の規定により公安委員会がした聴聞又は聴聞の手続とみなし、当該公安委員会は、新法の施行後すみやかに当該手続を了した者の住所地を管轄する公安委員会において、当該処分をした公安委員会が当該処分に係る者の住所地を管轄するものでないときは、当該公安委員会は、すみやかに当該処分をした旨をその者の住所地を管轄する公安委員会に通知しなければならない。

**第十一条** 新法第九十条第一項及び第一百三条第二項（同項第一号に係る部分に限る。）の規定の適用については、自動車及び原動機付自転車の運転に係る旧法若しくは旧令の規定又はこれらの規定に基づく処分に違反した者は、新法の相当規定又はこれに基づく処分をすることができる。この場合は、当該公安委員会が当該処分をした旨をその者の住所地を管轄するものでないときは、当該公安委員会は、すみやかに当該処分をした旨をその者の住所地を管轄する公安委員会に通知しなければならない。

**第十二条** 新法の施行の際、現に旧法又は旧令の規定により警察署長がした許可その他の処分で現にその効力を有するものは、それぞれ新法の相当規定により警察署長がした処分とみなし、当該許可に係る許可証は、新法の相当規定による許可証とみなす。この場合において、当該処分に期間が定められているときは、その期間は、旧法又は旧令の規定により当該処分がされた日から起算するものとする。

**第十三条** 新法の施行の際、現に旧法又は旧令の規定により警察署長がした処分とみなし、当該許可の手續は、それぞれ新法の相当規定により警察署長に對してされた手續とみなす。

**第十四条** 新法の施行前にした行為に対する罰則の適用については、なお従前の例による。

（交通安全対策特別交付金）

国は、当分の間、交通安全対策の一環として、道路交通安全施設の設置及び管理に要する費用で政令で定めるものに充てるため、都道府県及び市町村（特別区を含む。以下同じ。）に対し、交通安全対策特別交付金（以下「交付金」という。）を交付する。

2 交付金の額は、第一百二十九条第一項（第一百三十条の二第三項において準用する場合を含む。以下この項において同じ。）の規定により納付された反則金（第一百二十九条第三項の規定により反則金の納付とみなされる同条第一項の規定による仮納付に係るものと含む。以下この条及び附則第十八条第一項において「反則金等」という。）に係る収入額に相当する金額に当該金額に係る余裕金の運用により生じた利子に相当する金額を加えた額（次項第一号及び附則第十八条第一項において「反則金收入相当額等」という。）から次の各号に掲げる額の合算額を控除した額とする。

一 第百二十九条第四項の規定による返還金に相当する額

二 第百二十七条第一項後段に規定する通告書の送付に要する費用（次項第二号ロ及び附則第十九条において「通告書送付費」という。）に係る収入額に相当する額として政令で定めるところにより算定した額（以下「通告書送付費支出金相当額」という。）

三 過誤納に係る反則金等の返還金に相当する額

ハ 前年度の二月から当該年度の一月までの期間に係る過誤納に係る反則金等の返還金に相当する額

イ 前年度の二月から当該年度の一月までの期間に係る第百二十九条第四項の規定による返還金に相当する額

ロ 前年度の二月から当該年度の一月までの期間に係る反則金等の返還金に相当する額

ハ 前年度の二月から当該年度の一月までの期間に係る過誤納に係る反則金等の返還金に相当する額

イ 前年度の二月から当該年度の一月までの期間に係る第百二十九条第四項の規定による返還金の見込額

ロ 前年度の二月から当該年度の一月までの期間に係る反則金等の返還金の見込額

ハ 前年度の二月から当該年度の一月までの期間に係る過誤納に係る反則金等の返還金の見込額

（交付の基準）

**第十七条** 都道府県及び市町村ごとの交付金の額は、当該都道府県及び市町村の区域における交通事故の発生件数、人口の集中度その他の事情を考慮して政令で定めるところにより算定した額とする。

**第十八条** 交付金は、毎年度、次の表の上欄に掲げる時期に、それぞれ同表の下欄に定める額を交付する。

月	九	期	時	付	交
前年度の二月から当該年度の七月までの期間の収納に係る反則金收入相当額等に当該年度の前年度以前の年度において交付すべきであった交付金の額でまだ交付していない額を加算した額から当該期間に係る第百二十九条第四項の規定による返還金に相当する額の合算額を控除した額に相当する額（附則第十六条第三項第一号に掲げる額に当該年度の前年度以前の年度において交付すべきであつた交付金の額でまだ交付していない額を加算した額（以下この表において「交付金見込額」という。）を限度とする。）を基礎として政令で定める額					
当該年度の八月から一月までの期間の収納に係る反則金收入相当額等から当該期間に係る第百二十九条第四項の規定による返還金に相当する額、通告書送付費支出金相当額及び過誤納に係る反則金等の返還金に相当する額の合算額を控除した額に相当する額（交付金見込額に交付した額を控除した額を限度とする。）を基礎として政令で定める額					

2 前項に規定する各交付時期ごとに交付することができなかつた金額があるときは、又は各交付時期において交付すべき額を超えて交付した金額があるときは、それぞれ当該金額を、次の交付



- 11 この法律の施行の際、旧法の規定により旧法の特殊自動車免許、軽自動車免許又は特殊自動車第二種免許に係る事案について公安委員会がした聴聞又は聴聞の手続については、それぞれ次の各号に定める区分により、これらを新法の相当規定により大型特殊自動車免許、軽自動車免許、小型特殊自動車免許、第一種原動機付自転車免許、第二種原動機付自転車免許又は大型特殊自動車第一種免許に係る事案について公安委員会がした聴聞又は聴聞の手続とみなす。
- 12 一 特殊自動車免許については、大型特殊自動車免許  
二 軽自動車免許（次号から第五号までに掲げるものを除く。）については、軽自動車免許及び小型特殊自動車免許  
三 軽自動車免許で旧法第九十一条の規定により運転することができる自動車等の種類が新法の規定による小型特殊自動車及び原動機付自転車に限定されているものについては、小型特殊自動車免許及び第二種原動機付自転車免許  
四 軽自動車免許で旧法第九十一条の規定により運転することができる自動車等の種類が新法の規定による小型特殊自動車及び第一種原動機付自転車に限定されているものについては、小型特殊自動車免許及び第一種原動機付自転車免許  
五 軽自動車免許で旧法第九十一条の規定により運転することができる自動車等の種類が新法の規定による小型特殊自動車に限定されているものについては、小型特殊自動車免許  
六 特殊自動車第二種免許について、大型特殊自動車第二種免許  
13 一 特殊自動車免許については、大型特殊自動車免許  
二 軽自動車免許（次号から第五号までに掲げるものを除く。）については、軽自動車免許及び小型特殊自動車免許  
三 軽自動車免許で旧法第九十一条の規定により運転することができる自動車等の種類が新法の規定による小型特殊自動車及び原動機付自転車に限定されているものについては、小型特殊自動車免許及び第二種原動機付自転車免許  
四 軽自動車免許で旧法第九十一条の規定により運転することができる自動車等の種類が新法の規定による小型特殊自動車及び第一種原動機付自転車に限定されているものについては、小型特殊自動車免許及び第一種原動機付自転車免許  
五 軽自動車免許で旧法第九十一条の規定により運転することができる自動車等の種類が新法の規定による小型特殊自動車に限定されているものについては、小型特殊自動車免許  
14 一 この法律の施行の際現に旧法第八十八条第一項第二号、第三号若しくは第四号又は旧法第一百三十六条各号のいずれかに該当する者で同条第一項又は第二項の規定による運転免許の取消し又は効力の停止を受けていないものに係る当該事由を理由とする運転免許の取消し又は効力の停止については、新法第一百三条第一項及び第二項の規定にかかるらず、なお従前の例による。二 この法律の施行の際現に旧法第八十八条第一項第二号、第三号若しくは第四号又は旧法第一百三十六条各号のいずれかに該当する者で同条第一項又は第二項の規定による運転免許の取消し又は効力の停止を受けていないものに係る当該事由を理由とする運転免許の取消し又は効力の停止については、新法第一百三条第三項の規定による講習を終了していない者に係る講習及び同項後段の規定による期間の短縮を受けない者に係る期間の短縮については、新法第一百三十八条の規定にかかるらず、なお従前の例による。

17 この法律の施行前にした行為に対する罰則の適用については、なお従前の例による。

#### 附 則（昭和四〇年六月一日法律第九六号）抄

**第一条** この法律中第一条及び附則の規定は公布の日から起算して三月を経過した日から、第一条の規定は同日から三年を経過した日から施行する。

（施行期日）

**第二条** 第一条の規定による改正前の道路交通法（以下「旧法」という。）の規定による運転免許で次の表の上欄に掲げるものは、それぞれ同表の下欄に掲げる同条の規定による改正後の道路交通法（以下「新法」という。）の規定による運転免許

旧法の規定による運転免許	新法の規定による運転免許
自動三輪車免許	普通自動車免許
第一種原動機付自転車免許	原動機付自転車免許
第二種原動機付自転車免許	自動二輪車免許
自動三輪車第二種免許	普通自動車第二種免許

2 第一条の規定の施行の日（以下「施行日」という。）前に旧法の規定によつてした運転免許に係る処分又は手続で前項の表の上欄に掲げる運転免許に係るものは、新法の相当規定によりそれが同表の下欄に掲げる運転免許に係る処分又は手続としてされたものとみなす。

（大型自動車免許等に関する特例）

**第三条** 第一条の規定の施行の際（以下「改正法の施行の際」という。）現に旧法の規定による運転免許（小型特殊自動車免許、第一種原動機付自転車免許及び仮運転免許を除く。）を受けている者又は施行日前にこれららの運転免許若しくはこれららに相当する新法の規定による運転免許を受けたものとみなす。

2 改正法の施行の際現に旧法の規定による大型特殊自動車免許、自動二輪車免許若しくは大型特殊自動車第二種免許を受けている者又は施行日前にこれらの運転免許に係る運転免許試験に合格したことにより同日以後にこれららの運転免許を受けた者は、当該運転免許を受けている間（道路交通法第九十条第三項又は第一百三条第二項若しくは第四項の規定により当該運転免許の効力が停止されている間を除く。）は、新法の規定により同日以後にこれららの運転免許を受けたものとみなす。

（牽引免許等に関する特例）

3 第四条 改正法の施行の際大型特殊自動車で牽引されるための構造及び装置を有する車両を牽引するための構造及び装置を有し、かつ、もっぱら牽引のために使用されるもの（以下「牽引車」という。）に係る旧法の規定による大型特殊自動車免許を現に受けている者又は施行日前に当該運転免許に係る運転免許試験に合格したことにより同日以後に当該運転免許を受けた者は、新法の規定による大型自動車免許及び牽引免許を受けたものとみなす。

2 改正法の施行の際牽引車に係る旧法の規定による大型特殊自動車第二種免許を現に受けている者又は施行日前に当該運転免許に係る運転免許試験に合格したことにより同日以後に当該運転免許を受けた者は、新法の規定による大型自動車免許及び牽引免許を受けたものとみなす。

3 改正法の施行の際牽引車に係る旧法の規定による大型特殊自動車第二種免許を現に受けている者又は施行日前に当該運転免許に係る運転免許試験に合格したことにより同日以後に当該運転免許を受けた者は、新法の規定による大型自動車免許及び牽引免許を受けたものとみなす。

2 改正法の施行の際牽引車に係る大型特殊自動車第二種免許を現に受けている者又は施行日前に当該運転免許を受けた者は、新法の規定による大型自動車免許及び牽引第二種免許を受けたものとみなす。

1 改正法の施行の際牽引車に係る大型特殊自動車免許及び牽引免許を受けた者は、新法の規定による運転免許を受けた者は、同日から六月間は、その者が牽引車によつて牽引されるための

第五条 施行日から三年を経過する際における運転免許で次の表の上欄に掲げるものは、それぞれを運転する場合を除き、牽引第二種免許を受けたものとみなす。 (三年経過後における軽自動車免許及び自動三輪車免許に関する経過規定)
同表の下欄に掲げる運転免許とみなす。
第六条 この法律の施行前にした行為に対する罰則の適用については、なお従前の例による。
附 則 (昭和四二年八月一日法律第一二六号)
<p>一 この法律の規定は、次の各号に掲げる区分に従い、当該各号に掲げる日から施行する。</p> <p>二 第一条の規定中道路交通法目次の改正規定(「第一百四十四条」を改める部分に限る)、同法第七十五条の四の改正規定及び同法第一百四十四条の次に一条を加える改正規定 この法律の公布日より施行する改正規定を除く。次項から附則第五項までにおいて同じ。)及び次項から附則第五項までの規定 この法律の公布の日から起算して三月を経過した日</p> <p>三 第二条並びに附則第六項から第十一項まで、第十三項及び第十四項の規定 昭和四十三年七月一日</p> <p>四 第三条及び附則第十二項の規定 道路交通法の一部を改正する法律(昭和四十年法律第九十号)第二条の規定の施行の日(昭和四十三年九月一日)</p> <p>五 第一条の規定の施行の際に大型自動車免許(以下「大型免許」という。)を受けている者で、大型免許、普通自動車免許又は大型特殊自動車免許によって運転することができる自動車の運転の経験の期間が通算して二年に達しているものは、同条の規定による改正後の道路交通法(以下「新法」という。)第八十五条第五項の規定の適用については、これらの自動車の運転の経験の期間が通算して三年に達しているものとみなす。</p> <p>六 第一条の規定の施行の際に大型免許を受けている者及び大型免許の運転免許試験に合格していない者に係る大型自動車の運転及び大型免許については、新法第八十五条第六項及び第八十八条第一条第一項一号の規定にかかるらず、なお従前の例による。</p> <p>七 新法第一百三条の二第一項の規定は、第一条の規定の施行前に交通事故を起こした者で当該交通事故に關係し同項各号のいずれかに該当することとなつたものについては、適用しない。</p> <p>八 第一条の規定の施行前にした行為に対する罰則の適用については、なお従前の例による。</p> <p>九 第二条の規定による改正後の道路交通法第九章及び別表の規定は、同条の規定の施行前にした行為については、適用しない。</p> <p>一〇 第三条の規定の施行前にした軽自動車に係る反則行為は、同条の規定による改正後の道路交通法第九章及び別表の規定の適用については、普通自動車に係る反則行為とみなす。</p> <p>一一 この法律は、公布の日から起算して三月をこえない範囲内において政令で定める日から施行する。</p> <p>一二 この法律の施行前に改正前の道路交通法(以下「旧法」という。)第五十二条第二項の規定により行なつた措置に要した費用については、改正後の道路交通法(以下「新法」という。)第五十二条第七項の規定は、適用しない。</p>

3 この法律の施行前に旧法第九十条第一項ただし書の規定による運転免許（以下「免許」とい  
う。）の拒否の基準、同条第三項の規定による免許の取消しの基準又は旧法第三百三十二条第二項若し  
くは第四項の規定による免許の取消しの基準に該当したことを理由とするこれらの処分を受けた  
後に免許を与えない期間については、新法第八十八条第一項第五号及び第六号、第九十条第四項  
並びに第三百三十六条の規定にかかるわらず、なお従前の例による。

4 この法律の施行前に旧法第一百七条の五第一項の規定又は同条第八項において準用する旧法第一百  
三条第四項の規定による自動車等の運転の禁止の基準に該当したことを理由とする自動車等の運  
転の禁止の期間については、なお従前の例による。

5 この法律の施行前に交通事故を起こしたことなどを理由とする新法第三百三十二条第一項第三号（新  
法第一百七条の五第九項において準用する場合を含む。）の規定による仮停止又は仮禁止について  
は、なお従前の例による。

6 この法律の施行前にした行為に対する罰則の適用については、なお従前の例による。

7 この法律の施行前にした反則行為に関する処理手続については、新法第九章の規定にかかるわら  
ず、なお従前の例による。

附 則（昭和四五年一二月二五日法律第一四三号）

この法律は、公布の日から起算して六月をこえない範囲内において政令で定める日から施行す  
る。

附 則（昭和四六年五月三一日法律第八八号）抄

（施行期日等）

第一条 この法律は、昭和四六年七月一日から施行する。

附 則（昭和四六年五月三一日法律第八八号）抄

（施行期日等）

第一条 この法律は、公布の日から起算して八月をこえない範囲内において政令で定める日から施行す  
る。

附 則（昭和四六年六月一一日法律第九八号）抄

（施行期日等）

第一条 この法律は、公布の日から起算して六月を経過した日から施行する。

附 則（昭和四六年六月二一日法律第九八号）抄

（施行期日）

第一条 この法律は、公布の日から起算して六月をこえない範囲内において政令で定める日から施行す  
る。

第二条 第二十四条並びに第二十七条並びに附則第八項から第十四項まで、第十九項、第二十一項及び  
第二十七項 公布の日から起算して六月を経過した日から施行する。

附 則（昭和四六年六月二一日法律第九八号）抄

（施行期日）

第一条 この法律は、公布の日から起算して六月をこえない範囲内において政令で定める日から施行す  
る。

第二条 第二十四条並びに第二十七条並びに附則第八項から第十四項まで、第十九項、第二十一項及び  
第二十七項 公布の日から起算して六月を経過した日から施行する。

附 則（昭和四六年六月二一日法律第九八号）抄

（施行期日）

第一条 この法律は、公布の日から起算して六月をこえない範囲内において政令で定める日から施行す  
る。

第二条 改正前の道路交通法（以下この条において「旧法」という。）の規定に基づく交通の規制  
に係る禁制、制限又は指定で、この法律の施行の際現にその効力を有し、かつ、改正後の道路交通  
法（以下この条において「新法」という。）の規定に基づく交通の規制に相当するものは、当該交通の規制とみなす。  
この法律の施行前に旧法第五十一条第二項、第三項、第五項又は第六項の規定により行なつた  
措置に要した費用の徴収については、新法第五十一条第八項の規定は、適用しない。

この法律の施行現に大型自動車免許を受けている者で、大型自動車免許、普通自動車免許  
又は大型特殊自動車免許によって運転する者で、大型自動車免許、普通自動車免許して、三



定がなお効力を有するものとした場合に同項の規定により昭和五十九年度又は昭和五十九年度において加算すべきであつた額に相当する額として「一般会計から繰り入れられる額」と、「同法附則第十六条」とあるのは「道路交通法附則第十六条」と、「返還金、同法」とあるのは「返還金、同法」である。昭和五十八年改正法附則第四条の規定による改正前の昭和四十二年改正法附則第八項の規定がなお効力を有するものとした場合に同項の規定により昭和五十九年度又は昭和五十九年度において同法附則第十八条第一項の表九月の項中「前年度の三月及び当該年度」とあるのは「当該年度」である。附則第十八条第一項の表九月の項中「前年度の三月及び当該年度」とあるのは「当該年度」と、「政令で定める額」とあるのは「政令で定める額（地方交付税法等の一部を改正する法律（昭和五十八年法律第三十六号）附則第四条の規定による改正前の道路交通法の一部を改正する法律（昭和四十二年法律第二百一十六号）附則第八項の規定がなお効力を有するものとした場合に、同項の規定により昭和五十九年度において加算すべきであるときは当該政令で定める額に当該加算すべきであつた額に相当する額として一般会計から交付税及び譲与税配付金特別会計の交通安全対策特別交付金勘定の歳入に繰り入れられる額を加算した額に相当する額とし、同項の規定により同年度において控除すべきであるときは当該政令で定める額から当該控除すべきであった額に相当する額として同勘定から一般会計の歳入に繰り入れる額を控除した額に相当する額とする。」とする。

3 昭和五十九年度に限り、新道路交通法附則第十八条第一項の表九月の項中「政令で定める額」とあるのは、「政令で定める額（地方交付税法等の一部を改正する法律（昭和五十八年法律第三十六号）附則第四条の規定による改正前の道路交通法の一部を改正する法律（昭和四十二年法律第二百一十六号）附則第八項の規定がなお効力を有するものとした場合に、同項の規定により昭和五十九年度において加算すべきであつた額に相当する額として一般会計から交付税及び譲与税配付金特別会計の交通安全対策特別交付金勘定の歳入に繰り入れられる額を加算した額に相当する額とし、同項の規定により同年度において控除すべきであるときは当該政令で定める額から当該控除すべきであった額に相当する額とする。」とする。

**第十一条** 附則第一条から前条までに定めるもののほか、この法律の施行に関し必要な経過措置は、政令で定める。

#### 附 則 （昭和五九年五月八日法律第二五号）抄

（施行期日）

**第一条** この法律は、昭和五十九年七月一日から施行する。

（経過措置）

**第二十四条** この法律の施行前に海運局長、海運監理部長、支局長等又は陸運局長に対してもした申請、届出その他の行為（以下この条において「申請等」という。）は、政令（支局長等に対してしてした申請等にあつては、運輸省令）で定めるところにより、この法律による改正後のそれぞれの法律若しくはこれに基づく命令の規定により相当の地方運輸局長、海運監理部長又は海運支局長等に対してもした申請等とみなす。

#### 附 則 （昭和六〇年七月五日法律第八七号）

この法律は、次の各号に掲げる規定ごとに、それぞれ当該各号に定める日から施行する。

1 目次の改正規定（「第二百一十八条・第二百一十九条」を「第二百一十八条・第二百一十九条の二」に改める部分に限る。）及び第二百一十九条の次に一条を加える改正規定 この法律の公布の日

二 第五十一条、第六十二条、第八十一条、第八十二条第三項及び第八十三条第三項の改正規定並びに次項及び附則第三項の規定 この法律の公布の日から起算して「十日を経過した日

三 第七十一条の三の次に二条を加える改正規定（第七十一条の四に係る部分に限る。）昭和六十一年一月一日

四 第七十一条の三第二項の改正規定 この法律の公布の日から起算して一年を経過した日  
五 その他の規定 この法律の公布の日から起算して六年を超えない範囲内において政令で定める日

2 前項第二号に掲げる改正規定の施行の際に改正前の道路交通法（以下「旧法」という。）第十五条第五項後段の規定により保管されている車両で当該車両につき同条第六項後段の規定による公示がされているものについては、同号に定める日に、改正後の道路交通法（以下「新法」という。）第五十六条第六項後段の規定による公示があつたものとみなす。

3 附則第一項第二号に掲げる改正規定の施行の際に旧法第五十一条第五項後段の規定により保管されている車両に積載物があつた場合における当該積載物は、新法第五十一条第十七項において準用する同条第五項後段の規定により保管された積載物とみなす。

4 この法律の各改正規定の施行前にした行為に対する罰則の適用については、それぞれなお従前の例による。

5 この法律の各改正規定の施行前にした反則行為については、新法第二百一十五条及び別表の規定にかかるわらず、それぞれなお従前の例による。

#### 附 則 （昭和六一年五月二三日法律第六三号）

この法律は、昭和六十二年四月一日から施行する。

2 この法律の施行前に改正前の道路交通法第五十一条第十一項（同条第十七項において準用する場合を含む。）又は第八十一条第六項（同法第八十二条第二項及び第八十三条第三項において準用する場合を含む。）の規定により納付を命ぜられた負担金の督促及びこの法律の施行前に開始された改正前の道路交通法第五十一条第十三項（同条第十七項において準用する場合を含む。）又は第八十一条第八項（同法第八十二条第二項及び第八十三条第三項において準用する場合を含む。）の規定による負担金の徵収手続については、なお従前の例による。

3 この法律の施行前にした行為に対する罰則の適用については、新法第二百一十五条及び別表の規定にかかるわらず、なお従前の例による。

#### 附 則 （平成元年二月一九日法律第八二号）抄

（施行期日）

**第一条** この法律は、公布の日から起算して一年を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。

**附 則 （平成元年二月一九日法律第八三号）抄**

（施行期日）

**第一条** この法律は、公布の日から起算して一年を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。

#### 附 則 （平成元年二月二二日法律第九〇号）

1 この法律は、公布の日から起算して一年を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。

2 改正後の道路交通法第二百条の二、第二百条の三、第二百四条の二、第二百八条の二第一項第五号及び第二百八条の三の規定は、この法律の施行の日（次項において「施行日」という。）以後に運転免許を受けた者について適用する。

3 この法律の施行の際に道路交通法第八十四条第二項の第一種運転免許を受けている者で、当該第一種運転免許を受けていた期間（当該免許の効力が停止されていた期間を除く。）が通算して一年に達しないものについては、改正前の道路交通法第七十一条の四、第二百八条の二第一項第五号及び第二百八条の三並びに第二百十二条第四項の規定は、なおその効力を有する。この場合において、改正前の道路交通法第七十一条の四に規定する行為には、施行日以後に受けた運転免許に係る道路交通法第八十五条第二項の規定により当該免許について同条第一項の表の区分に従い運転免許を受けた者について適用することができる当該自動車等の運転に関し行われた行為は含まないものとする。



法律第四十三号)附則第七条第三項の規定並びに同法附則第六条第三項及び第七条第四項の規定によりなおその効力を有するものとされる同法による改正前の第九十九条第八項の規定」とする。

## 2 旧法指定自動車教習所に関する新法第九十九条の七第一項の規定の適用については、同項中

「指定自動車教習所が第九十九条第一項各号に掲げる基準に適合しなくなつたと認めるとき」とあるのは、「指定自動車教習所が第九十九条第一項第一号、第四号若しくは第五号に掲げる基準に適合しなくなつたと認めるとき又は指定自動車教習所に同項第二号に規定する職員（道路交通法の一部を改正する法律附則第六条第二項の旧法技能検定員を含む。）若しくは第九十九条第一項第三号に規定する職員（同法附則第七条第二項のみなし教習指導員を含む。）が置かれないなつたと認めるとき」と、「当該指定自動車教習所を同項第一号、第四号若しくは第五号に掲げる基準に適合させるため」であるのは、「当該指定自動車教習所を同項第一号、第四号若しくは第五号に掲げる基準に適合させるため又は当該指定自動車教習所にこれらの職員を置くため」とする。

## 3 旧法指定自動車教習所に関する新法第九十九条の七第二項の規定の適用については、同項中「この節の規定」とあるのは、「この節の規定及び道路交通法の一部を改正する法律附則第七条第三項の規定」とする。

4 旧法指定自動車教習所に関する新法第一百条第一項の規定の適用については、同項中「第九十九条第三項」とあるのは、「第九十九条の三第三項若しくは道路交通法の一部を改正する法律附則第七条第三項」と、「前条の規定による命令」とあるのは、「前条の規定による命令若しくは同法附則第六条第三項若しくは第七条第四項の規定によりなおその効力を有するものとされる同法による改正前の第九十九条第八項の規定による命令」とする。

## 第九条 旧法第九十九条第五項に規定する自動車の運転に関する技能及び知識の教習を終了した者は、新法第九十九条の五第一項に規定する自動車の運転に関する技能及び知識の教習を終了した者はとみなす。

2 旧法第九十九条第五項の技能検定は、新法第九十九条の五第一項の技能検定とみなす。

3 旧法第九十九条第六項の規定により発行された卒業証明書又は修了証明書は、新法第九十九条の五第五項の規定により発行された卒業証明書又は修了証明書とみなす。

## 第十一条 旧法第九十九条又はこれに基づく命令の規定によりした処分、手続その他の行為は、新法中相当する規定がある場合には、新法の相当規定によりしたものとみなす。

(罰則等に関する経過措置)

## 第十二条 この法律の施行前にした行為に対する罰則の適用については、なお従前の例による。

## 附 則 (平成五年一月一二日法律第八九号) 拝

### (施行期日)

第一条 この法律は、行政手続法(平成五年法律第八十八号)の施行の日から施行する。

### (罰則に関する経過措置)

第二条 この法律の施行前に法令に基づき審議会その他の合議制の機関に対し行政手続法第十三条(罰則等がされた不利益処分に関する経過措置)

第三条 この法律の施行前に他の意見陳述のための手続に相当する手続を執るべきことの諮問その他の求めがされた場合においては、当該諮問その他の求めに係る不利益処分の手続に関しては、この法律による改正後の関係法律の規定にかかわらず、なお従前の例による。

第十三条 この法律の施行前にした行為に対する罰則の適用については、なお従前の例による。(罰則に関する経過措置)

第十四条 この法律の施行前に法律の規定により行われた聴聞、聴問若しくは聴聞会(不利益処分に係るもの)を除く。又はこれらのための手続は、この法律による改正後の関係法律の相当規定により行われたものとみなす。

(政令への委任)  
第十五条 附則第二条から前条までに定めるもののほか、この法律の施行に関する必要な経過措置は、政令で定める。

### 附 則 (平成七年四月二一日法律第七四号) 抄

#### (施行期日)

第一条 この法律は、公布の日から起算して一年六月を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。ただし、第二条第一項及び第二項第一号の改正規定は、公布の日から起算して六月を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。

#### (免許等に関する経過措置)

第二条 改正前の道路交通法(以下「旧法」という。)第八十四条第三項の自動二輪車免許(以下「旧法二輪車免許」という。)は、次の各号に掲げる区分に従い、それぞれ当該各号に定める改正後の道路交通法(以下「新法」という。)第八十四条第三項の大型自動二輪車免許(以下「大型自動二輪車免許」という。)又は同項の普通自動二輪車免許(以下「普通自動二輪車免許」という。)とみなす。

一 次号及び第三号に掲げるものの以外のもの 大型自動二輪車免許

二 旧法第九十一条の規定により、運転することができる旧法第三条の自動二輪車(以下「旧法自動二輪車」という。)が新法第三条の普通自動二輪車(以下「普通自動二輪車」という。)に相当するものに限る旨の限定が付されているもの 普通自動二輪車免許

三 道路交通法の一部を改正する法律(昭和四十年法律第六号。次條第二項において「昭和四十年改正法」という。)附則第二条第一項の規定により大型自動二輪車免許とみなされた者

附則第十二条の規定による改正前の同法附則第二条第四項に規定する審査に合格しなかつた者に係るもの 普通自動二輪車免許

四 旧法二輪車免許が前項第二号に規定する限定の解除を受けたことにより同項の規定により大型自動二輪車免許とみなされることとなる場合における当該大型自動二輪車免許は、当該旧法二輪免

許を受けた日に受けたものとする。

第五条 旧法第九十一条の規定により旧法二輪免許について付された自動車等の運転に係る限定又は条件でのこの法律の施行の際現にその効力を有するもの(前条第一項第二号に規定する限定であつて、新法第三条の規定による大型自動二輪車と普通自動二輪車との区分に係るものを除く。)

は、新法第九十一条の規定により大型自動二輪車免許又は普通自動二輪車免許について付された自動車等の運転に係る限定又は条件とみなす。

第六条 前条第一項の規定により普通自動二輪車免許とみなされる同項第三号に掲げる運転免許は、新法第九十一条の規定により運転免許の区分に応じ、それぞれ、大型自動二輪車付自転車(昭和四十年改正法第一条の規定による改正前の道路交通法第三条第二項の第二種原動機付自転車をいう。)に相当するものに限る旨の限定が付されているものとみなす。

第七条 この法律の施行の際現にされている旧法二輪免許の申請は、当該旧法二輪免許により運転することができる旧法自動二輪車を普通自動二輪車に相当するものに限定してされたものについては普通自動二輪車免許の申請と、それ以外のものについては大型自動二輪車免許の申請とみなす。

第八条 前二条に規定するものほか、この法律の施行前にされた旧法二輪免許に係る処分又は手続は、附則第二条第一項の規定による運転免許の区分に応じ、それぞれ、大型自動二輪車免許又は普通自動二輪車免許に係る処分又は手続としてされたものとみなす。

第九条 この法律の施行の際現に旧法二輪免許に係る運転免許試験に合格して旧法二輪免許を受けている者は、当該旧法二輪免許により運転免許ができる旧法自動二輪車を普通自動二輪車免

許に係る運転免許試験に合格した者と、それ以外の旧法二輪免許に係る運転免許試験に合格した者については大型自動二輪車免許に係る運転免許試験に合格した者とみなす。

第十条 この法律の施行の際現に附則第二条第一項の規定により大型自動二輪車免許とみなされる

旧法二輪免許を受けている者及び前条の規定により大型自動二輪車免許に係る運転免許試験に合格





- る有効期間の末日（その日が当該免許証に係る免許を受けている者の誕生日でないときは、その日の直前のその者の誕生日）から起算して一月を経過する日（その日が道路交通法第九十二条の二第四項に規定する日に当たるときは、その日の翌日）とする。
- 3 この法律の施行の際現に交付されている免許証で当該免許証に係る旧法第一百一条第一項の規定による更新期間の初日が施行日前であるもの（以下「特定免許証」という。）について施行日以後にされた更新に係る免許証（次項において「特定更新免許証」という。）の有効期間については、新法第九十二条の二の規定にかかるわらず、なお従前の例による。
- 4 特定更新免許証の有効期間の末日は、前項の規定にかかるわらず、同項の規定によりなお従前の例によることとされる有効期間の末日（その日が当該免許証に係る免許を受けている者の誕生日でないときは、その日の直前のその者の誕生日）から起算して一月を経過する日（その日が道路交通法第九十二条の二第四項に規定する日に当たるときは、その日の翌日）とする。
- 5 特定免許証の更新を施行日以後に受けようとする場合における新法第一百一条第一項に規定する更新期間の初日は、同項の規定にかかるわらず、旧法第一百一条第一項に規定する更新期間の初日とする。
- 6 特定免許証の更新を施行日以後に受けようとする者については、新法第一百一条の二の二及び第一百十二条第一項第五号の二の規定は、適用しない。
- 7 特定免許証の更新を施行日以後に受けようとする際にその者が受けるべき講習については、新法第一百一条の三及び第一百八条の二第一項第十一号の規定にかかるわらず、なお従前の例による。
- 8 新法第一百一条の四の規定は、更新期間が満了する日（新法第一百一条の二第一項の規定による免許証の更新の申請をしようとする者にあっては、当該申請をする日とする。）が施行日から起算して三月を経過した日以後である免許証の更新を受けようとする者について適用する。
- 第三条 この法律の施行の際現に大型自動車第二種免許又は普通自動車第二種免許の申請をしている者の当該申請に係る運転免許試験の受験資格（旧法第九十六条第一項に係るものと除く。）及びその者に対して新法第九十七条第一項第二号に掲げる事項について行う当該免許の運転免許試験の方法については、新法第九十六条の二及び第九十七条第二項の規定にかかるわらず、なお従前の例による。
- この法律の施行の際現に旧法の規定により大型自動車第二種免許又は普通自動車第二種免許の申請をしている者の当該申請に係る運転免許試験の受験資格（旧法第九十六条第一項に係るものと除く。）及びその者に対して新法第九十七条第一項第二号に掲げる事項について行う当該免許の運転免許試験の方法については、新法第九十六条の二及び第九十七条第二項の規定にかかるわらず、なお従前の例による。
- 第六条 施行日前にした行為に係る免許を受けた者（国際運転免許証又は外国運転免許証を所持する者を含む。）に対する警察署長による免許の効力の停止（自動車等の運転の禁止を含む。）については、新法第一百三条の二第一項（新法第一百七条の五第九項において準用する場合を含む。）の規定にかかるわらず、なお従前の例による。
- 第七条 この法律の施行の際現に国際運転免許証又は外国運転免許証を所持する者に対する新法第一百七条の二第一項の特定失効者に該当する者であつてその運転免許試験を受けることができなかつた事情がこの法律の公布の日前に生じたものに対する新法第一百七条の二第一項第三号の規定の適用については、同号中「当該効力を失つた日から起算して三年を経過しない場合に限り、当該事情」とあるのは、「当該事情」とする。
- 第五条 施行日前に道路交通法第一百二条第三項又は第一百七条の四第一項の規定による通知を受けた者については、新法第九十条第一項第七号、第一百四条の二及び第一百六条の二第二項の規定は、適用しない。

<p><b>第一条</b> この法律の施行前にした行為に対する罰則の適用については、なお従前の例による。</p> <p>（罰則に関する経過措置）</p> <p><b>第十一条</b> 附則第二条から前条までに規定するもののほか、この法律の施行に伴い必要な経過措置（罰則に関する経過措置を含む。）は、政令で定める。</p> <p><b>附則</b> 平成一三年一二月五日法律第一三八号抄</p> <p><b>第一条</b> この法律は、公布の日から起算して二十日を経過した日から施行する。</p> <p>（施行期日）</p> <p><b>附則</b> 平成一四年六月一九日法律第七七号抄</p> <p><b>第一条</b> この法律は、公布の日から起算して一年を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。</p> <p>（施行期日）</p> <p><b>附則</b> 平成一六年六月二日法律第七三号抄</p> <p><b>第一条</b> この法律は、公社法の施行の日から施行する。ただし、次の各号に掲げる規定は、当該各号に定める日から施行する。</p> <p>一 第一章第一節（別表第一から別表第四までを含む。）並びに附則第二十八条第二項、第三十三条第二項及び第三項並びに第三十九条の規定 公布の日</p> <p>（罰則に関する経過措置）</p> <p><b>第三十八条</b> 施行日前にした行為並びにこの法律の規定によりなお従前の例によることとされる場合及びこの附則の規定によりなおその効力を有することとされる場合における施行日以後にした行為に対する罰則の適用については、なお従前の例による。</p> <p>（その他の経過措置の政令への委任）</p> <p><b>第三十九条</b> この法律に規定するもののほか、公社法及びこの法律の施行に關し必要な経過措置（罰則に関する経過措置を含む。）は、政令で定める。</p> <p><b>附則</b> 平成一六年六月二日法律第七三号抄</p> <p><b>第一条</b> この法律は、公布の日から起算して六月を経過した日から施行する。ただし、次の各号に掲げる規定は、当該各号に定める日から施行する。</p> <p>一 第二条並びに附則第六条から第九条まで及び第十二条（第四十七条第二項、第四十九条第五項）を「第四十七条第三項及び第五項、第四十八条第九項、第四十九条第六項」に改める部分及び「第五十五条第二項」の下に「第五十五条の三第二項」を加える部分を除く。）の規定に附則第十九条とする改正規定、附則第二十二条の改正規定、附則第二十二条を削る改正規定並びに同条を附則第二十一条とする改正規定、附則第二十三条第三号を削る改正規定並びに同条を附則第二十一条とする改正規定並びに附則第三条及び第二十五条の規定 公布の日</p> <p>二 第一条中附則第十六条第二項の改正規定、附則第十九条及び第二十条を削る改正規定、附則第二十二条を附則第十九条とする改正規定、附則第二十二条の改正規定、同条を附則第二十条とする改正規定、附則第二十三条第三号を削る改正規定並びに同条を附則第二十一条とする改正規定並びに附則第三条及び第二十五条の規定 公布の日</p> <p>三 第二条並びに附則第五条、第十六条及び第二十条から第二十二条までの規定 公布の日起算して二年を超えない範囲内において政令で定める日</p>
---



型免許を受けた者は、新法第七十一条の五第一項及び第八十五条第七項の規定の適用については、普通免許を受けた者とみなす。

**第十条** 第四条の規定の施行の際現に旧法大型免許、旧法普通免許、旧法大型第二種免許、旧法普通第一種免許、旧法大型仮免許又は旧法普通仮免許に係る運転免許試験に合格して旧法の規定による運転免許を受けていない者は、附則第六条第一号から第八号までに掲げる区分に応じ、当該各号に定める運転免許に係る運転免許試験に合格した者とみなす。

**第十二条** 附則第六条の規定により大型免許に係る運転免許試験に合格した者とみなされたる者は、附則第六条の規定により大型免許に係る運転免許試験に合格した者とみなされたる者に対する新法第八十八条第一項第一号中「二十一歳」とあるのは、「二十歳」と、新法第九十六条第二項中「三年」とあるのは、「二年」とする。

**第二条** 附則第六条の規定により中型免許とみなされる旧法普通免許を受けている者及び前条の規定により中型免許に係る運転免許試験に合格した者とみなされる者に対する新法第八十八条第一項第一号の規定の適用については、同号中「中型免許」にあつては「二十歳（政令で定める者にあつては、十九歳）」とあるのは、「中型免許」とする。

**第三条** 前項に規定する者については、新法第九十六条第三項の規定は、適用しない。

**第四条** 附則第六条の規定により大型仮免許とみなされる旧法大型仮免許を受けている者及び前条の規定により大型仮免許に係る運転免許試験に合格した者とみなされる者に対する新法第八十八条第一項第一号の規定の適用については、同号中「二十一歳」とあるのは、「二十歳」とする。

**第五条** 第十二条の規定により大型免許に係る運転免許試験に合格した者とみなされる者については、新法第九十条の二の規定にかかるわらず、なお従前の例による。

**第六条** 附則第十条の規定により中型免許に係る運転免許試験に合格した者とみなされる者に対する新法第八十八条第一項第一号の規定の適用については、同号中「二十一歳」とあるのは、「二十歳」とする。

**第七条** 附則第十条の規定により中型第二種免許に係る運転免許試験に合格した者とみなされる者については、新法第九十条の二の規定の適用については、普通第二種免許を受けようとする者とみなす。

**第八条** 附則第七条の規定により大型免許の申請とみなされる旧法大型免許の申請をしている者については、新法第九十六条の二及び第九十七条第二項の規定にかかるわらず、なお従前の例による。

**第九条** 附則第六条の規定により中型免許とみなされる旧法普通免許を受けている者及び附則第十条の規定により中型免許に係る運転免許試験に合格した者とみなされて中型免許を受けた者に対する新法第一百条の二第一項の規定の適用については、同号中「普通免許」とあるのは「中型免許」と、「以下「免許自動車等」とあるのは「中型免許にあつては、道路交通法の一部を改正する法律（平成十六年法律第九十号）第四条の規定による改正前の道路交通法の規定による普通自動車。以下「免許自動車等」と、同号中「当該免許と同一の種類の免許」とあるのは「同法の規定による普通免許」と、同号中「受けた者」とあるのは「受けた者又は道路交通法の一部を改正する法律附則第六条第二号に規定する限定が解除された者」とする。

**第十条** 附則第六条の規定により中型免許とみなされる旧法普通免許を受けている者及び附則第十条の規定により中型免許に係る運転免許試験に合格した者とみなされて中型免許を受けた者に対する新法第一百条の二第一項の規定の適用については、同号中「普通免許」とあるのは「中型免許にあつては、道路交通法の一部を改正する法律（平成十六年法律第九十号）第四条の規定による改正前の道路交通法の規定による普通自動車。以下「免許自動車等」と、同号中「当該免許と同一の種類の免許」とあるのは「同法の規定による普通免許」と、同号中「受けた者」とあるのは「受けた者又は道路交通法の一部を改正する法律附則第六条第二号に規定する限定が解除された者」とする。

**第十一条** 附則第六条の規定により中型免許とみなされる旧法普通免許を受けている者及び附則第十条の規定により中型免許に係る運転免許試験に合格した者とみなされて中型免許を受けた者に対する新法第一百条の二第一項の規定の適用については、同号中「普通免許」とあるのは「中型免許にあつては、道路交通法の一部を改正する法律（平成十六年法律第九十号）第四条の規定による改正前の道路交通法の規定による普通自動車。以下「免許自動車等」と、同号中「当該免許と同一の種類の免許」とあるのは「同法の規定による普通免許」と、同号中「受けた者」とあるのは「受けた者又は道路交通法の一部を改正する法律附則第六条第二号に規定する限定が解除された者」とする。

**第十二条** 第二条から第四条までの規定の施行前にした行為に対する反則行為の取扱いに関する規定は、それぞれお従前の例による。

**第十三条** 附則第三条から第十四条まで、第二十一条、第二十三条及び前条に規定するものには（その他の経過措置の政令への委任）

**第十四条** 第二条から第四条までの規定の施行前にした行為に対する反則行為の取扱いに関する規定は、それぞれお従前の例による。

**第十五条** 附則第三条から第十四条まで、第二十一条、第二十三条及び前条に規定するものには（この法律の施行に伴い必要な経過措置を含む。）は、政令で定める。

（施行期日）  
**第一条** この法律は、公布の日から起算して二月を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。

（施行期日）  
**附 則**（平成一六年六月一八日法律第一一二号）抄

（施行期日）  
**第一条** この法律は、日本国の自衛隊とアメリカ合衆国軍隊との間における後方支援、物品又は服務の相互の提供に関する日本国政府とアメリカ合衆国政府との間の協定を改正する協定の効力発生の日から施行する。ただし、第十三条、第十四条第一項第二号、第十五条、第十七条及び附則第四条の規定は、公布の日から起算して三月を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。

（施行期日）  
**附 則**（平成一七年六月二九日法律第七十七号）抄

（施行期日）  
**第一条** この法律は、平成十八年四月一日から施行する。ただし、次の各号に掲げる規定は、それぞれ当該各号に定める日から施行する。

（罰則に関する経過措置）  
**第一条** 第一条、第五条、第八条、第十一条、第十三条、第二十二条、第二十三条第二項、第三十二条、第三十九条及び第五十六条の規定 公布の日

（罰則に関する経過措置）  
**第五十五条** この法律の施行前にした行為及び附則第九条の規定によりなお従前の例によることとされる場合におけるこの法律の施行後にした行為に対する罰則の適用については、なお従前の例による。

（罰則に関する経過措置）  
**第一条** この法律は、郵政民営化法の施行の日から施行する。

（罰則に関する経過措置）  
**第五十六条** 附則第三条から第二十七条まで、第三十六条及び第三十七条に定めるもののほか、この法律の施行前にした行為及び附則第九条の規定によりなお従前の例によることとされる場合におけるこの法律の施行後にした行為に対する罰則を含む。は、政令で定める。

（施行期日）  
**附 則**（平成一七年一〇月二二日法律第一〇二号）抄

（施行期日）  
**第一条** この法律は、郵政民営化法の施行の日から施行する。

（罰則に関する経過措置）  
**第一条** この法律の施行前にした行為、この附則の規定によりなお従前の例によることとされる場合におけるこの法律の施行後にした行為、この法律の施行後附則第九条第一項の規定によりなおその効力を有するものとされる旧郵便替法第七十条（第二号及び第三号に係る部分に限る。）の規定の失効前にした行為、この法律の施行後附則第十一条第一項の規定によりなおその効力を有するものとされる旧郵便替法第七十条（第二号及び第三号に係る部分に限る。）の規定の失効前にした行為、この法律の施行後附則第二十七条第一項の規定によりなおその効力を有するものとされる旧郵便振替預り金寄附委託法第八条（第二号に係る部分に限る。）の規定の失効前にした行為、この法律の施行後附則第三十九条第二項の規定によりなおその効力を有するものとされる旧公社法第七十条（第二号に係る部分に限る。）の規定の失効前にした行為、この法律の施行後附則第四十二条第一項の規定によりなおその効力を有するものとされる旧公社法第七十一条及び第七十二条（第五十五号に係る部分に限る。）の規定の失効前にした行為並びに附則第二条第二項の規定がある場合における郵政民営化法第百四条に規定する郵便貯金銀行に係る特定日前にした行為に対する罰則の適用については、なお従前の例による。

（施行期日）  
**附 則**（平成一八年五月一九日法律第四〇号）抄

（施行期日）  
**第一条** この法律は、公布の日から起算して十月を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。

（附 則）（平成一八年六月二日法律第五〇号）抄  
この法律は、一般社団・財團法人法の施行の日から施行する。

（附 則）（平成一八年一二月二二日法律第一一八号）抄

(施行期日)  
第一条 この法律は、公布の日から起算して三月を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。

附 則 (平成一九年五月二三日法律第五四号) 抄

(施行期日) この法律は、公布の日から起算して二十日を経過した日から施行する。

(道路交通法の一部改正に伴う経過措置)

第五条 この法律の施行前に道路交通法第八十四条第一項に規定する自動車等の運転に関するこの法律による改正前の刑法第二百十一条第一項(附則第二条の規定によりなお従前の例によることとする行為等の処罰に関する法律(平成二十五年法律第八十六号)附則第六条の規定による改正後の道路交通法第九十九条の二第四項第一号ニ及び第一百八条の四第三項第三号の規定の適用については、これらの規定中「第六条まで」とあるのは、「第六条までの罪」同法附則第二条の規定による改正前の刑法第二百八条の二(若しくは第二百十一条第二項(自動車の運転により人を死傷させる行為等の処罰に関する法律附則第十四条の規定によりなお従前の例によることとする行為等の処罰に関する法律(平成一九年法律第五十四号)による改正前の刑法第二百十一条第一項(刑法の一部を改正する法律附則第二条の規定によりなお従前の例によることとする行為等の処罰に関する法律(平成一九年法律第五十号)による改正前の道路交通法(以下「新法」という。)第五十二条第六項(同条第二十一項及び旧法第七十五条の八第二項において準用する場合を含む。)又は旧法第七十二条の二第二項後段の規定により保管されている車両、積載物又は損壊物等(旧法第五十一条第十一項(同条第二十一項並びに旧法第七十二条の二第三項及び第七十五条の八第二項において準用する場合を含む。)の規定によりこれらを売却した場合におけるその代金を含む。)については、この法律による改正後の道路交通法(以下「新法」という。)第五十二条第十項及び第二十項(同条第二十二項並びに新法第七十二条の二第三項及び第七十五条の八第二項において準用する場合を含む。)の規定にかかるらず、なお従前の例による。

附 則 (平成一九年六月二〇日法律第九〇号) 抄

(施行期日)

第一条 この法律は、公布の日から起算して三月を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。ただし、次の各号に掲げる規定は、当該各号に定める日から施行する。

一 目次の改正規定、第十条の改正規定、第十五条の改正規定(同条第一項中「第四十九条第二項」を「第四十九条第一項」に改める部分を除く。)、第五十一条の二の次に一条を加える改正規定、第五十一条の三の改正規定、第五十一条の十二第七項の改正規定、第六十三条の四の改正規定、第六十三条の九の次に一条を加える改正規定、第七十七条の三の改正規定、第七十七条の五の改正規定、同条の次に一五号の四の改正規定、第七十七条の二第三項の改正規定、第七十四条の三第一項の改正規定、第七十五条の八第二項の改正規定、第一百八条の四第三項第一号の改正規定、第一百八条の二十六の改正規定、第一百八条の二十九第二項の改正規定、第一百八条の三十二第二項第六号の改正規定、第一百十条の二第三項の改正規定、第一百十三条の三の改正規定、第一百十七条の四第一号の改正規定(同号中「第五十一条の十二」を「第五十一条の三(車両移動保管機関事務の委託)第二項、第五十一条の十二」に改める部分に限る。)、第一百十七条の五第三号の改正規定(第五十一条の三(指定車両移動保管機関)第四項、「を削る部分に限る。」及び第一百二十一条第一項第九号の三の改正規定並びに次条、附則第三条及び第十二条の規定)を除く。)、第一百四条の改正規定、第一百三条の二の改正規定(同条第一項に係る部分を除く。)、第一百四条の改正規定、第一百四条の二の改正規定、第一百四条の二の改正規定、第一百四条の二第一項の改正規定、第一百一条の三第一項の改正規定、第一百一条の四の改正規定、第一百二条の改正規定、第一百七条の二の改正規定(同条第一項に係る部分を除く。)、第一百十七条の五の改正規定、第一百七条の六の改正規定(同条第一項の改正規定並びに次条、附則第三条及び第十二条の規定)を除く。)、第一百八条の付記の改正規定、第一百八条の二の改正規定、第一百十二条第一項の改正規定、第一百十三条の二(車両移動保管機関事務の委託)第二項(第五十一条の十二)に改める部分を除く。)、第一百十七条の五第三号の改正規定(第一百八条(免許関係事務の委託)第二項)を除く。)

削る部分に限る。)及び第一百二十二条第一項第九号の改正規定並びに附則第四条から第六条まで及び第十条の規定(公布の日から起算して二年を超えない範囲内において政令で定める日(保管車両等に関する経過措置))

第二条 前条第一号に掲げる規定の施行の際現にこの法律による改正前の道路交通法(以下「旧法」という。)第五十二条第六項(同条第二十一項及び旧法第七十五条の八第二項において準用する場合を含む。)又は旧法第七十二条の二第二項後段の規定により保管されている車両、積載物又は損壊物等(旧法第五十一条第十一項(同条第二十一項並びに旧法第七十二条の二第三項及び第七十五条の八第二項において準用する場合を含む。)の規定によりこれらを売却した場合におけるその代金を含む。)については、この法律による改正後の道路交通法(以下「新法」という。)第五十二条第十項及び第二十項(同条第二十二項並びに新法第七十二条の二第三項及び第七十五条の八第二項において準用する場合を含む。)の規定にかかるらず、なお従前の例による。

(車両移動保管事務に係る経過措置)

第三条 附則第一条第一号に掲げる規定の施行の際現に旧法第五十二条の三第一項に規定する指定車両移動保管機関(以下この条において単に「指定車両移動保管機関」という。)が同項の規定により保管している車両又は積載物(旧法第五十二条の三第十項において準用する旧法第五十二条第十一項(同条第二十一項において準用する場合を含む。)の規定によりこれらを売却した場合におけるその代金を含む。)に係る旧法第五十二条の三第一項に規定する車両移動保管事務(以下この条において単に「車両移動保管事務」という。)については、なお従前の例による。

前項に定めるもののほか、附則第一条第一号に掲げる規定の施行前に指定車両移動保管機関が

行つた車両移動保管事務に係る旧法第五十二条の三第八項に規定する負担金等の納付、督促、徵収及び滞納処分並びに当該負担金等の請求権の消滅時効については、なお従前の例による。

第一項に定めるもののほか、附則第一条第一号に掲げる規定の施行前に指定車両移動保管機関が行つた車両移動保管事務に係る処分に関する行政不服審査法(昭和三十七年法律第百六十号)による審査請求については、なお従前の例による。

4 指定車両移動保管機関の役員又は職員であつた者に係る車両移動保管事務(第一項及び第二項の規定によりなお従前の例によることとされる場合におけるものを含む。)に関する知り得た秘密を漏らしてはならない義務については、附則第一条第一号に掲げる規定の施行の日以後も、な

お従前の例による。

(免許等に関する経過措置)

第四条 附則第一条第二号に掲げる規定の施行の日(以下「第二号施行日」という。)前に旧法第五十条第一項(ただし書の規定による運転免許(以下「免許」という。)の拒否若しくは保留の基準、同条第四項の規定による免許の取消し若しくは効力の停止の基準又は旧法第三条第一項若しくは第三項の規定による免許の取消し若しくは効力の停止の基準に該当したことを理由とする免許の拒否、保留、取消し又は効力の停止については、なお従前の例による。

2 前項の規定によりなお従前の例によることとされる免許の拒否又は取消しを受けた者に対する者が免許を受けることができない期間の指定については、なお従前の例による。

3 第二号施行日前に旧法第七十五条の五第一項の規定又は同条第八項において準用する旧法第三条第三項の規定による自動車等の運転の禁止の基準に該当したことを理由として自動車等の運転の禁止をする場合における当該禁止の期間については、なお従前の例による。

2 新法第七十五条の四第二項の規定による免許証の更新を申請しようとする者にあつては、当該申請を

が第二号施行日から起算して六月を経過した日以後である免許証の更新を受けようとする者について適用する。

第六条 旧法第七十二条第三項の規定により通知を受けた者は、新法第七十二条第六項の規定により通知を受けた者とみなす。

(罰則に関する経過措置)  
第十二条 この法律(附則第一条第一号に掲げる改正規定については、当該改正規定)の施行前にした行為並びに附則第三条第一項及び第四項の規定によりなお従前の例によることとされる場合における同号に掲げる規定の施行後についた行為に対する罰則の適用については、なお従前の例による。

(その他の経過措置の政令への委任)  
第十三条 附則第一条から第六条まで及び前条に定めるもののほか、この法律の施行に関し必要な経過措置(罰則に関する経過措置を含む)は、政令で定める。

#### 附 則 (平成二一年四月二四日法律第二一号) 抄

(施行期日)

第一条 この法律は、公布の日から起算して一年を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。ただし、次の各号に掲げる規定は、当該各号に定める日から施行する。

一 附則に一条を加える改正規定並びに次条から附則第四条までの規定及び附則第五条の規定(自動車運転代行業の業務の適正化に関する法律(平成十三年法律第五十七号)第十九条第一項の表第七十四条の三第一項の項の改正規定に係る部分に限る)公布の日

二 第二十六条の付記の改正規定、第一百八条の二十九第二項の改正規定、第一百九条第一項第一号の三の次に一号を加える改正規定及び第一百二十条第一項第二号の改正規定 公布の日から起算して六月を超えない範囲内において政令で定める日

(運転免許の拒否等に関する経過措置)

第二条 前条第一号に掲げる改正規定の施行前にした行為を理由とする運転免許の拒否、保留、取消し若しくは効力の停止又は自動車等の運転の禁止については、なお従前の例による。

三 前条第一号に掲げる改正規定の施行前にした行為に対する罰則の適用については、なお従前の例による。

第三条 附則第一条各号に掲げる改正規定の施行前にした行為に対する反則行為の取扱いに関しては、それぞれなお従前の例による。

第四条 前二条に定めるもののほか、この法律の施行に関し必要な経過措置(罰則に関する経過措置を含む)は、政令で定める。

#### 附 則 (平成二一年七月一五日法律第七十九号) 抄

(施行期日)

第一条 この法律は、公布の日から起算して三年を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。

#### 附 則 (平成二三年六月二二日法律第七二号) 抄

(施行期日)

第一条 この法律は、公布の日から起算して三年を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。

#### 附 則 (平成二三年六月二二日法律第七二号) 抄

(施行期日)

第一条 この法律は、平成二十四年四月一日から施行する。ただし、次の各号に掲げる規定は、当該各号に定める日から施行する。

一 第二条(老人福祉法目次の改正規定、同法第四章の二を削る改正規定、同法第四章の三を第四章の二とする改正規定及び同法第四十条第一号の改正規定(「第二十八条の十二第一項若しくは」を削る部分に限る。)に限る。)、第四条、第六条及び第七条の規定並びに附則第九条、第十一条、第十五条、第二十二条、第四十一条、第四十七条(東日本大震災に対処するための特別の財政援助及び助成に関する法律(平成二十三年法律第四十号)附則第一条たゞし書の改正規定及び同条各号を削る改正規定並びに同法附則第十四条の改正規定に限る。)及び第五十条から第五十二条までの規定(罰則に関する経過措置)

第二条(この附則に定めるもののほか、この法律の施行に関し必要な経過措置(罰則に関する経過措置)については、なお従前の例による。)(政令への委任)

第五十二条 この附則に定めるもののほか、この法律の施行に関し必要な経過措置(罰則に関する経過措置を含む)は、政令で定める。

附 則 (平成二三年六月二四日法律第七四号) 抄  
(施行期日)

第一条 この法律は、公布の日から起算して二十日を経過した日から施行する。  
附 則 (平成二四年八月二二日法律第六七号) 抄  
(施行期日)

第一条 この法律は、子ども・子育て支援法の施行の日から施行する。ただし、次の各号に掲げる規定は、当該各号に定める日から施行する。

一 第二十五条及び第七十三条の規定(公布の日)

#### 附 則 (平成二五年六月一四日法律第四三号) 抄

(施行期日)

第一条 この法律は、公布の日から起算して一年を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。ただし、次の各号に掲げる規定は、当該各号に定める日から施行する。

一 第一条及び附則第六条から第八条までの規定(公布の日から起算して六月を超えない範囲内において政令で定める日)

二 第二条中目次の改正規定(「第三十七条」を「第三十七条の二」に改める部分に限る。)、第四条第三項の改正規定、第二十条第三項の改正規定、第三十五条の次に一条を加える改正規定(公布の日から起算して六月を超えない範囲内において政令で定める日)

三 第二条中第九十二条の二第一項の表の改正規定(同表の備考一の中「第一百一条第五項」を「第一百一条第六項」に、「第一百一条の二第三項」を「第一百一条の二第四項」に、「同条第二項」を「同条第三項」に改める部分及び同表の備考一の5に係る部分を除く。)、第一百六条の改正規定(更新をし)の下に、「第一百一条第六項の規定による通知をし」を加える部分に限る。)、第一百七条の六の改正規定、第一百八条の二第一項に一号を加える改正規定、同条第三項の改正規定(「更新をし」の下に、「第一百一条第六項の規定による通知をし」を加える部分に限る。)、第一百八条の三の三の次に二条を加える改正規定及び第一百二十条第一項に一号を加える改正規定並びに次条並びに附則第四条及び第五条の規定(公布の日から起算して二年を超えない範囲内において政令で定める日)

四 第二条中第九十六条の三第二項の規定は、この法律の施行の際現に第二条の規定による改正前の道路交通法第八十九条第一項の規定により免許の申請をしている者については、適用しない。

第五条 新法第一百六条及び第一百七条の六の規定は、附則第一条第三号に掲げる規定の施行の日以後にされた新法第一百二条第六項及び第一百七条の四第一項後段の規定による通知について適用する。(自転車運転者講習の受講命令に関する経過措置)

第六条 新法第一百八条の三の四の規定は、附則第一条第三号に掲げる規定の施行の日以後に自転車の運転に関する新法第一百八条の三の四に規定する危険行為を反復してした者について適用する。(政令への委任)

#### 附 則 (平成二五年六月一四日法律第四四号) 抄

(施行期日)

第一条 この法律は、公布の日から施行する。

## (罰則に関する経過措置)

**第十一条** この法律(附則第一条各号に掲げる規定にあつては、当該規定)の施行前にした行為に対する罰則の適用については、なお従前の例による。

(政令への委任)  
**第十二条** この附則に規定するもののほか、この法律の施行に関し必要な経過措置(罰則に関する経過措置を含む。)は、政令で定める。

**附 則 (平成二五年六月二一日法律第五三号) 抄**

**第一条** この法律は、公布の日から施行する。ただし、次の各号に掲げる規定は、当該各号に定める日から施行する。

一 略

二 第三条及び附則第四条から第六条までの規定 公布の日から起算して一年を超えない範囲内において政令で定める日

**附 則 (平成二五年一月二二日法律第七六号) 抄**

**(施行期日)** この法律は、平成二十六年四月一日から施行し、この法律による改正後の特別会計に関する法律(以下「新特別会計法」という。)の規定は、平成二十六年度の予算から適用する。

**第二十六条** 平成二十六年度の交通安全対策特別交付金に限り、前条の規定による改正後の道路交通法附則第十六条第三項中「限度とする。」に当該年度の前年度以前の年度において交付すべきであった交付金の額でまだ交付していない額を加算した額とあるのは、「限度とする。」と、「二月」とあるのは、「三月」と、同法附則第十八条第一項の表九月の項中「二月から当該年度の七月までの期間の収納に係る反則金收入相当額等に当該年度の前年度以前の年度において交付すべきであった交付金の額でまだ交付していない額を加算した額」とあるのは、「三月から当該年度の七月までの期間の収納に係る反則金收入相当額等」と、「掲げる額を当該年度の前年度以前の年度において交付すべきであった交付金の額でまだ交付していない額を加算した額」とあるのは、「掲げる額」とする。

**附 則 (平成二五年一月二七日法律第八六号) 抄**

**(施行期日)**

**第一条** この法律は、公布の日から起算して六月を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。

(罰則の適用等に関する経過措置)

**第十四条** この法律の施行前にした行為に対する罰則の適用については、なお従前の例による。

**第十七条** この法律の施行前にした行為を理由とする附則第六条の規定による改正後の道路交通法

第九十条第一項ただし書、第二項、第五項若しくは第六項若しくは第一百三十三条第一項、第二項若しくは第四項又は第一百七条の五第一項若しくは第二項若しくは第三項第九項において準用する同法第

百三十三条第四項の規定による運転免許の拒否、保留、取消し若しくは効力の停止又は自動車等の運

転の禁止について、なお従前の例による。

この法律の施行前に道路交通法第八十四条第一項に規定する自動車等の運転に関し附則第二条

の規定による改正前の刑法第二百八条の二又は第二百十一条第二項(附則第十四条の規定により

なお従前の例によることとされる場合におけるこれらの規定を含む。)の罪を犯した者(附則第七条の規定による改正後の刑法の一部を改正する法律附則第五条に規定する者を除く。)に対する

附則第六条の規定による改正後の道路交通法第九十九条の二第四項第二号ニ及び第一百八条の四第三項第三号の規定の適用については、これらの規定中「第六条まで」とあるのは、「第六条までの罪、同法附則第一条の規定による改正前の刑法第二百八条の二若しくは第二百十一条第二項(自動車の運転により人を死傷させる行為等の处罚に関する法律附則第十四条の規定によりなお従前の例によることとされる場合におけるこれらの規定を含む。)」とする。

## 附 則 (平成二六年六月一三日法律第六九号) 抄

(施行期日)

**第一条** この法律は、行政不服審査法(平成二十六年法律第六十八号)の施行の日から施行する。

(経過措置の原則)  
**第五条** 行政府の処分その他の行為又は不作為についての不服申立てであつてこの法律の施行前にされた行政府の処分その他の行為又はこの法律の施行前にされた申請に係る行政府の不作為に係るものについては、この附則に特別の定めがある場合を除き、なお従前の例による。

(訴訟に関する経過措置)

**第六条** この法律による改正前の法律の規定により不服申立てに対する行政府の裁決、決定その他の行為を経た後でなければ訴え提起できないこととされる事項であつて、当該不服申立てを提起しないでこの法律の施行前にこれを提起すべき期間を経過したもの(当該不服申立てが他の不服申立てに対する行政府の裁決、決定その他の行為を経た後でなければ提起できないとされる場合にあつては、当該他の不服申立てを提起しないでこの法律の施行前にこれを提起すべき期間を経過したものと含む。)の訴え提起については、なお従前の例による。

**第二条** この法律の規定による改正前の法律の規定(前条の規定によりなお従前の例による経過したものを含む。)により異議申立てが提起された处分その他の行為であつて、この法律の規定による場合を含む。)により異議申立てが提起された处分その他の行為であつて、この法律の規定による改正後の法律の規定により審査請求に対する裁決を経た後でなければ取消しの訴え提起することができるないとされるものの取消しの訴えの提起については、なお従前の例による。

**第三条** 不服申立てに対する行政府の裁決、決定その他の行為の取消しの訴えであつて、この法律の施行前に提起されたものについては、なお従前の例による。

(罰則に関する経過措置)

**第九条** この法律の施行前にした行為並びに附則第五条及び前二条の規定によりなお従前の例によることとされる場合におけるこの法律の施行後にした行為に対する罰則の適用については、なお従前の例による。

**第十条** 附則第五条から前条までに定めるものほか、この法律の施行に関し必要な経過措置(罰則に関する経過措置を含む。)は、政令で定める。

(その他の経過措置の政令への委任)

**第一条** この法律の施行前にした行為並びに附則第五条及び前二条の規定によりなお従前の例によることとされる場合におけるこの法律の施行後にした行為に対する罰則の適用については、なお従前の例による。

**附 則 (平成二六年一月二一日法律第一一四号) 抄**

(施行期日)

**第一条** この法律は、公布の日から施行する。

**附 則 (平成二七年六月一七日法律第四〇号) 抄**

(施行期日)

**第一条** この法律は、公布の日から起算して二年を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。ただし、第一百三条の二第一項の改正規定並びに附則第十条及び第十四条から第十六条までの規定は、公布の日から施行する。

(免許等に関する経過措置)

**第二条** この法律による改正前の道路交通法(以下「旧法」という。)第八十四条第三項の中型自動車免許(以下「旧法中型免許」という。)、同項の普通自動車免許(以下「旧法普通免許」という。)、同項第四項の中型自動車第二種免許(以下「旧法中型第二種免許」という。)、同項の普通自動車第二種免許(以下「旧法中型第二種免許」という。)、同項第五項の中型自動車車両免許(以下「旧法普通車両免許」という。)、同項第六項の中型自動車車両免許(以下「旧法普通車両免許」という。)及び同項第七項の中型自動車車両免許(以下「旧法普通車両免許」という。)は、次に掲げる区分に応じ、それぞれ当該各号に定めるこの法律による改正後の道路交通法(以下「新法」という。)第八十四条第三項の中型自動車免許(以下「中型免許」という。)、同項の準中型自動車免許(以下「準中型免許」という。)、同項の普通自動車免許(以下「普通免許」という。)、同項第四項の中型自動車第二種免許(以下「中型第二種免許」という。)、同項第五項の中型自動車車両免許(以下「中型車両免許」という。)、同項第六項の中型自動車車両免許(以下「中型車両免許」という。)及び同項第七項の中型自動車車両免許(以下「中型車両免許」という。)は、

自動車第二種免許(以下「旧法普通第二種免許」という。)及び同項の普通自動車車両免許(以下「普通車両免許」という。)、同項第五項の中型自動車車両免許(以下「中型車両免許」という。)、同項第六項の中型自動車車両免許(以下「中型車両免許」という。)及び同項第七項の中型自動車車両免許(以下「中型車両免許」という。)は、次に掲げる区分に応じ、それぞれ当該各号に定めるこの法律による改正後の道路交通法(以下「新法」という。)第八十四条第三項の中型自動車免許(以下「中型免許」という。)、同項の準中型自動車免許(以下「準中型免許」という。)、同項の普通自動車免許(以下「普通免許」という。)、同項第四項の中型自動車第二種免許(以下「中型第二種免許」という。)、同項第五項の中型自動車車両免許(以下「中型車両免許」という。)、同項第六項の中型自動車車両免許(以下「中型車両免許」という。)及び同項第七項の中型自動車車両免許(以下「中型車両免許」という。)は、

(以下「中型仮免許」という。) 及び同項の普通自動車仮免許(以下「普通仮免許」という。)とみなす。

一 旧法中型免許 中型免許

二 旧法普通免許で、次号に掲げるもの以外のもの 新法第九十一条の規定により、運転することができる新法第三条の準中型自動車(第五号において「準中型自動車」という。)が旧法第三条の普通自動車(以下「旧法普通自動車」という。)に相当するものに限定されている準中型免許

三 旧法普通免許で、旧法第九十一条の規定により、運転することができる旧法普通自動車が新法第三条の普通自動車(第六号において「普通自動車」という。)に相当するものに限定され、いるもの 普通免許

四 旧法中型第一種免許 中型第二種免許

五 旧法普通第二種免許で、次号に掲げるもの以外のもの 新法第九十一条の規定により、運転することができる新法第三条の中型自動車がなく、かつ、運転することができる準中型自動車が旧法普通自動車に相当するものに限定されている中型第二種免許

六 旧法普通第一種免許で、旧法第九十一条の規定により、運転することができる旧法普通自動車が普通自動車に相当するものに限定されているもの 普通第二種免許

七 旧法中型仮免許 中型仮免許

八 旧法普通仮免許 普通仮免許

**第三条** この法律の施行の際にされている次の各号に掲げる運転免許の申請は、それぞれ当該各号に定める運転免許の申請とみなす。

一 旧法中型免許 中型免許

二 旧法普通免許 普通免許

三 旧法中型第一種免許 中型第二種免許

四 旧法普通第一種免許 普通第二種免許

五 旧法中型仮免許 中型仮免許

六 旧法普通仮免許 普通仮免許

**第四条** 前二条に規定するもののほか、旧法の規定により旧法中型免許、旧法普通免許、旧法中型第二種免許、旧法普通第二種免許又は旧法普通仮免許にについてした処分、手続その他の行為は、新法の相当する規定により附則第二条各号に掲げる区分に応じ、それぞれ当該各号に定める運転免許についてした処分、手續その他の行為とみなす。

**第五条** この法律の施行の際現に旧法中型免許、旧法普通免許、旧法中型第二種免許、旧法普通第二種免許、旧法中型仮免許又は旧法普通仮免許に係る運転免許試験に合格して旧法の規定による運転免許を受けていない者は、附則第二条各号に掲げる区分に応じ、それぞれ当該各号に定める運転免許に合格した者とみなす。

**第六条** 前条の規定により附則第二条第二号に定める運転免許に係る運転免許試験に合格した者とみなされる者は、新法第九十条の二の規定の適用については、普通免許を受けようとする者とみなす。

**2** 前条の規定により附則第二条第五号に定める運転免許に係る運転免許試験に合格した者とみなされる者は、新法第九十条の二の規定の適用については、普通第二種免許を受けようとする者とみなす。

**第七条** 附則第二条の規定により準中型免許とみなされる旧法普通免許を受けている者(次項に規定する者を除く。)に対する新法第七十一条第五号の四、第七十一条の五第一項及び第一百条の二第一項の規定の適用については、新法第七十一条第五号の四中「第七十一条の五第二項」とあるのは、「第七十一条の五第一項」と、新法第七十一条の五第一項中「に準中型自動車免許」とあるのは、「に道路交通法の一部を改正する法律(平成二十七年法律第四十号)による改正前の道路交

通法(以下この項及び第一百条の二第一項において「旧法」という。)の規定による普通自動車免許」と、「及び同項の普通自動車免許を現に受けしており、かつ、現に受けている準中型自動車免許」とある。

**第十四条** この附則に規定するもののほか、この法律の施行に関し必要な経過措置(罰則に関する経過措置を含む。)は、政令で定める。

許を受けた日前に当該普通自動車免許を受けていた期間(当該免許の効力が停止されていた期間を除く。)が通算して二年以上である者を除く」とあるのは、「を除く」と、「準中型自動車の」とあるのは、「旧法の規定による普通自動車に相当する自動車の」と、「準中型自動車を」とあるのは、「いう。」に当該免許に係る免許自動車等(準中型免許にあっては、旧法の規定による普通自動車に相当する自動車。以下同じ。)と、同項第二号中「当該免許と同一の種類の免許」とあるのは、「旧法の規定による普通免許」とする。

2 附則第二条第二号に規定する限定が解除された者に対する新法第七十一条の五第一項及び百条の二第一項の規定の適用については、新法第七十一条の五第一項中「者で」とあるのは、「者で、道路交通法の一部を改正する法律(平成二十七年法律第四十号)。以下この項において「平成二十七年改正法」という。附則第二条第二号に規定する限定が解除された日(以下この項及び百条の二第一項において「限定解除日」という。)から」と、「当該免許を受けた日前六月以内に準中型自動車免許を受けていたことがある者の他の者で政令で定めるもの及び同項の普通自動車免許を現に受けており、かつ、現に受けている準中型自動車免許を受けた日前に当該普通自動車免許を受けた日」とあるのは、「限定解除日」と、同項第五号中「普通免許を現に受けおり、かつ、当該準中型免許を受けた日前に当該普通免許」とあるのは、「限定解除日前に当該免許」と、「期間(当該免許の効力が停止されたいた期間を除く。)とあるのは、「期間」とする。

(臨時認知機能検査に関する経過措置)

**第八条** 新法第一百一条の七第一項の規定は、この法律の施行の日(次条において「施行日」という。)以後にされた同項に規定する政令で定める行為(次条に規定する者が旧法第百二条第一項に規定する政令で定める行為をして次条の規定によりなお従前の例によることとされる場合における当該行為を除く。)について適用する。

(臨時適性検査に関する経過措置)

**第九条** 施行日前に旧法第九十七条の二第一項第三号若しくは第五号又は第一百一条の四第二項の規定により認知機能検査(施行日前の直近において受けたものに限る。)を受けた者(旧法第百二条第一項に規定する基準該当者である者に限る。)に対する当該認知機能検査に係る臨時適性検査については、なお従前の例による。

(免許の効力の仮停止等に関する経過措置)

**第十条** 附則第一条ただし書に規定する規定の施行前にした行為に係る免許を受けた者(国際運転免許証又は外国運転免許証を所持する者を含む。)に対する警察署長による免許の効力の停止(自動車等の運転の禁止を含む。)については、新法第百三条の二第一項(新法第一百七条の五第十項において準用する場合を含む。)の規定にかかる(罰則等に関する経過措置)

**第十二条** この法律の施行前にした行為に係る放置違反金の取扱いについては、なお従前の例による。

(政令への委任)

**第十三条** この法律の施行前にした行為に対する反則行為の取扱いについては、なお従前の例によ

附 则 (平成二七年九月三十日法律第七六号) 抄



七十二条の二第三項の改正規定、第七十五条第一項第七号の改正規定、第七十五条第八第二項の改正規定、第一百八条の三の三の付記の改正規定、第一百八条の七の付記、第一百八条の十八の付記及び第一百八条の三十一の付記の改正規定、第一百十条の二第五項の改正規定、第一百十七条の五の改正規定、第一百九条の二第一項第一号及び第一百九条の三第一項第一号の改正規定、第一百二十二条第一項第九号の改正規定並びに別表第一の改正規定並びに次条並びに附則第六条、第七条、第十二条及び第十三条の規定 公布の日から起算して六月を超えない範囲内において政令で定める日  
 (調整規定)

**第二条** 前条第二号に掲げる規定の施行の日からこの法律の施行の日の前日までの間ににおける同号に掲げる改正規定による改正後の道路交通法第一百七条の五の規定の適用については、同条第二号中「第一百八条の三の四」とあるのは、「第一百八条の三の三」とする。  
 (免許等に関する経過措置)

**第三条** 附則第一条各号に掲げる規定の施行前にした行為を理由とする免許(道路交通法第八十四条第一項に規定する免許をいう。次条第一項において同じ。)の拒否、保留、取消し若しくは効力の停止又は自動車等(同法第八十四条第一項に規定する自動車等をいう。)の運転の禁止については、なお従前の例による。

**第四条** この法律による改正後の道路交通法(以下「新法」という。)第九十七条の二第一項第三号イからニまでの規定は、この法律の施行の日から起算して六月を経過した日(以下この条において「基準日」という。)の翌日以後で免許が失効した者について適用し、基準日以前に免許が失効した者については、なお従前の例による。

**第五条** この法律による改正前の道路交通法(以下この条において「旧法」という。)第一百八条の二第三項の規定により道路交通法第一百一条第一項の更新期間が満了する日(同法第一百一条の二第一項の規定による免許証の更新を申請しようとする者について、当該申請をする日。以下この条において同じ。)が基準日以後である免許証の更新を受けようとする者について適用し、同法第一百一条第一項の更新期間が満了する日が基準日以後である免許証の更新を受けようとする者については、なお従前の例による。

**第六条** 附則第一条各号に掲げる講習(旧法第九十七条の二第一項第十二号に掲げる講習の結果に基づいて行うものに限る。)の実施の委託を受けた者若しくは新法第一百八条の二第三項の規定により認知機能検査の結果に基づいて行うものに限る。の実施の委託を受けた者(これらの者が法人である場合にあっては、その役員)若しくはこれらの職員又はこれらの者であった者については、旧法第一百八条の二第四項の規定は、この法律の施行後も、なおその効力を有する。(自転車運転者講習の受講命令に関する経過措置)

**第七条** 附則第一条第二号に掲げる規定の施行前にした行為を理由とする自転車運転者講習の受講命令については、なお従前の例による。  
 (罰則等に関する経過措置)

**第八条** この法律(附則第一条第二号に掲げる規定について、当該規定の施行前にした行為及び附則第五条の規定によりなおその効力を有することとされる場合におけるこの法律の施行後にした行為に対する罰則の適用については、なお従前の例による。)  
 (自転車運転者の規定による改正前の例による。)

**第九条** 附則第三条から前条まで及び附則第十一条に規定するもののほか、この法律の施行に関する必要な経過措置(罰則に関する経過措置を含む。)は、政令で定める。  
**附則 (令和二年六月一二日法律第五二号) 抄**  
 (施行期日)  
 第一条 この法律は、令和三年四月一日から施行する。ただし、次の各号に掲げる規定は、当該各号に定める日から施行する。  
 一 第三条中介護保険法附則第十三条(見出しを含む。)及び第十四条(見出しを含む。)の改正規定、第四条中健康保険法等の一部を改正する法律附則第百三十条の二第一項の規定によりなおその効力を有するものとされた同法第十六条の規定による改正前の介護保険法附則第十一条(見出しを含む。)及び第十二条(見出しを含む。)の改正規定、第六条及び第八条の規定並びに附則第六条の規定、附則第七条の規定(介護サービスの基盤強化のための介護保険法等の一部を改正する法律(平成二十三年法律第七十二号)附則第十条第三項及び第四項の改正規定を除く。)並びに附則第八条及び第九条の規定(政令への委任)  
 第九条 この法律の施行に関し必要な経過措置は、政令で定める。  
**附則 (令和四年四月二七日法律第三二号) 抄**  
 (施行期日)  
 第一条 この法律は、公布の日から起算して一年を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。ただし、次の各号に掲げる規定は、当該各号に定める日から施行する。  
 一 附則第九条の規定 公布の日  
 二 第一条並びに附則第六条、第十一条及び第十五条の規定 公布の日から起算して六月を超えない範囲内において政令で定める日  
 三 第三条並びに附則第四条、第十二条(土砂等を運搬する大型自動車による交通事故の防止等に関する特別措置法(昭和四十二年法律第百三十一号)第七条第一項第二号の改正規定(「第一百八条第一項第三号」を「第一百八条第一項第五号」に改める部分に限る。)に限る。)及び第十四条の規定 公布の日から起算して二年を超えない範囲内において政令で定める日  
 四 第四条並びに附則第五条、第十条及び第十三条の規定 公布の日から起算して三年を超えない範囲内において政令で定める日  
 (調整規定)

**第二条** 道路運送車両法の一部を改正する法律(令和元年法律第十四号)附則第一条第六号に掲げる規定の施行の日がこの法律の施行の日後となる場合には、同号に掲げる規定の施行の日の前日までの間における第二条の規定による改正後の道路交通法第七十五条の十二第三項の規定の適用については、同項中「自動車検査証記録事項」とあるのは「自動車検査証」と、「第五十八条第二項」とあるのは「第六十条第一項」と、「が記載された書面」とあるのは「の写し」とする。  
 (免許の拒否等に関する経過措置)

**第三条** この法律(附則第一条第三号に掲げる規定については、当該規定)の施行前にした行為を理由とする免許の拒否、保留、取消し若しくは効力の停止又は自動車等の運転の禁止については、なお従前の例による。  
 (特定小型原動機付自転車運転者講習の受講命令に関する経過措置)

**第四条** 第三条の規定による改正後の道路交通法第一百八条の三の第五第一項の規定は、附則第一条第三号に掲げる規定の施行の日以後に特定小型原動機付自転車の運転に関し同項に規定する特定小型原動機付自転車危険行為を反復してした者について適用する。  
 (罰則等に関する経過措置)

**第六条** この法律(附則第一条第二号及び第二号に掲げる規定については、当該各規定)の施行前にした行為に対する罰則の適用については、なお従前の例による。

第七条 この法律（附則第一条第三号に掲げる規定については、当該規定。次条において同じ。）の施行前にした行為に係る放置違反金の取扱いに関しては、なお従前の例による。

第八条 この法律の施行前にした行為に対する反則行為の取扱いに関しては、なお従前の例による。

（政令への委任）

第九条 附則第三条から前条までに定めるもののほか、この法律の施行に関し必要な経過措置（罰則に関する経過措置を含む。）は、政令で定める。

附 則（令和四年六月一七日法律第六八号）抄

（施行期日）  
1 この法律は、刑法等一部改正法施行日から施行する。ただし、次の各号に掲げる規定は、当該各号に定める日から施行する。

一 第五百九条の規定 公布の日

附 則（令和五年五月八日法律第一九号）抄

（施行期日）  
第一条 この法律は、令和六年四月一日から施行する。

附 則（令和五年六月一六日法律第六三号）抄

（施行期日）  
第一条 この法律は、公布の日から起算して一年を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。ただし、次の各号に掲げる規定は、当該各号に定める日から施行する。

一 第一条及び第二条の規定並びに附則第七条、第十九条及び第二十条の規定 公布の日

二 第四条、第十三条及び第二十条の規定、第二十一条内航海運業法第六条第一項第二号の改正規定、第二十三条、第二十九条、第三十二条、第三十六条及び第三十九条の規定、第四十一条中貨物自動車運送事業法第五条第二号の改正規定、第四十三条、第四十四条及び第四十九条の規定、第五十五条中民間事業者による信書の送達に関する法律第八条第二号の改正規定並びに第五十六条、第五十八条、第六十条、第六十二条及び第六十三条の規定並びに次条並びに附則第十条、第十二条及び第十三条の規定 公布の日から起算して三年を超えない範囲内において政令で定める日

（罰則に関する経過措置）

第六条 この法律の施行前にした行為に対する罰則の適用については、なお従前の例による。

（政令への委任）

第七条 この附則に定めるもののほか、この法律の施行に関し必要な経過措置（罰則に関する経過措置を含む。）は、政令で定める。

別表第一（第五十一条の四関係）

放置車両の種類  
放置車両の熊様の区分

第四十四条第一項、第四十五条第一項若しくは第二項、第四十七条第二項若しくは第三項、第四十八条、第四十九条の三第三項、第四十九条の四又は第七十五条の八第一項の規定に違反して駐車しているもの	大型自動車、中型自動車、大型特殊自動車及び重被牽引車	円 二千五百万	額限金違反度の反置
---	----------------------------	---------	-----------

別表第二（百二十五条、百三十条の二関係）	反則行為の区分	備考 放置違反金の限度額は、この表の上欄に掲げる放置車両の種類の区分及びこの表の中欄に掲げる放置車両の種類に応じ、この表の下欄に掲げる金額とする。			
		等	小型自動車、準中型自動車、大型特殊自動車、トロリー車、電車、バス及び路面電車（以下「大型自動車、準中型自動車、大型特殊自動車、トロリー車、電車、バス及び路面電車」という。）	普通自動車等	重被牽引車
車等	普通自動車等	円 三万	円 四万	円 五万	円 二千五百万
小型特殊自動車等	大型自動車等	円 三万	円 三万	円 三万	円 二万

第一百八条第一項第四号の罪に当たる行為

第一百八十八条第二項第一号の罪に当たる行為（車両について第五十七条第一項の規定により積載物の重量の制限として定められた数値の二倍以上の重量の積載をして大型自動車等を運転する行為を除く。）